大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十五年二月廿五日印刷納本・昭和十五年三月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

災害と建築特輯號



日本建築協會
第23輯第3號
昭和15年3月1日

——營業課目——

（同系各會社製品）

三星印砂付便利瓦及ルーフイング・フエルト　田島應用化工株式會社
特許ギルソイド防水工事責任施工　三星產業株式會社
各種アスファルト應用加工製品　日本岩綿工業株式會社
石綿代用・各種三星岩綿製品　三星セメント工業株式會社
三星サイドリユーム施工（床舖材）　（合資會社）宮城アスファルト研究所



共通マーク　同系各社

大阪田島應用化工株式會社

營業所　大阪市北區中之島五丁目三〇

電話　土佐堀（一三二三番／五六八二番／六七二一番）

倉庫用電話　櫻川一七二五番

受信登錄オウサカタシマオウヨウ

資材の保護に修理にモルナイトを
防空の完全にフラーヂを　御使用願ひます



建築と社會

第23輯　第3號　昭和15年3月發行

三月號

目　次

卷頭言……（1）

災害の調査に就いて……渡邊　要（2）

災害地の復舊建築に就いて……後藤米太郎（5）

靜岡大火に拾ふ……山越五郎（9）

靜岡の火災の跡を見て……井手正雄（12）

靜岡の大火と調査の綜合性……龜井幸次郎（18）

阪神間に家を建てる人の爲めに……淺野新一（21）

靜岡大火災調査報告……災害强度委員會（27）

木造建物建築統制規則の發令に際して……井上新二（卷末）

木造建物建築統制規則に就いて……玉置豐次郎（卷末）

☆古建築新抄☆

支那式建築（その2）……藤原義一

☆新建築欄☆

外國・（イタリー）ローマのリツトリオ青年隊塾堂・ローマのリツトリオ青年隊家政學校・リビヤ——ミズラータ地方の植民建築・アレツツオの海軍々令部廳舍・（ドイツ）室內水泳場・（アメリカ）ロツクフエラー・センターの第11號館・（ドイツ）工場・集合住宅・（アメリカ）クヰーン・ブリツヂのアパートメント・柬條エレベーターのある丘中腹のアパート・（イギリス）動物園の諸建築・（アメリカ）ボールダーの水力發電所・（アメリカ）カリフオルニヤの住宅・住宅

會　報……（111）

巻頭言

3月、毎年の如く今年も新しく學校の卒業生が澤山社會へと送り出され、社會はこれらの新らしい學校の卒業生をうけとるのである。（もつとも當今は、すでに12月末に學生を在學のまゝ社會へ出してしまふと云ふ學校教育としては變則的なことも行はれては居るが。）

我國は今はどの方面も人が足りないのである。豈航空や機械のみに限らんや。建築界も亦人間の足らないことに深い惱みを感じて居るのである。こう云ふ時勢であるから學校の卒業生は歡迎される。しかし新卒業生諸君よ、君らはこの歡迎に醉つてはいけない。君らは本當はまだ役に立たないのだ。しかし社會はこのまだ役に立たないものにさへ手を延べてまたねばならぬほど急迫して居るのである。社會は只諸君の將來の發展性にのみ期待して居るのである。

社會人としての諸君は、今までの樣に自分だけの答案をかいて居ればよいのではない、これからは多くの人と協力する事によつて發展しなければならないのだ。我々の團體乃ち、日本建築協會も亦諸君の協力を期待する、又この新人達の協會への協力に對する要請を諸學校の先輩諸氏にも期待する。我國の建築界の前途には建築技術者の協力によつて解決されねばならない問題がたちふさがつて居るのである。實に澤山の問題が！

災害の調査に就いて

渡邊　要

內省務の調査によると昭和 13 年中の內地火災度數は 17.308 件に及び、損害見積額は8000萬圓以上である。尙火災による死傷者數は 3.856人、その內死者 542人といふ數字である。

☆　☆

今回靜岡市大火の損害見積額は尠くとも7000萬圓に及ぶといふ事であるから、僅か12時間の間に內地1年間の總損失に匹敵する損害を蒙つた事になる。斯樣な痛恨事は度々あつては困るが、我國都市建築物の大多數が木造であるため時々大火があるのは實に遺憾の極みである。

一刻も早く燃えない家を造つて、一時も早く防火都市に改修せねばならぬのは勿論であるが、平素火の用心をする事も肝心である。然し筆者は今ここで都市の防火改修に就いて述べやうとするのではない。實は今後の災害調査に初めて出かける人のために靜岡大火を中心として災害特に火災による災害調査に關する二三の注意を書いて見やうと思ふ。

☆　☆

災害調査に出かけるには　服裝・携帶品・出發時期・調査方法・調査事項等に就いて豫め周到なる準備を必要とする。服裝や携帶品等に就いては今は述べない。出發時期はなるべく早いに越した事はないが、吾々は建築家の立場から調査するのであるから、そんなにあはてるには及ばない。それに餘り早く現地に着いても仲々調査には取りかゝれるものではない。筆者は靜岡へ18日に着いた。まあ今回の樣に災害地が元來交通至便の地であるから調査は17日か18日頃に行けば宜しかつた樣に思ふ。つまり鎭火後3日目位が適當であらう。但し出發時期は一概には云へない。災害地の地理的位置・交通關係・災害の程度・時季等に左右される。調査事項により鎭火後一週間位でも毫も差支へない。又何日滯在すればよいかといふ事はもつと困難である。が靜岡の場合には建築家として大體の調査をするには先づ2～3日といふ所であらう。調査は1人では先づ困難で、助手を1人連れて行くに限る。2人連れて行けば尙更ら結構である。

現地に着いたら　縣廳とか市役所、新聞社、消防署、警察等へ行つて、先づ災害の大要を聽取するのがよい。筆者達は今回は縣廳の人々に特に多大の便宜を計つて頂き大いに感謝してゐる。又大火と氣象とは不離の關係があるから測候所で當日及び半年の氣象要素に就いてデータを集めねばならぬ。

要塞地とか一時的寫眞撮影禁止區域が指定された時には先づ憲兵隊へ行つて事情を話し

て撮影許可證をもらふ必要がある。靜岡市は要塞地ではないが防諜の目的から筆者達の滯在中は許可證を必要としたのである。

現地へ到着した日は順當に行つて以上の様な事柄でつぶれて仕舞ふから、その日に現場を一巡出來れば先づ成功といへる。

翌日から愈々調査にかゝる事になるが、前に云つた様に2人又は3人が一組で調査するのが宜いと思ふ。夕方宿舍に歸つて他の組の人々と調査事項の打合せやら各種の情報の交換をやる。大規模の學術的の調査團でない限り以上の様にして2～3日で先づ要領を握んで歸る事が出來ると思ふ。

☆　　☆

それでは**何んな事を調べたらいゝか**。先づ靜岡ならば「市勢要覽」などを手に入れて置きその次ぎには氣象要素（降水量・氣溫・濕度・風向・風速・暴風日數等）やそこの火災沿革並に防火消防施設や水利等のデータが必要である。尤も靜岡市には正規の測候所が今迄無かつたのだから既往の氣象の事は正確には調べ上げられない。

それから風速、風向等は火事場に於けるものは頗る不定であつて測候所構內の値とは相當に違ふものであるから注意せねばならぬ。

次ぎに**火災狀況**ついて調べるには發火時の概況・延燒の狀況・燒失區域・發火並に鎭火時刻・旋風・飛火・出火知覺時刻等に關する事項がその對象となる。

更らに警察官・警防團・軍隊・家庭防護團の活動狀況とか罹災民の避難狀況も必要である。

被害狀況に關する調査事項としては先づ

被害建物の用途別並に構造別による調査

燒失區域	燒失戶數
燒失又は被害建物の面積	燒失世帶數
罹災者數	死傷者數（死因等も）
損害見積高	火災保險加入高

等である。然し之等の統計的數字は個人の力では到底判らないものであるから前述の様にして、然るべき當局の調査結果に俟つ事になる。

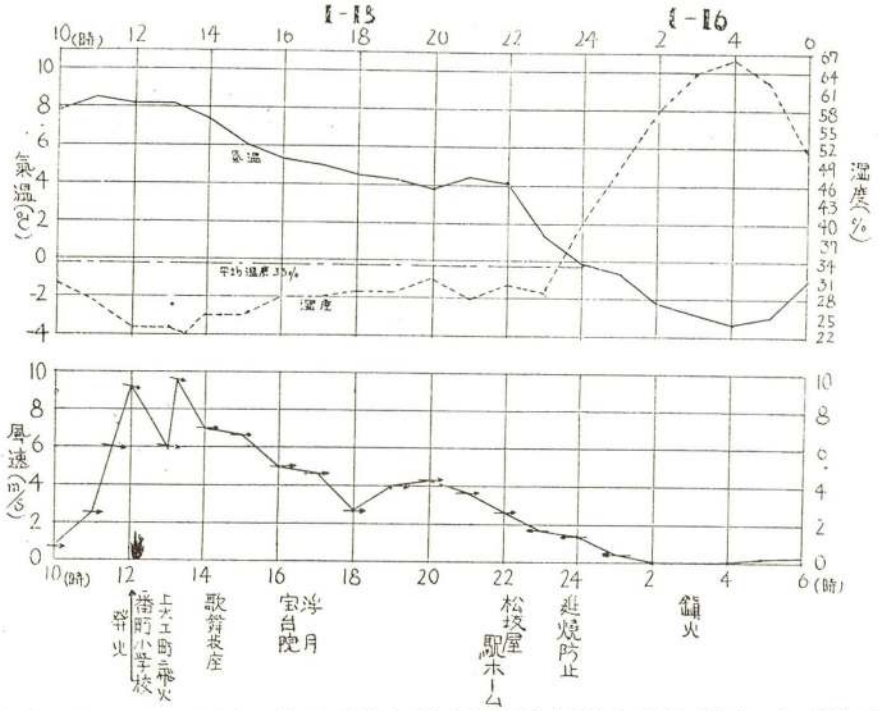
被害建物に就いては構造別及び用途にして官公署・學校・社寺・銀行・會社・新聞社・病院・劇場映畫館・大建築物（デパート等）・工場・倉庫等の別を明らかにして置いた方がよい。

次圖は1月15日午前10時から16日午前6時までの測候所測定の氣溫・濕度・風速並に風向と主要建築物の燒失時刻とを示したものである。

☆　　☆

何處の火事でも夫々特徵があるものであるから其時の**火災の性質**に就いて調べて見るとよ

い。要項は氣象要素・火の子・飛火・旋風・火流・同時燒失曲線・延燒速度等である。



靜岡の例でいふと、燒失區域は34萬坪、燒失建物延坪16萬5千坪、發火から大體の延燒防止までの時間は11時間である。又上大工町から松坂屋・靜岡驛を經て森下町・日出町の東端までの距離は約2.2km（20町）である。故に途中の飛火を見込まないで計算すると下記の様な結果になる。※

※

延燒速度＝2.22÷(11×60)＝3.35 m/min
建物の燒失割合＝165000÷(11×60)
＝250坪/分＝825 m²/min
＝4.2坪/秒＝13.8 m²/sec
燒失區域の延燒割合＝340.000÷(11×60)
＝515坪/分＝1170 m²/min
＝8.6坪/秒＝28.4 m²/sec

☆　　☆

最後にその時の**大火災の原因**に就いて考へて置かねばならぬ。何故斯様な大火になつたかを。風速が大きい事は大火になる重大條件であるが、溫度・降水量も大いに影響する。其他地勢・火元の位置・建築物の構造材料・發火知覺時間・消防施設・水利・飛火・旋風道路公園廣場等の都市計畫的の施設に就き檢討せねばならぬ。

☆　　☆

本格的の調査ならもつと他にやらねばならぬ事が澤山あるが今回は之を割愛する。

災害地の復舊建築に就て

——主として靜岡の大火を中心に——

後藤米太郎

（1）

去る1月15日正午突如として起つた靜岡市の大火は、國を擧げて新東亞建設の大事業に邁進しつゝある今日、寔に遺憾な出來事と謂はざるを得ない。而も其の原因が失火と謂ふに到つては、如何に今日の火災が都市建築及銃後國民に良き教訓を與へたりとは云へ、餘りに高價な代償と云はざるを得ないのである。

今回の火災が大なる慘禍を齎らしたる原因として、次の六つが擧げられてゐる。

1、風速大にして飛火が特に多かりしこと

2、久しきに亘り降水なき爲、未曾有の渇水期に際會せること

3、久しきに亘り乾天持續したる爲、濕度が低下し、凡てが著しき乾燥狀態に在りたること

4、道路、公園、廣場等の都市計畫施設が未完成なりしこと

5、不燃性建築物の少なかりしこと

6、火元が市の風上に當りたること

而して以上の諸原因の中、風速比較的強く、乾天持續して渇水を來し、且濕度が低下することは（1乃至3の原因）、わが國冬期に於ける氣象の通例にして、敢て奇とするに足らない處である。又道路、公園、廣場等の都市計畫施設の未完成なる點及鐵筋コンクリート造建物其の他の不燃性建築物の少き點も（4及5の點）、これ又わが國都市の通有性にして、特に靜岡市が他の大都市に較べて、著しき劣性を有してゐたとも思はれないのである。從つて若し他の都市に於てひと度市の風上に火を失したりとせんか、烈風中の火災は忽ち同じ慘禍を繰り返すべきことは、彼の昭和9年3月の函館の大火を顧みる迄もなく明かとする處である。

由來わが國民は洒脫、恬淡を尊び、事物に拘泥せざるを好むの風がある。故に譬へ一朝災禍の身に及ぶことあると雖も、これに充分なる檢討を加へ、其の禍根を徹底的に芟除することなく、直ちにこれを不可抗力と諦め、或は容易にこれを忘却するの弊風がある。故にわが國の災害史を繙くときは、地震、暴風、火災、洪水等の天災地變が枚擧に遑なき位屢々繰り返へされてゐるに拘らず、災害地の復興に當つては、單に從前の狀態に復舊する範圍を一步も出でず、災害に對する根本策の樹立を怠つて來たのである。然し乍ら時代の推移は、何時迄もかゝる狀態の持續を許さず、災害地の復興に就ては、これを根本的に檢

討するの必要を生ぜしめたのである。

故に今回の靜岡大火に就て檢討を加へれば、火災その物としても幾多の新事實を發見するのである。

1、飛火の距離が大なりしこと

2、飛火に依る延燒は屋根から傳つたと云ふこと

3、木造建物の地下室は大部分火害を免れたこと

4、燒け止りは空地か不燃性建物（緩燃性を含む）であつたこと

5、大火に際しては消防力は頼みにならないこと

等の諸問題がある。以下これ等の諸問題を取り上げ、筆者に課せられた題目「災害地の復舊建築」に就て卑見を申し述べ度いと思ふ。

（2）

地震、颱風、火災等の災害に對し最も安全な建築構造は、鐵筋コンクリート構造であることは云ふ迄もない。從つて都市に於ける災害の絶滅を期す上に於て萬遺漏なき策としては、復興建築の構造として鐵筋コンクリート造を撰び、これを以て都市全體を埋め盡せば問題はないが、この方法は多額の經費と多量の重要物資を必要とするので、到底わが國現在の狀態では、速急に實行し得ざる方策である。

元來都市防火の根本觀念として、防火地區なるものが考へられるが、これに路線的なものと集團的のものがあることは、既に周知のことである。而して其の防火的の効果は集團的のものに對しては、一點の疑義を挿む餘地がないが、路線的防火地區に對してはにはかに其の効果を過信することは、甚だ危險と考へられるのである。何とならば、烈風下の火災に飛火はつき物にあるが、飛火の距離が函館大火に於ける如く最大460メートル（風速は秒速26メートル）位ならば問題ないが、今回の火災の如く其の距離が1.000メートル近くにも及んでは、火災は飛火により路線地區を超えて、遙か風下へ擴大することは一應考慮しなければならない處である。

故に大火災に遭遇した場合の路線的防火地區の防火効果に就ては、多少の不安を感ぜざるを得ないのである（後に述べる如く全々無効と云ふのではない）

道路、公園、廣場等の都市計畫的施設と雖も、路線的防火地區と同樣、飛火による火災の延燒を考へるときは、譬へそれが完成しても、必ずしもこれのみを以て充分なりとすることは出來ない。

斯くの如く幅員大なる通路も路線的防火地區も、飛火に依る火災を喰ひ止めることが不可能とすれば、都市防火の根本策としては都市に於ける各戸を防火的のものとする、所謂集團防火地區の觀念に到達するのである。然るにこれを全部鐵筋コンクリート造にして、完全なる防火性を持たせることは、上述の如く今日のわが國に於ては全く不可能な問題であるから、都市建築の各戸につき所謂木造建物の緩燃燒化を圖るのが、最も現情に即した

防火方法と考へられるのである。云ふ迄もなく木造建物の緩燃燒化とは、建物の外周を不燃材料で被覆することで、其の基準は大體防空建築規則により與へられてゐる。故に靜岡市の復興建築は、是非緩燃燒構造になすべきで、この意味に於て靜岡市に防空建築規則の適用さるゝことを、各方面に於て待望されてゐる所以である。

（3）

然し乍らこゝに一つの問題がある。夫れはやはり飛火の問題であるが、今日の靜岡大火に於て筆者の親しく見聞した處によると、飛火は大部分屋根から引火して延燒したと云ふ事實である。これは瓦葺屋根は火災に對し安全なりと云ふ今迄の觀念よりすれば、全く意外とする處であるが、罹災民の異口同音に答へる處は、やはり飛火は屋根から燃え遷ると云ふことである。

筆者は職務上、既存學校建築物の構造檢査をする關係上、屢々屋根裏へ上る機會があるが、其の經驗に徵するに屋根裏は相當明るいと云ふ事實である。小屋裏へ入つて驚くことには、瓦の隙間より青天井が窺き得る如き建物が相當に多いと云ふことである。このひとつの事實を以てしても、飛火が屋根から移ると云ふことは直ちに首肯し得る處で、これをあながち素人の囈言と聞き流すわけには行かないと思はれる。然るに防空建築規則に於ては瓦葺屋根は安全なりとして、其の部分に對し何等の防火構造も要求してゐない。この點は今後の都市建築の防火構造を考へる上に於て、大いに再檢討を加ふる要ある點と、筆者は考へるのである。

（4）

次に地下室の問題がある。今回の被害狀況を仔細に調査するに、鐵筋コンクリート造建物の地下室の多くが火害を蒙つてゐるのに反し、木造建物に附屬する地下室が火害より免れたものが相當多いと云ふことは、深く注目すべき處と考へられるのである。

この事實は去る1月7日より3日間に亘り、大阪驛前で行はれた火災實驗の結果とも符合するもので、地下倉庫の安全性は地上倉庫の夫れに較べて、著しく大なる事を立證するものである。故にこれは近く問題となるであらう防空庫の出現に、甚だ力強き確信を與へるもので、靜岡市の復興建築には是非この地下格納庫の建設が望ましいと思ふのである。

（5）

以上は飛火と地下室の問題に就て愚見を開陳したのであるが、今回の火災に就ても其の燒け止り狀況より見て、空地及不燃性建物が延燒防止に有効であることは疑を容れない處である。故に上に述べた如く、都市の木造家屋を凡て防火的に武裝し、尙其の上適當に空地を配し、耐火構造の建物を路線的に配置して防火線を構成することは、わが木造都市の防火の完璧を期する上に、大なる効果を齎すべきは云ふ迄もない處である。

尙今回の火災が飛火により短時間の間に、各所に新らしき火災を生じたことは、空襲時

に於ける同時多發性火災に酷似してゐるので、これが對策樹立は、其の儘防空に關する消防對策となるのである。而かも空襲時の火災は色々の原因によつて、消火には可なり困難が伴ふであらうし、特に火災がある程度擴大すれば、今回の例に見る如く平時の消防機關のみでは、迅速にこれを消火することは困難であるから、結局前にも述べた如く建物其のものを、燃え難い構造とすることが最も緊要な事柄となるのである。

（6）

以上に於て今回の靜岡火災を中心とする、災害復舊建築の大要に就て述べたのであるが終りに臨み今回の災害を最後として、わが木造都市が再びかゝる災害を繰返さないことを切望すると共に、罹災靜岡市が燃えない都市として一日も早く、復興することを期待して止まないのである。

＊筆者は愛知縣學校營繕技師

靜岡大火復舊對策・今議會へ建議

靜岡大火の災害復舊對策は目下各方面でそれぞれの立場より進められて居るが今回靜岡縣選出の代議士平野光雄、高木粂太郎、津倉龜作、山口忠五郎、宮本雄一郎、春名成章、倉元要一、深澤豐太郎、鹽川正藏、太田正孝氏等は添田敬一郎氏、中島彌團次氏等33名とゝもに原玉重氏以下366代議の贊成を得て今議會に靜岡市大火災復興助成に關する建議案を提出した。建議案左の如し

今次靜岡市に於ける火災は同地方未曾有の大火にして之が復興に就ては時局下多大の困難を伴ふものと認む、政府は縣市の復興事業に對し充分なる助成を爲し地方更生の方途を講ぜられんことを望む

右建議す

靜岡市復興講演會

內務省、大日本防空協會、建築學會、靜岡縣、靜岡市では共同主催で靜岡市復興に關する講演會を來る二十一日午後六時より靜岡市公會堂に開會、地元民に同市復興に伴ふ防空防火建築の普及をはかることになつた、講演者並演題左の如し

△開會の辭、靜岡縣警察部長　△復興に就て、大日本防空協會理事建築學會前會長工學博士佐野利器氏　△復興建築に就て、內務省計畫局第二技術課長中澤誠一郎氏　△簡易防火建築の趣旨及根據、東京帝國大學敎授工學博士濱田稔氏　△都市防空に就て、大日本防空協會理事陸軍中將佐野光信氏　△挨拶、閉會の辭、靜岡市長　△映畫「燃えない都市」其他

靜岡大火に拾ふ

山越五郎

火災に關する一般的の事や統計的の事は夫々の方面から御發表があらうかと考へらるゝので御依賴の御主旨に副ひ得るや否やは疑問であるが、私自身が今回の火災に依り教へられた事柄を斷片的に記して御約束を果す事とする。

★置土瓦葺

飛火による發火場所は大かた下見板、軒裏蝶羽等であるが今回の火災により瓦の重りから侵入發火する場合が意外に多い事を見聞した。一寸信じ難いことではあるが。これが事實であるとすれば將來置土に關しては耐震上の問題と併せ考慮して適當なる對策を考究せねばならぬと考へさせられる。

★土藏の災害

先年の靜岡地方地震による龜裂の修理を怠つたり、開口部の目塗りを忘れたりした土藏の大かたが燒けたのは別に不思議でないが、千慮の一失とも云ふか樋受金物やバンドに用ひた締付金物の周圍のゆるみから火の浸入したと見らるゝものが二三あるのには驚いた。話には聞いてゐたが實際を見せつけられて感深いものがある。

★ブロツク內土藏の配列

土藏の配列宜しきを得たため燒止つたと推定される箇所がかなりある半面、配列に統一なくジグザクの配置なるため燒止り線たり得なかつた箇所もかなり目につく。

以上から私はロツト割に一工夫を要するにあらざるやと愚考させられたのである。如何となれば必ず敷地奥行終端に土藏の配置を見るからである。

★トタン張り簡易防火扉

田中屋百貨店のエレベーター開口部には統制下によるスチールドアー入手難のため縣で便宜考案し常備せしめたはめ込み式兩面トタン張り（中身砂入）厚約一寸の簡易防火扉をはめ込み且つ目塗りしたゝめエレベーター塔の內部は火氣通過を逃れてゐる。火氣によりスチールサツシユ、ドアー、シヤツター等が異狀變形するに比しこれは又簡易にして多くの教訓に富んでゐる事ではある。

★特殊建築物規則

標記規則はまだ出て間もないがこの規則の良さをおもふ。

松坂屋百貨店は法規に律せられてゐないが田中屋百貨店第二期工事には法規の準用を見てゐる。兩者災害を受けてはゐるが經路には自ら差がある。乃ち松坂屋に於ては延燒經路に於て各階上下の關聯あるに反し田中屋に於ては上下階の關聯なき事を實證してゐる。た

ゞ惜むらくは田中屋の民家に接續する部分は法規出現前の工事なりし爲窓ガラスが網入でないので各階別々に引火してゐる點である。將に千慮の一失と云ふべきであつて當局指導の任にあるものゝ心すべき點であると痛感するのである。本法令の缺陷など何等考へられない。

★鐵筋コンクリート造に於ける腰羽目の害

松坂屋百貨店各階（7階建）の腰羽目には木材を使用せるため特に各階柱床面上5尺以下位の部分の被害意外に多く主筋の露出相當多きに拘らず田中屋百貨店に於ては腰羽目なきため柱の被害は僅少である。一考を要するやに愚感。

★都市の藁屋根絕滅を期す

上大工町の飛火は約15町の風下稻川町3丁目（私の家より約1町）藁葺の農火に及び女子商業其他數戸を燒き又約1里の遠方小鹿山の麓にある農家2軒の藁屋に飛火してゐる事實を見る時私達建築行政に關係してゐるものとして深き感銘を覺ゆるのである。

私は行政廳に補償させても都市に於ける藁屋根を速時不燃材に改修せしむべきであると信ずる。

★假小屋への飛火

寶臺院には國法建造物が二三ありその內靈屋の改修工事のため昨秋より假上屋をかけ修築中であつたが（文部省關係）その屋根は柿葺であつたため巧みに飛火をキヤツチし遂に本家をも灰燼に期せしめたと稱する人々がある。その眞疑は別として建築行政の任にある私達はたとへ上屋の如き一時的のものに對してもその場所に應じ細く神經を使はねばならぬと教へらるゝのである。

★木造タンクを

松坂屋田中屋共に非常用水タンクがない。如何に勇敢なる店員も壓力を失へる水道や無手勝流（消火栓なし）ではどうにも防火は出來ぬ。民友新聞社（3階建鐵筋コンクリート造）にはタンクあり、消火栓あり、勇敢なる社員ありと云ふ次第で立派に防火し得た。行政的に一考を要すと信ずる。

★2階床に穴を

繁華街で2階の物品を早く持ち出す工夫として平素2階の床板を3尺角乃至3尺×6尺角程揚げ床式にしておいたら、窓から道路へ投げ落して交通の邪魔をせずにすむのではないかと愚感。

★木造2階家には梯子を常備

今時の都市には梯子といふものが殆んど見當らない。今度の火災でも梯子なきため如何に私を始め一般家庭防火組合員が苦勞した事か。「木造2階家を建築したる時は必ず適當なる梯子を常備すべし」など新法令(?)を出して見たらどんなものか。

★火　の　粉

火の粉はくせものである。今度の火災は火の粉によつて擴大されてゐる。將來建物は美觀、機能、耐震、耐風等の滿足に終ることなく「如何にしたら火の粉を多く出さないですむか」と云ふ所迄考究すべきではなからうか。又或る程度可能と信ずる。

★防空建築規則

この名稱はいかめしく近づき難い印象を與へるのであるが內容を見ると木造に對してはむしろ物足らない感がするのである。これを一部靜岡市民が問題にするのはちと食はづぎらひの感がするのである。これを『飛火除け建築規則』とでも云ふたらすぐ飛びついて來るのではないか知ら。

私は想ふ

靜岡市に該規則を適用する事によつて復興する時再びかゝる大火は起きないであらうと。又防火のためにする道路擴築などと云ふ事は飛火に對しては大した意味を持たぬのではないかと。

★　　☆　　★

他人には解りきつた事かも知れぬ事をもつともらしく書綴る心苦しさを味ひつゝ。(了)

耐火木材性能檢査の徹底を期す

靜岡大火の例に照しても明かな如く不燃都市の建設は焦眉の急を要する重要問題となり防火改修事業の促進には一段の努力が拂はれることゝなつたが、是等耐火木材の中には性能の著しく劣等のものがあり折角の防火改修事業も豫期の成果を收め難いやうな懸念も一部にはあるので警視廳では耐火木材の檢査を一層嚴重にすることゝなる模樣である。即ち警視廳は耐火木材に對し現在乙種(耐火)檢査のみを行つてゐるが、之を更に甲種檢査を行ひ水に對する强さ其の他全般的に亘つて遺憾なきを期し不良耐火木材を一掃せんと計畫してゐる。

(2. 13. 日工)

靜岡の火災を見て

井手正雄

私等は大阪市より5名火災跡視察の爲22日出發した。之は火災後すでに1週間を經過して燒跡は1部整理せられて燒けた當時の有樣は見られなかつた點もあり、又單時日のことで實に粗雜なことしか感想を書き得す纏つたものではないのでお恥しい次第です。

火災の概要

靜岡の火災は何と云つても大した災害であつた。一見しただけでも一體は燒野原と化し木造家屋の多い爲か大部分は灰燼となり屋根瓦が破片となつて少量の壁土と共に殘つてゐるに過ぎない、所々に土藏の建ち殘つてゐるのが見えるが、此の內過半數は無慘にも周圍の壁のみを殘してゐる。又燒野原に憐れな金庫が無數に置き去りになつてゐるのは一寸變つた景色であつた、火災の狀況は私の調査せるところは次の如しで簡單に其の要領のみを記載することゝする。

1. 火災面積　340.000坪
2. 家屋建坪　164.965坪

戶　數 5.089戶 {全燒 4991戶 / 半燒 98戶}

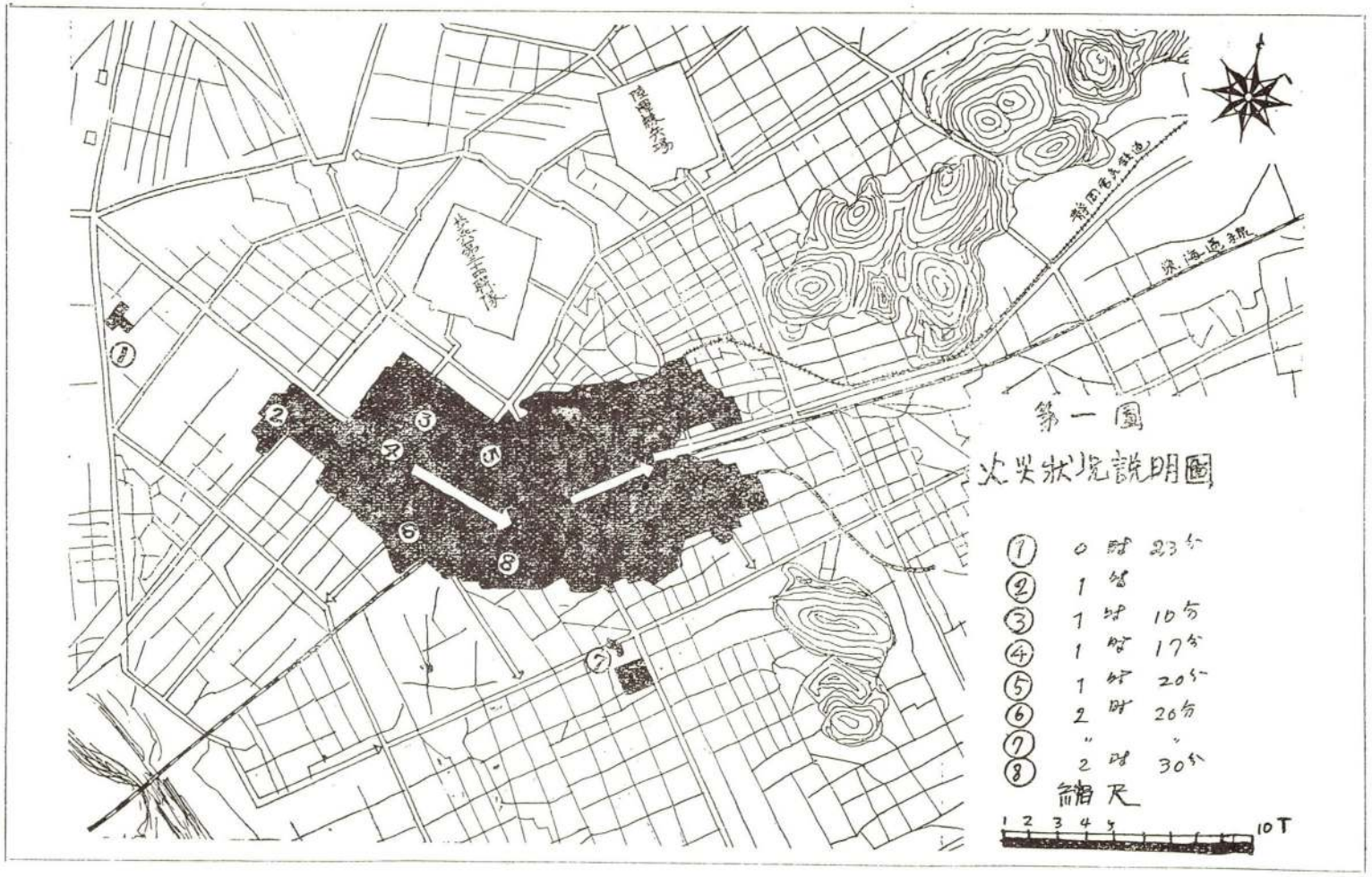
內譯

寺　院	23	小學校	3
女學校	3	宿　屋	58
デパート	2	料理屋	124
小料理屋	4	カフエー	80
藝妓置屋	77	遊戲場	51
興行場	9		

3. 發火　1月15日　午後0時25分
   鎭火　1月16日　午前3時

火災の狀況

火災の狀況は別圖(第1圖)に示す如くであつて其の記入番號又は矢の方向によつて大體判ると思ふ、先づ失火の民家より兩隣へ延燒すると同時に裏の三番町小學校へ飛火延燒した、この學校が燃え上ると火は强風に煽られて大火となつたわけで消防隊の必死の消火にやふやく消し止めたけれど數町離れた大工町に飛火するに及んで全く大火になり手が付けられなくなつた由で此の時は同時に數箇所より火を發してゐた樣子である。而して火は燃えるがまゝに消防は功を奏せず夜半に至り風も大分治まり大體密集家屋は燃え盡しこの時消防も一部大いに活躍して火は遂に終熄したと云ふ話であつた、然しこの火災は實に面積に於


第一圖
火災狀況說明圖
① 0 时 23分
② 1 〃
③ 1 时 10分
④ 1 时 17分
⑤ 1 时 20分
⑥ 2 时 20分
⑦ 〃 2 时 30分
⑧
縮尺
1 2 3 4 5 10T

て舊市内の4分の1をなめ盡し繁榮街を燒失し去り實に15時間の長きに渡り燃へ續けたわけである、猶この鎭火の狀況は大體に空地のある場所及鐵筋コンクリートの建物等の立ち並ぶ場所等好條件に惠まれた場所にて終つてゐて破壞消防等大して役に立つて居なかつた事を示してゐる、寺院の空地舊御用邸の裏の樹木等防火には充分の効があつたことを物語つてゐるのである。

火災地に於ける耐火構造の建築物

靜岡市内には耐火構造の建物は極く少く、一般に燃へやすき木造が密集し殊に瓦が引掛け棧瓦を用ひ下見板を張つてゐるので火災時には不利である。こんなわけで耐火構造の建築物も之等の木造の間に狹つては一向耐火の力を發揮せず大部分が燒失してゐる狀況である僅かに完全に殘つてゐるのは驛前の新聞社及驛の本屋のみであつた之を見ても耐火構造の建築物も相當量のものが連立してゐる上に防火的設備が充分でなければ効力がないことが判る。一例を以つてすれば驛前の松坂屋は耐火的建築でありながら4階より上にはシヤツターがなくて之より火を呼び全燒した。又燒跡にあちこち殘つてゐる土藏の類も多くは其の扉から又は石積の目地から焰が入り内部をすつかり燒いてしまつてゐるのが澤山あつた耐火構造も其の運用全きを得なければ役に立たない。

火災の原因に就いて

原因は色々あつただらう、後になつて理由を付ける事は易いことであるが必ずしも全部當らないと思ふ。何と云つても風の强かつたことは最大の原因である。風速は大體1米内外と云はれてゐるが火災の最中は部分的にもつと强い風が起つたことと想像せられる。原因の主なるもの次の如きことが擧げられる。

1 耐火構造物少く木造家屋が密集せる事

2. 消防について遺憾の點があつた事

3. 民衆が災害の訓練に乏しかつた事

4. 防火設備の不充分なりし事

復興の狀況

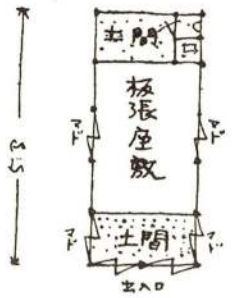
復興の狀況については色々あるが茲にはバラツク建物のみを述べる。民家のバラツク建築を急速にする爲に靜岡縣及び靜岡市が協同で下記の様な方策を取つてゐる。之は大體1戸當り10坪を標準（第2圖參照）とし一般建築資料は賣買せしめず縣知事の許可を得たるもののみ別記の如き「災害復舊假築築承認並に資材配給願」を提出せしめ市金庫に金子を納入せしめて材木組合をして配給せしめるもので大變簡單で眞に當を得たるものと思はれる、猶別表に示す木材の他に屋根葺材料の鐵板又はスレート等は公定價格を定め1戸當りの數量を制限して販賣許可を與へてゐる、又會社商店等は20坪乃至30坪の家屋を特に許可してゐる様であつた、此の如くして火災後旬日にして大分地域も整理せられ着々バラツクも建設せられつゝあつたことは涙ぐましき情況である。

靜岡の學校建築について

私は常に學校建築に關係してゐる上から學校が火災に會ひ如何にこの災害に影響してゐたか又學校建築の今後の設計上の注意すべき缺點について少々愚感を述べさせて頂くことにする。靜岡の今回の火災は民家より起り 20～30分にして隣接せる三番町小學校に延燒したのであるがこの學校は別圖（第3圖）に示す如く全校舍3棟の內2棟が燒失（1棟は半燒）してゐる。之が燃へるには少くとも30分はかゝつたであらう、之は民家と數尺より離れて居らず窓から延燒した樣子で2棟共殆んど同時に燃え上り消防の防火にて辛くも消し止めた。燒失面積は約300坪である。學校の校庭にはプール（20米に8米）があり消火には之を利用した爲其の點は最も都合がよかつたわけである。

第二圖

壹號型（建坪拾坪）バラック用平面圖



この校舍は館型は普通のもので大阪市に見らるものと同樣であつて瓦葺2階建外部は下見板張教室間仕切及入側の壁は眞壁塗となつてゐる、何等防火の設備等はない又其に留意した設計でもない粗末な木造の校舍であつた。

然し次に注意すべきことはこの校舍から飛火して其處

壹號型（建坪拾坪）バラック用木材參考內譯書

一金二四七圓七〇錢（但シ木材代金）

右內譯

名稱	品種	長サ	巾厚	員數	單價	金額	摘要
土臺	杉	二間	末口角 三寸角	八本	圓 二・四〇	一九・二〇	三等上
柱	同	二間	押 三寸角	十七本	一・九六	三三・三三	三等下
梁及桁	同	二間	〃 三寸角	十四本	一・五六	二一・八四	
母屋桁	同	二間	〃 三寸角	五本	一・七二	八・六〇	押角
小屋及床束	同	六尺	〃 三〇角	六本	一・三五	二・一〇	三等
屋根板	同	六尺	四寸上ミ 厚三分板	十六坪五合	二・三五	三八・七八	二等並（平均巾四寸五分）
鼻隱	同	二間		二角五本	一・六二	一・五	一等並
間柱	同	二間	一五角	三十五本	一・四五	一五・七五	三等（眞付ケ又ハ四ツ割）
內法物	同	六尺	三〇、一五、	十一、丁	一・六三	六・九三	一等並（丸味ナシ）
床大曳	同	二間	押 三寸角	八本	一・五六	一二・四八	
根太	同	二間	一五角	二十本	一・五五	二一・〇〇	二等並
床板	同	六尺	五寸上ミ 三分	六坪三合	二・六五	一六・七〇	二等並（平均巾六寸）
大貫	同	二間	三寸三分 四分八厘	二十二、丁	一・四〇	八・八〇	一、二番混ミ
中貫	同	二間	三寸七分 四分	十丁	一・八	三・八〇	一、二番混ミ
下見板	同	六尺	五寸上ミ 二分三厘	二十二、坪	二・一五	四七・三〇	二等並（平均巾、七寸）
押縁	同	二間	三五分 三厘	二十三、丁	一・二〇	四・六〇	一等並
方堅其他	同	六尺		一五角三本	一・五〇	一・九〇	一等並
木材計					圓 二四七・七〇		

災害復舊假建築承認並ニ資材配給願

一、建築ノ場所　靜岡市
一、建築主ノ住所氏名
一、建築ノ用途及面積　住宅用　坪　營業用　坪　其ノ他　坪
一、建築ノ棟數及工事ノ種類　棟
一、工事着手及竣功年月日　月　日着手　月　日竣功
一、希望資材ノ種類及數量　材木　號　平形　枚　釘　瓶　針金　瓶　亞鉛板　瓦形　枚

右ハ假建築ニシテ都市計畫法實施ニヨリ支障アル場合ハ無償ヲ以テ取拂ヒ可致ニ付御承認相成度此ノ段願上候也

昭和十五年　月　日

出願人
地主

靜岡縣知事　小濱八彌殿

より數町離れた大工町に延燒し遂に大火の原因を作つた點である。この他數多の箇所に飛火してゐる筈であつたが不運にもこの大工町の火は消止め得ず學校火災は大火の直接の原因となつた。校舍は大きく且つ延燒し易く火勢は當に猛烈となつてくるか確に火災時には防火に不利なことが多いのであつて、之は學校の性質上致し方がないとしても一考に値することであらうと感じる。

次に此の火災發火後2時間にして火災中心部より7～8町南方に飛火し更に飛火して女子商業學校の校舍に延燒した（第1圖⑦參照）この時は風速は加はりL型の校舍2棟は忽ち燃燒し500坪の2階建校舍は30分にして烏有に歸した由で大した火力であることが判る。之は小屋組の內部を全校舍に渡り火が走る爲であつて屋根より火を吹き出す時には概して消火も無効であらうと思はれる。

次に森下小學校の全燒せる跡を視たが之も6～700坪の校舍が全く灰燼に歸してゐる。

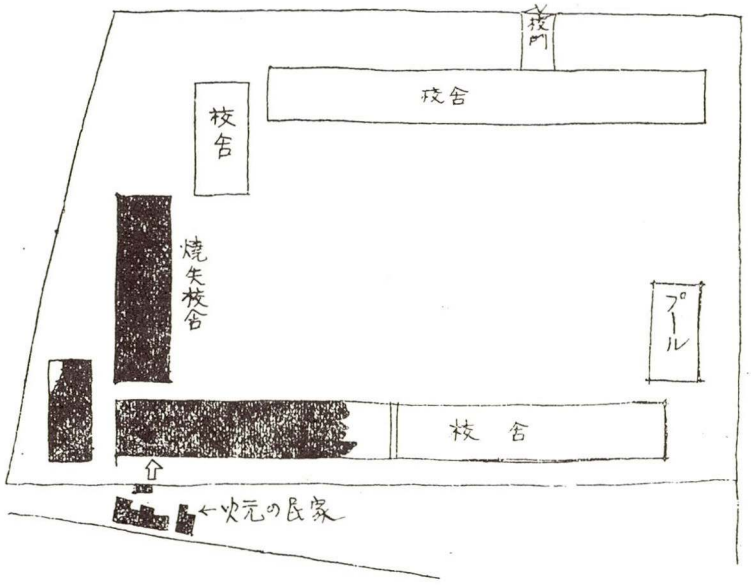
要するにこの様子では學校の如き建築物は一度失火又は延燒すれば全燒をまぬがれず殊に火勢が猛烈となり風速も增して消火設備等大して役に立たないと考へられるのが常識である。又學校の校舍は大火に導く原因ともなると云へやう。靜岡に於ける學校建築は私の見るところでは大して火災に對する考慮がしてない様に思はれた。之は勿論大阪等と異り法規に關係する處であらうと考へられるが現存してゐる他の學校の校舍を見ても之は一寸

危險な様に感ぜられる。我々の常識として1棟の間隔5米位にはしたり又防火壁を適當に設けたいものである。又最後に鐵筋コンクリート建と木造校舍を有する傳馬小學校の燒失についてであるがこの鐵筋コンクリートの校舍は內部の木部即ち床板內部、羽目板、間仕切より黑板の枠迄全部燒失してゐる。之は木造校舍から延燒して行つた様であるが鐵筋校舍のスチールサツシユは火の爲に曲つて殆んど用をなさない様になつてゐる。之がもし木造校舍の境界に防火シヤツターを取附け校庭にプールを設けポンプを設へ適當に防火設備をなし大いに消火に努めたならば鐵筋校舍は安全ではなかつたかと思はれる。猶この他に奉安庫が校舍のすぐ傍にあるが安全であつた(之は他の2校でも同様完全で異狀がなかつた)

次に結論として學校の建設に當つては時局柄防火的設備を充分研究して頂きたいと思ふのは多くは經費の關係から遺憾ながら悪いとは知りつゝも思ふ様に設計の出來ないのが常である。建物と建物の間隔、隣地境界からの距離、外裝等目下のところ防火的に考慮せられてゐる筈であるし市街地特に六大都市ではこの心配も少い。然し校庭にはプール又は防火用貯水池は是非必要で之には消火に充分なる固定のポンプを設備すべきであると考へる。

先般來出來上つてゐる各所で見られる様な所謂乾式の構造の校舍は眞に防火用には都合が悪い。この度靜岡に行き學校の建物を見ましたが之が設計等は大分大阪の様式を取り入れられてゐる様に感じた、大體何處とも似たりよつたりではある。設計者が他のものを見てヒントを得るのは結構であるが、よい處を眞似ると同時に悪い處も取り入れてゐる事の多いのは我々として今後よく考へねばならぬ事だと思ふ。學校校舍の防火設備は今日最も必要なことではないだらうか殊に時局柄資材の統制の時代には材料を少くして効果を多くすべき必要があり耐火構造も制限せられつゝあるので眞にむつかしい事である。

✶ 筆者は大阪市技師



第三圖
三番町小學校平面圖

靜岡の大火と調査の綜合性

龜井幸次郎

「火」と云ふものは、私共人間生活を快適にする爲に無くてはならない代物で、あらゆる意味で私共は火の恩惠に浴して居るのである。從つて私共の文化が進めば進む程「火」の扱ひ方が烈しくなつて來るのは論を俟たざるところである。ところが此の反對に、此の火の扱ひ方によつては、此のくらひ我々の日常生活を脅すものもないのである。

我國ではその昔より“地震、雷、火事おやじ”と云ふ言葉が云ひ習はしになつて居るがなんとしても火事がおやじである事の辛苦をば永年なめ續けて來た譯である。※それにも拘らず我々は今日に到るも火事の眞の正體が摑めない爲か、全國重要都市の各所に於て實物大の家屋を燃し（一名人工火事と稱す）て火事の實驗を試みて居る始末なのである。

ところが火事と云へば、大正末期から記錄されて居る相當大なる大火だけでも、大正十二年九月一日の所謂大正震火災を筆頭に日暮里の大火、函館の大火そして今回の靜岡の大火までに我々の腦裡に深く刻み込まれて居るものだけでも十指を數へる事が容易に出來るのである。乍然災害と云ふものは曾に火災と限つた事ではないので、每年我國の諸都市は水害、風害と云つた樣に相當大なる自然力による災害に見舞はれて居ると云ふのが今日の日本の實情なのである。ところが悪い事には、かゝる大災害があるごとに世の所謂識者と云ふものが必ずジヤーナリズムに踊らせられて、得手勝手な熱を發表するのがその習慣（ならはし）の樣になつて居るので、いざ對策樹立の場合になると、我々が幼年時代に聞いた象の喩へ話を生地で行く、と云つた笑へない矛盾をば平氣で演じ、容易に對策の結論に達し得ない始末なのである。此の故に所謂“咽元過ぎれば”の類ひで、折角の機會をも何日しか逸して仕舞ふと云ふのが我國今日までの科學者や技術者達の辿つて來た經路であることは否む事は出來ない。まことに殘念なことではあつたが、島國根生的な我國技術家層の感情生活に於て共通に持つ一つの通見であつて今更如何することも出來ないのである。それは恰も蝸牛の角の上で果てることのない議論を續けて居る所謂賢者の例へ話の樣なものであつた。

斯うなつて來ると、現實は何時までも斯る賢者の結論を待つて居ると云ふ譯にも行かず我々が二言目には“素人”なる言葉を以つて片付けて仕舞ふところの行政を扱ふ人々によつて、下手ながら彼自らが手取り早い結論を見出し、彼等の具體案によつて災害處理が行はれると云ふ事態を招來して居るのが常であつた。勿論素人の考へた對策なのであるから何時でも成功し得るものとは限らず、我々は常に切齒扼腕して止まない矛盾を經驗せしめられて居るのである。だが然し之等の罪の大半は一體何れにあるのでせうか。それは馬車

※〃……火事おやぢ〃を筆者は敢て〃火事がおやぢ〃と云ふ意味にとる

馬的な今日までの技術教育が其處に結果として表面に現はれて來たまでゞあると看做すのが妥當かも知れない。此の意味に於て、此度靜岡の被つたあの大火に對しては、一日も早く具體的對策が樹立され、再びかゝる愚を招來せしめざるの綜合された技術對策を構ずることが、現實に即した今日の技術家の辿るべき正道であらうと信ずるのである。

何故なれば、我々が災害調査を行ふと云ふことは之れが原因の科學的技術的の把握から最も有効適切なる具體的對策を創案し得るからである。

ところで此度の大火で靜岡市の被つた災害調査に關する問題を顧みるに、各部門のエキスパートが時を移さず現地に急行し、被害調査に當つた事は既に新聞の報導によるまでもない事實であつた。然るに今日まで之等の各部門が調査の結果を互に持ち寄つて綜合的災害對策の技術的解決に寄與する樣な公の會合が催されたことを筆者不幸にして今日まで耳にしないのである。例へば新聞に報導された各方面の權威者だけでも、水道の專門家あり防空の權威者あり、建築のエキスパートあり或は電氣又は瓦斯等の權威から交通運輸に關する專門家に到るまで現地を親しく視察した筈なのである。

然るに之等の調査や視察の結果が如何なる方法又は如何なる部門によつて發表されるかと云へば、それは各自の屬する思ひ思ひの部門によつて發表されるだけで、それでおしまいと云ふ譯で、その結果が總括されて發表されると云ふ話を聞かないのである。

であるから象の例へ話の如く、大きな象を見物に行つた小人が時間の都合其の他の專門と云ふ制約の故に、胴だけ見て來た者は胴を、鼻だけ見て來た者は鼻を、そして足だけ見て來た者は足をと云つた報告があるだけで凡てが終了して仕舞ふのである。こんなのはなんとしても殘念な事であり又惜むべき事でもあると思ふ。

然し乍ら象そのものは、それ等の各部分の綜合である樣に、都市自體もそれを構成するあらゆる要素の綜合であるのは申すまでもない。故に災害對策として道路ばかり擴げたとしても此度の飛火の距離から考へて意味のない事だし、或は又火災時の水の缺乏を訴へて消火水道施設の重要性を訴へたとしても、之を利用する人的要素と消防機械との協力を得るにあらずんば其の効果は期待出來ないのだし更に又空地の不足と植樹帶の貧困とをその原因の一つに數へたとしても、都市と云ふものゝ性質上、地價と云ふ經濟的制約を度外視して滿遍なく植樹のなし得る樣に都市の疎開が可能であると云ふ譯のものでもなし、或は手取り早く都市全體を耐火的に、都市の大部分を占める建物に耐火構造を强制すればよいではないかと主張する人もないのではないが、之は今日の日本の大都市が我々に其の現實を示して居る樣に、云ふべくして行へないのである。即ち我國の重要諸都市に都市計畫施設として決定した防火地區なるものゝ現狀が此の事實を如實に物語つて居るのである。然らば都市の災害對策は人的要素のみに依存してよいかと云へば、必ずしもさう早急に結論し得ないものがあるのである。例へば今度の火災に於ける燒止りの狀態を些細に檢討して見れば何人にも了解される如く、いづれも燒け止まるべくして止つた事實を深く認識する

であらう。即ち水の豊富であつた上に人力機械力の援助が間に合つたとか、寺院や其の他の空地に植樹帯があつたので、火勢を防ぎ消防力を助けたとか、人家が疎開された地區であつたとか、更に又風上で延焼速度が比較的遅かつたとか、種々様々な條件が、消火力としての人的要素と巧みに組み合さつて、その効果が發揮されて居る事を窺知し得るのである。此の故に都市の災害對策は、都市構築の諸要素と併行して總體的に考案さるべきもので、個々別々の要素が、別々に對策を考慮さるべきものでない事は、論を俟たざるところである。即ち都市を構成する工學的要素は、建築物であり道路であり、河川でありそして他のあらゆる都市的自由空地としての緑地帯であつたとしても、決してその一部分ではない様に、此度の災害對策も工學技術の融和であらねばならぬのは勿論であるが、尠くとも之等の分化された凡ての工學技術をば綜合し得る、都市構築學的である事が最も必要であることを主張したいのである。故に都市災害の根本對策の第一歩は調査の綜合性より出發されねばならぬ事を主張したいのである。。

★筆者は建築技師・大阪府警察部建築課

紀元2600年記念論文懸賞募集規定

1. 表題「本邦工業論」
本論文は各方面の卓見智能を動員して優秀剴切なる論策を求め當選作の全文、またはその「梗概」を日刊工業新聞紙上に續載し、一億大衆に光輝ある我が工業界の前途を明示し、發達助長の指導基準となすとゝもに、當選作の全文（場合によりその一部）を單行本として發行し江湖に頒つ豫定である。
2. 内容に關する構想、分類、配列等は自由であるが全篇を通じ尠くとも左記例示の要項にわたり論及すること。
「本邦工業論」要項（例）
1．本邦工業界の過去，現在，將來並に世界的位置につき
軍需工業　民需工業　代用品工業　輸出品工業
等それぞれの觀點に立ち論述すると共に他の産業との關連についても論述する。
2．日滿支，南洋，經濟圏，資源圏内における工業立地策を如何にすべきや。
3．本邦工業の理想目標達成のため制度研究，勞務，教育，諸法規，諸制度，諸施設を如何にすべきや。
4．世界各國工業の特異性を檢討し本邦工業の海外進出に關する方策に論及する。
5．全篇を通じ大和民族意識の一貫せる精神をもつて基本とすること。
3. 審査員　（イロハ順・敬稱略）

東京帝國大學教授	馬場鍬治	理化學研究所長工學博士	大河内正敏
東京工業大學講師	川西正鑑	陸軍省兵器局長陸軍少將	岩畔晴次
大阪帝國大學教授	高橋清	企畫院次長	植村甲午郎
鐘淵紡績株式會社社長	武田信吾	住友本社取締役專務理事	古田俊之助
鹿原工業大學理事長	鹿原銀次郎	商工次官	岸信介
興亞院技術部長工學博士	宮本武之輔	海軍省軍需局長海軍中將	御宿好
本社側代表			
常務取締役	豎成光文	同 編集局顧問商學博士	武田晟一

4. 賞金
1等 金參千圓也 1名　2等 金五百圓也 1名　3等 金壹百圓也 1名
入選論文の版權は日刊工業新聞社に歸す。
5. 論文原稿には最初の一枚に住所氏名を明記し一枚四百字詰(一行廿字廿行 のものを使用、枚數に制限なし、別に全文を一枚四百字詰原稿紙十五枚以内に要約せる「梗概」を添附すること
6. 紙上匿名を許さず、但し特殊の事情あるものはその旨を申出ること。
7. 應募原稿は當選と否とに拘らず全部を政府に提出、企畫立案の資料に供するを以て一切返却せず。
8. 原稿はペン又は毛筆にて認め、假名は平假名を使用すること、但し外國の固有名詞、機械名等特殊なものは片假名を使用すること。
9. 參考書、その他より引用せる部分についてはその出所を明記すること。
10. 文中の數字にして防諜關係に抵觸するものは發表の際に適宜削除、又は伏字にする事あるべし。
11. 締切期限　昭和15年6月30日着便。
12. 當選發表　同　8月下旬、日刊工業新聞紙上を以てす。
13. 投稿先　大阪市北區中之島五丁目、日刊工業新聞社「懸賞論文係」又は東京市京橋區銀座西二丁目、日刊工業新聞社東京支社「懸賞論文係」宛、封皮に「懸賞論文原稿」と朱書する事

大阪・東京日刊工業新聞社

阪神間に家を建てる場合の注意(水害豫防の立場より)

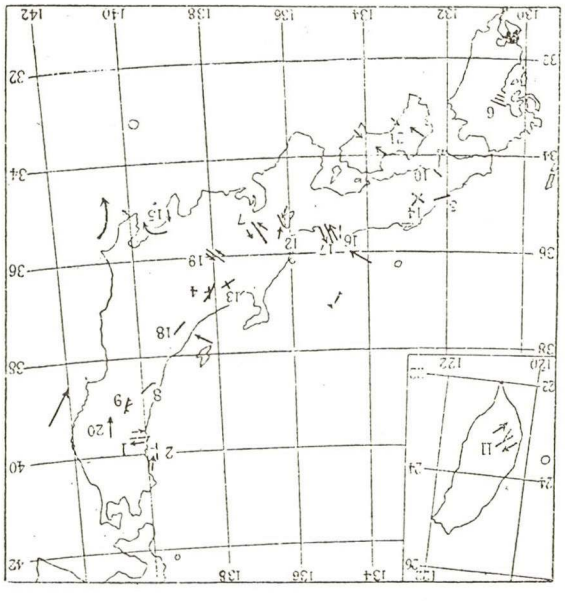
淺野新一

緒言

昭和13年7月5日突如として阪神間を襲つた大洪水はその被害程度より觀て史上未曾有のものであつて、その慘狀眞に目を蔽はしむるものがあつた。當時人々は様々の豫防方策を眞劍に考へたのであつたが、それにも拘らず時日が經過し、恐ろしかつた記憶が淡れゆくにつれて此等の方策はいつしか不要不急のものとして次第に忘れられゆくかに見える。

さはれ斯る傾向は技術に關係の無い一般社會人の間に在つては極めて自然のなりゆきなのであるから深く咎むべきではなく、此の健忘性の善良な社會を護つてゆく義務を擔ふものは正に技術を以て社會の福祉增進に寄與しつゝ同時にその報償として社會の恩惠を享受しつゝある技術家そのものでなければならない。夫れぞれの專門分野に於ける技術家の使命の自覺に基づく固き信念と熱誠のみが社會を災禍から眞に護り得るのであると私は考へる。此の意味に於て私は此の災害特輯號の誌上を利用して求められるまゝに、當時建築技術家として考へた水害豫防の建築的方策を茲に再び整理記載し、採つて以て一にても役立つものあらば利用して頂かうと考へた次第である。

尙希くば此の際今一度「建築と社會」昭和13年9月號誌上の本協會災害强度委員會發表の阪神地方水害調査報告を御通讀下さらんことを。



第1圖　日本島弧に働く重力推定圖（藤原）

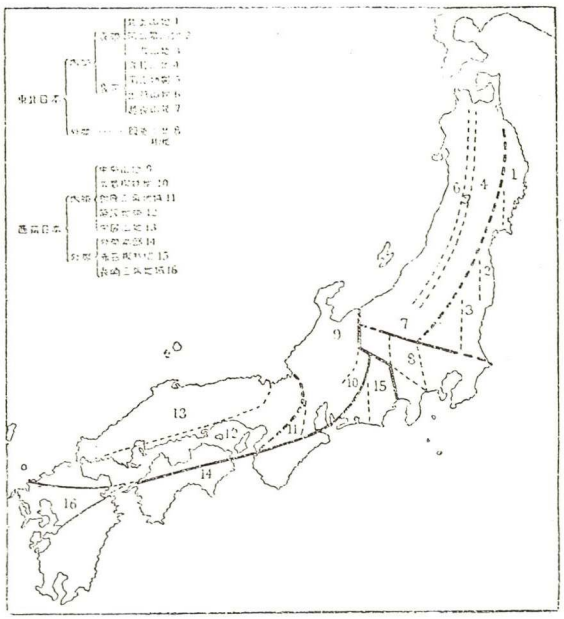
阪神間に家を建てる場合の注意

（1）阪神間の地質構造

阪神間地區は**第1**及**2**圖に示す如く日本列島と云ふ（東北方及西南方よりの軸方向力を受けた）*) 長き梁がアジア大陸より太平洋に向つて（西北西より）働く側壓を受けて强く屈曲せしめられ、中央部で大龜裂を來し既に此の龜裂即ち Naumann の所謂 Fossa magna(糸魚川—靜岡構造線)を支端とした二長柱**) の一と化した西南日本地塊の（側壓を受けた）長柱の挫屈壓碎帶即ち Naumann の所謂瀨戸破碎帶の一部に屬し、**第3**圖に示す如く斷層が縱横無盡に發達し

*) 此等の力は完全には平衡してゐないで稍々東北方の力の方が大で塑性平衡をなしてゐると考へられてゐる。　　**) 東北日本地塊と西南日本地塊の二長柱

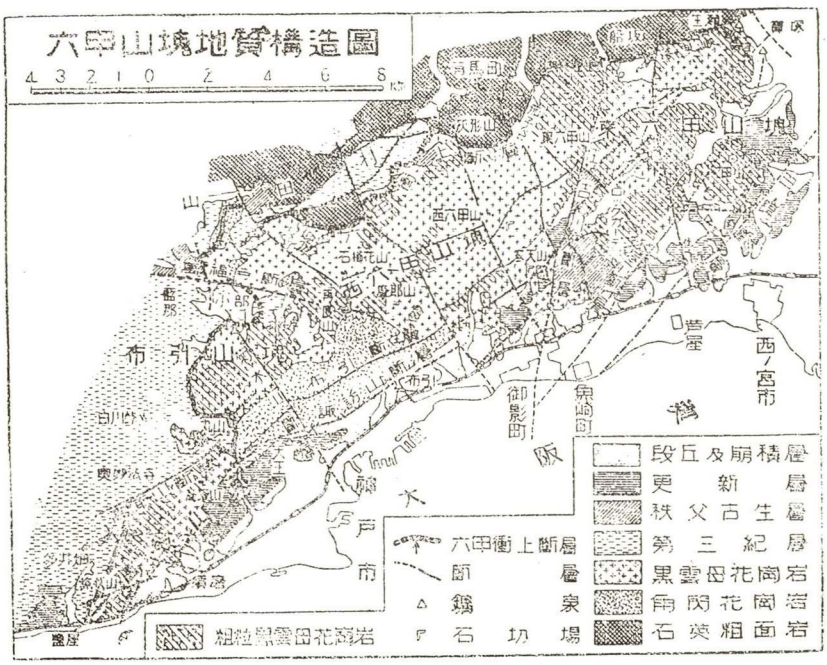
多數の小地塊が寄木細工の様に集り且壓碎の結果重なり氣味に所謂衝上げ斷層をなして互に接してゐる土地である。而して此の地區の脊梁をなす六甲山塊は典型的なる地壘山脈をなし、南側は海岸に迫つて明白なる斷層崖をなし、從つて海岸平地との勾配の推移急變的にして土砂の崩壞流下の危險多く山裾より海岸に至る平地は過去に於ける數次に亘る土砂の崩積又は大流下を示す無數の段丘を成してゐる。のみならず此の居住地域の背後をなす六甲山塊は大部分花崗岩系岩石の特性として極めて風化し易く剥つさへその風化生成物は



第2圖　本州の構造的區分（望月）

所謂眞砂土にして凝結力無く流動し易い。此の如く阪神間の地區は地質構造及地形より觀て極めて不安定なる土地であつて今後と雖も對策を怠る時は先年の如き大洪水の襲來する處れは多分に在ると看なければならない。

（2）敷地の選定又は建物の配置

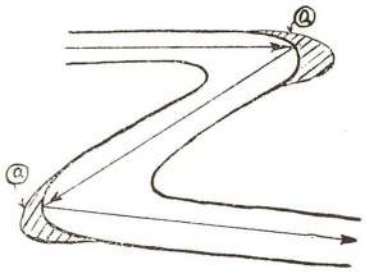


第3圖　六甲山塊地質構造圖（上治）

（1）：此の地區の河岸の土地は硬い花崗岩系岩石の上に凝結力の無い流動性の眞砂土の薄層を敷いた土質か又は此の種風化土の崩積地か流下推積地又は厚き粘土層の上

に砂礫層を戴く洪積層段丘であるから容易に河川侵蝕を受け崩壊し易いから成るべく河岸から遠ざかつた敷地がよく、且敷地は少く共河床より高くしなければ不安である。河岸に接した敷地にどうしても建てねばならない場合は建物は少く共河床より敷地面迄の高さ以上河岸より遠ざけて建てる様に努める。どうしてももつと河岸に接近して建てなければならない場合は後に建物の構造の節で述べる注意に従つて特に充分堅固な構造とする。

尙河川の屈曲點の凸側をなす土地（**第4圖**ⓐ部）又は河川の合流點又は河川と山地性道路の交叉點等に接する土地では河又は道路沿ひの敷地緣端の崩壊を警戒しなければならない。



第 四 圖

（II）：谷間や谷※）の開いてゐる方向の低地、又は貯水池の下方等に敷地を選ばない様にする

（III）：斷層線上又は之に極く接近してゐると考へられる土地を避ける。（地震時をも考へて）

（IV）：（III）：の土地に含まれるものも人工的原因に因るものも全て含めて一般に崖端に近く建物を設けない様にする。

（V）：建物は敷地より高い土地の擁壁面から出來るだけ遠ざける。

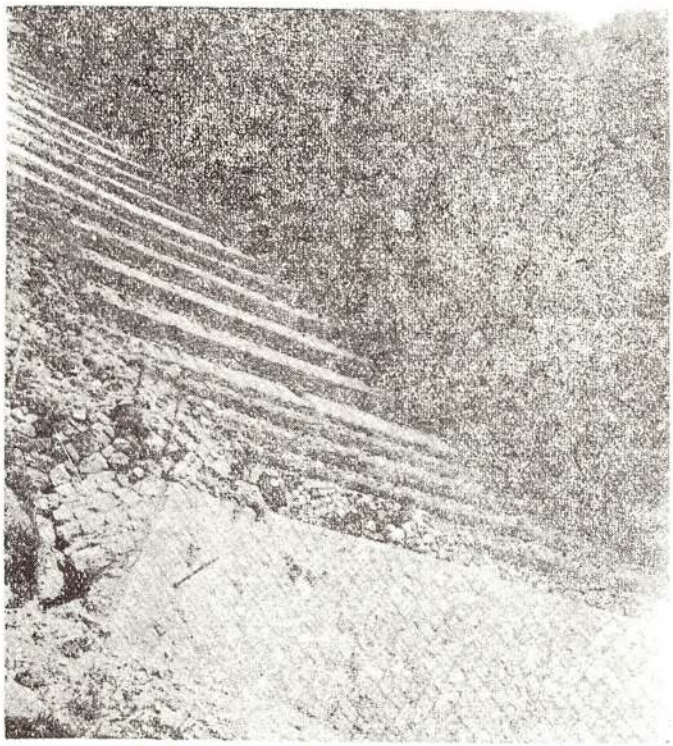
（3）：環境の改善

（I）：敷地周圍に迫つて山が在る時はよく手入れをし、唯長大なるのみにて樹根が廣く深く岩塊に喰ひ入り岩塊に固く止つてゐないか又は老齡に過ぎて樹精鈍り岩塊に緊着する精力乏しき樹木は之を伐採して精力旺盛且つ根が廣く深く岩塊に喰ひ入り、同時にその割合に餘り丈が高くならず樹葉に充分雨水を含み保ち得る様な種類の樹木のみを存する様に心掛ける。従つて必要の場合は斯様な條件に最も適する樹種を選擇して全山の樹種の變更をなす様にする。但し樹木は假令ひ根をよく張る種類のものでも苗を植ゑる方法によつた場合と播種の方法によつた場合とでは前者の方が根の岩塊への緊着程度後者に比し弱く又苗を植ゑたものが本當に根を張る迄には相當の年月を要するから樹種の變更は長期に亘る計畫に基づいて徐々にやらねばならない。

（II）：崖端には大木を植ゑて置かぬ様にする。

（III）：特に崩れ易い凹曲斜面に沿つて道路をつける場合は、その斜面に充分な砂防施設を施す。砂防施設は勿論土壓の一番大きい下部を特に堅固にすると共に全斜面の勾配を緩にするに努め、斜面の高さ大なる時は數段の階段狀に缺き取り各斜面に擁壁を設けると共に上面を能ふ限り防水性とする。擁壁はマツスを大にすると共に土中に滲透する水を土砂を伴ふことなく速に流出せしめる様に水抜きに工夫する。間知石積は埋込長大なるものはマツスが大であるから水抜きに工夫すれば法を適當にすることにより充分砂防効果を發揮

※）谷と云ふ程でなく山の凹曲斜面に過ぎない程度のものでも豪雨の時は相當の水流が來ることを豫想して用意して置かねばならない



第5A圖　砂防工の一例（下より見上げたる所）

せしめることが出來る。（第5及6圖參照）

（IV）：道路の開鑿又は工作物の敷地造成等の爲山の自然の法面を中斷した時は必ず充分な土留擁壁を設ける。

（V）：極くさゝやかな谷でも谷が道路と交叉する所では道路下に必ず多少の山崩れに伴ふ土砂が來ても充分な斷面の暗渠を設けて排水を良くする。

（VI）：水害の虞れある山地及斜面の道路の傍には必ず斷面充分大且底部及側壁をコンクリート等を以て固め不滲透性としたる開放の溝渠を設けて排水を良好にする。

（VII）：此等の溝渠より集り來る水は漏水の虞れ無き大徑の排水管又は溝渠により速に河中に導く樣にする。

（VIII）：貯水池の樣なものを成るべく造らぬ樣にし若しどうしても造る必要のある場合は鐵筋コンクリート造として特に漏水の虞れがない樣にする。



第5B圖砂防工の一例（上より見下したる所）



第6圖　施工良好なる間知石積擁壁の一例

（4）：建物の構造

（Ⅰ）：建物の基礎は必ず堅い地山に接着せしめる。若し基礎を直接地山に達せしめ難い時は基礎杭を必ず地山に接着せしめ且杭頭は基礎版中に充分埋め留め尚出來得れば杭相互を一體となる樣連結する。土體が浚はれても安全な樣にする爲である。

（Ⅱ）：建物は床下の高さを許し得る限り高くする。

（Ⅲ）：建物には成るべく高い丈夫な布基礎を周らし、その通風用開口は高い所につけ、且出來得れば必要に應じ開閉し得る樣にする。

（Ⅳ）：基礎と土臺又は柱若は柱と、土臺其の他主要構造部材は相互に金物にて充分緊着せしめる。

（Ⅴ）：建物の構造主體は水平力に充分抵抗出來る樣にし、且小屋組は和小屋を避け、トラスとする。

（Ⅵ）：建物は必ず2階建の部分を備へる樣にし、且此の部分の主要な柱は充分な斷面の通し柱とする。

（Ⅶ）：建物は出來得れば鐵筋コンクリート造又は無筋コンクリート造の如くマツスが大で不透水性の構造のものとするのが宜い。

（5）：防水及防砂施設

（Ⅰ）：敷地を高くし且周圍に防水防砂塀(以下簡單の爲に單に防水塀と云ふことにする)を設ける。之は必ず全周圍に設け、決して周圍の狹い範圍の地形のみを考へて或る方向にのみ之を設け他の方向を水流の襲來なきものと考へて備へを怠る如きことをしない。防水塀は特にマツスを大にし又纖目の少い一體的構造とし且基礎は決して土の側壓に持たせることなく總て基礎底面の地耐力及摩擦力に持たせ、尚基礎は必ず堅い地山に喰ひ込む如く接着させる。施工に當つては腐り易い樹根等は丹念に之を除去し基礎下に左樣なものゝ入込まぬ樣注意する。樹根等の腐つた痕は良き水みちとなるからである。

その上外面には不滲透性のエプロンを突出せしめ高壓の潜流により足元を洗はれることを防ぐ様にする。開口部の扉は自身の構造及取付けに特に防水効果良好なる如き考慮を拂ふ。

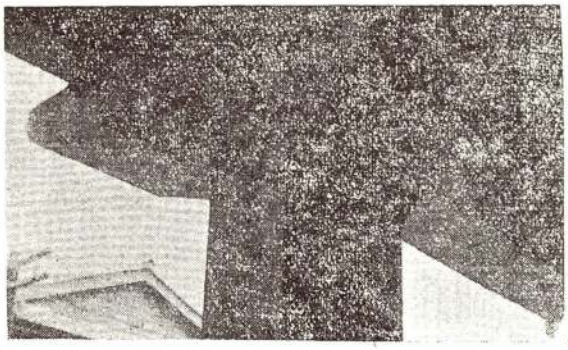
(II): 敷地造成用の擁壁も基礎は必ず地山に固く喰ひ込ませ充分な法、水抜き、及強度並に安定度を有せしめ、尚餘り高いものは數段の擁壁に分ち階段狀に設けると共に上面をコンクリート等にて適度の水垂れ勾配を附して錆裝して不透水性とする。

(III): 下水より壓力水の爲水が敷地内に逆流し來ることを豫想し非常の場合は下水溝を密閉遮斷し得る様に工夫して置く。

☆筆者は大阪府技師

多地下水域に於ける地下構造物の一防水工法に關して私の抱く不安

河底に隧道其の他の築造物を構築する場合又は地下に數層の地階を設ける様な場合設計者の最も惱む問題の一つは如何にして防水するかと云ふことである。此の問題の解決方法の中最も大膽なものとして壁體を二重とし、外側の壁體(架構をも含めた意味に解して頂き度い)を地上の上部構造をも支持する耐力部分とし、内側の壁體は唯輕度の防水と防音的役割とを與へた造作的のものとし、外側の壁體には特に防水的措置を講ぜず構造上自ら保有する或る程度の防水効果を以て防水第一線の役割を果さしめ、從つて自由に透過し來る多量の水は之を二重壁の間の空間内に設けた溝渠を通じて特定の箇所に集め、之をポンプを以て排泄すると云ふ防水工法が用ひられる場合が見受けられる。勿論之はランニングコストが大で不經濟なのと、動力の停止した場合を考へると不要なので、大抵は設計の當初からの計畫ではなくて着工後防水に豫期の成功を納め得ずして止むなく執つた方法である場合が多いと思はれるが、それは兎も角、構造物を此の儘の狀態に永年に亘つて放置して置くことは好ましからざる場合のあることを信ずる。周知の如く軟水はコンクリート中の石灰分を溶出する。海水の侵入して來ない内陸性の河底や海岸から遠ざかつた内陸に於ける地下に於てはかなり軟度の高い水が存在し得るから高壓の此の種軟水が絶えず透過しゆき、然も新鮮な空氣が壁體表面に當ることが無いのであるから此の化學變化は不斷に進展しゆく故遂にはコンクリートが粗鬆になり必要な耐力を喪失する時期が到來する處れが無いとは限らないからである。挿圖は軟水の石灰溶出作用を證する十三の跨線道路橋に生じて居る鐘乳石樣石灰華を示す。(淺野新一)



靜岡大火災調査報告

災害強度委員會

はしがき

一月十五日午すぎ、市の西部に突如として發火折柄の強風に煽られて火勢猛烈を極め黒煙天に沖し、恰も燎原の火の如く、警防團並に軍隊必死の活動も効なく忽ちにして市の中樞部繁華街を舐めつくし、夜になつてもやまず、紅蓮の焔は益々猛り、炎々として天を焦し、いつはつべしとも思はれなかつたが、折柄の逆風に宥められ11時45分漸く鎭火するに至つた。燒失面積40萬坪五千餘戸を烏有に歸し、損害實に壹億圓に垂んとし、近來稀有の大火であつたため世人を勘からず驚愕せしめた。

本委員會は急據視察員を現地に派し、專門の立場より調査せしめたのである。本報告は三日間燒野を馳せ巡り、或は要路の人を訪ね或は巷間灰の中より掻き集めた資料を整理したもので杜撰なところもあるが、火災研究上の一參考資料ともなれば幸ひである。

目　　次

1. 市勢一般
2. 氣象一般
3. 火災沿革
4. 消防施設
5. 發火時の概況
6. 延燒の狀況
7. 燒失區域周圍部の燒止り狀況
8. 警察署警防團及軍隊の活動狀況
9. 被害概要
10. 今回の火災の性質
11. 被害の擴大原因
12. 燒失建築物の用途別調査
13. 不燃質建築物の被害狀況
14. 高層建築物の被害
15. 土藏の効果
16. 其他の被害

1. 市政一般

A 地勢

靜岡市は東西兩京の中間にありて、靜岡縣の中央部に位し262ヶ町及76ヶ字に分たる。市内に谷津山、清水山（公園）、八幡山、有度山の小丘點在すと雖も地勢概ね平坦なり。

B 沿革

明治四年廢藩置縣令發布され本市に靜岡縣廳設置さる。本市は大正十二年六月都市計畫法の指定地に加へられ、同年七月一日より之を實施既に第一期街路事業の完成を終り、次で第二期事業に着手、區劃整理、幹線道路工事、全市舖裝等着々都市美を備へ大都市建設に邁進せんとして居る。



C 本市位置

市廳所在地	追手町十六番地	東經138度2分41秒	北緯34度57分29秒
面　積	147.875粁 （9.589方里）	周圍　82粁	海岸線14.5粁
廣　袤	極東　根古屋 極西　宇津谷	16.743粁	極南石部 極北俵峰　25.85粁

D 公園

清水山公園（音羽町）6.884坪　　慰懐山公園（井宮町）2.901坪

大濱公園（西　島）7.062坪　　用宗公園（用　宗）1.239坪

計　18.086坪

E 戸口

一、國勢調査（現在市域）

年次	世帯數	人口			一世帯平均人口
		男	女	計	
大正九年	24.310	66.229	64.193	130.422	5.0
大正十四年	29.078	78.665	77.513	156.178	5.1
昭和五年	32.543	88.645	86.053	174.698	5.2
昭和十年	36.492	100.860	99.876	200.736	5.5

一、現住人口

年次	現在戸數	人口			現在一戸平均人口
		男	女	計	
昭和九年	35.734	94.681	96.324	191.005	5.3
昭和十年	36.687	98.695	99.372	198.067	5.3
昭和十一年	37.104	99.523	101.536	201.059	5.4
昭和十二年	37.637	100.824	103.489	204.313	5.4
昭和十三年	38.192	101.937	105.391	207.328	6.7

F 職業別戸數

農業	5.592	水産業	271
鑛業	19	工業	12.609
商業	9.113	交通業	2.238
公務自由業	3.694	其他有業者	2.379
家事使用人	13	無職業	2.264
		計	38.192

2. 氣象一般

本市は東經138度28分41秒北緯34度57分29秒の地にあり。南方海に面し北西山を負ひ、本州随一の氣候温和な地にして昭和元年以來の最高氣温は38.4c 最低零下8.3を降つたことがなくその平均温度は17.5である。その一年の天候を概観するに、

快晴	54日	霰雹	なし
曇	181日	電雷	2日
降水	62日	霜	56日
雪	1日	疾風以上	109日

尚、參考として最近の管内氣象比較及氣象報告を次に掲ぐ。

昭和14～15年旬別氣象比較表　　靜岡縣　　（第2表）

月	旬	氣壓 前年	氣壓 本年	氣壓 平年	最高氣溫平均 前年	最高氣溫平均 本年	最高氣溫平均 平年	最低氣溫平均 前年	最低氣溫平均 本年	最低氣溫平均 平年	最高低平均氣溫 前年	最高低平均氣溫 本年	最高低平均氣溫 平年	濕度 前年	濕度 本年	濕度 平年	日照時間 前年	日照時間 本年	日照時間 平年	降水量 前年	降水量 本年	降水量 平年	降水日數 前年	降水日數 本年	降水日數 平年
10月	上				25.82	23.77	23.58	16.47	15.42	15.70	21.15	19.74	19.64	65.5	71.5		4.85	2.87	3.65	14.30	65.3	85.1	3	4	5.3
	中				20.89	23.90	22.05	13.79	14.83	13.17	17.34	19.39	17.61	76.7	71.3		1.39	2.93	4.00	156.8	60.4	74.1	6	5	4.7
	下				21.77	21.69	20.79	13.07	10.81	11.43	17.42	16.27	16.11	74.6	61.3		3.44	4.51	4.63	123.9	54.0	59.8	6	3	4.3
	平均				22.83																				
11月	上				19.23	21.49	19.28	10.75	10.64	9.82	14.99	16.10	14.55	62.2	70.9		5.55	3.12	4.52	5.1	37.1	61.2	1	6	3.9
	中				16.77	19.22	17.74	5.12	7.97	7.70	10.95	13.63	12.72	54.6	61.6		4.67	2.12	4.88	17.9	2.6	37.0	1	3	3.5
	下				15.14	17.72	16.36	3.60	8.07	5.95	9.37	12.71	11.16	55.9	63.8		5.78	4.72	5.08	0.1	70.0	29.4	1	5	2.2
	平均				17.05																				
12月	上				15.44	14.87	14.48	3.51	1.78	4.60	9.48	9.16	9.54	52.0	59.9		5.43	4.87	4.85	0.0	2.2	24.4	0	3	2.6
	中				14.89	12.16	13.05	2.81	1.07	2.90	8.85	6.16	7.98	65.1	39.4		5.25	5.26	5.08	19.4	4.2	26.3	3	2	2.1
	下				9.82	13.03	11.69	2.61	1.04	1.80	6.22	7.08	6.74	61.4	58.5		4.55	5.40	4.92	59.7	0	33.4	3	0	2.8
	平均				13.38																				
1月	上				8.33	14.08	10.74	-1.04	1.98	1.05	3.65	8.05	5.91	44.4	62.3		5.80	5.15	5.24	10.6	1.1	28.0	1	2	2.0
	中																								
	下																								
	平均																								
月	上																								
	中																								
	下																								
	平均																								
月	上																								
	中																								
	下																								
	平均																								
月	上																								
	中																								
	下																								
	平均																								
月	上																								
	下																								
	中																								
	平均																								

管内氣象報告　　（第3表）

靜岡縣　　昭和14年11月（午前10時觀測）

項目 / 日	氣溫 c	最高氣溫 c	最低氣溫 c	最高低氣溫ノ合計 c	最高低氣溫ノ平均 c	較差 c	降水量（粍）	濕度 百分率	風向	風力	雲量	天氣	霜	日照	
1	17.8	22.8	7.7	20.5	15.3	15.1		68	SE	1	5	晴		2.7	
2	17.3	20.5	9.3	29.8	14.9	11.2		65	E	2	6	晴		7.3	
3	17.7	19.9	8.8	28.7	14.4	11.1	0.2	53	E	2	1	快晴		4.9	
4	18.2	21.8	11.3	33.1	16.6	10.5	24.1	85	—	0	10	曇		0	
5	21.8	23.2	12.7	35.9	18.0	10.5	0.5	64	E	1	1	快晴		5.7	
6	15.3	19.2	13.2	32.4	16.2	6.0	5.6	74	NE	1	10	曇		0	
7	18.8	20.8	9.8	30.6	15.3	11.0		67	E	1	1	快晴		6.3	
8	20.1	22.6	10.9	33.5	16.8	11.7		61	E	1	2	快晴		4.3	
9	18.9	22.7	10.6	33.3	16.7	12.1	6.5	78	NW	1	10	曇		0	
10	16.8	21.4	12.1	33.5	16.8	9.3	6.2	94	E	1	10	雨		0	
	18.27	21.49	10.64	32.13	16.10	10.85	3.71	70.9						3.12	
11	17.1	20.1	12.0	32.1	16.1	8.1		92	SE	2	4	晴		4.2	
12	17.3	20.4	8.1	28.5	14.3	12.3		68	ESE	2	0	快晴		5.3	
13	16.3	17.7	6.7	24.4	12.2	11.0		56	—	0	8	曇		0.9	
14	11.8	18.9	6.9	25.8	12.9	12.0		60	E	1	7	晴		2.9	
15	18.7	19.9	4.2	24.1	12.1	13.7		39	SW	1	0	快晴		4.1	
16	18.1	20.7	8.0	28.7	14.4	12.7		48	S	2	1	快晴		3.8	
17	15.6	18.9	7.4	26.3	13.2	11.5		60	EN	2	7	晴		0	
18	14.9	17.7	8.8	26.5	13.3	8.9	1.0	58	EN	2	9	曇		0	
19	16.1	19.2	8.9	28.1	14.1	10.3	0.5	64	ESE	1	5	晴		0	
20	15.3	18.7	8.7	27.4	13.7	10.0	1.10	71	N	2	10	雨		0	
	16.12	19.22	7.97	27.19	15.62	11.83	0.41	61.6						2.12	
21	17.4	21.7	7.3	23.6	14.3	14.0	3.5	57	E	1	1	晴		4.5	
22	13.9	19.9	11.4	30.3	15.2	7.5	48.7	92	NWN	1	10	雨		0.3	
23	18.1	19.5	13.3	32.8	16.4	6.2		83	NE	1	9	曇		0.7	
24	14.4	19.6	13.6	33.0	16.5	6.2	17.8	76	W	1	10	曇		0.1	
25	15.6	21.2	8.8	30.0	15.0	12.4		76	—	2	1	快晴		8.5	
26	8.9	18.7	8.6	27.3	13.7	10.1	0.0	44	W	0	1	快晴		7.3	
27	9.8	14.6	3.8	18.4	9.2	10.8	0.0	32	WS	4	0	快晴		9.4	
28	12.9	17.5	2.4	19.9	10.0	15.1		88	WSW	4	0	快晴		5.8	
29	15.7	13.0	8.2	21.2	10.6	4.8		48	WSW	4	10	雨		4.2	
30	13.1	12.9	3.5	16.4	8.2	9.4		42	WSW	3	3	晴		6.4	
31	13.96	17.72	8.07	25.79	12.91	9.65	7.00	63.8						6.9	
合計	483.5	584.3	266.8	851.1	426.4	317.5	109.7	196.3						99.6	
平均	16.12	19.48	8.890	28.37	14.21	10.58	3.66	65.4						3.32	
翌月1	11.9	17.9	0.2	18.1	9.1	17.7		49	SE	1		○		8.3	

午前10時ノ天氣日數	快晴	晴	曇	雨雪	疾風以上	類別日數	降水日數	霰	電雷	降水量1日30粍以上
	12	7	7	4	5		12	2	1	1

（第4表）

静岡縣　　昭和14年12月（午前10時觀測）

項目 / 日	氣溫（攝氏）	最高氣溫（攝氏）	最低氣溫（攝氏）	最高低ノ氣溫ノ合計（攝氏）	最高低ノ氣溫ノ平均（攝氏）	較差（攝氏）	降水量（粍）	濕度百分率	風向	風力	雲量	天氣	霜	日照
1	11.9	17.9	0.2	18.1	9.1	17.7		49	SE	1	0	快晴		8.3
2	12.3	15.0	0.3	15.8	7.9	14.7		47	SW	1	0	快晴		8.1
3	11.9	13.7	8.1	21.8	10.9	5.6		33	SW	3	0	快晴		5.5
4	8.4	11.9	1.1	13.0	6.5	10.8		67	——	0	7	晴		4.4
5	11.4	14.7	2.7	17.4	8.7	12.0	0.0	56	——	0	0	快晴		5.4
6	8.9	14.6	4.4	19.0	9.5	10.2	2.2	56	E	1	10	曇		—
7	11.7	12.3	5.9	18.2	9.1	6.4		74	SE	1	3	晴		5.4
8	12.3	19.9	2.6	22.5	11.3	17.3		62	SES	1	2	快晴		5.9
9	9.4	11.0	3.8	14.8	7.4	7.2		63	——	0	5	晴		2.4
10	11.4	17.7	8.7	26.4	13.2	9.0	0.0	92	SW	2	8	曇		3.3
日別平均	10.96	14.87	3.78	18.70	9.36	11.09	0.22	59.9						4.87
11	10.6	11.7	7.2	18.9	9.5	4.5		90	E	1	0	快晴		6.6
12	7.3	10.4	−0.6	9.8	4.9	11.1		49	——	0	0	快晴		2.2
13	6.1	11.8	−0.1	11.7	5.9	11.9		66	——	0	10	曇		2.9
14	11.8	12.5	−1.8	10.7	5.4	14.3		38	SW	3	0	快晴		4.7
15	6.6	11.4	−1.1	10.3	5.2	12.5	4.2	51	——	0	2	快晴		1.4
16	11.4	12.4	0.3	12.7	6.4	12.1		85	——	0	6	晴		7.9
17	11.9	12.7	1.0	13.7	6.9	11.7		66	——	0	0	快晴		7.0
18	10.6	15.3	1.8	17.1	8.6	13.5		49	W	1	0	快晴		7.7
19	9.0	12.9	0	12.9	6.5	12.9	0.0	40	SE	1	3	晴		7.1
20	7.5	10.5	4.0	14.5	7.3	6.5		64	——	0	8	曇		5.1
平均	9.28	12.16	1.07	13.23	6.66	11.60	0.42	59.4						5.26
21	9.4	12.6	1.1	13.7	6.9	11.5		59	——	0	0	快晴		5.3
22	8.2	13.1	2.7	15.8	7.9	10.4		71	——	0	10	曇		1.1
23	8.2	11.9	2.2	14.1	7.1	9.7		67	W	1	10	曇		3.2
24	10.2	13.9	0.8	14.7	7.4	13.1		56	N	1	1	快晴		6.4
25	8.3	11.4	0	11.4	5.7	11.4		50	E	2	0	快晴		3.5
26	8.0	14.0	1.3	15.3	7.7	12.7		65	——	0	1	快晴		7.1
27	10.8	13.9	2.0	15.9	8.0	11.9		70	SES	1	0	快晴		7.9
28	12.1	12.9	2.4	15.3	7.7	10.5		40	SE	1	1	快晴		5.0
29	9.6	12.2	0.7	12.9	6.5	11.5		53	E	1	1	快晴		6.6
30	8.5	12.3	−0.6	11.7	5.9	12.9		54	E	1	0	快晴		6.9
平均	9.33	12.82	12.6	14.08	7.08	11.56		58.5						5.36
31	8.8	15.2	−1.1	14.1	7.1	16.3		49	N	1	0	快晴		7.1
	1021	14.34	115	1549	773	1319		634						601
合計	304.5	413.7	60.0	474.2	238.1	358.8		1827						161.4
平均	9.8	13.3	1.9	15.3	76.8	11.6		5.9						5.2
翌月1	10.7	12.6	4.1	16.7	8.4	8.5		26	SW	3	0	快晴		3.6

午前10時ノ天氣日數	快晴	晴	曇	雨雪	疾風以上	類別日數	降水日數	霜	氷	最低氣溫0.以下	
	20	5	6	0	2		2	3	1	6	

昭和15年1月（午前10時觀測）　管内氣象報告　靜岡縣　（第5表）

項目 / 日	氣溫 c	最高氣溫 c	最低氣溫 c	最高低氣溫ノ合計 c	最高低溫ノ平均 c	較差 c	降水量 m.m.	濕度 %	風向	風力	雲量	天氣	霜	氷	記事
1	10.7	12.9	4.1	16.7	8.4	8.5		26	SW	3	0	快晴		3.6	
2	5.9	13.2	3.4	16.6	8.3	9.8		61	E	1	10	曇		4.0	
3	13.2	14.5	−1.5	13.0	6.5	16.0	0.0	35	SW	3	0	快晴		4.3	
4	9.9	17.5	−0.8	16.7	8.4	18.3		62	E	1	0	快晴		3.7	
5	14.9	16.9	−0.2	16.7	8.4	17.1		50	W	3	2	快晴		4.4	
6	12.1	17.1	1.7	18.8	9.4	15.4	1.1	50	N	1	0	快晴		5.1	
7	13.8	14.7	10.0	24.7	12.4	4.7		39	SW	3	0	快晴		7.0	
8	8.9	13.0	−0.8	12.2	6.1	13.8		38	SW	3	1	快晴		3.8	
9	4.8	10.9	1.9	12.8	6.4	9.0		43	W	3	4	快晴		8.9	
10	3.9	10.4	2.0	12.4	6.2	8.4	1.1	40	NE	2	1	快晴		6.7	
平均	9.8	14.8	1.9	16.6	80.5	12.1		447						515	
11	3.5	9.1	−1.2	7.9	4.0	10.3		74	N	1	0	快晴		6.1	
12	7.2	9.6	−1.8	7.8	3.9	11.4		52	E	1	2	快晴		3.5	
13	6.3	12.6	−0.6	12.0	6.0	13.2		65	E	1	1	快晴		7.5	
14	9.5	12.4	−0.4	12.0	6.0	12.8		45	EN	2	0	快晴		7.3	
15	6.9	9.8	−3.1	6.7	3.4	12.9		67	E	1	0	快晴		7.2	
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															

3. 火災沿革

今回の大火災は實に靜岡初つて以來である。靜岡の1.000戸以上の大火をひろつてみるに文化4年に1879戸、明治22年に1169戸、同25年の1322戸で今回が4回目である。而して主なる火災は、

A. 主要なる火災の概況

(1.)寛政12年10月20日、安西5丁目より出火西風の烈風に21日午前6時迄に24町燒失

(2.)文化4年12月20日午前2時頃新通大工町より出火、西風の烈風中8時間延燒32町1.879戸全燒

(3.)天保5年11月7日午前5時頃兩替町5丁目から出火、西風により6時間燃へ10時頃鎭火したるもの燒失町名は兩替町4丁目5丁目6丁目凪ノ辻呉服町4丁目、5丁目、江川町、紺屋町14町442戸に及ぶ

(4.)安政元年11年4日午前10時頃大地震あり江川町より出火、烈風に煽られ呉服町6丁目新谷町、紺屋町、上傳馬町、下傳馬町、門前町鑄物師町、阪田町、上横田町、下横田町を燒き其頃、西風が突然東風に變り且つ地震の爲め潰屋が30戸位あつた爲め消火したり燒失戸數578軒全町1割2分に當る。

(5.)慶應2年3月10午前11時頃呉服町3丁目より出火し北風に煽られ翌11日午前8時頃鎭火し燒失時間9時間に及び市內目貫の場所を灰燼に歸し20ヶ町808戸を燒失せり

(6.)明治3年12月20日午後6時頃安西2丁目西側酒造土藏より出火し西北の風强く翌日午前4時頃鎭火せり炎燒時間10時間に及び6ヶ町219戸を燒失せり

(7.)明治9年11月20日、午前1時半頃、安西3丁目北側より出火し西烈風に煽られ午前5時鎭火せり、炎燒時間3時間半にして120戸を燒失せり

(8.)明治9年12月30日午前2時頃呉服町6丁目、江川町通りより出火し西北風に煽られ炎燒時間6時間に及べり

(9.)明治8年11月24日夜12時頃、江川町、新谷町通りより出火し翌日午前5時頃鎭火し134戸を燒失せり

(10.)明治22年2月1日午前2時頃一番町より出火し西烈風に煽られ炎燒時間31時間に及び翌日午前9時漸く鎭火せり

一番町、屋形町、本通り2.3.4丁目上石町1.2丁目、梅屋町、人宿町1.2.3丁目、七間町2.3丁目の13ヶ町1100餘戸を燒失せり

(11.)明治25年1月9日午前1時30分頃西風强く七間町3丁目より出火し烈風に煽られて炎燒6時間の內市內目貫の場所七間町、銀冶町、呉服町6丁目、下石町1.2.3丁目、江川町、紺屋町、榮町、16ヶ町711戸を燒失、午前7時30分鎭火したり

(12.)明治25年12月12日西風烈しく午前9時頃寺町3丁目、妙音寺より出火し翌日午前4時頃鎭火したり

寺町4丁目藤右工門町、常度町、下屋町3丁目5ヶ町122戸10ヶ寺焼失せり

(13.)明治25年12月14日西風烈しく夜12時頃、人宿町1丁目より出火、炎焼時間15時間に及び翌日午後3時頃鎮火したり。人宿町1丁目、七軒町1丁目兩替町2.3.4.5.6丁目、呉服町3.4.5.6丁目、札辻町、追手町、下石町、14ヶ町413戸を焼失せり。

(14.)明治41年2月11日午前4時半頃本通り5丁目より出火し本通5丁目、寺町1丁目、西寺町、上大工町、59戸を焼失せり

(15.)大正2年3月7日午後2時40分頃新通5丁目、西側より出火し全焼45戸、半焼7戸に達せり

(16)大正4年3月23日西風夜12時頃、下石町1丁目より出火し翌日5時頃鎮火せり、下石町1.2丁目、江尻町、平屋町、兩替町4丁目、89戸を焼失せり

(17.)昭和4年2月10日夜西北風烈しき中に新富町1丁目から出火し同町及び2丁目にて48戸を焼き同12時頃鎮火した、然るに間もなく翌朝6時頃亦も其の焼失區域内2丁目某家の屋根から火焔を吹き始め遂に五番町迄延焼し32戸を焼き同6時消し止めたがかくて遂に合計80戸を全焼し損害約35萬圓に達した。

靜岡市火災一覧表　(第6表)

年月日	紀元	風向	燃焼時間	焼失戸數	焼失區域
慶長12. 2. 8.	2.267				駿府城ノ局ヨリ出火殿堂焼失
〃 15.12. 4.	2.270				駿府城上厨所炎上
〃 19.10.21.	2.274	西			人宿町兩替町、新谷町
寛永12.11.30.	2.295				茶町城内
天和 3. 2.24.	2.343	西北	9	637	茶町→呉服町、紺屋町等29ヶ町
元祿 5. 不詳	2.352				御器尾町、安倍町
〃 6.12.26.	2.353	西南			安西五丁目→茶町2丁目等11ヶ町
寶永 7.12.25.	2.370	西	8	250餘	安西5丁目→1丁目
正德 2. 1. 1.	2.372				新道1丁目→本町6丁目
享保16. 2. 8.	2.391	西			新谷町→傳馬町、横田町
寶歷 6. 2.14.	2.416			61	馬場町→宮崎町
〃 8. 9.12.	2.418			49	安西町→安西町3丁目
〃 9.10.25.	2.419			59	梅屋町→人宿町、寺町
〃 12.12. 9.	2.422	西		243	安西町2丁目→茶屋町八ヶ村
安永 2. 1.12.	2.433	西南			材木町→淺間慾社
天明 8.11. 5.	2.448				片羽町→淺間神社
寛政12.10.20.	2.460	西	16		安西5丁目ヨリ24ヶ町
文化 4.12.20.	2.467	西南	8	1.879(全戸數4.200の45%)	新通大正町→人宿町、寺町、呉服町縞物師町32ヶ町
天保 5.11. 7.	2.494	西	6		兩替町5丁目→縞物師町14ヶ町

安政 1.11. 4.	2.514	西後東		578（地震）全戸數4.417乃13%	江川町→吳服町、八幡町14ヶ町
慶應 2. 3.10.	2.526	北		803（1607～1.100）	吳服町2→人宿町、雨宮町、七間町江尻20ヶ町
明治 3.12.20.	2.530	西北	10	219	安西二丁目外6ヶ町
〃 9.11.20.	2.536	西	3.5	120	安西3丁目北側
〃 9.12.30.	2.536	西北	6	474	吳服6丁目、江川町通
〃 17. 1. 6.	2.544		4	280	間屋町
〃 18. 1.24.	2.545		5	134	江川町、新谷町、傳馬町
〃 22. 2. 1.	2.549	西	31	1.169	1番町外12ヶ町
〃 25. 2. 1.	2.552	西	6	711	7間町外18ヶ町
〃 25.12.12.	2.552	西	19	122 十ヶ寺	寺町外5ヶ町
〃 25.12.14.	2.552	西	15	413	人宿町外13ヶ町
〃 41. 2.11.	2.568			59	本通5丁目外3ヶ町
大正 2. 3. 7.	2.573			45 半燒7	新通5丁目
〃 4. 3.23.	2.575	西	5	89	下市町外4ヶ町
昭和 4. 2.10.	2.589	西北		48	新富町外1ヶ町

4. 消防施設

A. 組織と設備

1. 靜岡市警防團組織概要

團長	1
副團長	2
分團長	25
副分團長	25
部長	175
副部長	175
班長	118
警防員	2.192
計	2.713

2. ポンプ

自動車ポンプ —— 5臺

ガソリンポンプ —— 25臺

腕用 ポンプ～18臺

計 48臺

3. 縣下及隣縣都市警防團及ポンプ比較表

市別名	ポンプ台數 自動車	ガソリン	腕用	計	警防團 分團員	人員
靜岡市	5	25	18	48	25	2713
濱松市	15	1	6	22	15	2097
清水市	9		6	15	15	1105
沼津市	4	3		7	8	536
三島町	5	4	2	11	8	327
熱海市	3	3	2	8	10	59
豐橋市	2	15	98	115	24	3457
岡崎市	9	1	90	19	11	1758
小田原町	3			3	5	661
平塚市	3	1	1	5	5	1208
岐阜市	7	7	13	27	6	3031

B. 水利の狀況

（1）市水道の概況

市水道上水道、水源池の水量は配水地に於て4.500立方米を貯水し、平時1日の使用量は平均11.000立方米である。

（2）水道消火栓

水道消化栓は市内總數810個でその內、町共有30個個人私設30個計60個あり取付鐵管口徑は100mm以上あり中央部にて平時平均60ポンドの水壓をもつてゐます。消火栓配置及取付鐵管路線は今次大火の燒失區域內に133個、燒失區域外周凡そ200米（水管10個延長して使用可能の範圍）以內に65個の施設がある。

（3）防火井戶

市內要所に防火井戶を施設してある、その總數205個內公設154個、他に私設51個である水量豊富にて400瓦ガソリンポンプを平時平均、15分以上の使用に堪える。今次大火の燒失區域に59個燒失區域外周圍200米以內に12個の施設がある。

（4）用水及人孔の狀況

イ、安倍川を水源として第1號幹線は水道町に至り分岐して一方は淺間町方面に他の一方は馬塲町、警察署前を經て新谷町にて分岐し（1）は行幸通路に沿ひ驛裏南町稻川町を經て石田に通じ（2）は傳馬町中八幡町上八幡町を經て森下町から久能街道に沿ふて幹流してゐる。

ロ、第2號幹線は辰起町から市屠塲附近にて分岐し、（1）は柳町、安西5丁目を直線に田町7丁目に至り彌勤2.3丁目の境界を駒形小學校方面に通じ（2）は柳町より三組町を經て新宮町に至り更に分岐して（1）は三、四番町境界を大鋸町運車町新通3.4丁目から橘町に至り靑木町方面に通じてゐる。

ハ、水落町1丁目から流出した外濠の用水は北街道を鷹匠町3丁目にて東進靑羽町、元火力發電所裏を下横田町、東町に至り小黑方面に通じてゐる。

以上の各用水路の暗渠部には所々に人孔しマンホールを穿ち其の總數83個あつて今次燒失區域內に22個區域外周200米以內に36個の敷設がある。

5. 消防用水利一覽表

種別	總數	燒失區域內ノ所在數	燒失區域外周200米以內ノ所在數	備考
消火栓	810	133	65	
防火井戶	154	49	9	
用水及（人孔）	83	22	36	
私設防火井戶	51	10	3	
計	1.098	214	113	

井水並びに消火栓配置圖は發表できないのは遺憾であるが用水配置圖は第　　圖の通り

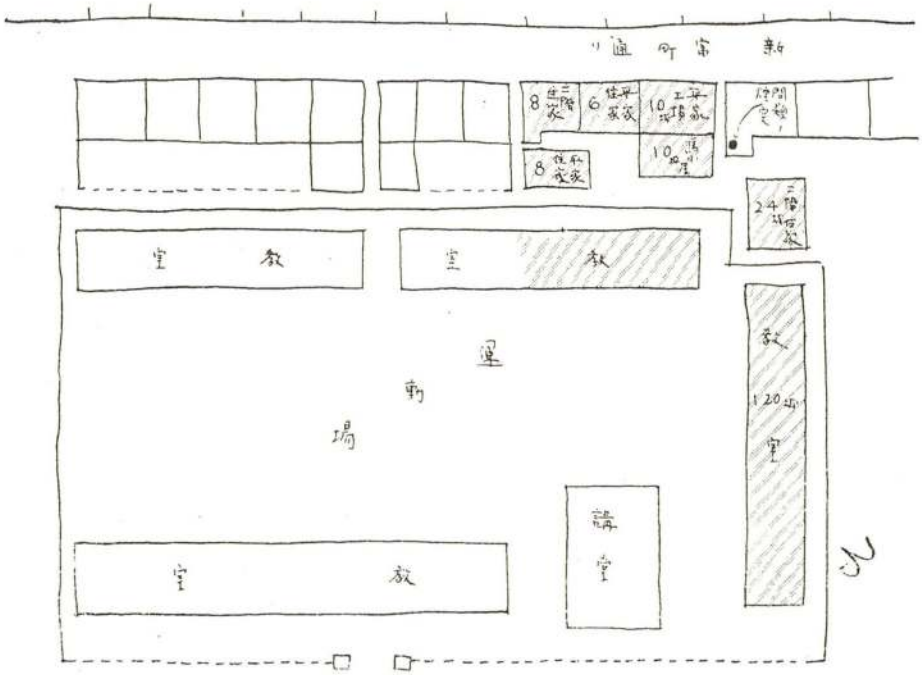
である。

5. 發火時の概況

A. 發　火

1. 火災發生の日時　昭和15年1月15日午後0時8分頃
2. 發生の場所　靜岡市新富町1丁目28番地
   荷馬車業　興津　榮　(當45年)
3. 發火の原因　靜岡市新富町1丁目29番地
   大工職　海野孝藏
   妻　同　さき　(當44年)

が1月15日午前11時30分頃晝食仕度のため鉋屑及切端數本を以て湯を沸したる際煙突の火の粉が隣家の興津榮所有の厩舎の屋根に飛散し發火した。



第7圖　火元附近圖

B. 當日の氣象

1. 濕　度

15日朝來濕度小にして午前6時と雖も43%に過ぎず陽の昇るにつれ益々乾燥し、10時既に30%を示し正午には實に23%となり稀なる乾燥を呈し經過すること20數分不幸突如として發火濕度は依然23%を繼續した。尙當地は昨年12月6日以來降雨なく晴天持續し極度に乾燥せしに依り燃燒し易き狀態にあつた。

2. 風向風速

朝來風弱かりしも午前11時過ぎより西風次第に強まり、正午には西の風9.2米秒に達し間もなく發火したのである。

3. 氣　溫

朝時の最低氣溫は氷點下1度4であつたが次第に上昇し、正午前後には8度を超へ午後1時12分には最高氣溫9度9となり爾下下降し午後10時4度1を示したが10時50分に至り風向急轉して西風は東に變り氣溫急降し1度3に降り夜半から氷點下となつた。

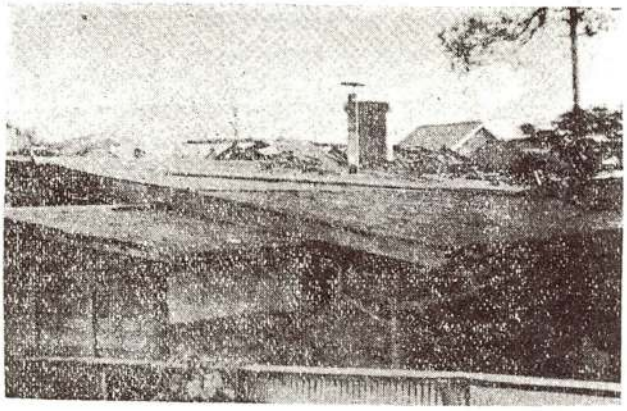
4. 天　氣

高氣壓は蒙古東部で776粍を示し低氣壓は千島の東方にあり又750粍の副低氣壓が北海道の西方にあつた。

天氣は表日本は晴で裏日本は曇りで所々小雪となつて居ります、朝鮮は晴ですが南西諸島は曇つたり晴れたりであつた。

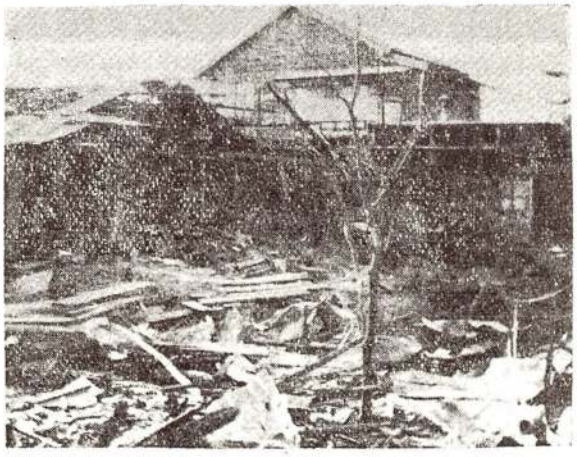


第8圖　昭和15年1月15日天氣圖



(9)
發火の原因となつた新富町1丁目廿九番地海野孝藏方の煙突

(10)
3番町小學校側から火元の馬小屋の燒跡を視る。馬1頭燒死す

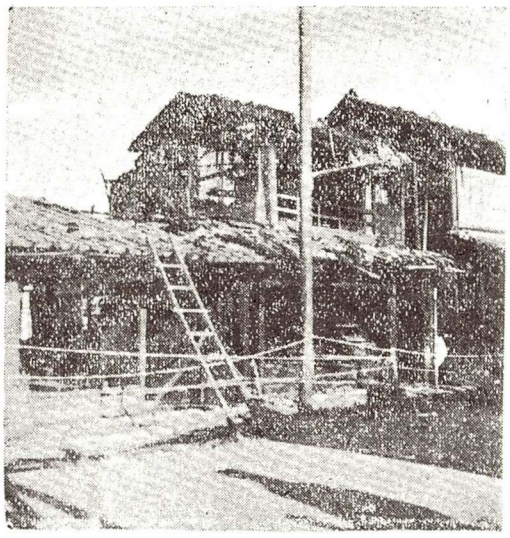




(11)
新富町1丁目28番地の荷馬車業興津榮方の店の間であつて蹄鐵鍛冶も營んで居たこの店の間の裏に馬小屋があつた。

（12）

梯子のかゝつてゐるのが荷馬車屋の東隣りに在る平家建6坪の商家であつて火はその隣りの2階建の住家を燒いて止つてゐる。

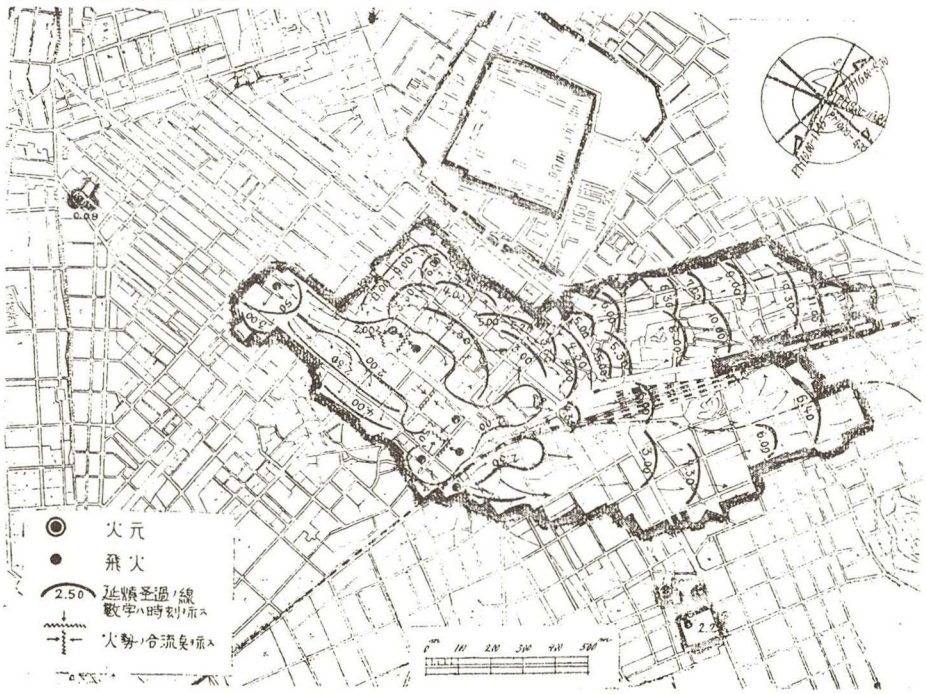


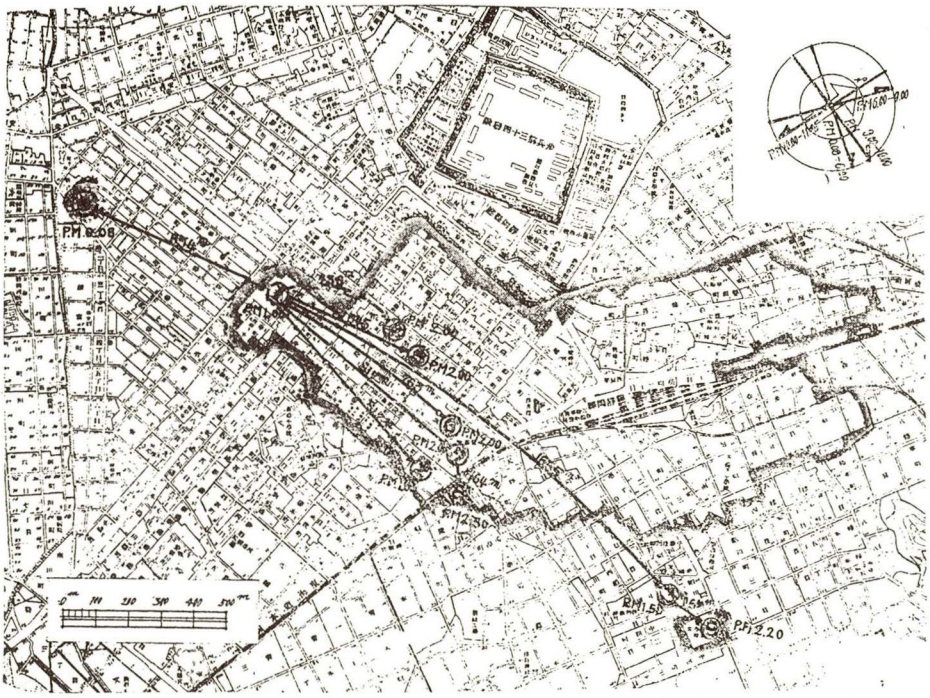
6. 延燒狀況

A. 火元附近の狀況

發火したる火勢は當時北西約10米の强風に煽られ瞬時にして塀一つ南側の三番町小學校々舍に延燒したのであるが市警防團の必死の防禦活動により附近住宅1棟2戸厩舍1棟及小學校木造2階建教室、職員室等1棟半及小使室其他附屬小建物を燒失したる程度にて午後1時30分頃延燒を防止し得たのである。

第13圖　延燒經過圖





第15圖　飛火狀況圖

B. 大火の形態に至りたる狀況

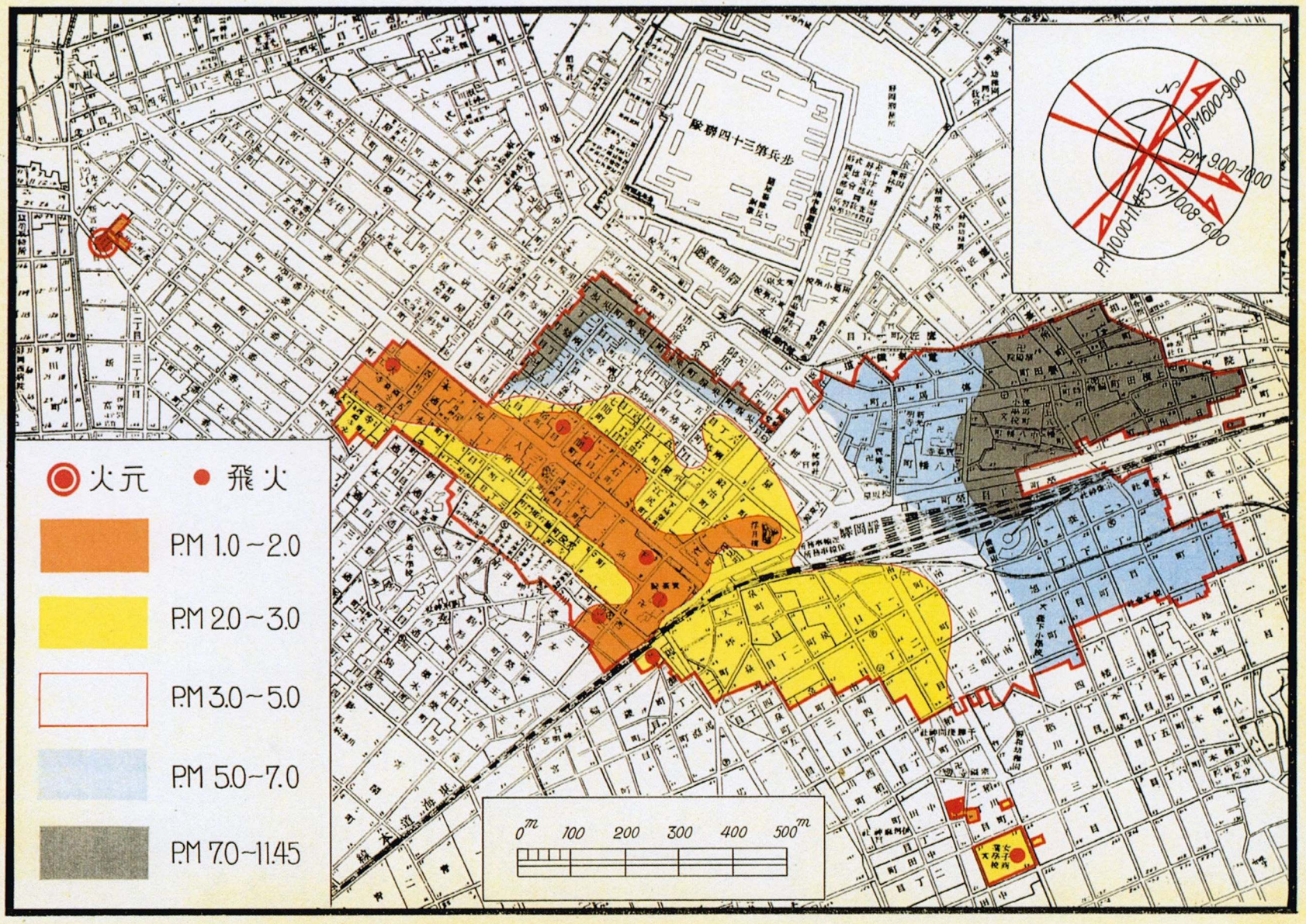
三番町小學校に延燒した猛烈な火勢は風下に當る市內中樞部一帶に亘つて盛んに火の粉を飛散させてゐたが午後1時0分風下約654米を隔てた上大工町11番地及同町12番地附近に飛火したものは忽ち家屋に延燒したのでつたが當時消防ポンプの主隊は火元附近の三番町小學校方面に活動中であつたので急速に來援する事が出來ず且つ愈々吹き募る西の强風に煽られ遂に附近一帶に擴大したのであつた。而して此の附近の猛火は實に本大火發生の最大基地となるに至つた。即ち1時50分頃には約817米隔てたる西門町3番地附近及約1.635米隔てた稻川町2丁目50番地附近に又午後2時0分頃には約436米隔てた七間町2丁目24番地附近約545米隔てた下石町2丁目附近、約763米隔てた下魚町46番地附近及約817米隔てた下魚町寶臺院に飛火した。次いで午後2時30分頃には寶臺院の猛火が約164米隔てた馬淵町1丁目2番地附近及稻川町2丁目の猛火は約164米隔てた同町女子商業學校に何れも風下に夫々飛火したのであつた。

斯の如く殆んど同時刻に點々飛火せる各火勢は近來稀なる晴天持續の爲め總ての物は乾燥し切り即燃狀態に在り加ふるに木造粗雜な建物の多い本市であり且つ地勢的現象たる安部川を挾む兩側の山脈間を通風する西位の强風に煽られ附近一面に擴大し遂に今次の大火災を爲すの態形に至つたのである。

C. 延燒の狀況

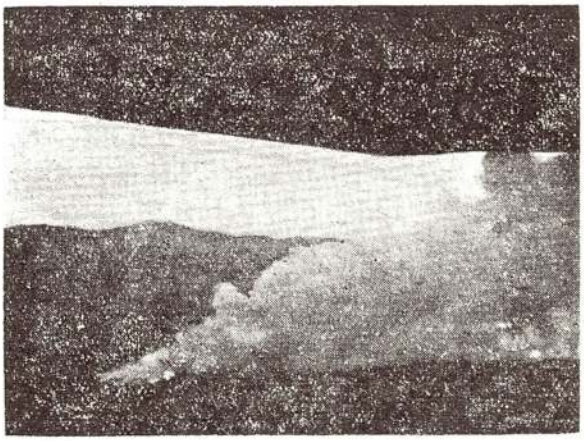
上記の如き飛火に依り發生したる火災の延燒狀況を夫々位置別に記すると次の如くであ

第14圖　延燒等時刻圖


火元
飛火
P.M 1.0～2.0
P.M 2.0～3.0
P.M 3.0～5.0
P.M 5.0～7.0
P.M 7.0～11.45
0m 100 200 300 400 500m
P.M1600-900
P.M 900-1000
P.M1008-600
P.M10.00-11.45
歩兵第四十三聯隊

る。（圖面第13. 14.（別紙色刷）15圖參照）

1. 午後1時0分頃上大工町11番地附近の飛火々勢は忽ちにして附近一帶に延燒擴大し1時10分頃には風上なる同町59番地附近に風下に於ては1時30分頃同町福泉寺及同町52番地一帶に又午後2時0分頃には本通4丁目27番地12間道路側の一角に延燒しロータリーを南方に通ずる12間道路に據る警防團必死の防禦線を突破し梅屋町、人宿町、七間町3丁目、別雷神社附近一帶より下石町3丁目1番地附近に及ぶ急速なる延燒を爲し午後2時30分頃既に本通5丁目、人宿町3丁目、藤右衛門町、常慶町全體に延燒し下魚町46番地に飛火せる火勢と合流するに至つた。



上大工町より梅屋町、人宿町、七間町3丁目、下石町、藤右衛門町、常慶町へと急速に擴大せる狀況
左端の盛んに炎燒をしてゐるのが上大工町である。

2. 午後2時頃下魚町46番地附近に飛火せる火勢は忽ちにして同町寶塚劇場を含む一帶及同町33番地附近一帶に延燒し猛烈なる火勢は此の頃上大工町方面より延燒し來れる火勢と合流し、一方午後2時30分頃下魚町44番地附近一帶に延燒せる火勢は西門町3番地に飛火せる火勢と合流するに至つた。

3. 午後1時50分頃西門町3番地附近に飛火せる火勢は同町一角を延燒し下魚町46番地及同町寶臺院に飛火せる火勢と合流して火勢益々猛烈を極め馬淵町1丁目に飛火するに至つた。

4. 午後2時頃寶臺院の飛火々勢は下魚町の飛火々勢と合流し午後2時30分頃鐵道線路を越え天坪町附近に延燒更に馬淵町1丁目に飛火せる火勢と合流し北東に進み午後2時30分頃鳥見町及泉町を突破南町1丁目に至り午後6時頃森下小學校を燒失せしめ午後6時40分頃森下町2丁目稻森味噌工場附近に延燒するに至つた。

5. 午後2時0分頃七間町2丁目24番地附近に飛火せる火勢は上大工町方面よりの火勢と人宿町2丁目附近にて合流し附近一帶に延燒、一方午後3時30分頃には七間町1丁目、兩替町3丁目26番地附近に延燒し同町キネマ館附近に於て下石町2丁目の飛火々勢と合流せり、更に一方12間道路に沿ひ風下に延燒したる火勢は下石町2丁目飛火々勢と合流益々猛烈を極めた。

6. 午後2時頃下石町2丁目に飛火せる火勢は12間道路に沿ひ七間町飛火々勢と合流し猛烈なる勢を以て2時30分頃歌舞伎座附近一帶に延燒、一方12間道路沿ひに延燒せる火勢は下魚町附近の火勢と合流午後2時頃江尻町、寶町、銀治町を急速に紺屋町浮月樓に迄延燒

せり。一方歌舞伎座附近一帶の火勢は更に兩替町56丁目に延燒紺屋町方面に擴大した。

一方は靜岡電話局裏手より紺屋町小梳神社を境に更に二手となり一手は旅館街を靜岡驛に向ひ一手は紺屋町64番地附近三好野旅館に向ひ午後4時30分頃行幸道路西側一帶に延燒した。

7. 午後4時30分頃紺屋町行幸道路西側一帶に延燒せる猛火勢は午後5時頃遂に道路東側の松坂屋百貨店及其の近隣に一手は紺屋町92番地附近に延燒傳馬町通りを境に相前後して靜清國道と電氣鐵道との間を幾變轉して猛烈に延燒午後11時頃に至り上横田町30番地及日之出町77番地附近に延燒せる頃鎭火の見込が立つに至つた。

8. 午後11時30分頃院內町38番地附近に延燒するに至つた火勢は附近用水路に集結せる警防團必死の防禦作業と此の頃より風向の有利なる轉換とは人家の密度次第に疎になつた事と相待ち午後11時45分頃鎭滅するに至つた。

9. 午後1時50分頃稻川町2丁目50番地附近に飛火せる火勢は一時猛烈に延燒擴大せんとしたるも附近警防隊の必死の活動に依り延燒を防止したるも强風に煽られたる火焰は午後2時20分頃風下約164米を隔てたる女子商業學校々舍に飛火し遂に同校を全燒せしめた。

10. 午後2時頃七軒町附近の火勢は同町及兩替町3丁目裏通りに擴大し遂に呉服町2丁目田中屋百貨店に延燒した。

11. 午後2時30分頃下石町歌舞伎座附近に擴大せる火勢は七間町花月劇場方面に延燒、兩替町キネマ館及靜岡映畫劇場に延燒し更に呉服町通りに擴大し市役所公會堂は危險に瀕した。

12. 午後3時頃呉服町6丁目方面の火勢は呉服町通り北側一帶及呉服町5丁目方面に延燒擴大し元御用邸は危險となつた。

13, 午後6時頃呉服町3丁目田中屋百貨店に延燒せる火勢は呉服町通り北側一帶に擴大し日赤病院、憲兵分隊、警察署等は危險となつた。

14, 前項11, 12, 13の火勢は愈々猛烈を極めたるも同附近は靜岡市行政機關の樞要部たるを以て極力警防團を集結、必死の防禦活動に依り危く延燒を防止し得たのである。即ち發火より鎭火に至るまで約11時間30分に及び燒失面積は約1322, 320m² (約40萬坪)となり罹災町數は86ヶ町の多きに達した。

次に燒失區域の延燒經路並に飛火狀況を描くと第13圖、第14圖(別紙色刷圖)、第15圖の如くである。

尙15日より16日迄の氣象要素は下表の如くである。

15日～16日　靜岡市に於ける氣象觀測表

	氣溫 c	濕度 %	氣壓 m	風向	風速 m/sec	天氣	降水量
15日 A.M10h	7.6	30	754.8	W	0.7	快晴	丨
A.M11h	8.5	27	754.3	W	2.5	快晴	丨
A.M12h	8.2	23	753.4	W	9.2	快晴	丨
P.M 1h	8.2	23	753.1	W	6.0	快晴	丨
P.M 2h	7.5	25	753.9	W	7.0	快晴	丨
P.M 3h	6.1	25	754.0	W	6.7	快晴	丨
P.M 4h	5.4	28	754.7	W	5.0	快晴	丨
P.M 5h	5.1	28	755.3	W	4.7	快晴	丨
P.M 6h	4.5	29	755.8	W	2.7	快晴	丨
P.M 7h	4.3	29	756.3	W	4.0	快晴	丨
P.M 8h	3.9	31	756.7	W	4.3	快晴	丨
P.M 9h	4.4	28	757.1	W	3.7	快晴	丨
P.M10h	4.1	30	757.2	W	2.7	快晴	丨
P.M11h	1.3	29	757.4	E	1.7	快晴	丨
P.M12h	−0.1	40	757.6	E	1.5	快晴	丨
16日 A.M 1h	−0.6	49	758.1	丨	0.5	快晴	丨
A.M 2h	−2.2	58	758.8	丨	0	快晴	丨
A.M 3h	−2.8	64	759.0	丨	0	快晴	丨
A.M 4h	−3.3	66	759.5	丨	0	快晴	丨
A.M 5h	−3.0	62	759.7	丨	0.2	快晴	丨
A.M 6h	−2.9	50	760.5	丨	0.3	快晴	丨

最强風速及其方向　9.6m/sec　E　(15日 P.M1.30)

最小濕度　22%　(15日 P.M1.24)

【参考】 附 近 測 候 所 氣 象 觀 測 表

15日～16日　御前崎測候所氣象觀測表

		氣　溫 c	濕　度 %	風　向	風　速 m/sec
15日	A.M11h	4.8	47	W	12.1
	A.M12h	5.8	45	WNW	13.0
	P.M 1h	6.0	41	WNW	14.1
	P.M 2h	6.3	39	W	13.1
	P.M 3h	5.9	40	WNW	12.5
	P.M 4h	4.8	44	WNW	9.8
	P.M 5h	3.0	54	WNW	9.8
	P.M 6h	2.2	65	W	7.41
	P.M 7h	2.5	57	W	11.0
	P.M 8h	1.9	57	WNW	10.3
	P.M 9h	1.0	61	W	10.7
	P.M10h	1.8	63	W	7.8
	P.M11h	1.7	54	WNW	11.4
	P.M12h	1.3	49	WNW	8.6
16日	A.M 1h	1.1	48	WNW	8.9
	A.M 2h	1.2	49	WNW	8.9
	A.M 3h	1.8	46	W	11.7
	A.M 4h	1.9	44	W	9.3

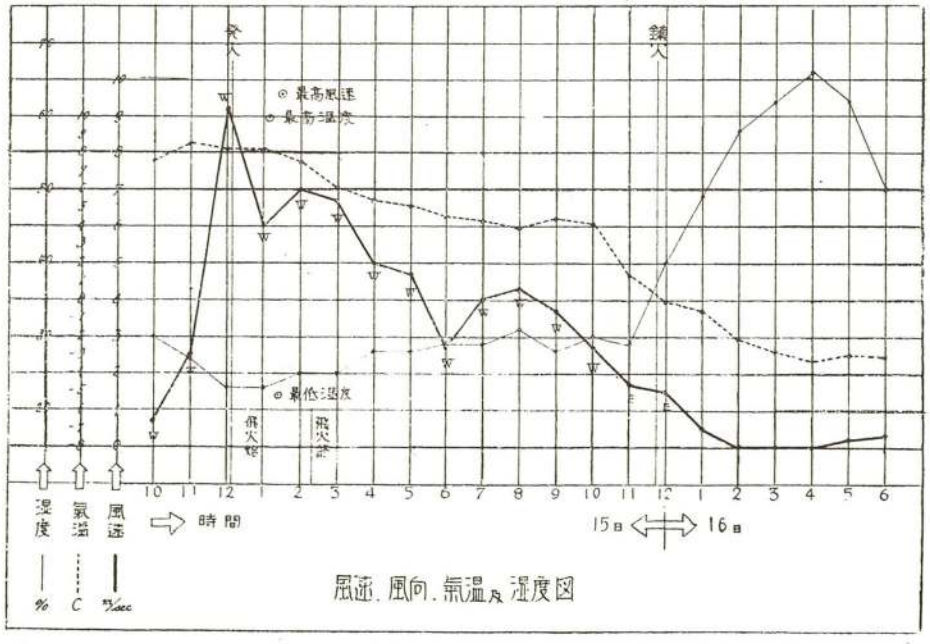
15日～16日　濱松測候所氣象觀測表

		氣　溫 c	濕　度 %	風　向	風　速 m/sec
15日	A.M11h		41	NW	7.0
	A.M12h		42	NW	7.0
	P.M 1h		45	NW	9.0
	P.M 2h		56	NW	3.8
	P.M 3h		58	NW	7.6
	P.M 4h		68	NW	5.6
	P.M 5h		56	NW	4.9
	P.M 6h		66	NNW	5.3
	P.M 7h		68	NNW	4.4
	P.M 8h		70	NNW	6.8
	P.M 9h		70	NW	4.6
	P.M10h		69	NW後W	{4.6 {5.4
	P.M11h		67	WN	4.5
	P.M12h		60	W	5.2
16日	A.M 1h		59	WS	5.0
	A.M 2h		56	WS	4.5
	A.M 3h		55	WS	4.1

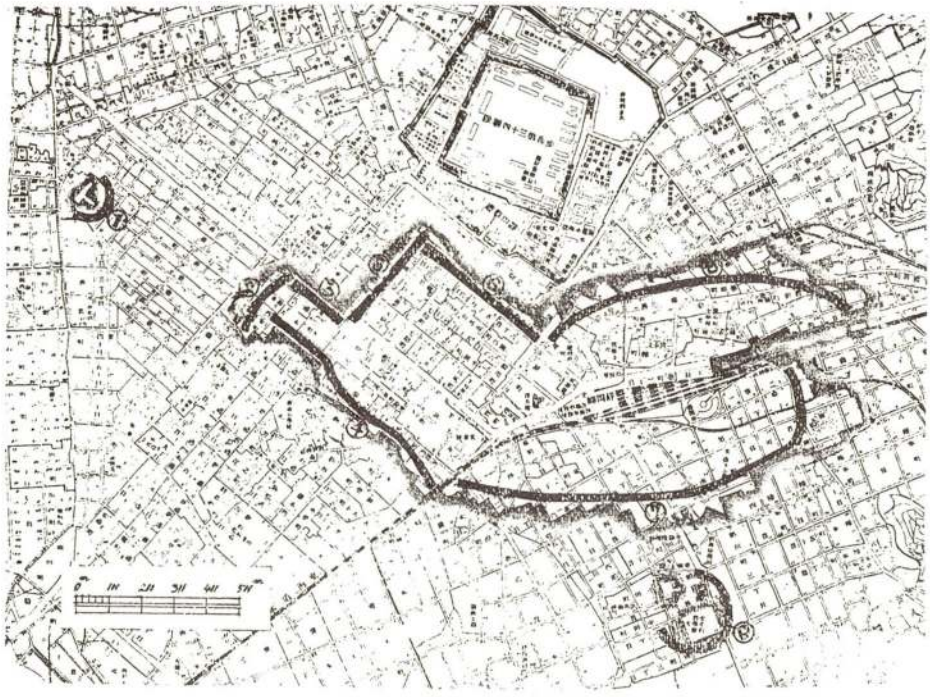
靜岡市警防團常設消防部氣象觀測表

町名	目標	測定時刻	風位	風速
新富町1丁目		P.M 0.43	W	16m/sec
上大工町		P.M 1.00	W	18m/sec
上石町2丁目		P.M 1.05	W	18m/sec
下石町1丁目	歌舞伎座附近	P.M 1.10	W	18m/sec
七間町		P.M 1.17	W	20m/sec
紺屋町	浮月樓附近	P.M 1.20	W	20m/sec
西門町		P.M 1.20	W	20m/sec
稻川町	女子商業學校附近	P.M 2.20	W	22m/sec
泉町2丁目		P.M 2.22	W	22m/sec
下魚町	賓台院附近	P.M 2.30	W	22m/sec

第16圖



風速、風向、氣温及湿度図



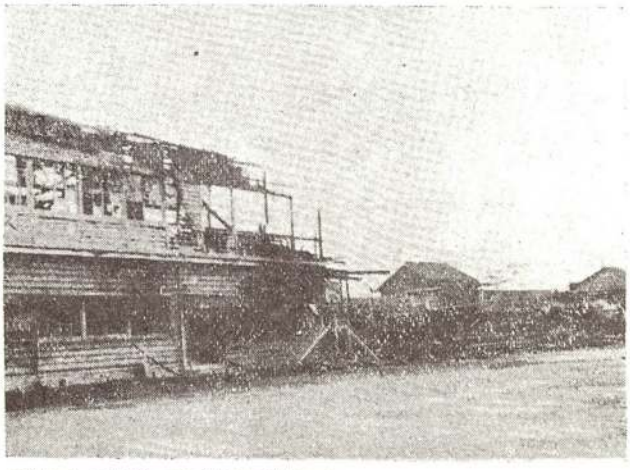
第17圖　燒失區域周圍部の燒止り說明圖

7. 燒失區域周圍部の燒止り狀況

燒失區域周圍部の燒止りとなりたる原因は風力、風向、不燃性建築物の配列、空地、樹木、水利關係及警防團の防禦作業等が其の主なるものであつたが其等狀況に就き場所別に記すると次の如くである。

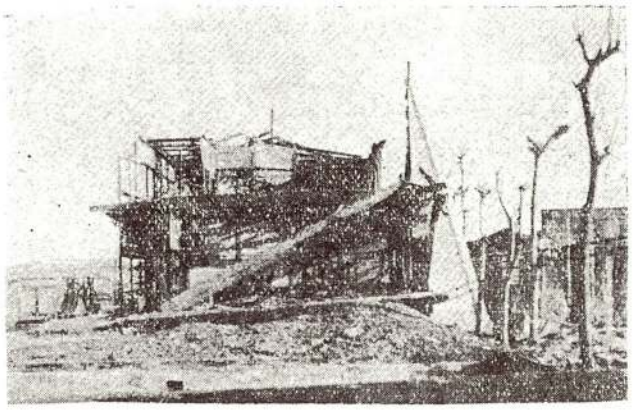
A. 三番町小學校附近

猛烈なる强風中にあつて然も（第17圖①）發火後消防機關の來援し注水に至る迄相當の時間を經過せるにも關らず此の程度にて延燒を防止し得たのは全く警防團の必死の活動に據るものである。



（18）火元北隣の三番町小學校々舍
南棟の半分は警防團必死の防火活動に依り延燒を免れた。

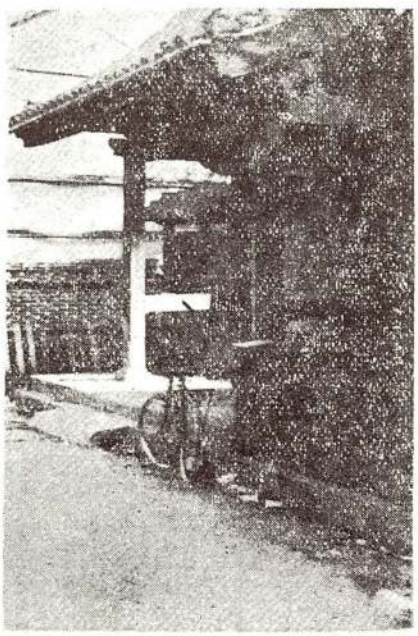
風向に不利なる同校々舍の1棟を半燒程度にて喰止め得たのは其の活動を充分に物語るものである。又此處は本件火災の勞頭であり全市の精鋭なる消防機關を集結する事が出來且水利關係も比較的良好であつた事



（19）
寫眞18の校舍を西方より見たるもの、右側並木の隣りが火元である校舍の控柱はスレート張りであつて燒殘つて居つた。

（20）
火元北隣の三番町小學校
西棟校舍1棟全燒の跡
此の校舍より塀1つ隔てた西側住家は風上であつた爲延燒を免がれてゐる、尙中央2本の樹木（ユーカリ）は火の粉の飛散防止に役立つたと云はれてゐる。





（21）寺町1丁目南側の燒止り狀況、
此の線は寫眞に見える寺院門の向ふに見える如き土藏造りの建物連續せるのと風向に平行して居つた爲燒止りとなつた。

は其の効果をより大にしたものと考えられる。

B. 上大工町、大鋸町の南北線（第17圖の②線）

主として強風の風上であつた事に依るものである。

C. 本通3丁目、4丁目の東西線（第17圖の③線）

完成された幅員12間の都市計畫道路に面した此の線は風向に略平行し有利であつた事と警防團の第1防禦線として道路幅員を利用し必死の延燒防遏が効を奏した事とに據る。

D. 西寺町、寺町、西門町の東西線（第17圖④の線）

此の線の西方、燒失區域内に突出して燒殘れる寺町1丁目より2丁目に亘る部分は土藏造の

（22）本通6丁目附近の燒止りの角の建物である外壁モルタル塗タイル張り仕上げである





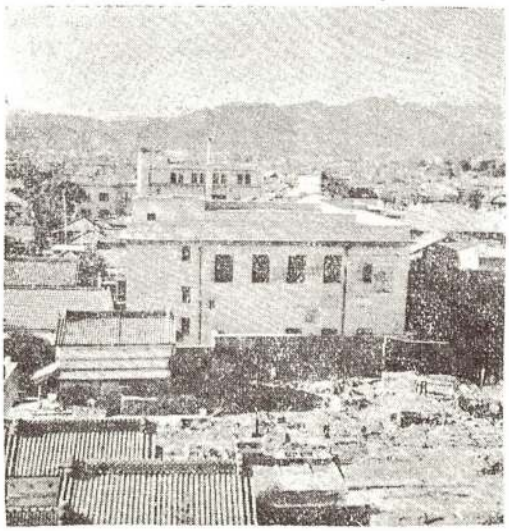
（23）西寺町の西福寺の燒跡より東南を眺む

建物の連續であり又東方の寺町3丁目より西門町に至る一帶は寺院の連續地帶で道路側に堂宇が在り裏側は墓地となつて空地となり樹木も亦比較的多かつた。

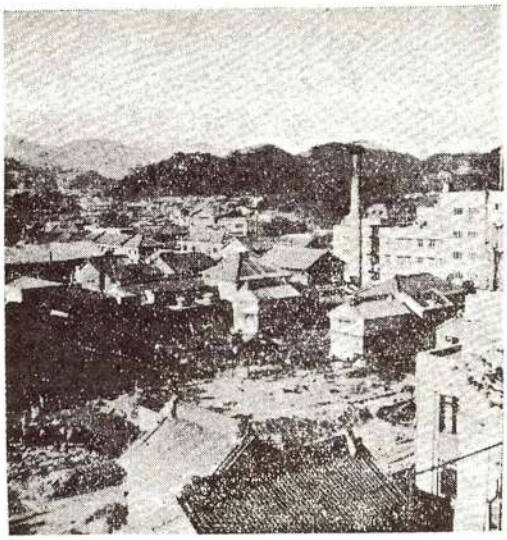
以上の狀況に風の方向略此の線と一致した爲消防の著しき活動無きに關らず此の線を以て防止されてゐた。

E. 吳服町2丁目、兩替町2丁目、上石町の南北線（第17圖の⑤線）

此の附近は午後8時～9時頃に至つて風向の變換に依つて延燒し來つたのであるが不連續的配列ながら土藏、鐵筋コンクリート造等の不燃性建物が比較的多かつた事は風力の弱かつた事と共に此線より以西への延燒を防止してゐた。



（24）吳服町3丁目田中屋百貨店屋上より吳服町2丁目西方の燒止りを眺む、
土藏多く又鐵筋コンクリート造建物も點在してゐる。

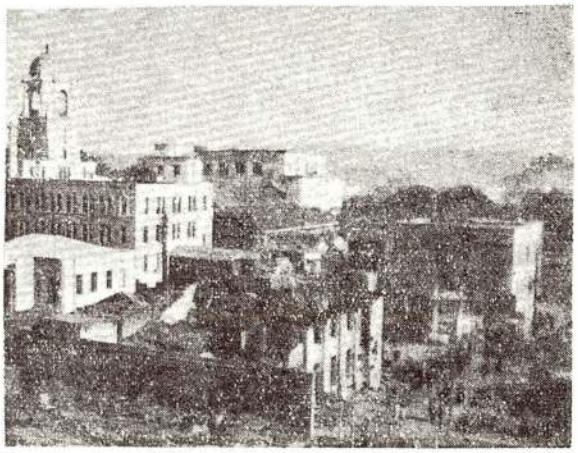


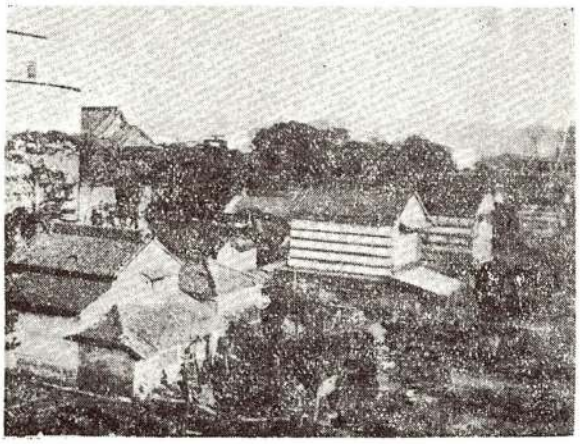
(25)

呉服町3丁目田中屋百貨店屋上より西北(第17圖の⑤と⑥の角)隅を眺む、
右端の白亜の建物は日赤病院

(26)

呉服町3丁目田中屋百貨店屋上より東方を眺む。
左端塔のある建物は市役所、其の向ふは公會堂、中央2階建は靜岡銀行である。





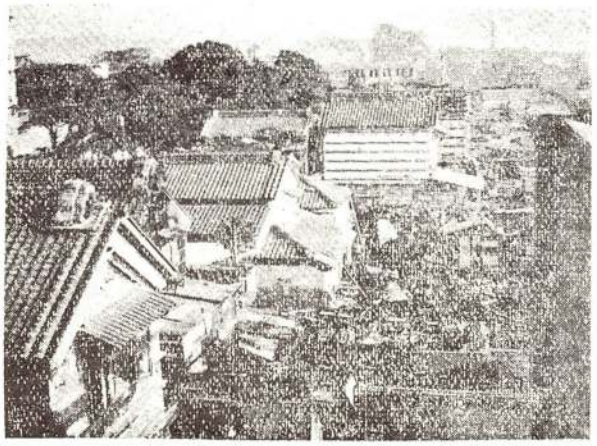
(27)

呉服町4丁目靜岡銀行屋上より同町4丁目、5丁目、6丁目の燒止り線を眺む森は元御用邸。土藏線と樹木は完全に防火の役目を果してゐる。

F. 呉服町通りの東西線（第17圖の⑥線）

此の線は元御用邸、公會堂、市役所、警察署、憲兵分隊、日赤病院等ありて市の中樞地帶を背後にせる爲警防團の主力を集結して長時間に亘り必死の防禦に當つた地帶である。

樹木を交へた土藏其他不燃性建物の連續と風力及消防用水利が稍有利であつた事は前記樞要部への延燒阻止に多大の役割を果してゐた。



（28）同上

G. 泉町、南町、森下町の東西凵形線（第17圖の⑦線）

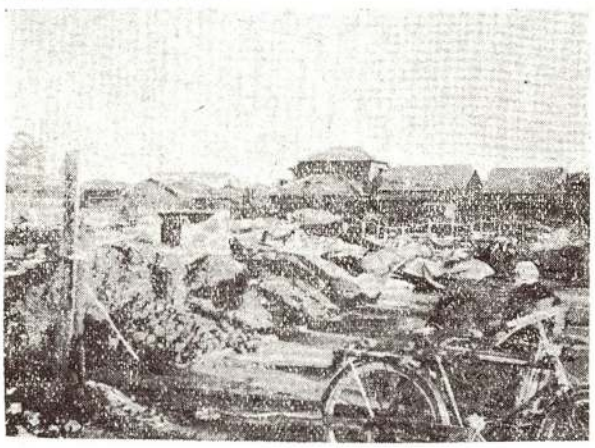


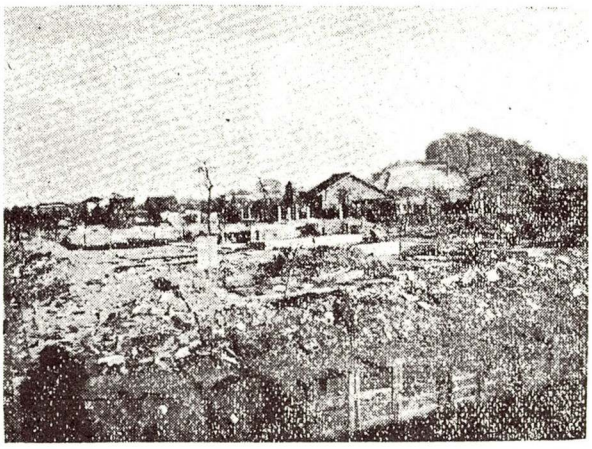
（29）

官台院の東端を走る省線跨線橋上より天澤町、泉町の東方を眺む。

（30）

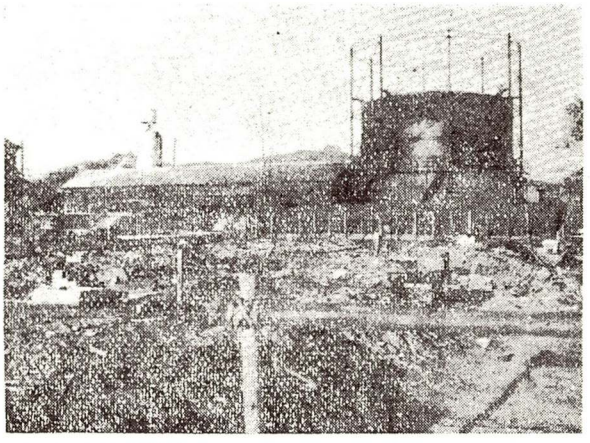
泉町2丁目角より東南方を眺む。





(31)
南町3丁目の一角より東方燒止り線を眺む。
後方の山は八幡山、此の附近は家屋疎開した中流以下の住宅地であつた

(32)
森下町2丁目の瓦斯會社のタンク
人家の密度の粗と風向の有利轉換に依り危く延燒を免れた。





(33)
傳馬町小學校屋上より北方を眺む。
燒止り線は靜岡電鐵線路である。

驛南方地帶は工業地域であつて外周に向ひ次第に建物の密度疎開となつて居つた事と此の線が風向と一致し且風速3m/sec內外と衰えて來た事とは水利極惡にして且警防團の積極的活動無きにも關らず燒止りとなつた主なる原因である。森下町3丁目の南北線は風向の變換により之又有利であつた。

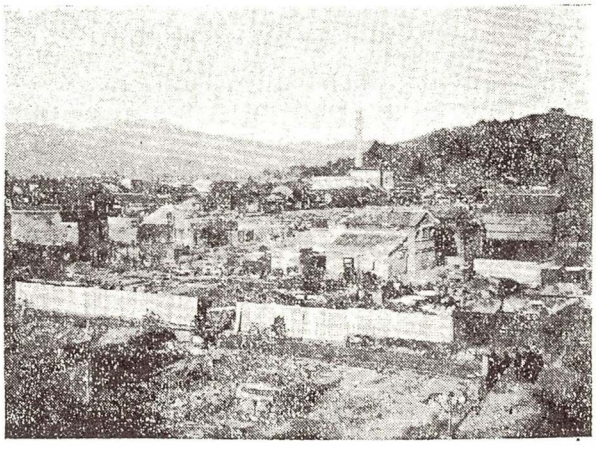
H. 鷹匠町、相生町、院内町の東西ㄱ形線（第17圖の⑧線）

鷹匠町1丁目線は靜岡電鐵線路を界として警防團の防禦第5線として最後の防遏に全力を盡した所で風の方向又稍有利であつた。

東方院内町に至り空地次第に多くなり且午後11時以後は北東の逆風となるに及んで鎭火した。

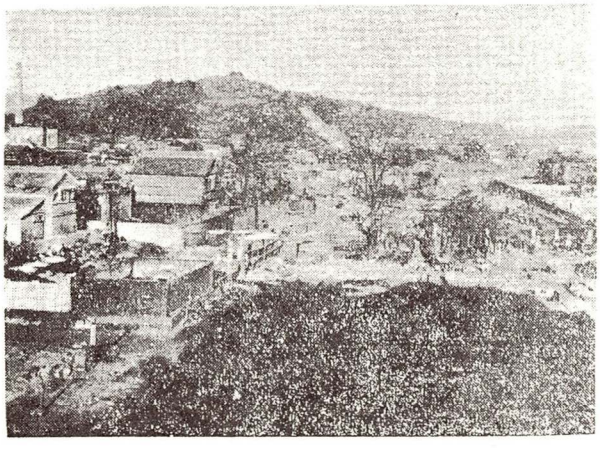
I. 女子商業學校附近（第17圖の⑨線）

女子商業學校より風下附近一帶には人家殆んど無かつた爲である。



（34）

傳馬町小學校3階より東北譽田町より相生町の燒止り線を遠望す。煙突のあるのは火力發電所、人家疎開と逆風の有利に依つて鎭火した。



（35）

傳馬町小學校より東方を望んだもので（34）の東隣となる。

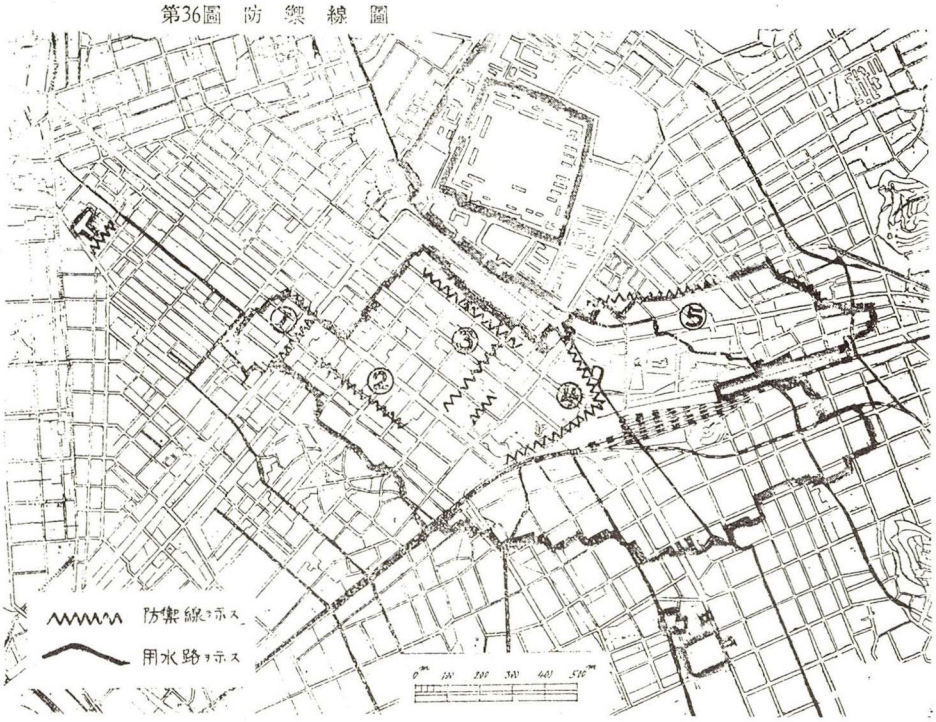
8. 警察署、警防團及軍隊の活動狀況

A. 警察署、警防團の活動狀況

1. 火元、及三番町小學校附近

午後0時8分頃出火したのであるが北番町常設消防派出所望樓に於て發見せるは午後0時40分頃であつた。同派出所に於ては直に之を市内4ヶ所の常設消防部に通報其の出動を求めて自らも出動した。

第36圖 防 禦 線 圖



斯くして消防部の自動車ポンプ5臺は近接警防團第3、第4、第5、の各分團のガソリンポンプ3臺と共に出場したのであるが注水を開始したのは出火後相當の時間を經過したるものと思われる。

此等の警防團が現場に到着した時は既に火勢は南隣の三番町小學校へ延燒し火焰は猛烈を極めて居つた。

斯く疾風中、而も發火後注水に至る迄の時間が相當遲延せるにも關らず午後1後30分頃校舍1棟半と附屬小建物及附近住家1棟2戸、厩舍1棟を燒失せるのみにて一應鎭滅する事が出來たのは前記警防團の相協力せる必死の防禦活動に依るものであつた。

2. 第 1 防 禦 線

午後1時0分頃火元より654m隔てたる上大工町11番地附近に飛火し忽ち附近一帶に延燒擴大するに至つた。然るに當時市の精鋭ポンプは火元附近、三番町小學校に在りて急速に來援する事が出來得ず、附近住民の必死の防火活動も思わしからずして火勢は益々增大した。間も無く附近警防分團の3臺のガソリンポンプが出動し本通4丁目を角とする12間道路をL形に第1防禦線として必死の防退に努力したのであるが午後2時頃風下なる南北線は忽ち火勢に突破されてしまつた。

午後1時10分縣警防課に於ては廳舍屋上より火勢狀況を判斷して淸水、藤枝警察署に對して自動車ポンプの應援出動を命じた。

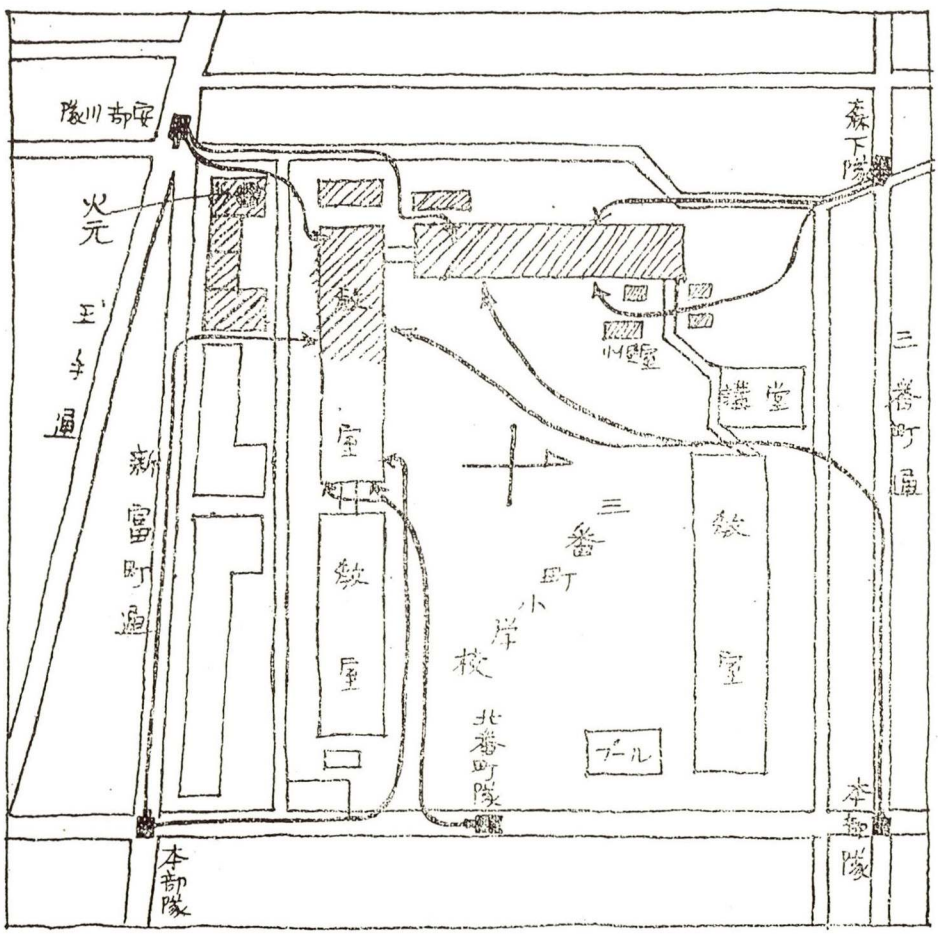
3. 第 2 防 禦 線

依つて風下へ後退して梅屋町、人宿町、七間町附近の東西に通ずる12間道路を第2防禦線として防火に努めたのであるが火足早く火勢又猛烈にして加うるに盛なる飛火は近接せる下石町2丁目、七間町2丁目24番地附近と相次いで火災を發生せしめた爲め後退を餘儀無くされた。

4. 第3防禦線

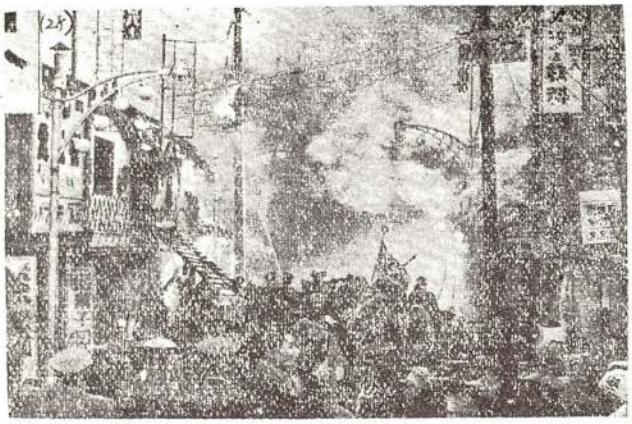
呉服町5丁目を角とする呉服町通りの東西、兩替町より江尻町に至る南北の冂形を以て第3防禦線を敷いて延燒を喰止め様としたが各所の飛火に依り發火増大せる火勢は夫々合流して其勢力は愈々強大となり風下へ風下へと延燒し來り警防團の死力を盡しての防遏も力及ばず午後3時頃風下なる南北線は遂に猛火の蹂躙し去る所となつた。

呉服町線への火勢は市の繁華街（木造高層建築群）、歌舞伎座、靜岡映畫劇場等各劇場街、及田中屋百貨店等總攻めとなし午後5時より9時頃には元御用邸、市役所、公會堂、日赤病院、憲兵分隊、警察署等市行政機關の中樞部たる地帶を背後にせる此の防禦線も一時は情勢極めて險惡となるに至つた。依つて極力警防隊を集結し必死の防火活動を長時間に亘



第37圖　火元並に三番町小學校附近防禦狀況圖

り續けた。其の結果此等重要建築物は延燒を免れ午後11時30分頃鎭火を見るに至つた。



(38) 吳服町警察官の活動狀況

尙上記の連續と樹木の多かつた事は此の線よりの延燒防止に多大なる効果を納めたのであつた。

5. 第4防禦線

第3防禦線の鍛冶町線突破されるや後退、更に後退して東海道國道と行幸通りの冂形を第4防禦線として防火に奮闘したのであるが火勢強烈の爲と水利又極めて乏しく東海道國道線は午後4時30分頃行幸通りは午後5時頃何ん無く相次いで突破され火勢は風下へ益々擴大延燒して行つた。

斯の如く火勢愈々猛烈に延燒範圍益々擴大せんとするの兆あるや御殿場大仁以西濱松以東の各署に命じて警察官及警防團の應援出動を命じたのであつた。

6. 第5防禦線

行幸通りの第4防禦線を突破せる火勢は午後6時より7時頃鷹匠町1丁目に迫つた。依つて同町界を東西に走る靜岡電鐵線路に第5防禦線を敷き最後の防火に全力を注いだ。

此の頃風向の有利なる轉換は附近用水の利用と警防團の努力と相俟つて鷹匠町への延燒を阻止する事が出來た。

7. 靜岡驛以東

第4防禦線突破後は延燒區域擴大の爲め警防團の配置は全區域に亘るには少數に過ぎ完全なる防禦配置は到底爲し得なかつた狀態である。驛南方の泉町、南町、森下町及東端の院內町等は水利に乏しく且上記の防禦狀態なれば唯火勢の赴く儘に任せるの已む無き狀況であつた。人家の密度疎に成つてゐた事と風向の有利なる轉換に依り幸うじて防止し得たのであつた。以上防火隊の活動狀態を見るにポンプ機關の個々に於ける轉戰防禦に於ては特筆すべき事は無いが三番町小學校附近及第3防禦線（吳服町線）に於ける集中放水による防火は偉功を奏したもの丶様であつた。

8. 縣下警防團其他の應援

今回火災當時應援として警防團員1.000人、警察官280人、自動車ポンプ45臺の出動を見た

9. 火災當時の水利狀況

靜岡市上水道の1月15日火災當日の使用量は實に28.000立法米に達し火災發生當初に於ける壓力は50ポンド有りたるも火災發生後2時間位にして支線水管は壓力頓に低下し午後

4時頃に至りては幹線水管の外は殆んど壓力無く使用不可能の狀態であつた。

井戸は燒失區域內に49ヶ所あり、常時は地下水湧出し相當長時間の使用に堪ゆるものなるも當日は連日の乾天に依る水量減少の爲め10分乃至30分位にして長時間に渉りたる今次の大火に際しては水源枯渇し使用に堪えざる狀態となつた。

下水路は第36圖記入の通りにして燒失區域內に於ける水路は鐵道線路以北に於ては甚だ少く僅に馬場町より元御用邸間及水落町より流出せる外濠用水を晋羽町元火力電氣會社裏手附近に於て使用せる程度であつた。

B. 軍隊の活動狀況

上大工町に飛火し次いで各所に飛火し火勢次第に强烈となり延燒擴大の虞あるや靜岡衛戍部隊の將兵は直に出動し警防團、警察官と協力して防火に努めたのであるが前記各防禦線を始め其他要所に於て家屋破壞防禦に主として當り水利乏しく從つて注水防火意の如く成らざる折相當の効果を擧げたのである。又火災中は元より終焉後に至る迄全市の治安維持の任に當り必要なる諸手配を爲す等懸命なる大活動は特筆すべきものであつた。

出動部隊名及人員は次の通りである

高射砲第1聯隊	500人
三島陸軍病院	30人
步兵第34聯隊	1500人
豐橋工兵隊	200人

9. 被害概況

A. 燒失區域

罹災町數	86ヶ町
東西	約1950m
南北	約800m
面積	約1,322,320m²（約40萬坪）

B. 燒失戶數　5,106戶

內　全燒　5,035戶

半燒　71戶

C. 燒失棟數　7,611棟

內　住家　6,316棟

內　全燒　6,218棟

半燒　98棟

非住家　1,295棟

內　全燒　1,255棟

半燒　40棟

D. 燒失建坪數　175,893坪

內　住　家　139.522坪

非住家　36.371坪

E. 罹災人口　27.518人

內　男　13.060人

女　14.458人

F. 死傷者　776人

內　死　者　2人

重傷者　11人

中傷者　77人

輕傷者　686人

G. 損害見積額　約72220.000圓

（但シ市管理財產ヲ除ク）

H. 主ナル燒失建物

1. 學　校　三番町小學校、傳馬町小學校、森下町小學校、私立女子商業學校
2. 官公署　靜岡驛、靜岡運輸事務所、靜岡保線事務所、電話交換所
3. 銀　行　駿河銀行靜岡支店、安田貯蓄銀行靜岡支店、愛知銀行靜岡支店、不動銀行靜岡支店
4. 旅　館　安田屋旅館、清鶴樓、大吉野旅館、大東館、辻梅旅館、榮屋ホテル、長生館
5. 料理店　浮月樓、求友亭、三笑亭、魚喜、鳥龜、西金、池川、天文
6. 百貨店　松坂屋、田中屋
7. 劇　場　電氣館、歌舞伎座、靜岡映畵劇場、キネマ館、花月劇場、銀映座、若竹座、靜岡寶塚劇場、立花館
8. 神　社　小梳神社、津島神社、別雷神社、稻荷神社、珠加美神社
9. 寺　院　寶臺院、寶傳寺、新光明寺、妙像寺、華陽院、妙音寺、新善光寺、福善寺、西福寺、菩提樹寺、玄忠寺、興善寺、小林寺、淨祐寺、宗林寺、宗長寺
10. 病　院　佐橋病院、富永病院、司馬病院、高野病院
11. 工　場　池ヶ谷硝子工場、靜岡煉瓦株式會社、篠原鐵工所、福島紡績株式會社靜岡水管工場、丸國鐵工所、稻森味噌工場、栗本鐵工場、東洋印刷社、靜岡鑄物工場
12. 倉　庫　丸神運送株式會社倉庫、靜岡合同運送株式會社倉庫、三十五銀行傳馬町支店倉庫
13. 其　他　靜岡瓦斯會社、靜岡民友新聞社、東京日日新聞靜岡支局、讀賣靜岡支局、名古屋新聞靜岡支局、新愛知國民新聞靜岡支局

10. 今回の火災の性質

今回の火災は從來の大火の例に漏れず猛烈なる風力と其の方向とに左右されたものであるが主なる性質を記すると次の如くである。

A. 季節其他

靜岡市の大火災の季節は之を明治以來の百戸以上燒失したもの9件から見ると何れも冬の最中であつて即ち11月20日～2月1日迄に發生してゐる。又風向に就いて見るに何れも西又は西北風である。今回の大火も亦此の從來の例に做つてゐる。

B. 飛火の程度

燒失區域全般を通じて飛火の數は大小無數にあつたのであるが其の內顯著なるもの9ヶ所を示す事が出來る。之等に就き其の發火地點同時間飛火の經路及巨離を示すと下表の通りである。

飛火順序	風向	飛火發火地點	發火時刻	發火經路並距離	
1	W	上大工町11	P.M 1.00	火元ヨリ	654m
2	W	西門町 3	P.M 1.50	(1) ヨリ	817m
3	W	稻川町2丁目50	P.M 1.50	(1) ヨリ	1635m
4	W	七間町2丁目24	P.M 2.00	(1) ヨリ	436m
5	W	下石町2丁目	P.M 2.00	(1) ヨリ	545m
6	W	下魚町46	P.M 2.00	(1) ヨリ	763m
7	W	下魚町44	P.M 2.00	(1) ヨリ	817m
8	W	稻川町2丁目	P.M 2.20	(3) ヨリ	164m
9	W	馬淵町1丁目2	P.M 2.30	(7) ヨリ	164m

燒失全面積1. 32232km²に就き飛火9ヶ所であるから約0. 147km²（約4萬4千坪）に就き飛火による發火點1ヶ所の割合となる。而して之等の飛火は何れも午後1時0分より2時30分頃迄に發生したもので約11分毎に1回の割合となる。又當時の風速は10m/sec內外であつた。飛火の火塊は書籍類、小型の座蒲團小木片の程度であつた樣であるが市中央部の火勢最も强烈を極め局所的に旋風を卷起したる當時には寢具類をも飛散せしめたとの事である。

又火の粉は風下相當遠巨離迄飛散し驛東南の八幡山附近には盛んに落下し殊に午後4時頃には市の東南約4. 0km離れた小鹿附近に飛んだ火の粉は若干の家屋を燒失せしめた。

C. 延燒速度

發火より鎭火迄の延燒時間を約11時間30分とする。之を面積、戸數、建坪棟數に就いて見ると其の概數は次表の通りとなる。

種類	1分＝就キ	1秒＝就キ
面積	1920m²	32m²
建坪	840m²	14m²
戸數	7.4戸	0.123戸
棟數	11.0棟	0.184棟

又延燒速度（概數）は下表の通りとなる。

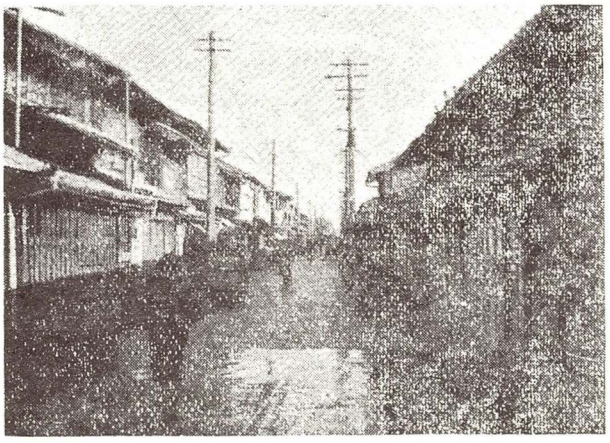
區　　間	距離（m）	延燒時間（h）	延燒速度 m/min	備　　考
上大工町ヨリ下石町3丁目	550	1.0	9.20	飛火ニヨル發火ヲ含マズ
下石町2丁目ヨリ院内町	1400	9.45	2.36	
馬淵町ヨリ森下町	1250	4.30	4.60	
上大工町ヨリ院内町	1950	10.45	3.02	飛火ニヨル發火ヲ含ム
上大工町ヨリ森下町	2100	6.00	5.80	

11. 被害の擴大原因

今回の大火災の被害が斯くの如く甚大であつた事と燒失區域が擴大した原因に就き考察して見ると大體次のものに起因すると思料される 。

A. 地理的條件と氣象狀態

本地方は久しきに亘り降雨なく晴天持續し發火當時は空氣の乾燥著しく發火を容易ならしめたると又猛烈なる西風長時間に亘り吹走し加ふるに發火の場所が本市の西部にありし爲東へ東へと市中央部へ飛火延燒を來し斯く大火災に至らしめたものである。即ち地理的條件と當日の氣象狀態は必然的に大火となる條件を具備してゐたのである。（當日の氣象觀測表並關係圖表は前項延燒狀況後段に揭示の通り）

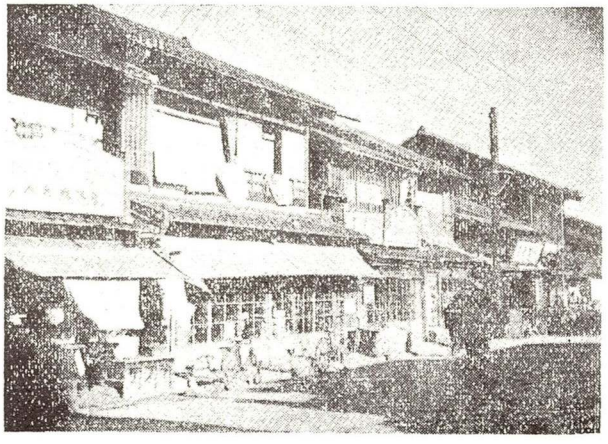


（39）（40）

靜岡市內の建物は木造外壁板張り屋根棧瓦葺にて軒出の割合に多い燃え易い粗雜な建物の連續であつた。

B. 木造建築物の粗雜

本市は土藏が點在する他は耐火的建築物は實に僅少にして大部分は木造棧瓦葺、外壁下見板張りの粗雜で燃え易い木造建物で特に中心部は此等構造の高層建築物が多かつた事は本火災の甚大なる被害と



延燒擴大を招來した最大なる原因であつたと思料する。元來都市の大火は燃燒物の內最大の部分を占める建築物自身が耐火的であるならば先ず發生の餘地は無きものである。即ち都市の大部分が燃え易い木造建築物より出來てゐると云ふ事は如何なる都市に於ても大火となり得る最惡條件の一つである。

C. 火元にて發火を常設消防部へ通知するの手段を取らなかつた事

D. 消防部に於て發火を知覺する迄約15分以上を要した事

E. 消防に關する命令傳達及喞筒移動に遲延を來したる事

即ち午後1時火元より最初に飛火したる上大工町11番地附近の防火に當り當時市の精銳ポンプの大部分は三番町小學校の防禦に全力を擧げ活動中であつたので上大工町への出場には本部から傳令により小學校現場に通報する等急速に來援消防する事が出來得なかつた事は此處が本火災に於て飛火發生の最大基地であつた丈に其の影響する所は甚大であつた事。

F. 風速猛烈にして飛火に依る發火が1時に各所に發生した事

G. 晝間なりし爲め夜間に比し飛火早期發見の至難なりしこと

H. 道路は概して狹隘にして曲り角多く防火隊の活動を不圓滑にした事

I. 消火栓は上水道水源安部川が昨年の夏季渴水以來水位を著しく低下せる事に依り壓力低減し防火上支障を來した事

J. 靜岡市の上水道利用が極めて少かつた事（燒失家屋中上水道あるものはその三割に達しなかつた）

K. 井水は之亦連日の乾天續きの爲水量著しく減少して居つた爲防火上不利であつた事

L. 市內には田畑灌漑用の水路があつたのであるが之亦晴天持續の爲水量に乏しく且つ之が暗渠となつて居た爲防火上種々支障を來した事

M. 消防設備が充分で無かつた事，特に機械器具類に於て其の不足による缺陷が著しかつた。

N. 近接地より應援に出動せる50餘臺のポンプは上水道消火栓と繼手のサイズ同一ならず其の用を爲さず從つて防火上不利であつた事

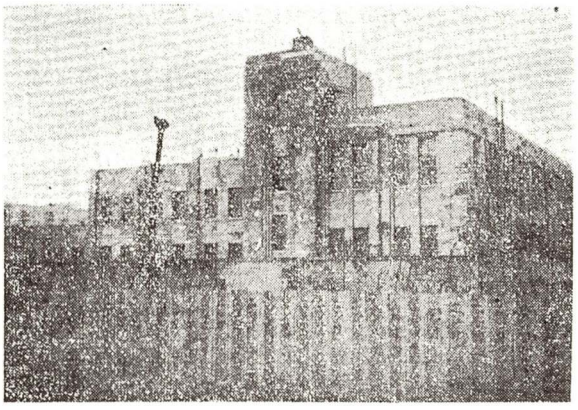
O. 注水を伴はざる破壞消防が各所に行われ燃えたる小片飛散に依り近隣へ火災の傳播を速進せしめた事

P. 防火地區及防空建築規則の適用無く廣場公園等の都市計畫上の施設が完備して居なかつた事

12. 燒失建築物の用途別調査

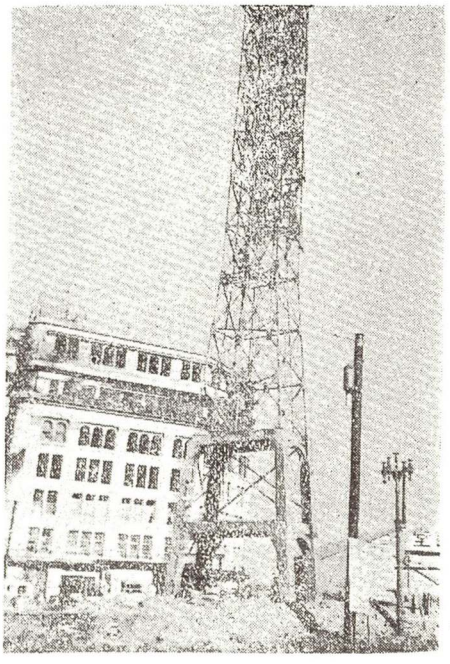
燒失區域內に於ける建築物の用途別分類調査は現地關係各方面に於て目下調査中であり從つて其の詳細を記するを得ないのは遺憾であるが其の內資料を得た特殊建築物に就き記すると下表の通りである。

種別	市部總數	燒失數
官公署		10
神社		5
寺院		23
學校		5
工場		19
醫院病院		23
會社		14
銀行		11
百貨店		2
倉庫		4
旅館	137	58
料理店	228	124
カフエー	122	80
小料理店	33	4
興業場		9
遊戲場	105	51
藝妓置屋	77	77



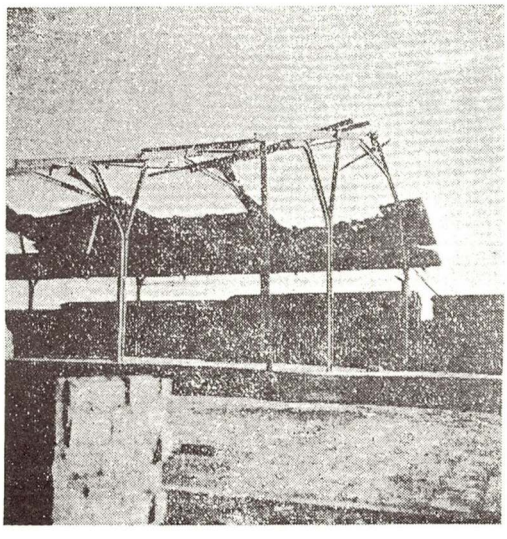
(44)

靜岡郵便局



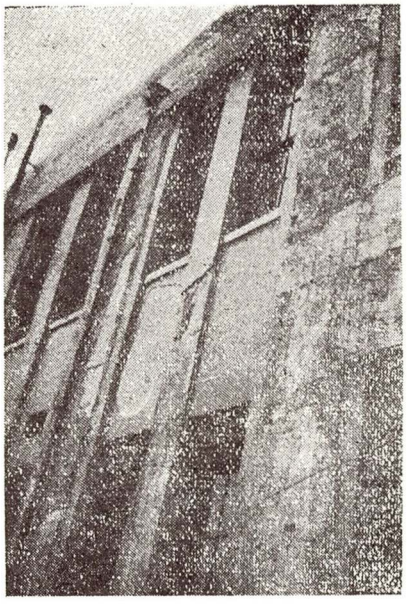
(42)

靜岡驛前の鐵骨造大廣告塔

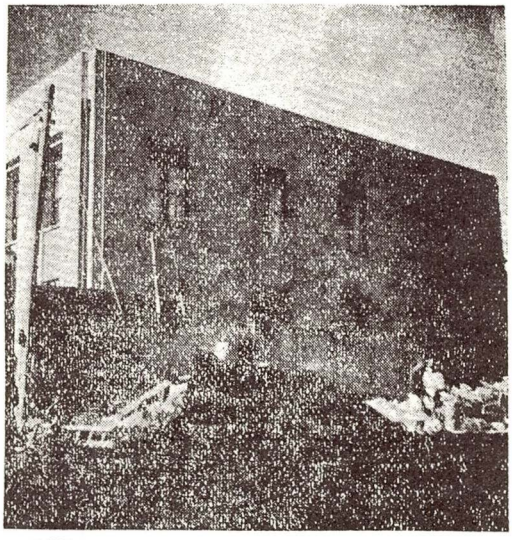


(41)

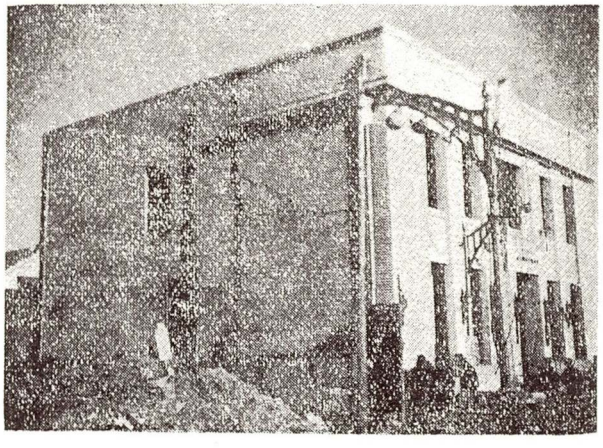
靜岡驛ホーム



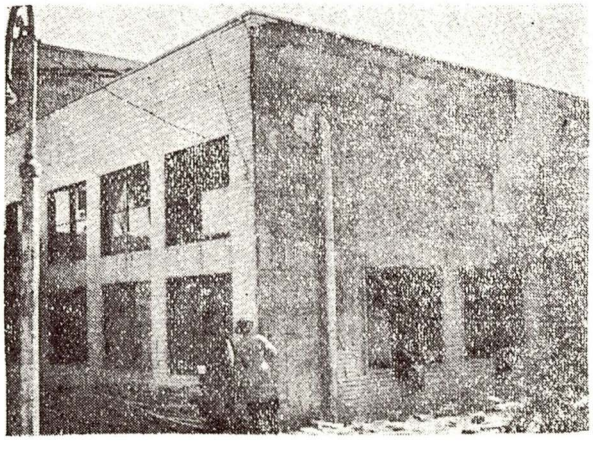
（45）
同郵便局の外壁被害状況、装飾的の被害大なり。



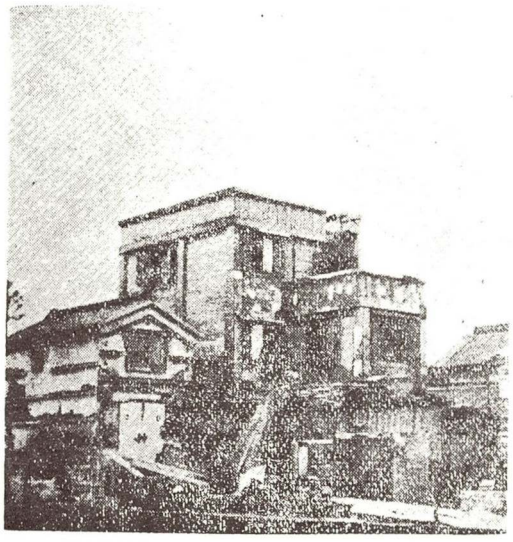
（47）
遠州銀行の外壁及び窓の被害



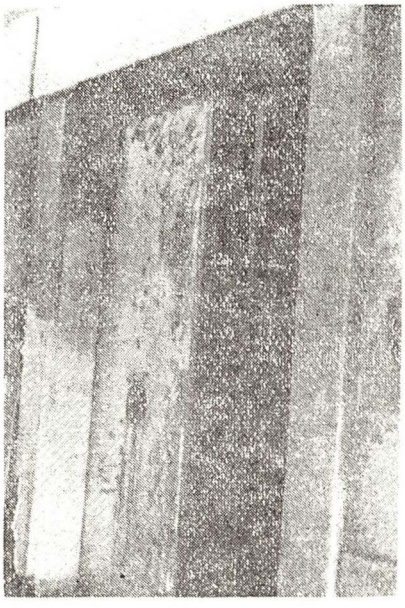
（46）
濱松銀行外壁の被害



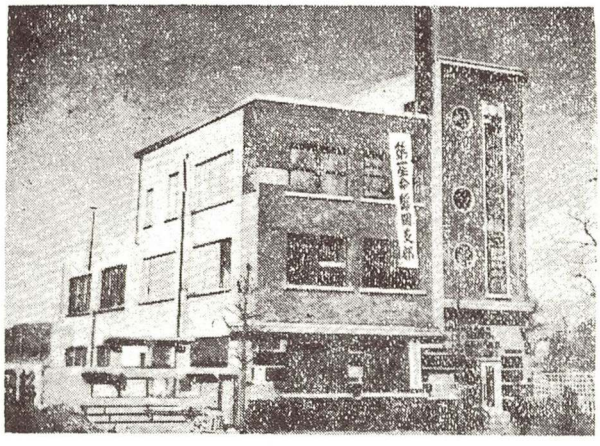
（48）
靜岡驛、西北隅、
西側の木造保線事務所の燃燒による被害。



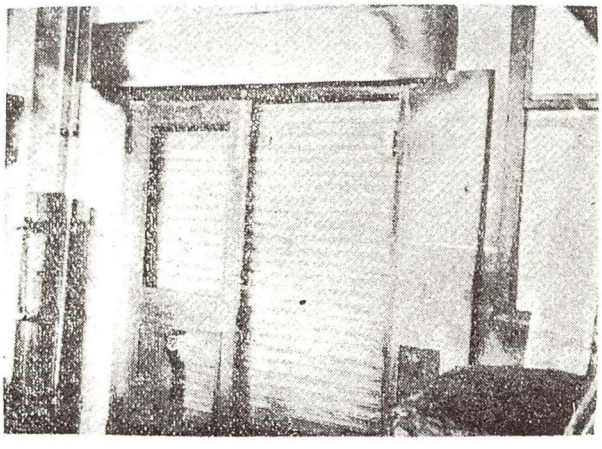
（49）　松永絲店倉庫
木造の本屋燒失せるも倉庫は内部被害無し



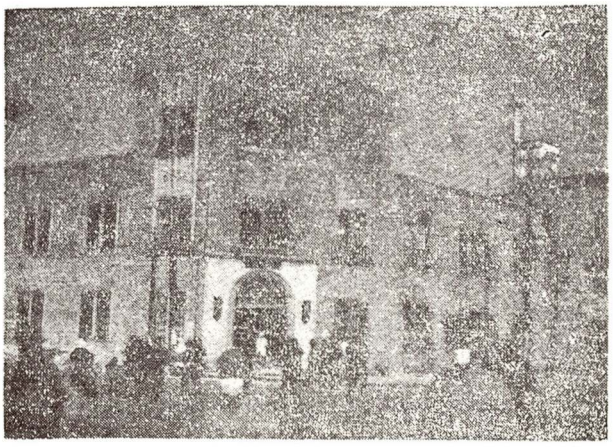
（50）　効果を奏した同倉庫の防火戸窓開口部にも同様の防火扉を用ひてゐた。



（51）　靜岡民友新聞社

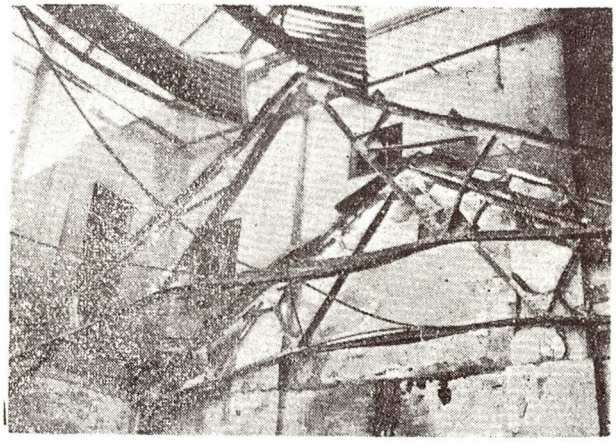


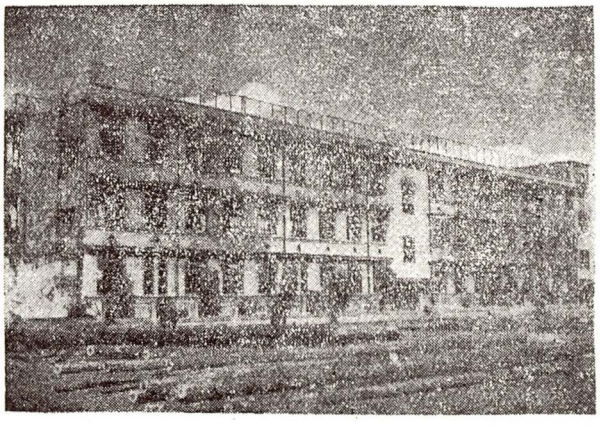
（52）民友新聞社の防火シヤツター
後の木製扉の燃燒



（53）
東海軒、内部全燒

（54）
東海軒、中庭部辨當詰所の被害

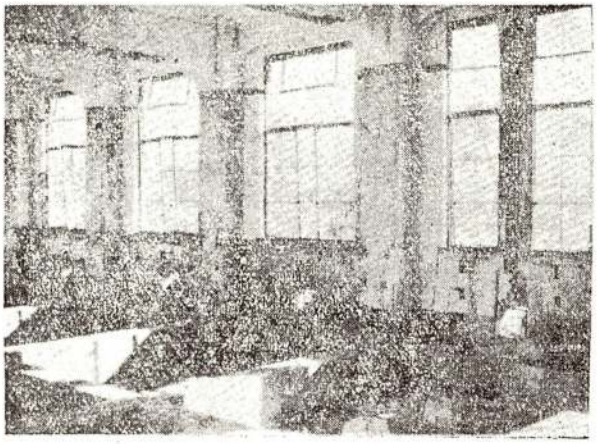


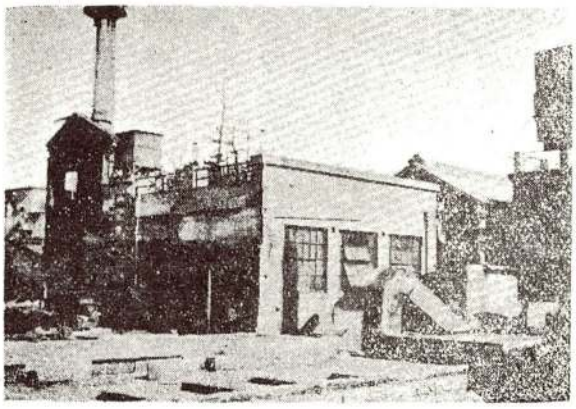


（55）
傳馬町小學校

（56）

同校内部



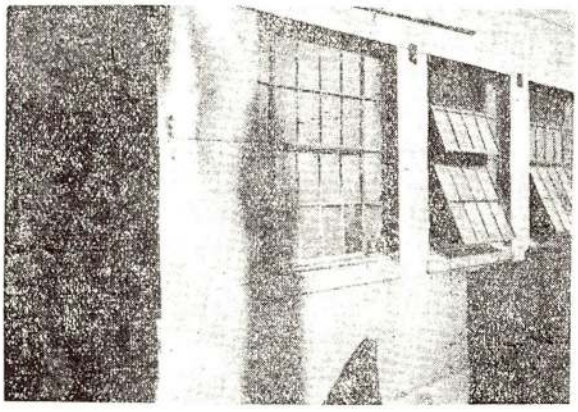


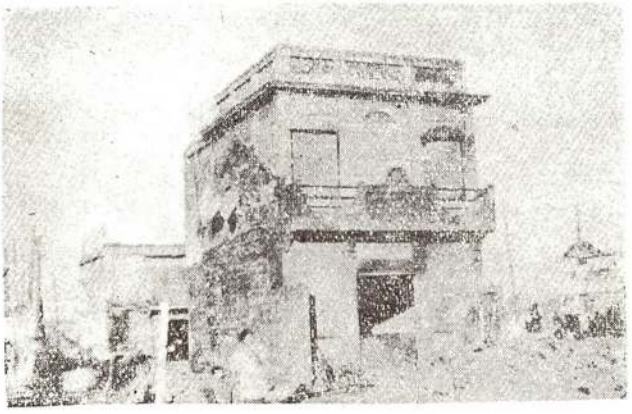
（57）

7軒町1丁目、菓子店、2階木造家屋焼失、1階へ延焼

（58）

同店窓網入ガラスの被害龜裂入りたるも脱落せず





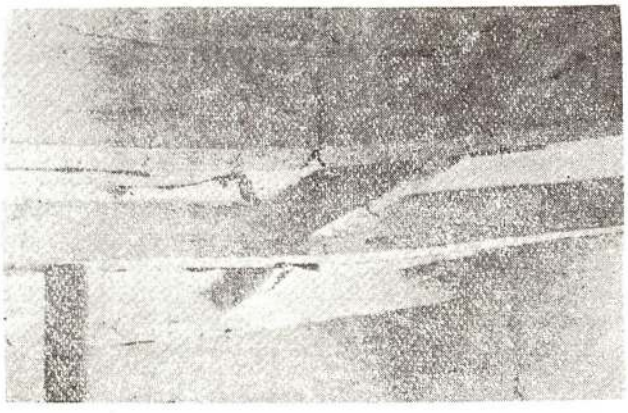
(59)

青町3丁目の某文具店

(61)

同店附屬倉庫の2階床被害

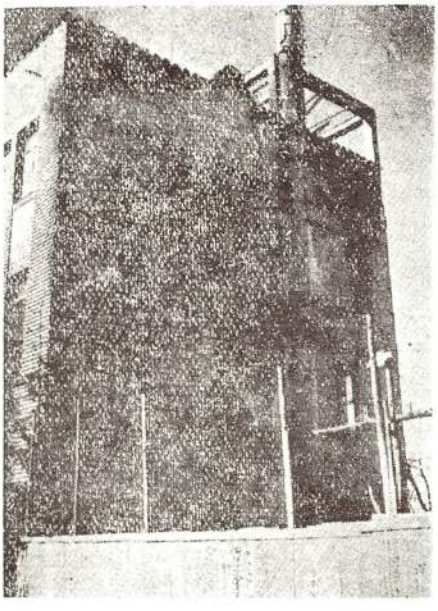
1階より見た所





(62)

大東館新館



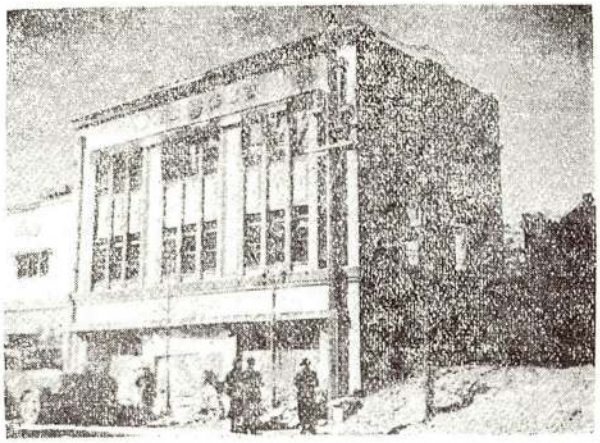
(63)

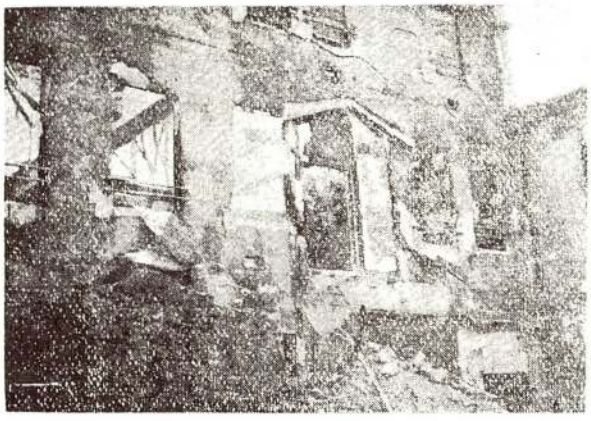
大東館東側舊館との接續部分の被害

(64)

山口屋

木造屋根と鐵骨トラス屋根燒落ちる。



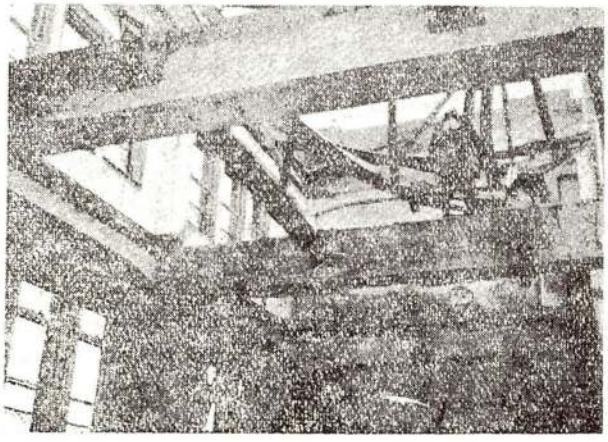


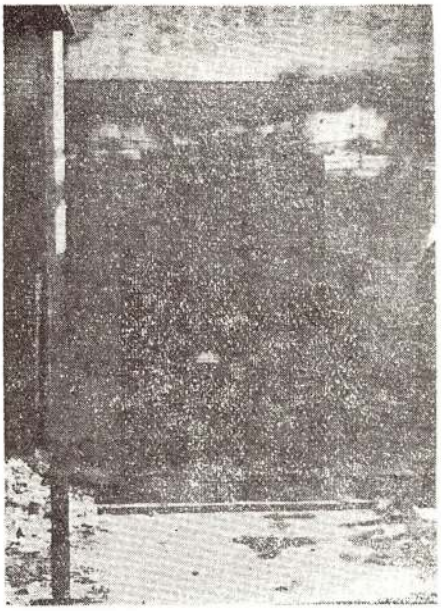
(65)

山口屋裏側

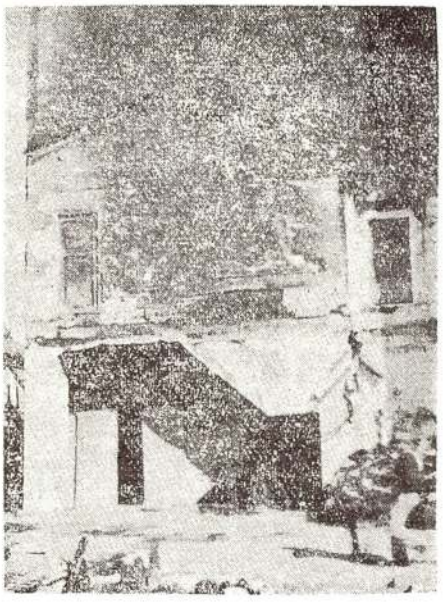
(66)

山口屋の內部

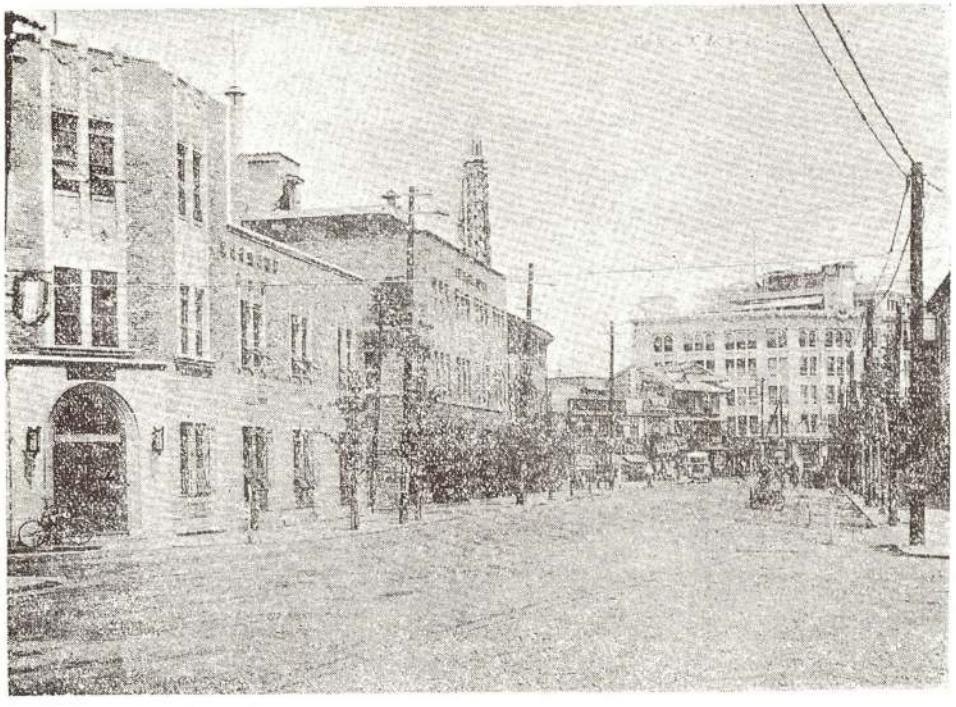




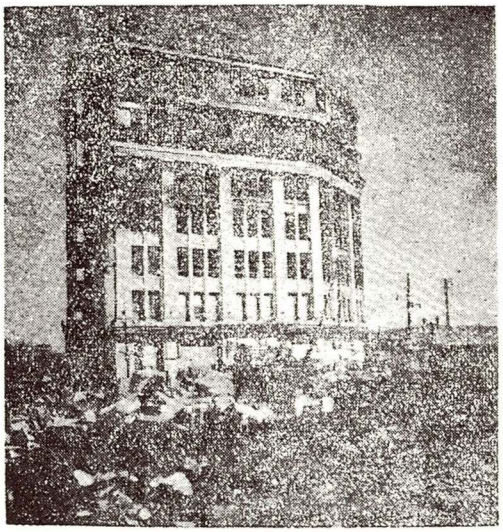
(67)
静岡驛、西側出入口



(68)
田中屋デパート木造附屬屋との接續部

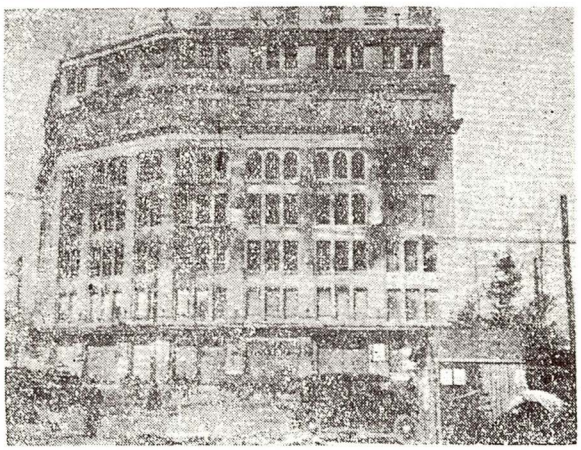


(71)　火災前の松坂屋百貨店西側の狀況



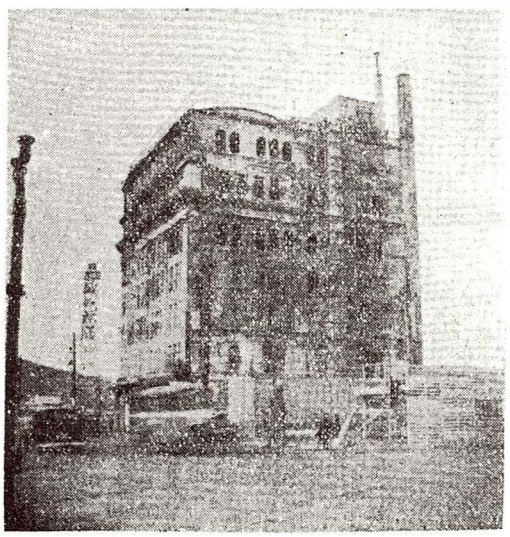
(72)

松坂屋西側



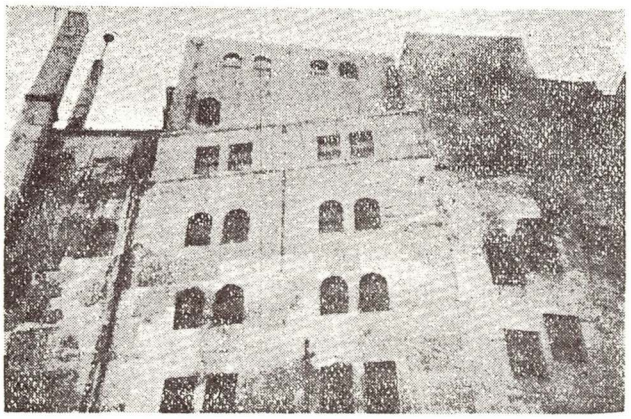
(73)

同南側



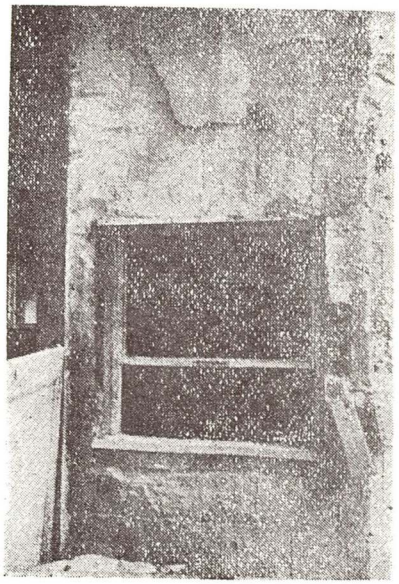
(74)

同東側



(75)

同北側



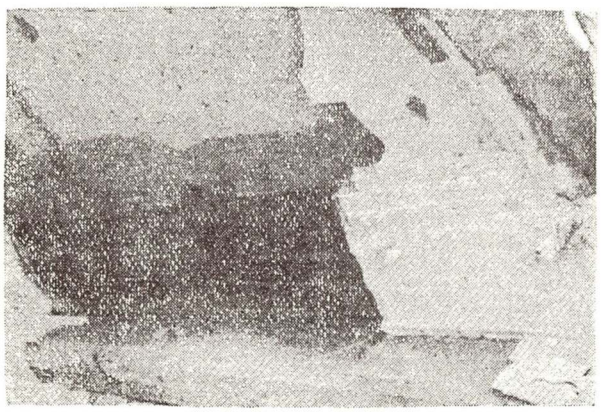
(77)

4階リフト



(76)

6階エレヴエーター附近の被害

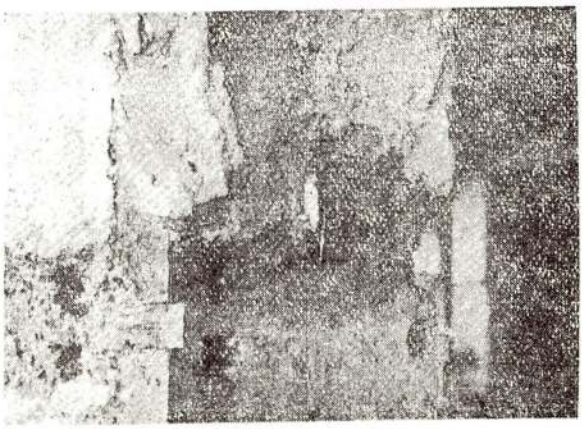


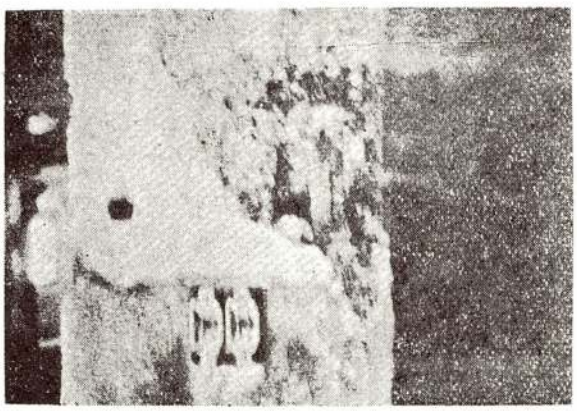
(79)

木摺漆喰塗のハンチ型の被害

（80）

柱の被害



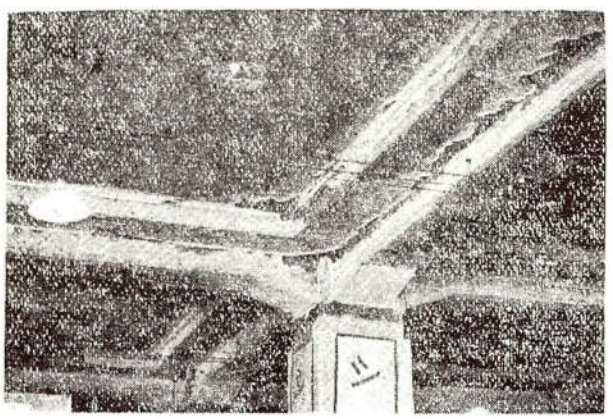


（81）

6階、柱の埋木による被害

（82）

1階の被害





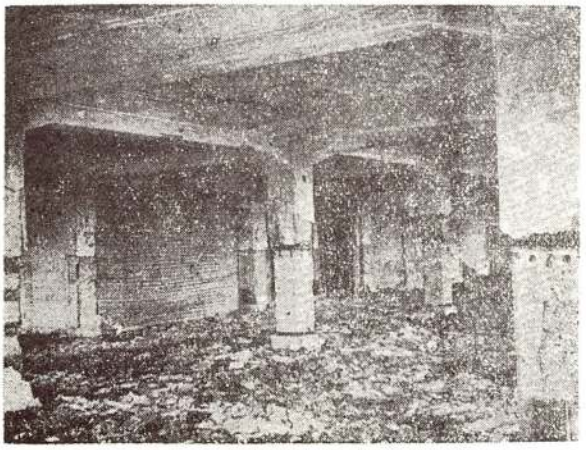
(83)

3階の被害

(84)

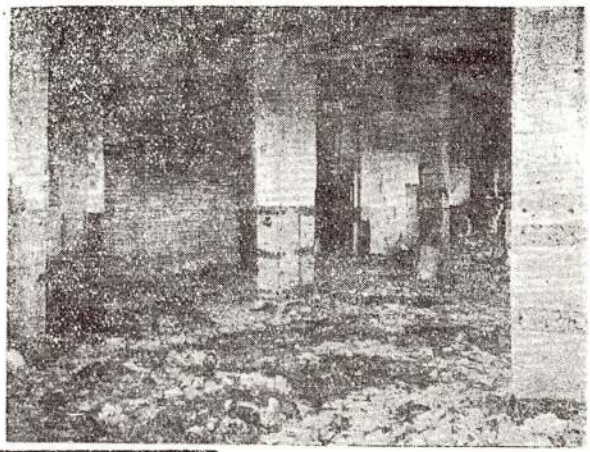
4階





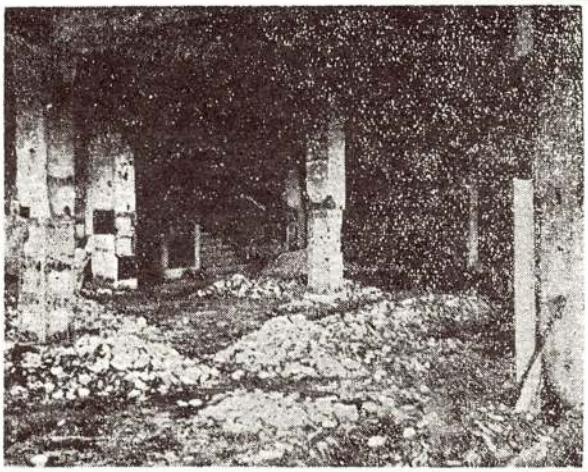
(85)

5階



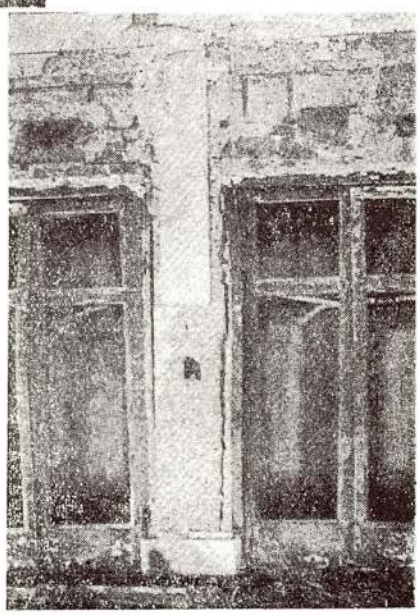
(86)

6階



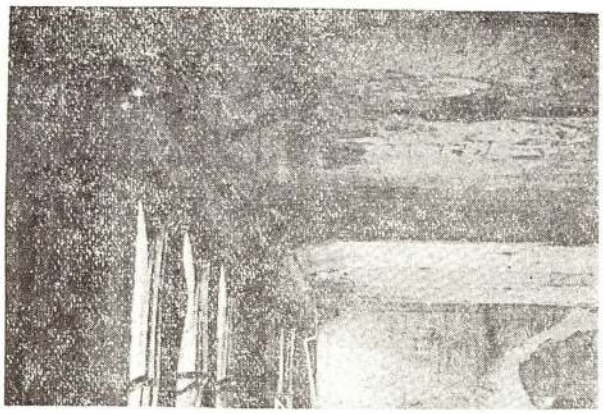
(87)

7階



(88)

4階エレヴェーター廻りの被害



(89)

5個東側、天井床版のコンクリート剝落（厚3cm）

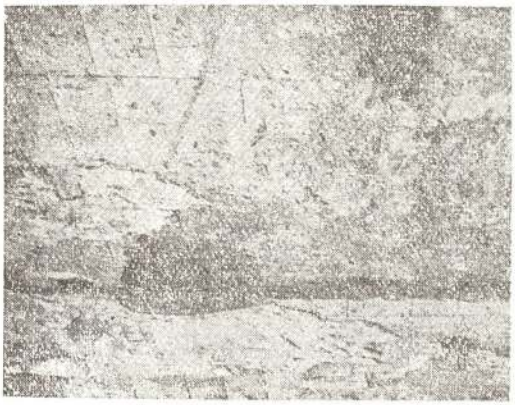
(91)

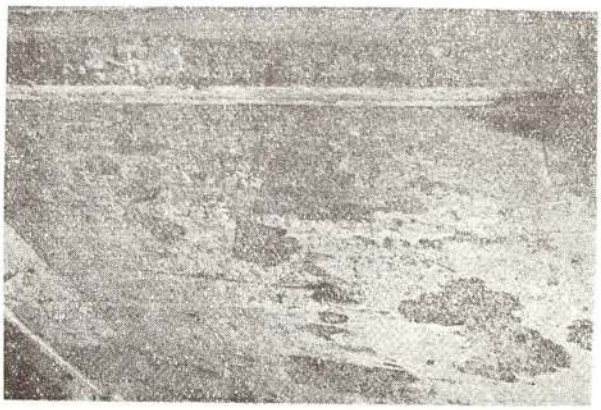
埋入甲パイプによるコンクリート被覆の被害



(90)

89圖の詳細



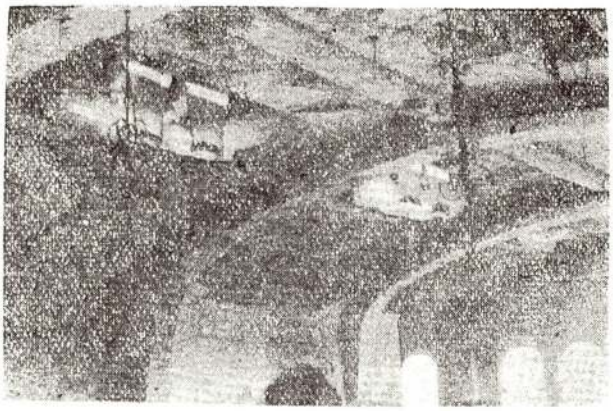


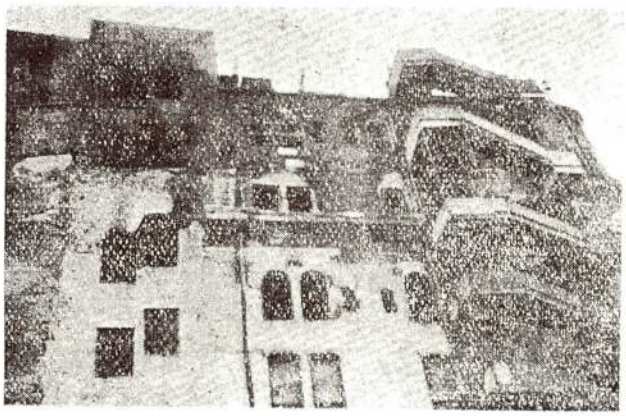
(92)

7階西側窓廻の天井床版の被害

(93)

7階、食堂の天井破害



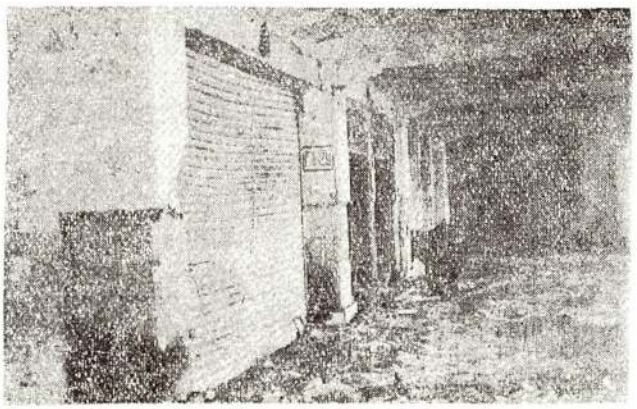


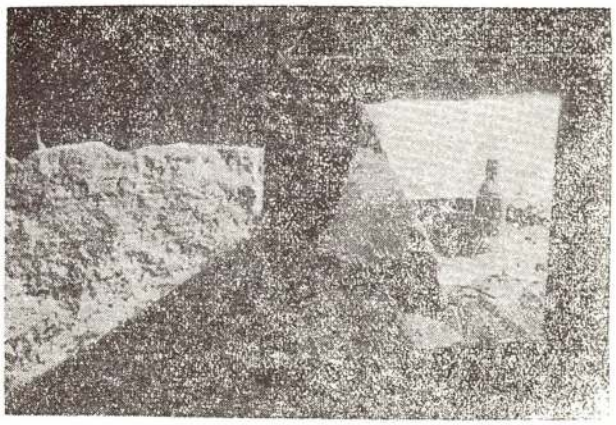
(94)

北側客用階段の窓より火煙の吹き出た痕

(95)

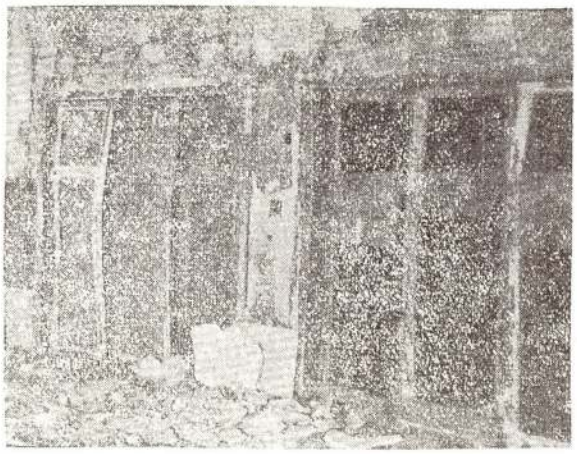
北側、客用階段4階防火シャッターの被害

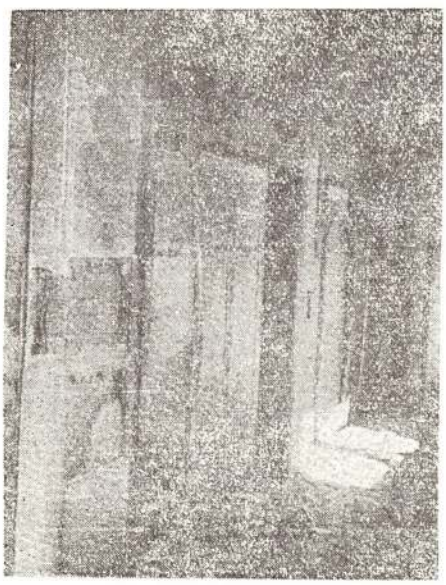




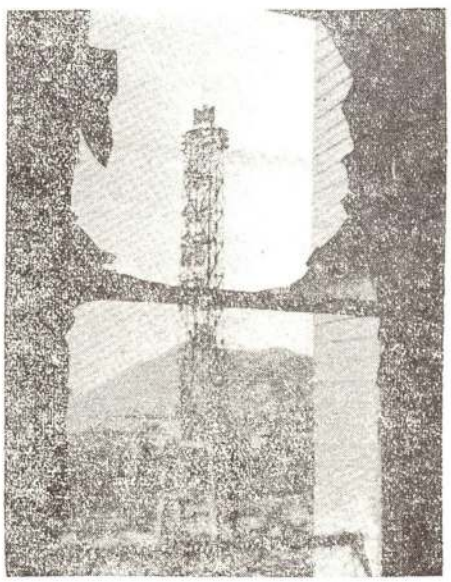
(96)
防火戸の上のパネルに取付てあつた網入ガラスの脱落による被害

(97)
6階エレヴエーター出入口の被害
網入ガラス脱落状態に注意





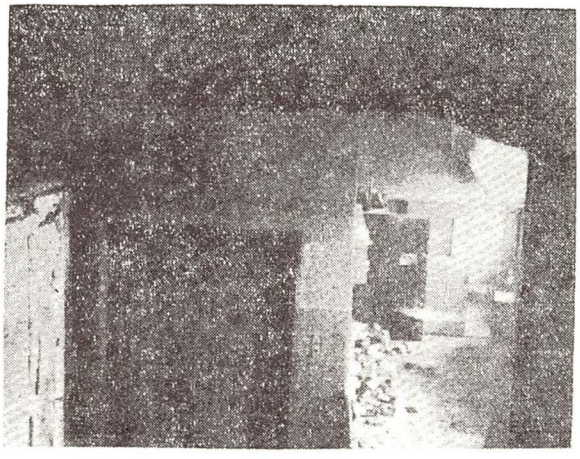
(98) 8階エレヴエーター廻り

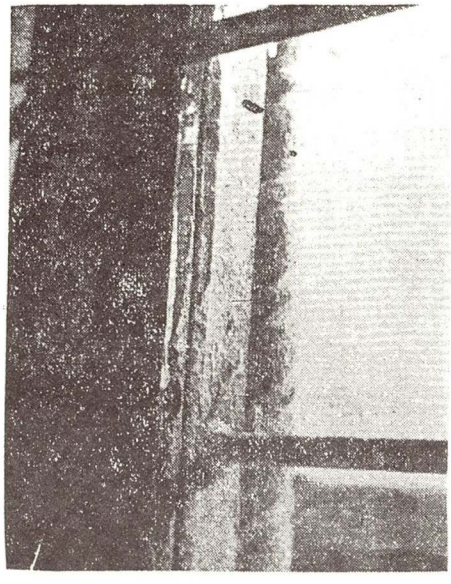


(100) 西側窓

(99)

東北隅の店員用階段室にあるエレヴエーター被害なし、該階段室は概して被害なし





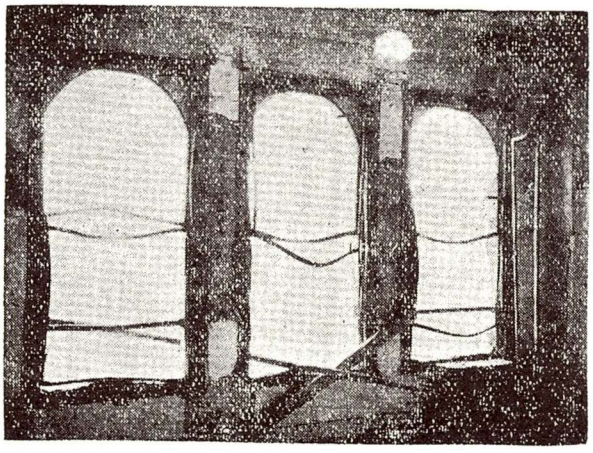
(101)

南側、5階窓立に吹き付けられた液状になつた窓ガラス

(102)

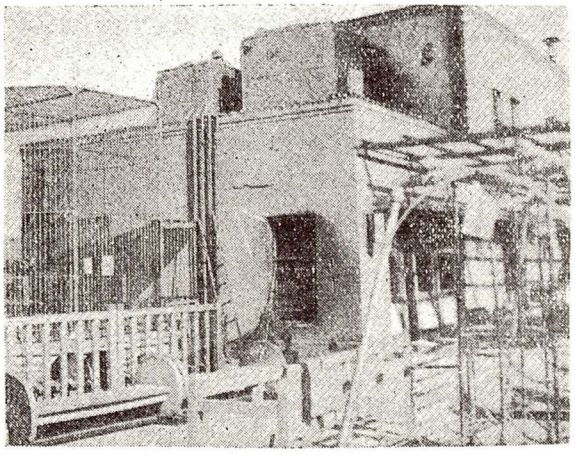
北側、4階窓ガラスの軟化脱落状況





(103)

上下窓スチールサツシユの變形
狀況



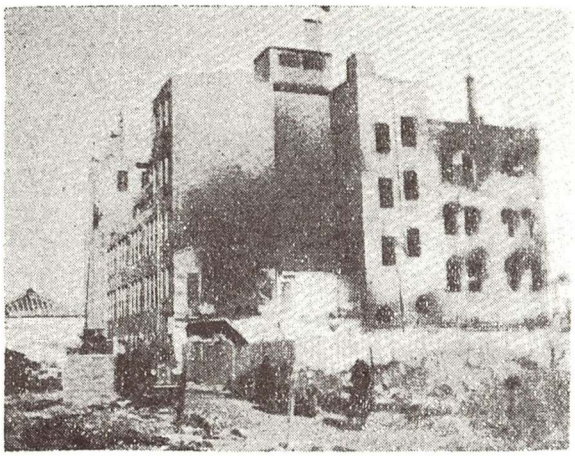
(104)

屋上は概して被害無く動物園の動物
は健在であつた



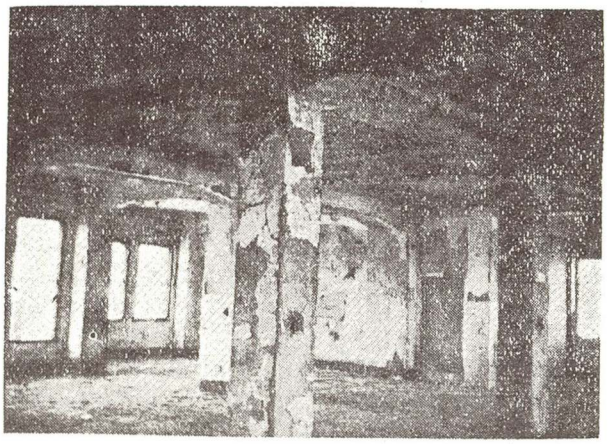
(106)

田中屋デパート東側の被害
窓にはサツシユを取り除けて板が貼つてある

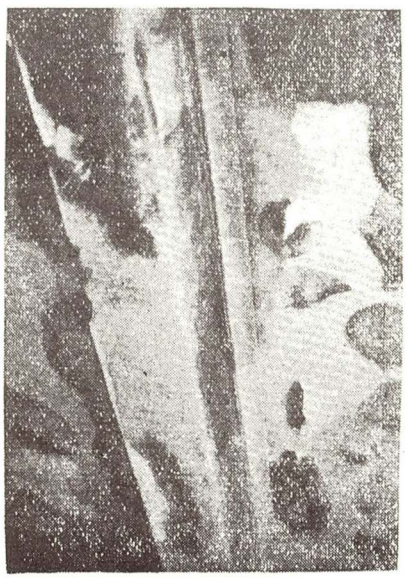


（107）
同南側木造不屬屋焼失

（108）
内部被害状況



（109）
天井漆喰の剝落状況



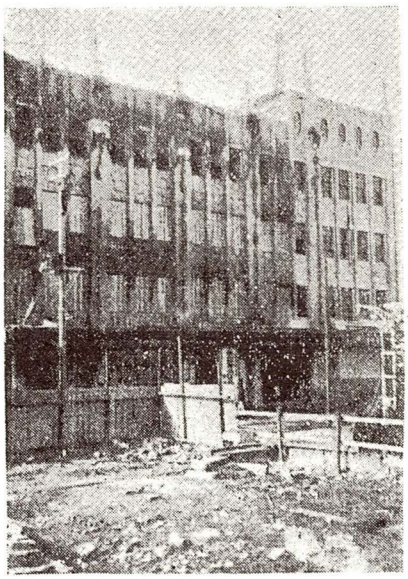
寫眞（110）は次頁

（111）
4階南側階段の防火シャッター端の柱、テラゾーブロック剝落しモルタルの間隙から階段室へ火焔を導入した。

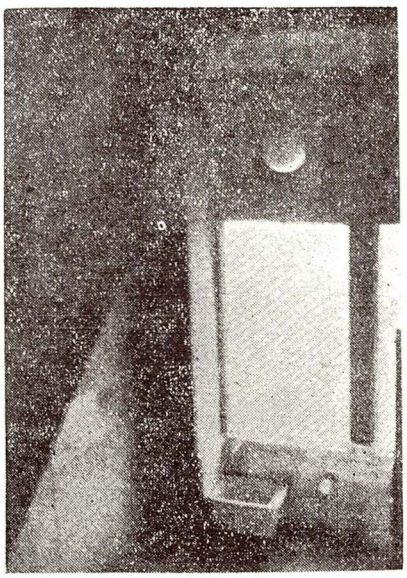


(110)
床版のコンクリート剥落

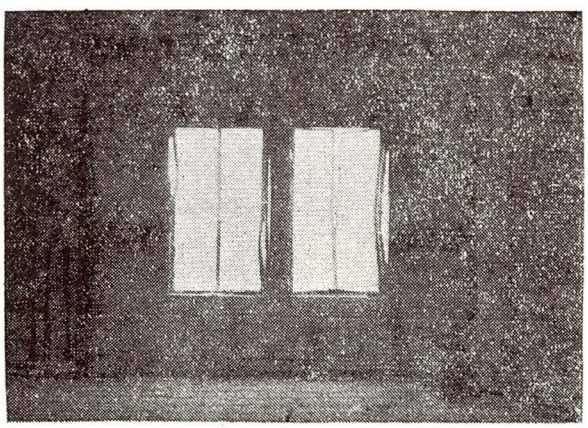




(112)
田中屋北側、
西北の階段無
被害



(113)
西南隅の避難
階段無被害



(114)
開き窓の被害及び
床寄木張りの被害

13. 不燃質建築物の被害概況

焼失區域内にある不燃構造として土造、煉瓦造、石造、鐵骨造、鐵筋コンクリート造等が擧げられる。

A　土造、煉瓦造、石造

之等は不燃質材料であるが構造上、殊に此地方の地震多き關係から大規模の建物に用ひられず藏、倉庫等に用ひられる程度であつた。且つ屋根は多く木造小屋組、瓦葺である結果、瓦下地の野地に引火し屋根から延焼したと看做されるものも多かつた。之等の事に就ては、後節土藏の項で詳說す。

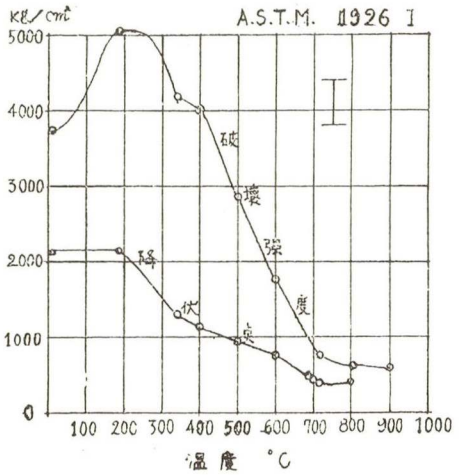
B　鐵骨造　所謂鐵骨造の建築物は調査した範圍には無かつた。

山口屋、（乾物店）の屋根が無被覆の鐵骨のトラスであつた爲、火焰の爲變形脫落した（寫眞324鐵筋コンクリート部に再說）

靜岡驛ホームは其の屋根葺材が焼失したが構造主體の鐵骨は變形せず（寫眞41）

靜岡驛前の鐵骨造の高さ約40mの大廣告塔（寫眞42）は下部約 10m の高さがコンクリートに被覆されてゐる。此のコンクリートの被覆表面は可なり被害被り又稜の部分のコンクリートが剝落してゐた。

筋違狀の鐵骨は挫屈彎曲してゐた。又高さ地上約 20m 迄で鐵骨の塗料剝げ、赤色に錆びて居り、此の部分まで比較的高溫度の火氣を被つたと思はれるが、上部の露出せる部分の鐵骨が自重及び風壓により挫屈しなかつた事は寧ろ僥倖とすべきである。（軟鋼は200～300°c まで强度增すも 500°cにて約半減又或文獻では、降伏點は200°cから減少し始め 300°c にて略々1400 kg/amにまで下つてゐる）



（第43圖）

C　鐵筋コンクリート造の被害

鐵筋コンクリート造建物は靜岡驛、松坂屋附近を除き多く焼失區域の周邊に在つた、從つて被害を受けたものは少かつた。此の事は一面之等の建物が一種の防火線の効果を發揮したとも言へる。

焼失區域にある之等の建物を被害の程度により別けて見ると

1. 外壁仕上材の損傷、又はガラス窓の損傷程度

遠洲銀行、濱松銀行、靜岡郵便局、靜岡驛本屋、其他倉庫15棟

2. 同上　更に內部部分的燃焼

靜岡民友新聞社、大東館新館

3. 屋内へ引火して被害甚大なもの

松坂屋百貨店、田中屋デパート、傳馬町小學校、山口屋乾物店、東海軒青町3丁目附近某文房具店及び同店附屬倉庫、其他倉庫、9棟

之等の中1. に屬するものは多く燒失區域周邊部の火勢比較的弱い部分に在つた事も一原因であるが又開口部に防火シヤツター、防火戸等のあつた事も主な理由である。

靜岡郵便局では防火シヤツター後の網入ガラスに龜裂が入つたが延燒は免れ、又防火シヤツターは火災後、大部分開く事が出來た。（寫眞44, 45）

遠洲銀行では火焰に直接接した方の防火シヤツター過熱されて內部のガラス窓のシートガラス破損し、カーテンの一部、副射熱の爲燃え、取外して事無きを得た。（寫眞47）

一般に防火シヤツターや鐵製防火戸に近接した可燃物は延燒の原因となる故注意すべきである。（2.3の原因、(2)の項參照）

之に對比し、倉庫の1例として擧げた兩替町4丁目附近の松永糸店の鐵筋コンクリート造3階建の倉庫の窓及び出入口には深さ約3cmの鐵板製箱枠にシングーコンクリートを打ち込んで高熱による歪を防ぎ表面に漆喰を塗つた防火扉が使用されて居た爲內部のガラス板も破損する事なく安全であつた。（寫眞49, 50）

此地方のコンクリート造倉庫には此種の簡易な防火戸が多く利用され効果を擧げてゐた2及び3の屋內への引火原因の主なるものとして次の2つが擧げられる。

(1) 開口部に防火設備（防火シヤツター、防火扉等）が無かつた爲ガラス板破損し、又は木製建具に引火して內部へ延燒したもの

(2) 鐵製の防火シヤツター、防火戸等が過熱されて歪み、間隙を生じ、又は其の輻射熱により內部へ引火せるもの。——之は鐵筋コンクリート家屋に接續した木造附屬屋等の燃燒の際に殊に多い。

(1) の實例

松坂屋百貨店、田中屋デパートは此例に屬するが高層建築物の被害として後節に述べる。

イ、靜岡民友新聞社、所在、紺屋町、鐵筋コンクリート造3階建

被害　一部燒失

裏側の木造家屋の燃燒熱により2階、3階の窓破損し一部燃燒す。（寫眞51）尙同建物にて裏側1階出入口の防火シヤツターの直後に木製扉を使用した爲、輻射熱の爲に燃燒した（寫眞52）

ロ、東海軒、（驛辨當製造所）（寫眞53, 54）

所在、紺屋町、鐵筋コンクリート造2階建（一部3階建）

被害　內部全燒

裏側中庭を辨當詰所に利用、上部に鐵骨造トラスの屋根が架してあつた。該屋根の天窓

ガラス板を破つて中庭に引火燃燒し更に鐵筋コンクリート造本屋のガラス窓を破つて之に延燒した。寫眞54は中庭の屋根鐵骨トラスの被害を示す。

ハ、傳馬町小學校、所在、中八幡町、鐵筋コンクリート造3階建

被害　木造部分完全燒失、鐵筋コンクリート部分、內部燒失（寫眞55, 56）

延燒狀況は不詳であるが鐵筋コンクリート校舍と之に接續せる木造校舍との距離が1m足らずで此部分が一種の谷になつて居る爲火災の場合ドラフトを生じ易い上、鐵筋コンクリート校舍外壁の廊下に當る部分の臨時隔壁（鐵筋コンクリート部分增築の際には取除かるべきもの）が非耐火的材料であつた事が缺點として擧げられる。鐵筋コンクリート部分の內部の構造的被害は僅少であつた。

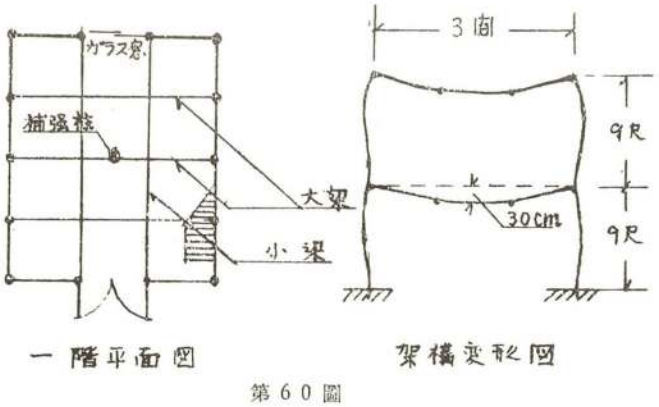
ニ、七間町1丁目の某菓子店は、1階が鐵筋コンクリート造の製菓所、2階が木造の住宅であつた。1階部分の出入口には防火扉、窓はスチールサツシユに網入ガラスが嵌まり防火的であつたに拘らず、2階の木造住宅の部分から階段を傳つて火が入り內部を全燒した。網入ガラス窓はガラス板に龜裂の入つた程度で大して被害の無かつた事は皮肉である。（寫眞57, 58）

又、同じくガラス窓から引火した實例で然も設計の悪い鐵筋コンクリート構造の被害例として次の例がある。

ホ、青町3丁目の某文具店及び附屬倉庫

鐵筋コンクリート造、2階建

店、倉庫共同樣の被害であつたが被害の特に甚だしかつた倉庫に付き說明する。



一階平面図　　架構變形図

第60圖

開口部窓ガラスの熱による破損より內部に引火、內部の文房具は全燒した、多量の紙等の燃燒の爲相當の高溫に昇つたらしく寫眞に見る如く2階床及び屋根床が下方へ垂れ下り、大梁スパン3間の歪最大30cmに及ぶ梁の龜裂甚しく龜裂幅最大1cm餘に及ぶ（寫眞62）

此の樣に被害の甚だしかつた主な理由は構造的缺陷にある。即ち

(1) 架構部材の斷面が纖弱に過ぎた事

即ち大梁の斷面で巾20cm成30cm、配筋は單筋で下側に徑19mm位の鐵筋2本(之は裂目から見える）小梁の斷面巾約15cm成約20cm（配筋不明）柱の斷面、20cm角（配筋不明）

(2) 床、壁體共に厚き約5cmの鐵網コンクリートで柱、梁と一體になつて居らず之等と

肌別れしてゐる所も見られ。建物全體として剛性を缺いてゐた事

斯る構造的缺陷の上に高熱に遭つた爲、梁の殊に下側の鐵筋が伸長して梁は下側に彎曲し柱は外へ向かつて出張る結果となつた。

尙斯る甚しい被害に拘らず殊に梁下側の鐵筋の伸長に拘らずコンクリートが剝落してなかつたのはコンクリートの被覆が厚かつた（下端にて約4cm側面にて約3cm）事による。

2. の實例

イ、大東館新館、所在、紺屋町、鐵筋コンクリート3階建

被害　內部一部燒失

之に隣接してゐた木造3階建の舊館は完全に燒失、之との界壁にあつた出入口の鐵製防火戶過熱されて新館に引火し內部一部を延燒した。（寫眞62, 63）

ロ、山口屋、（乾物屋）所在、（寫眞64）

構造　外壁及び2階3階の床大梁が鐵筋コンクリート造、小梁及び床は木造、又3階屋根は鐵骨造トラスが架してあつた。

裏側附屬屋を傳つて延燒（寫眞65）2階及び3階の床燒け落ち屋根の鐵骨トラス鉛狀に變形脫落す。コンクリート部分の被害無し。（寫眞66）

此他、延燒するには至らなかつたが木造附屬屋の燃燒による被害例を擧げると

ハ、靜岡驛本屋西側附屬屋廊下の燃燒による出入口の被害（寫眞67）

ニ、田中屋、デパートの南側附屬屋の燃燒の爲避難階段室への出入口鐵製防火戶、過熱されて歪み間隙を生じ又エレヴエーターシヤフトへの出入口の防火戶も過熱されて歪み、又、其の輻射熱の爲內部のエレヴエーター用鐵索のガイドレールが局部的に膨脹彎曲してゐた。（寫眞68）

14. 高層建築の被害

A. 松坂屋

1. 建築物の概要

イ、位置　　靜岡市、驛前

ロ、建築面積　3921坪

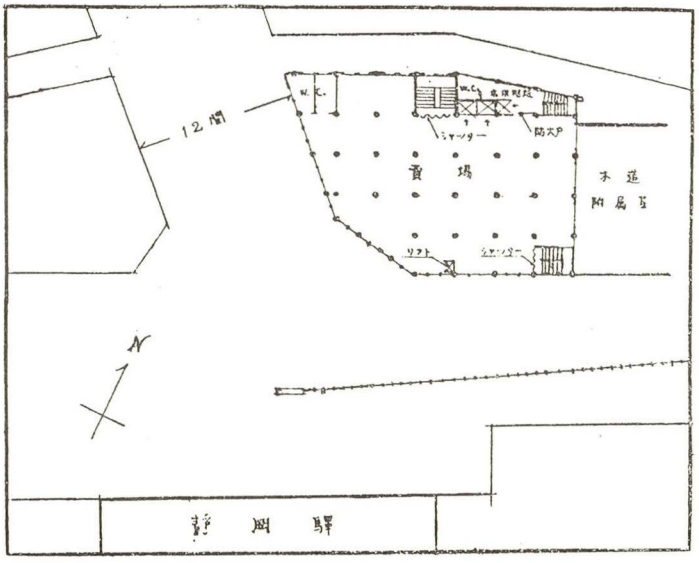
ハ、建築物の構造及び規模

イ、構　造　　鐵筋コンクリート造

ロ、階　數　　地上7階、地下1階

ハ、床面積　　2. 794坪地階392. 1坪

第69圖



2. 出火狀況、

發火時刻　午後5時7分前後、風西風、風速1010m。松坂屋の西側道路は巾13.5間の大通を隔てゝ木造家屋が密集し殊に大東館始め木造3階建の旅館や商店が群をなし、其等の燃燒による火煙りは折からの强烈な西風に煽られて松坂屋の西面に吹き付けてゐた。（寫眞71）同時刻頃南方鐵道線路を隔てた街劃も、盛に燃燒して居り、次いで北側の隣接街劃も又、同樣に燃燒し始めた。即ち東側を除き北、西、南の3方より火氣に圍まれた。松坂屋の店員は、夫まで店內に注水等して居たが避難路を絶たれる怖れありたる爲止む無く引き上げたとの事である。

然るに、平面圖に見る如く北側及び東側の窓には1階から4階まで防火シヤツターが降りて居り、夫に反して西側及び南側は、1階及び2階に防火シヤツター有つたのみで3階以上は厚き2分のシートガラス1枚に過ぎなかつた。斯くして火は松坂屋の西側5階邊りの窓から內部へ引火したと推定される。（寫眞72, 73, 74, 75.）

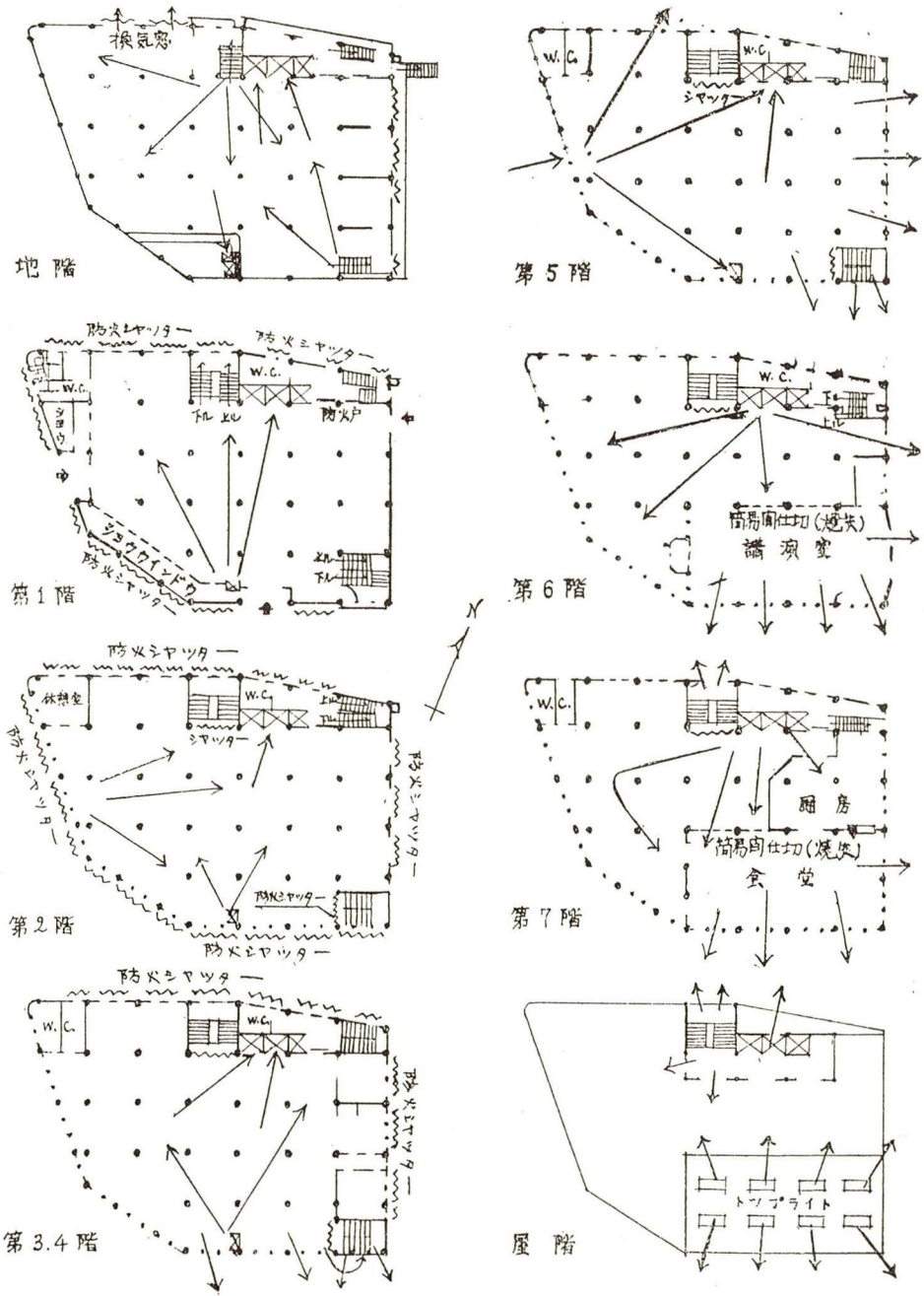
3. 延燒經路

上述の如く、松坂屋延燒の際は同店の周圍火の海と化したる爲人々は遙か東方に避難し詳しく延燒狀況を觀たる者が無かつた。

松坂屋の店員は6階が最初に燃えたと云ひ警防團の或人は、4階か5階から延燒し始めたと云ひ結局上階から燃え始めたと云ふ事以外に確かな說が得られなかつた。因つて平面圖引火し易き品物の配置及び被害狀況を具さに調査して次のやうな延燒經路を結論した。

延燒經路判斷資料

第７０圖　　松坂屋百貨店平面圖及び火流線圖



イ、階段　各階段は防火シヤツター防火戸等により賣場から隔離されて延燒の原因とはならなかつた事

ロ、エレヴエーターシヤフト　各階エレヴエーターの扉は厚さ約2分の網入ガラスが深さ約1.5cmの溝に嵌められた3連のスチールドアーであり、此の網入ガラスの脫落は可なり困難と思はれる事、事實6階、及び7階の半分、屋階の全部に於て網入ガラスは脫落してゐなかつた。（寫眞97,98）

エレヴエーターシヤフトのペントハウスに於ける窓ガラス（網入ではない）が容易に破れて火焰エネルギーを上方へ導いた事從つてシヤフトを傳つて下方へ延燒し難い事。（寫眞76）

又6階のエレヴエーター出入口廻りの火焰の痕跡及びドアーの網入ガラス脫落狀態が火煙を吸ひ込んだ跡が認められる事（寫眞76）

ハ、貨物用リフト

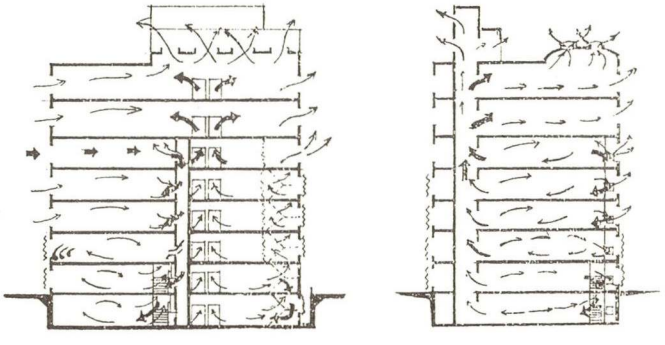
貨物用リフトは地階より5階まで通じてゐない事、然も其の開口部のスチールサツシユには普通の板ガラスがでパテ取り付けてあつた事、若し6階以上に發火した時、リフトは下階への延燒經路となり得ない事（寫眞77）

ニ、引火し易き品物

玩具の賣場が5階の西側窓際にあり、從つてセルロイド製品が西方よりの輻射熱により引火する可能性が充分にある事。

其他外壁の火焰による被害狀態を參考して延燒經路の概略を推定すれば次の如し。

即ち5階西窓より引火、エレヴエーターシヤフトを伴つて上階へ、リフトを傳つて下階



第78圖　延燒經過推定圖

へ延焼したと考へられる。

又、1階2階等（殊に2階は呉服賣場故）は防火シヤツターの過熱の爲内部可燃物に引火した事も考へられる。之を圖に示せば第70圖、第78圖である。

尙、1階及び地階の客用階段には防火シヤツター無き爲、此等の階段を傳つて1階から地階へ延焼した。又、1階及び地階の燃焼によるドラフトは之等の階段室を傳つて上方に昇り上階の破壞せるガラス窓より外部へ流出した爲、1階及び地階は2階よりも速かに燃焼を完了した。

2階は燃焼遲く、3日後の18日に防火シヤツターの一部分を切開いた處、空氣を吸ひ込んで再燃した。

4. 被害詳說

イ、構造被害

(1) 被害概況

建築物の構造は鐵筋コンクリート造である爲構造主體としての致命的な被害は無かつた。

被害の程度から云へば床版下面が最も甚だしく、次いで梁、柱、床版上面の順である、尙施工悪しき爲生じた被害は別に述べる事にする。

大體に於て上塗の漆喰及びモルタルは可なり火焰に抵抗してコンクリート面を保護したが結局脫水の爲收縮龜裂を生じてコンクリートと肌分れして剝落した。

一般に漆喰の厚き厚き程剝落に對する抵抗力大であるが、又廣面積に一度に脫落する傾向がある。厚き薄き時例へば田中屋の場合では火焰の強く當つた所から部分的に剝落して行く傾向が認められた。（寫眞83, 109）

又、コンクリートの剝落は稜の所に多く、漆喰は平面の所に多い、之は前者がコンクリートの膨脹並びに鐵筋の伸張に伴ふコンクリートとの肌分れにより、後者は專ら漆喰の脫水收縮により剝落するからである。又漆喰、コンクリートの何れにしても入隅の所は剝落が少い。

床版の四圍に木摺に漆喰を塗つて作つたハンチ型の有る所があつたが、勿論木摺は燒失して漆喰は剝落して居り、其の下の約3寸角の野緣も燃燒したが尙形を存してゐた、即ち此部分では漆喰が厚かつた（厚さ1.5cm位）關係もあり可なり長時間火焰に抵抗してから剝落したと思はれる。（寫眞79）

床版の下面

版の下面の上塗漆喰（厚さ約1cm）及びモルタルは梁に接續する附近を除き中央廣面積に亘り剝落した。火焰の特に強く當つたと思はれる部分にはコンクリート剝落し或は鐵筋の露出するに至つた所もある。

梁

床版同様下端の經間中央部から漆喰剝落し始め火焰の強く當つた所は下端鐵筋の伸張に伴ふ局部的溫度應力によりコンクリートの剝落せる處もあつた（寫眞　）

柱

柱の上部（腰はテラゾーブロツク張り）は最も被害少く漆喰剝落の程度であり、（寫眞80）下塗のモルタルは脫水收縮して網狀龜裂が生じてゐたが剝落せるものは少い。

柱の腰の部分は厚さ約2.5cmのテラゾーブロツク貼りであつたがブロツク其物の强度弱く、高溫に急熱された結果夫自體に龜裂を生じ又取付け用の埋木燃燒したりして脫落した斯うして火焰に露出する至つたコンクリートは更に長時間熱せられて脫水白色となり更に主筋、フープの線に沿つて龜裂を生じた、又埋木の在つた部分は夫の燃燒の爲深部までコンクリート脫水ガサガサになつて居り、骨材も膨脹して變質し割れたものも認められた。

此部分の被害特に甚だしいので其の原因を擧げて見ると（寫眞81）

a　燃燒物の位置の關係上長時間可なりの高溫に遭つた事

b　埋木が鐵筋の深さにまで達し、又埋木の無かつた所はテラゾーブロツク取付けの爲にコンクリートを掻き取つた爲に鐵筋が最初から露出した所もあり、斯る部分は鐵筋の過熱の爲夫に接する附近のコンクリート迄脫水し被害甚し、

c　斯る掻き取つたコンクリート面は表面にコンクリート打込當時のモルタルの平面層が無い爲に火焰に當る面積大であり被害甚し、殊にモルタルのよく廻つてゐない處など特に被害甚しくモルタルはセトントペースト收縮して細かく崩落してゐる。

巾木の部分には人造石が貼つてあつたが被害は無かつた。

エレヴエーター廻りには厚約15cm裝飾大理石が貼つてあつたが急熱されて不平均の膨脹をなし龜裂を生じて瓦壞した又表面は光澤を失つて粗面となつてゐた

大理石剝落後更に長時間火焰の集中を浴びたコンクリート柱（鐵筋無し寫眞88）は表面一樣に厚さ1cm內外剝落した上更に脫水甚だしくガサガサになつてゐた

床上面

床は大部分寄木張に眞鍮の目地が配してあつたが、寄木張は完全に燒失又は一部燒失炭化してゐた眞鍮目地は被害無し

(2)　各階の被害狀況

A　地階及び1階、2階 1)の被害

之等の階は開口部が防火戸、防火シヤツター等に塞がれてゐた爲、燃燒が緩慢で不完全であり溫度も低かつた。漆喰及びモルタルは熱の爲收縮してコンクリート面と肌分れして剝落したがコンクリート面は僅かに脫水したのみで被害少く、燃燒不完全の爲表面が褐色に汚染されてゐた。（寫眞82）

地階及び1階に防火シヤツター無かりし爲之等階段の階段室は火道となり煤煙の爲、黑色に汚損され、漆喰又、剝落せり、階段に敷かれたリノリウムは被害無かつたが眞鍮の滑

1)　松坂屋は既に地階1階及び2階を取り片附けて賣場に使用してゐる爲充分な調査が出來なかつた。

り止めは膨脹の爲變形凹凸を生す

B　3階、4階、5階

第83圖より第87圖に至る寫眞は夫々3乃至7階の被害を中央エレヴエーターシヤフトを中心に映したものである。

3階、4階、5階之等の階は平面圖內裝及び被害の程度も大同小異であり一括して說明する。大體に於て旣述被害概況で說明した通りである寫眞により其の詳細を示す 寫眞79は4階天井漆喰の被害、及び下地の木摺の被害　寫眞88は4階のエレヴエーター廻り柱の被害で3階、5階も同樣なり　寫眞81は5階の柱のテラゾー取附用の埋木によるコンクリートの被害

又、5階の東側の窓が火焰の出口となりし爲に之に接した天井の床版下端のコンクリート剝落して鐵筋が露出した（第89, 90圖）

尙此の場合電線引込用の金屬パイプがコンクリートの被覆中に埋込まれてゐた事が重要な原因となつてゐる、大體に於て此の金屬パイプは何れの床版に於ても龜裂又は剝落の原因となつてゐた。寫眞91は上記の床版に隣接するパネルの埋込用パイプによる被害である。

又3階の東北の階段出入口附近の床版を始め同樣の被害は可なりあつた。

C　6階

6階の兩側賣場は家具の賣場であつた爲、燃料多く、殊に家具が柱に接して配されてあつたと見え、又其の上に柱の外裝がテラゾーブロツク張で之が脫落した爲、柱の下部の被害特に著しかつた。甚しき場合は埋木の在つた近くで約10cm位の深さまで、コンクリートが脫水脆弱になり叩く事により容易に剝落するといふ危險な狀態にあつた。（寫眞81）

又南東部の講演室は椅子、其他道具類が多數あつた上、天井も高く、窓の位置も高く部屋の大きさも程よく間仕切られてゐた爲、燃燒特に甚だしく溫度も相當昇つたようである。

南側の窓に窓ガラスが水樣に熔けて「ツララ」の樣になつてゐた溫度は1000°Cを越えてゐたと思はれる。賣場と區劃してゐた厚さ約25cm太鼓張りの簡易間仕切りは燃燒崩壞し、天井の床版下面は廣範圍にコンクリート剝落して鐵筋露出せり。此場合にも埋込用パイプが惡影響をあたへてゐた

此の部屋には天井が取付けられ、壁も內裝がしてあつた爲か構造主體のコンクリートの施工が惡く被覆用のコンクリートが薄かつた嫌があつた

又東側の凹面の施工特に惡く最初から鐵筋が露出してゐた所もあつた。

東北隅の7階へ上る小階段には防火戶無く簡易間仕切で圍まれてゐたのみで同間仕切は燒失し爲に火焰は階段に向け集中して可なり被害があつた。

D　7階

7階西側の演場には呉服廉賣場があつた爲燃焼盛んで天井床版の下面の被覆コンクリートの剝落せる部分が多い。（寫眞92）

又食堂の天井はアーチ型をして演場よりも階高き上、トツプライトの網入ガラス一様に脫落又は懸吊した爲、火流は此のトツプライトの開口部から上方へ流出した、從つて食堂の天井床版、及び梁は被害特に甚だしく、溫度應力の爲にコンクリート剝落して鐵筋が露出せる部分多し（寫眞93）殊に寫眞に見る如く、食堂には天井が吊つてあり大梁の天井下に表れてゐる部分には漆喰が塗つてあつたが小梁始め、床版等の天井に隱れた部分は漆喰が塗つて無くコンクリートが露出してゐた爲此の部分の被害が甚だしかつた。

ハ、階段室

客用階段室は地階、1階を除き何れも防火シヤツターが降りてゐた。從つて最も被害の甚だしかつたのは地階及び1階の階段室で上塗用の漆喰及びモルタルが剝落した、然し下に敷いてあつたりノリウムは被害無し又之等の階から吹き出る黑煙の爲に階段室の內部は一様に黑く汚損された。此等の黑煙は上階の破れた窓より外へ吹き出た（寫眞94）

又各階に降りたシヤツターは熱の爲膨脹して彎曲し開閉不能となつた。之は殊に北側の大階段に甚しかつた（寫眞95）

但し同階段の6階及び7階は火焰が主として講演室、食堂等の方へ向つた爲被害少く、6階は半開き7階は完全に上まで開き得た（寫眞87）

又シヤツターよりの輻射熱の爲壁表面が焦げ殊に之に接近した壁の上塗部分的に剝落し更にコンクリート打繼個所に當る部分に龜裂が認められた。又窓ガラスは網入でなかつたので破損した。

東北偶にある店用の階段室は店室より防火戶により隔離されてゐた、防火戶が鐵板製であつた故輻射熱の爲壁體は焦げて黑くなつた程度で被害は大して無かつた。窓ガラスは網入の爲龜裂が入つたが破壞しなかつた。唯3階の鐵製防火戶の上のパネルに網入ガラスが嵌めてあつたが脫落して火焰吹き込み周圍の上塗漆喰が剝落してゐた（寫眞96）

6階から7階へ行く階段に扉が無かつた爲火焰吹き昇り、其の上部にあつた木摺、漆喰塗の天井が燒失した。

ニ、エレヴエーター・シヤフト

既述の如くエレヴエーターシヤフトは火道と化して主として上階への延燒徑路となつた

エレヴエーターのドアーはスチール製の三枚戶で厚さ2分の網入ガラスが溝に嵌め殺しになつてゐた。火焰の爲網入ガラスは脫落して熱氣流は該シヤフトに流入し上昇した。此の上昇熱氣流はベントハウスの窓ガラスを破つて外へ出た。（寫眞76）

地階より5階迄のエレヴエーター開口部は專ら氣流の流出口となつた。爲に開口部の被害甚だしく周圍の裝飾用の大理石は龜裂剝落しコンクリート面も一様に剝落し、又ドアーの外枠が坐屈して彎曲し、コンクリートと肌分れした（寫眞88）

スチールドアーも賣場の方へ向けて彎曲した。

6階及び7階のエレヴエーター開口部は下階よりの延燒徑路に當り氣流の流入口となつた。開口部の周圍は上階程甚しくなくドアーは彎曲したが、網入ガラスも一部脫落せずに殘つた（寫眞97）

8階（屋根）の開口部もドアーは彎曲したが網入ガラスは少し龜裂の入つた程度で完全に殘つた之は熱氣が主としてベントハウスの破壞した窓から抜け出た爲である（寫眞98）

ホ、リフト

既述の如く南側の窓に接して在る貨物用リフトは開口部にあるスチールサツレユの上下窓に嵌めてあつたシードガラスが破損消失して完全なる火道となり下階への延燒徑路となつた（寫眞77）

ヘ、窓開口部

一般窓開口部の被害

西側の窓は一般に空氣の流入口となりたる爲溫度低く、窓ガラスは破損したが、熔融せず又スチールサツシユも變形せず（寫眞354）

南及び東側の窓で防火シヤツターの無かつた所は火焰の流出口となり、スチールサツシユ伸張し坐屈し〻ガラスは熔け、殊に5階の南側の窓で液狀に熔けたガラスが方立に吹き付けられた所があり（寫眞101）

又6階講演室では「ツララ」狀にたれて居た之等は溫度が1000°C以上に昇つた事を示すシヤツターの一般に在つた部分は溫度は左程昇らずガラス板は熔融しなかつたが軟化して脫落し（寫眞102）溫度800°C位と看做される1）スチールサツシユの變形程度も小なり。（寫眞103は上下窓のスチールサツシユの熱による變形）

田中屋デパート

建物概況

1. 位置　　靜岡市吳服町3丁目

2. 建築面積　　461.66坪

3. 構造及び規模

イ、構　造　　鐵筋コンクリート造

ロ、階　數　　4階建

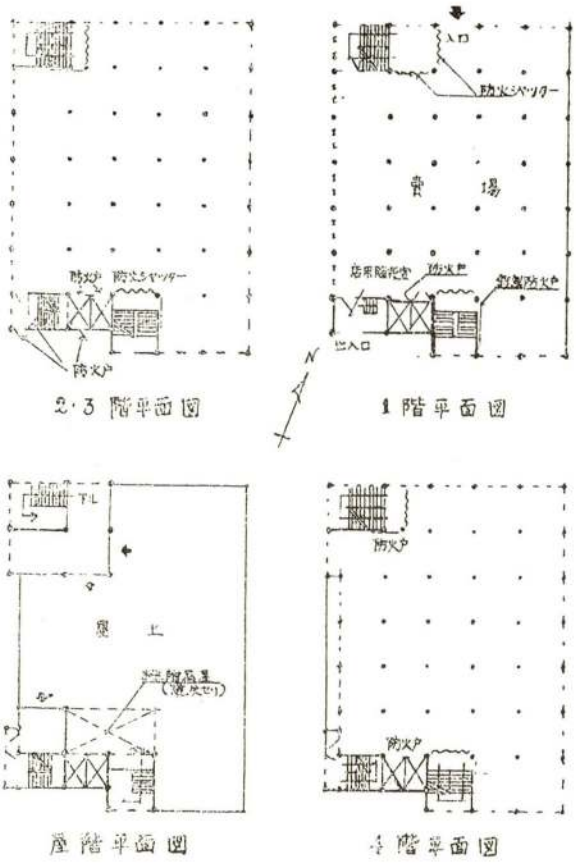
ハ、床面積　　1431.77坪

延燒狀況

松坂屋の延燒の主原因がエレヴエーターシヤフト、及びリフトにあつたのに比し、本建物では各階單獨に窓開口部から延燒して行つたとの說である。即ち、本建物に於けるエレヴエターシヤフトの各階開口部には防火扉（親音開きの鐵板張で內部にシンダーコンクリ

註 1）曹達硝子は500～600°Cにて軟化（指で押すとへこむ程度）800°C前後にて變形脫落1000°Cを越えて水飴狀に流れ落ちる

ート詰めたもの）が取り附けられ南側中央及び北側客用階段も防火シヤツターにて賣場と隔離され、西南隅の店用兼避難階段は階段室の前に前室ありての鐵扉にて賣場と隔離されて居た。然るに各階の窓開口部は西側を除きスチールサツシユにシートグラスが嵌めてあつた（西側は網入防火戸であつた）南側及び東側から火焔の猛襲を受け（時刻は午後6時頃で屋上より観てゐた店員の話によれば南東方の第3の發火點である下石丁1丁目歌舞伎座の方から逆に燃え上つて來た火勢であるとのこと）火は先づ西側3階の窓を破つて入り次いで南側附屬屋の燃燒火焔により1階2階へ更に4階へ夫々窓を破つて火が入つて行つたとの事である。（寫眞106. 107）



被害狀況

賣場　エレヴエーター階段廻りに人造石プロツクを貼付けたる以外構造主體はすべて漆喰（厚約5mm未滿の薄きもの）塗仕上げであり、漆喰は熱の爲脫水收縮し到る所、剝離してゐるがコンクリート面は表面僅かに脫水變色した程度で被害は少い。溫度は割合低くかつたと思はれる（寫眞108. 109）

3階の呉服賣場の部分だけ溫度割合昇つたと見え、局部的にコンクリート深さ6cm程も剝落した然しコンクリート其物は大して變質してゐなかつた事を思へば夫程溫度は高くはなかつた。寧ろコンクリートの施工が悪かつた爲と見るべきである（寫眞110）

階段室　南西隅及び北隅の階段は被害殆ど無し（寫眞112, 113）

南側中央の階段は3階の防火シヤツターの被害は特に著しかつた　一體に階段室に於ける防階シヤツターに接近した部分（約1m近く）の床面寄木張が燃燒して居り、又同シヤツター廻りの人造石は剝離脫落してゐた。又2階の階段室は窓から外部の附屬室の燃燒熱入りたる爲、被害甚しく、漆喰の剝落せる所あり

エレヴエーターシヤフト

.既述の如く防火扉の爲に延燒經路とはならなかつたようであるが扉の隙間から可なりドラフトはあつたらしく內部は、煤で一樣に黑くなつてゐた。又シヤフトの2階に當る外壁に鐵扉の出入口があり、附屬屋の燃燒熱の爲過熱されて反り、附近の鐵索のガイドレールが變形してゐた。

尙屋上に木造假設家屋があつたが燒失してゐた

窓開口部の被害

西側の窓は網入ガラス窓で、ガラスに龜裂が入つたが脫落せず、他の側のガラス窓は、火焰の出入の爲甚だしく損傷を受け、スチールサツシユ伸びて挫屈し、殊に窓枠變形し、且つ其のコンクリート壁との取付けが單にモルタルによつた爲、兩者肌分れした所が多かつた（寫眞114）

15. 土藏の効果

A. 種類

土藏には所謂木骨造土壁構造のものと石造、煉瓦造、コンクリート造等の種類がありますが火災後の殘存建物の主要なるものにつき述べると次の如くである

1. コンクリート造

充分耐火の目的を達してゐるが靜岡の燒失區域內にはこの種のものが比較的少なかつたのと殘存のものは特殊のものを除いて設計、施工が充分でなかつたために構造部の變形が多く再使用に耐えぬものもあつた位である。窓入口等の開口部については特に注意する必要がある。

2. 土藏

壁の厚味八寸以上のもので廿四返塗りの叮寧な施工をしたもので開口部の密閉を完全にしたものは大部分燒失を免れたが次の樣な一寸した不注意のために可惜財寶を失つた人もあつた

イ、開口の目塗りを完全にせぬため

ロ、床下の換氣孔の密閉を忘れたもの

ハ、屋根の瓦下葺土の淺薄のもの

3. 石造

外部廻りを石張りとした木骨石造の倉は耐火力の强い伊豆石のブロツク（2.7×0.7×0.3）を積んであるので充分効果を達したけれども燒失のものについては次の樣な原因のものが大部分である。

イ、昭和10年7月11日の地震のため龜裂を生じてゐたものをその儘としてゐた爲

ロ、屋根の部分の耐火力が壁體に劣りしため屋根より引火燒失せるもの

ハ、開口部の建具の不完全のため

ニ、同　目塗りを忘れたるもの

4. 煉瓦造

今度の火災で煉瓦造の倉庫は比較的完全に殘つてその偉容と効果を示してゐるが燒失したものはやはり以上述べた原因の何れかによつてゐる。

B 燒失區域內土藏其の他調

1. 石造

燒否ノ別		窓及入口ノ方向	建築以來ノ年月
燒失	否	東北	20年
	否	東北	30年
燒失		東南	25年
	否	西南	30年
燒失		西南	
	否	西南	33年
燒失		東北	
	否	東南	25年
	否	東西	
燒失		南西	30年
	否	南	16年
燒失		南北	40年
	否	南西	20年
	否	南北	25年
	否	南西東	20年
	否	南	25年
燒失		南北	70年
燒失		南北	30年
燒失		西東	10年
	否	西	30年
	否	東西	30年
	否	東西	

	否	南東	27年
	否	東南	20年
	否	北南	
	否	東南	
	否	南北	30年
燒失		東南	
燒失		東南	60年
	否	東西	50年
	否	東西	
	否	西南	14年
燒失		東西	70年
	否	南西	70年
	否	東南	70年
	否	東	60年
	否	東南	100年
燒失		南北	20年
	否	東西	30年
	否	南北	8年
	否	南北	
	否	東南	
	否	南北	
	否	東北南西	20年
燒失		西北	50年
燒失		北南	50年
	否	南北	45年
燒失		東南	1年

燒失		東南北	4年
燒失		南北	40年
	否	南北東	50年
燒失		西東	
燒失		南北	30年
燒失		南北	
燒失		南北	
燒失		北南	60年
	否	西南東	
	否	南北	45年
	否	南北	20年
	否	東	20年
燒失		南北	
燒失		東南北	
燒失		南北	
燒失		南北	
燒失		南東	
	否	東西南北	
燒失		東西南北	
	否	東北西	40年
燒失		南北東	40年
燒失		南北東	45年

計 70棟

內譯 燒失 30棟

燒失セザルモノ40棟

2. 土　藏

燒否ノ別 燒失	燒否ノ別 否	窓及入口ノ方向	建築以來ノ年月
	否	北西	22年
	否	東南	45年
	否	北西	35年
燒失		東北	50年
燒失		東西南北	33年
燒失		東南	37年
燒失		西南	55年
燒失		東北南	
	否	南北	20年
	否	西北	42年
	否	西北	20年
	否	東南	20年
	否	東	60年
燒失		南	20年
燒失		西	8年
	否	西	14年
燒失		東	30年
燒失		西東	5年
	否	南	10年
	否	南北	30年
	否	南北	60年
	否	西南	40年
	否	南北	25年
	否	西	40年
	否	東西南	40年
燒失		西	40年
	否	東西	17年
	否	東南北	40年
	否	西南	
	否	南北	100年
燒失			
燒失		東西南北	40年
燒失			
燒失			38年
	否	南北	60年
	否	南北	100年
	否	南北	
	否	東西	
	否	西北	32年
	否	西北	50年
	否	西北	
燒失		南北	30年
	否	東南北	5年
燒失		東南北	5年
燒失		南北	40年
燒失		南北	
燒失		南北	
	否	南北	20年
燒失		南北	50年
燒失		南北西	70年

計　50棟
{燒失　21棟
{燒失セザルモノ　29棟

3. 混凝土造

燒否ノ別 燒失	燒否ノ別 否	窓及入口ノ方向	建築以來ノ年月
燒失		南北	
	否	東西	
	否	南	3年
	否	東	5年
	否	南	5年
	否	南北	5年
燒失		南東西	10年
	否	西南	20年
	否	北西	15年
燒失			
	否	南北	
	否	東北	15年
	否	東南	9年
燒失		南北	
	否	東西	
	否	南北	
	否	南北	10年
	否	南北	3年
	否	南	7年
燒失		東西南	
	否	東西南	
	否	東西南	
燒失		南北東	
燒失		西南北	
燒失		東西南北	18年
燒失		東西南北	6年

計　26棟
{燒失　9棟
{燒失セザルモノ　17棟

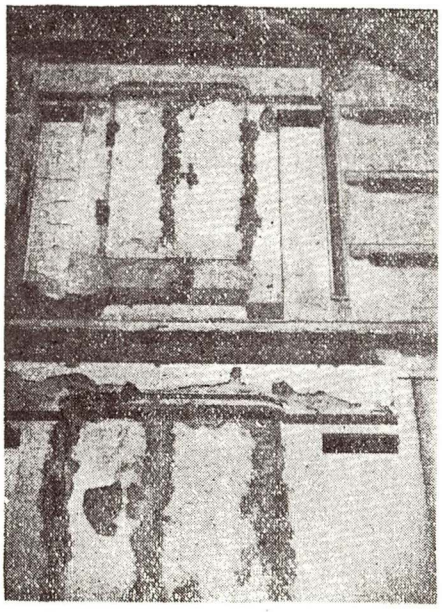
4. 煉瓦造

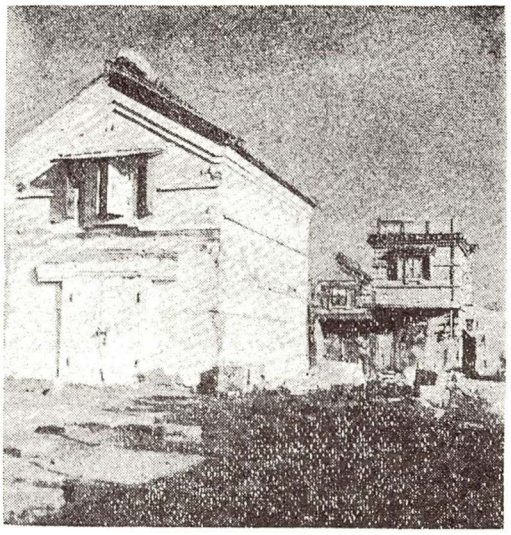
燒否ノ別 燒失	燒否ノ別 否	窓及入口ノ方向	建築以來ノ年月
燒失		東南北	
	否	西	40年
	否	東西北	35年
	否	東南北	30年
燒失		西北	40年
燒失		西北	25年
	否	南西	
	否	東	
燒失		東西	30年
燒失		東西	
燒失		南北	
燒失		南北	10年
燒失		南北	30年

計　13棟
{燒失　8棟
{燒失セザルモノ　5棟

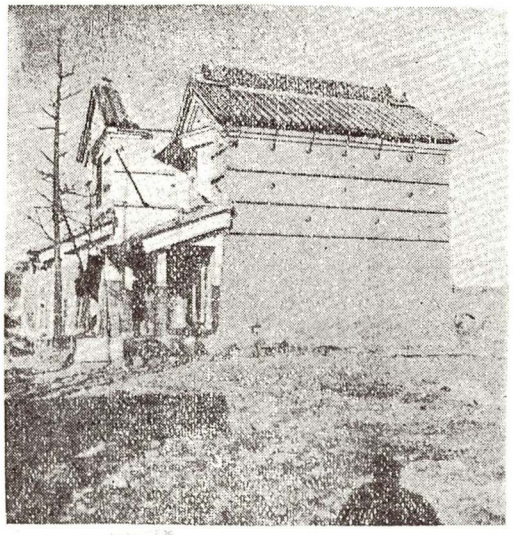
(115)

目塗りを完全にして燒失を免れた土藏の例



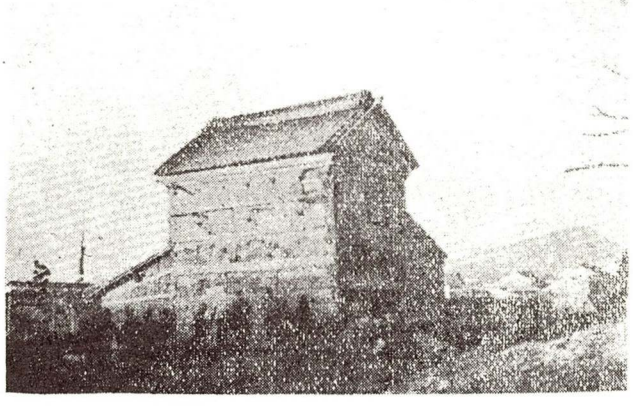


(116) 下石町附近の土藏



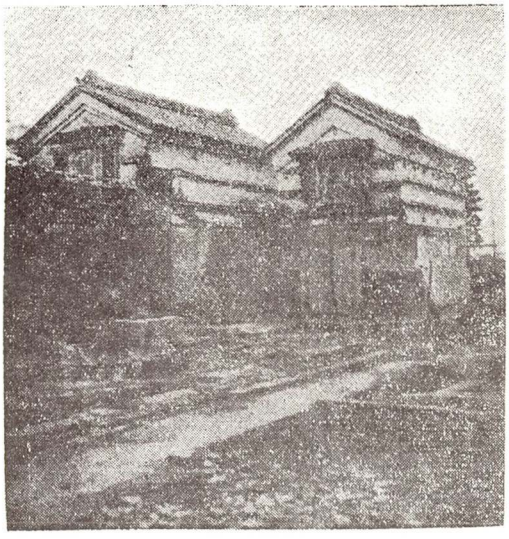
(117)

本通り五丁目に燒殘つた土藏



(118)

吳服町附近の土藏樹木と空地のため完全に殘つた例

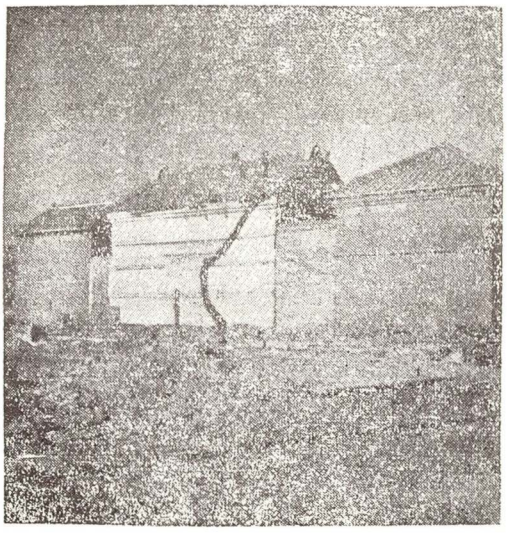


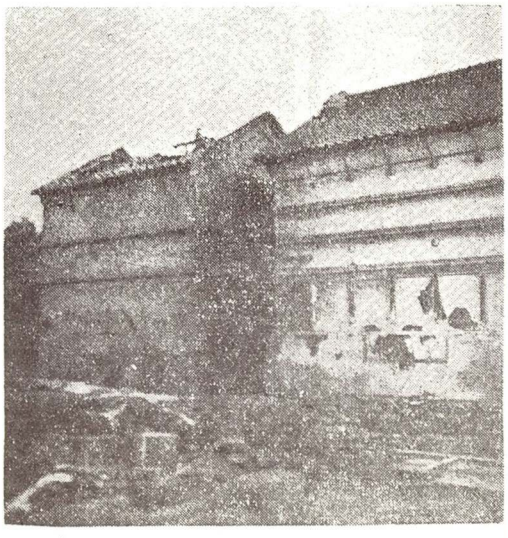
(119)

吳服町望月商店所有の土藏午後3時頃火焰を受けたが安全であつた

(121)

防火完璧の三聯倉の例
煉瓦——土藏——煉瓦



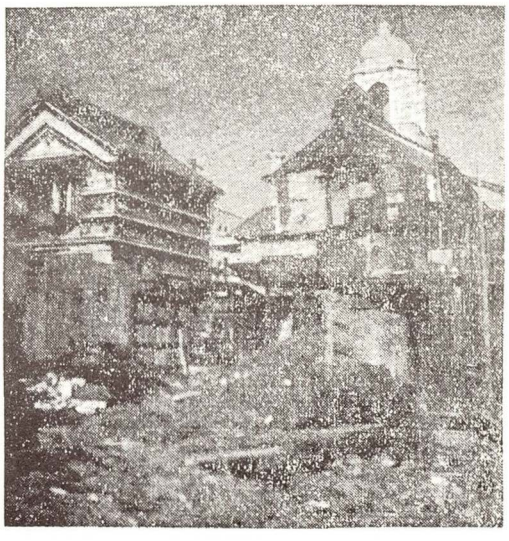


(120)

前の石藏によつて火焰を妨げられ完全に殘つた土藏の例

(122)

吳服町の土藏
左の倉は完全に殘つたが右の方は木造附屬家の接合部が不完全のため藏も類燒した



(123)

呉服町市廳南側の燒け殘つた藏の群列の一部でこれによつて官廳街への延燒を防止することができた



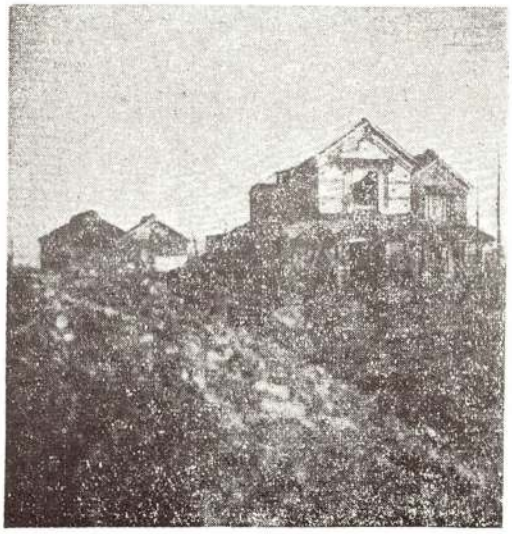


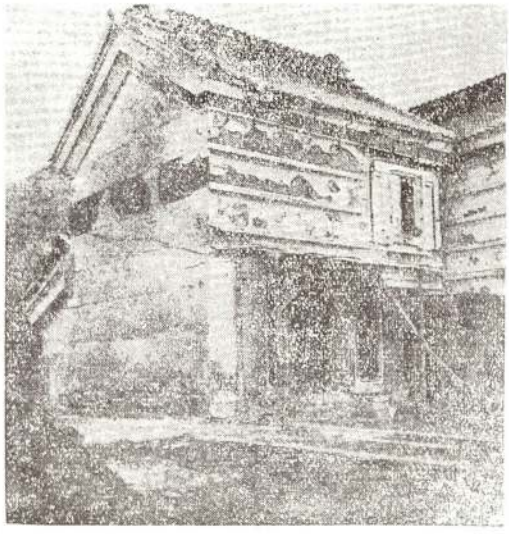
(125)

呉服町日赤病院裏の土藏

(124)

下石町附近の土藏



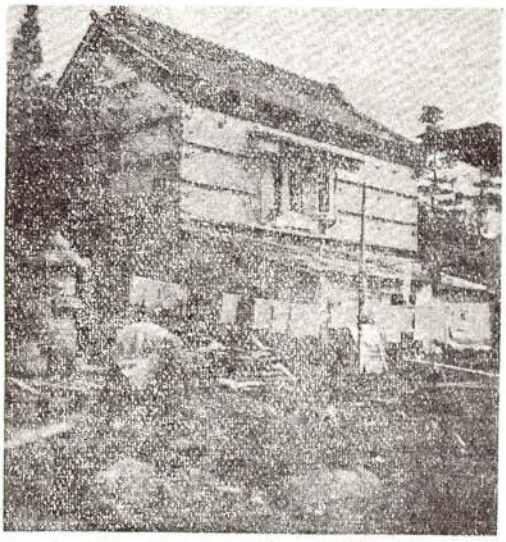


(126)

呉服町のタナカヤ西側の武田龍吉舖藏の例屋根瓦の變色及壁面の破損狀況から推して長時間高熱の猛焰の中にあつて能く耐抗した樣が見られる、店の間の商品に些の異狀なく早速開業してゐた土藏としての効果を十分に發揮した好例である。



（127） 雨香町4丁目附近の土藏(安全)



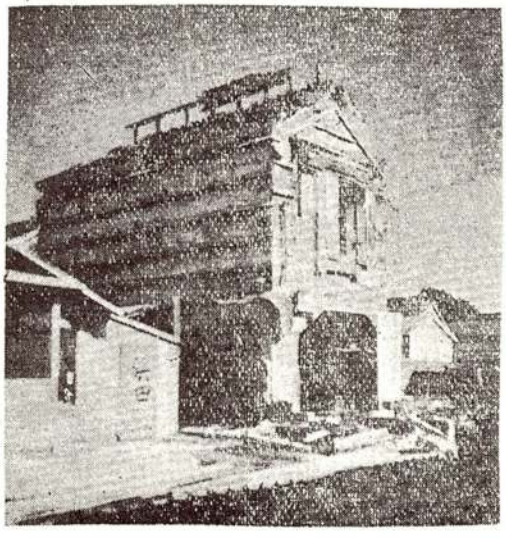
（128） 吳服町の殘存土藏母屋を燒失して會前の庇を燒いたが藏は安全であつたので、目下藏住ひの有樣である周圍に庭木のあることは防火になります

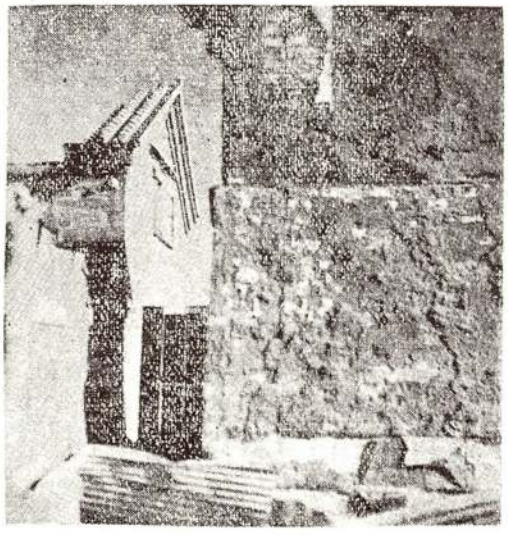


（130） 吳服町の土藏の連續線

（129） 吳服町の元御用邸裏の燒失土藏の狀況この邊は5時20分頃の猛火にあつて燒け落ちたのである。

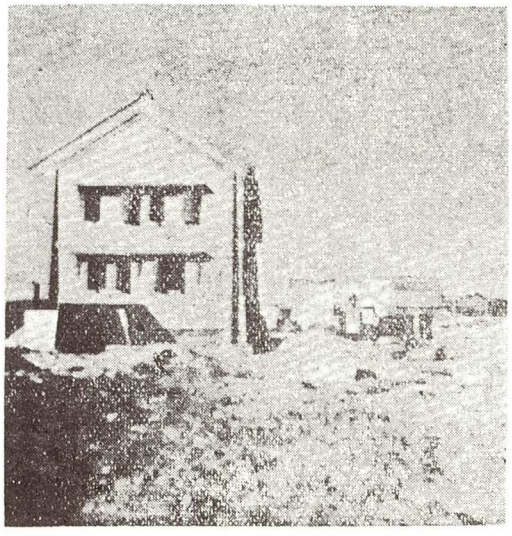
（131） 紺屋町附近の煉瓦藏昭和10年の地震の際に垂直に龜裂ができたのを補修外裝を加へたのであつたが安全であつた左脇は石造の米倉で燒落ちた。





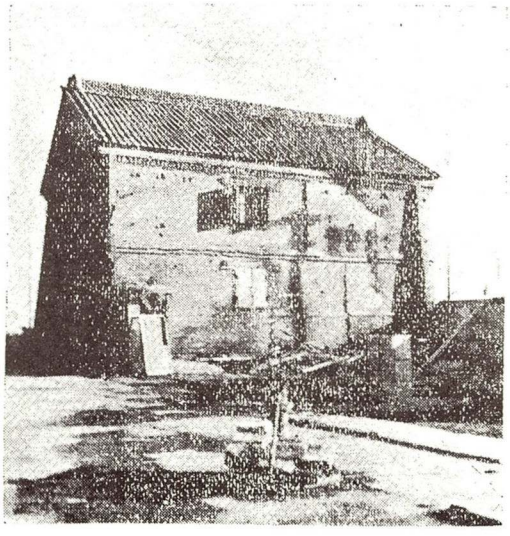
（132）

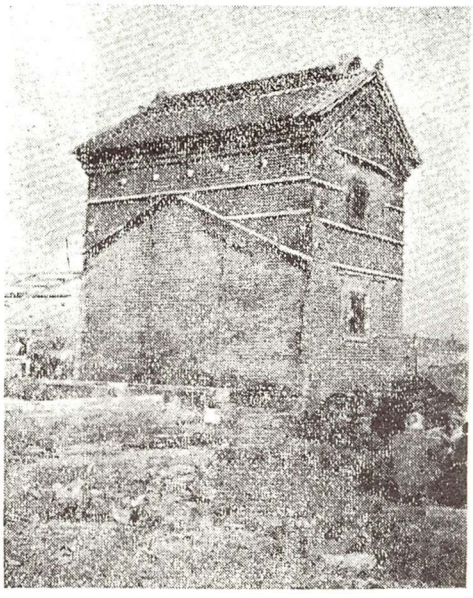
下石町の煉瓦造倉庫8×4間の完全なるもので出入口に窓廻りの完備せる裝置は煉瓦藏としての使命を完全に遂行してゐる。



（133）

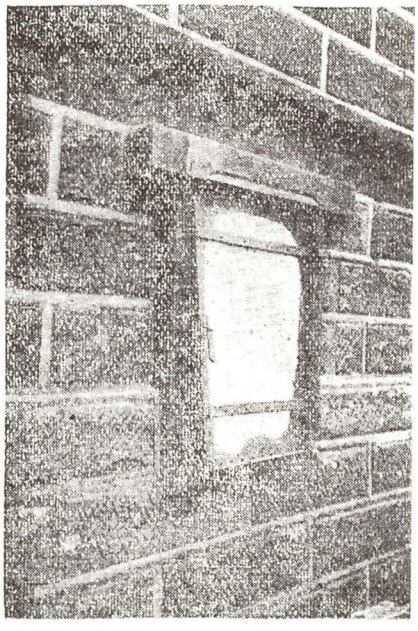
前寫眞と同じ矢澤倉庫の側面、煉瓦造の建物を再び見直すことの必要を感ぜさせる





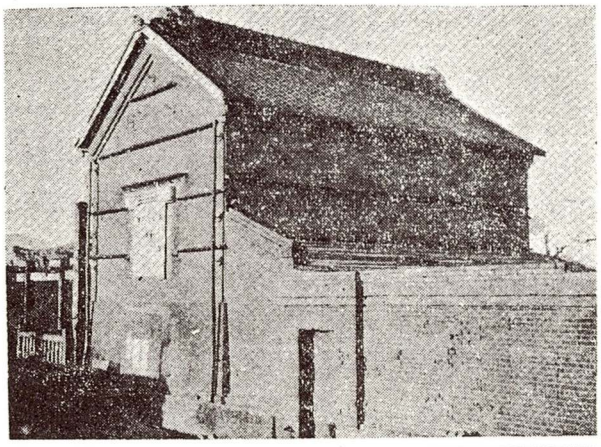
（134）

傳馬町附近の煉瓦造倉庫



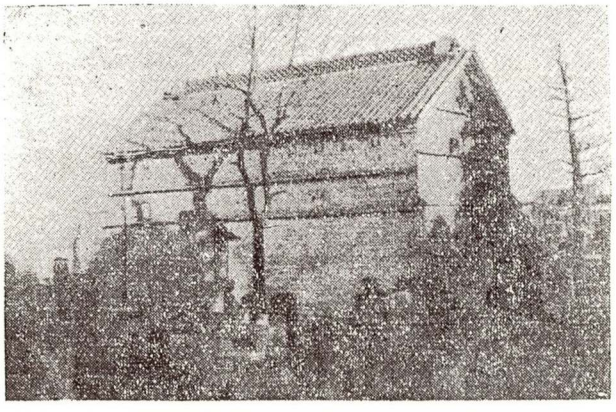
（135）

吳服町——田中屋百貨店東側に在る內部燒失の石藏、扉の反張せるを示す



(136)

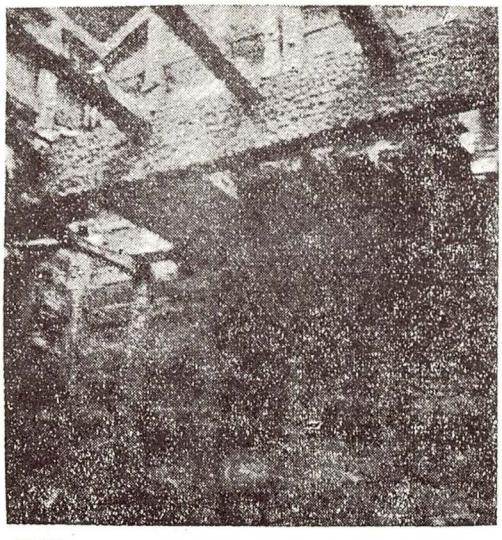
石造倉庫の完璧



(137)

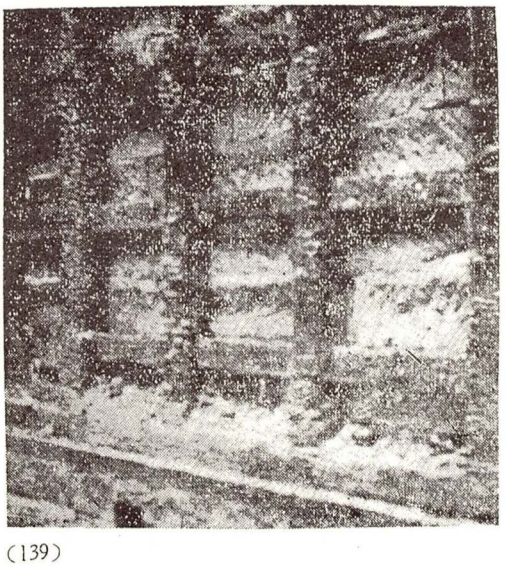
西寺町

石藏、周りに墓地樹木ありしため完全であつた例



(138)

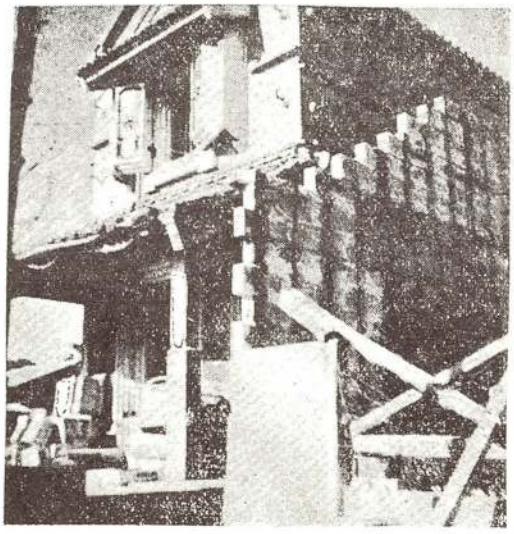
吳服町の日赤病院裏3間×3.5間の石藏の内部燒損の狀況、伊豆石の目地から引火した形跡がある



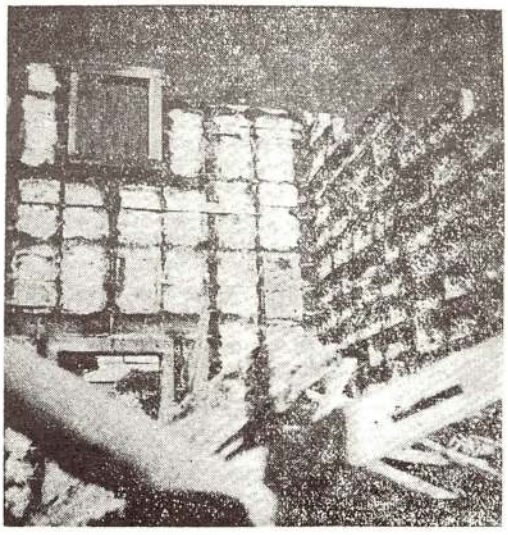
(139)

前寫眞の詳細 間柱は0.4×0.45尺が1.9尺、間に立て貫は0.08×0.42尺を 1.7尺間に通してある、內部板張りで石積の裏が塗つてなかつたことは引火を誘導したのである

(140)
呉服町の石藏、右側の石藏は3×2間であるが午後3時半頃に母屋の時計店が燒失したがこの石藏の扉は目地から引火してゐる。内部の時計及貴重な檢査機械を救出すべく一旦閉めた入口を開けた瞬間に内部2階床が燒落ちたのである。

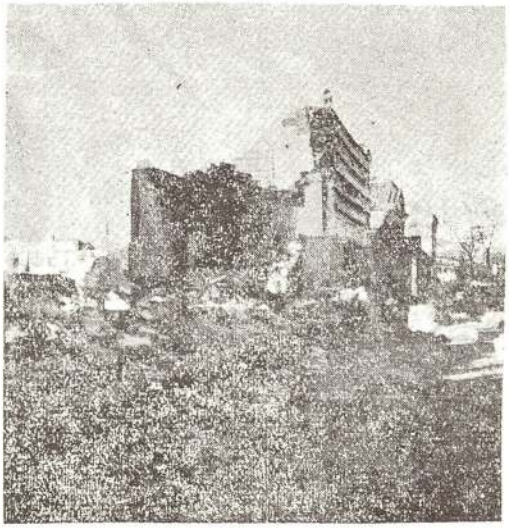


(141)
同内部詳細
間柱と間柱の間は丁寧に左官仕上をしてあつた、この藏の入口脇に目塗用の土溜めがあつて蓋をしてあつたが之が使用法については全く徹底してなかつた樣である。

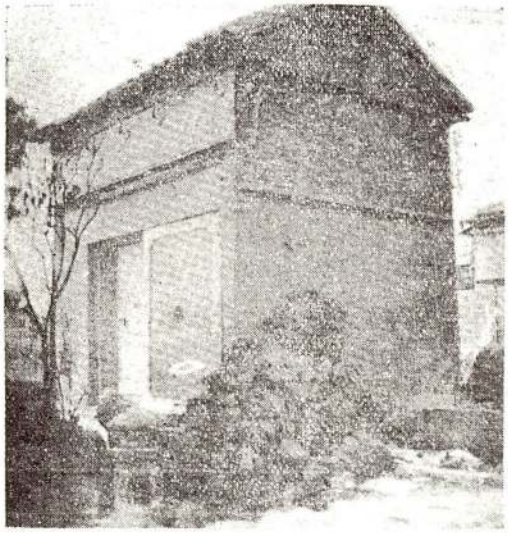




(142)
左側の3×2間の石藏は前に木のあつた爲と石綠の施工が完全であつたので延燒を免れた。

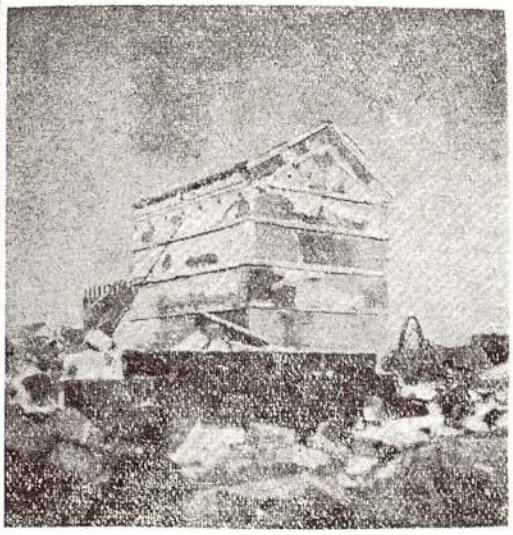


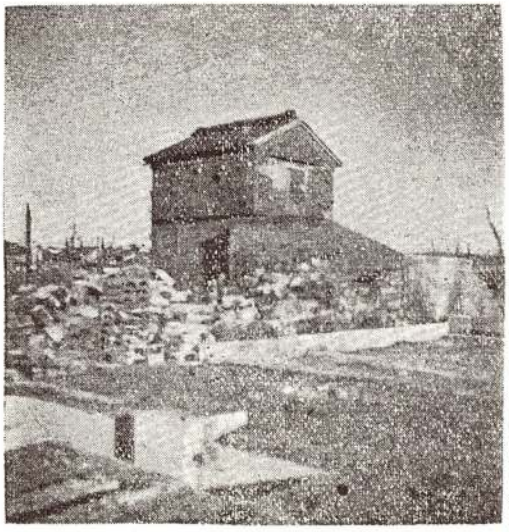
(134)
石造の燒失藏の外廓で取毀ちに手間のかかるものである石藏の燒失は大部分目地から引火してゐる。



(144)
吳服町のタナカヤ西側の殘存石倉である
入口扉の完全なると周圍の庭園空地は結局燒失を免れしめたのである。

(146)
燒失石藏の外廓、長時間猛火に包まれてゐた跡がハツキリ見られる





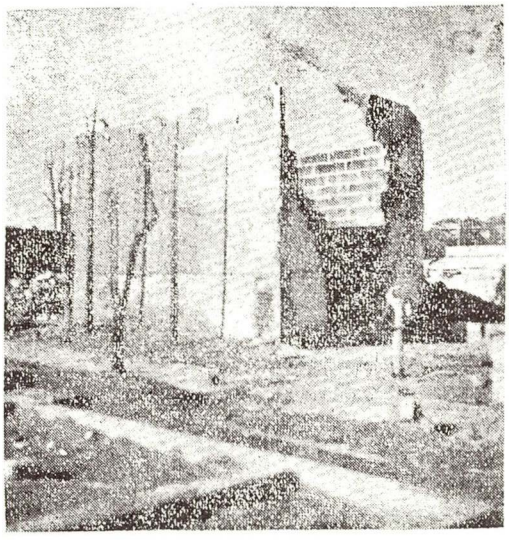
(145)
完全に殘された石藏

(147)
吳服町3丁目の石藏午後8時頃火焰をうけたが植木と周圍の空地のために無事であつた、この藏の內部小屋材はすべて櫻が使用されてある。

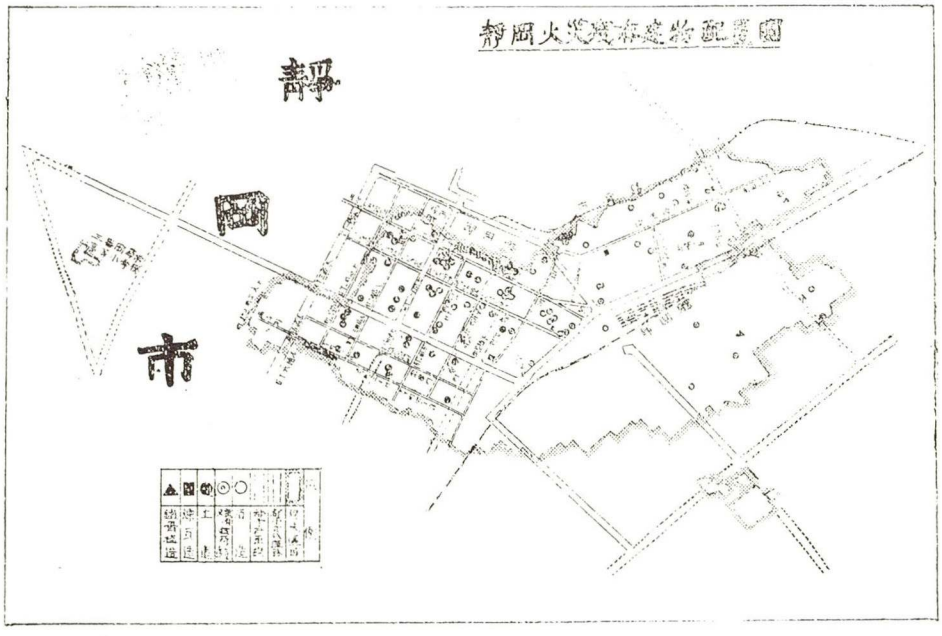


(148)

石藏の外廊



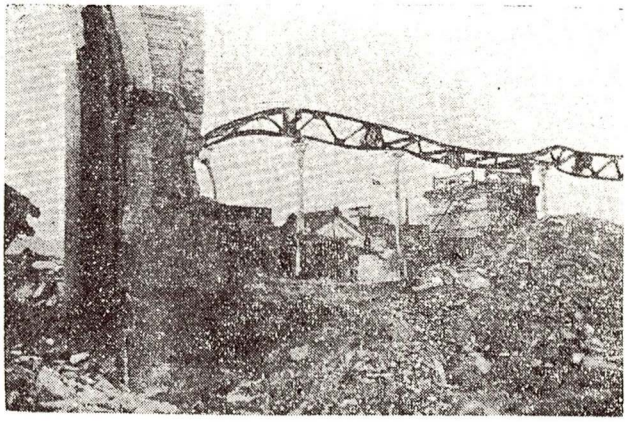
第149圖



16. 其　他

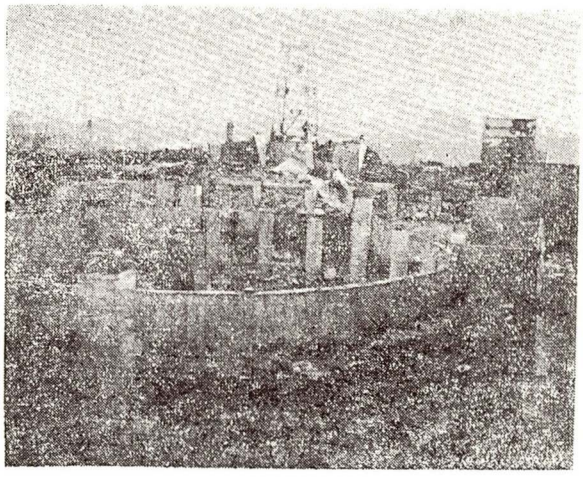
歌舞伎座及靜岡映畵劇場

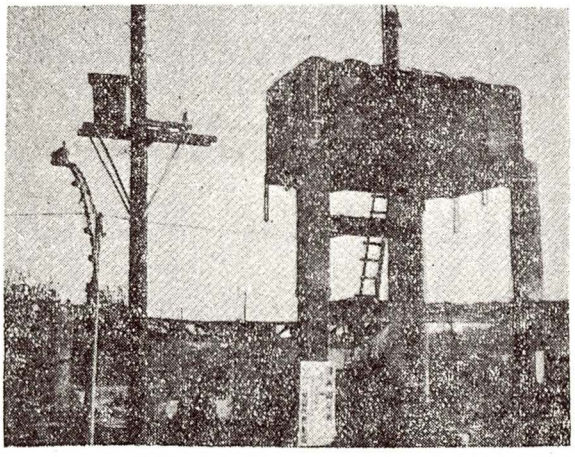
之等木造高層建築物は今回の火災に於て最も良く飛火を受け且つ自家消防亦困難であつた爲、容易に發火し上階より下階へ延燒したものが多く更に附近に飛火を發生傳播して延燒を速進したのであつた。



(150)
歌舞伎座の観客席の鐵骨の被害状況

(151)
歌舞伎座舞台下奈落の燒跡



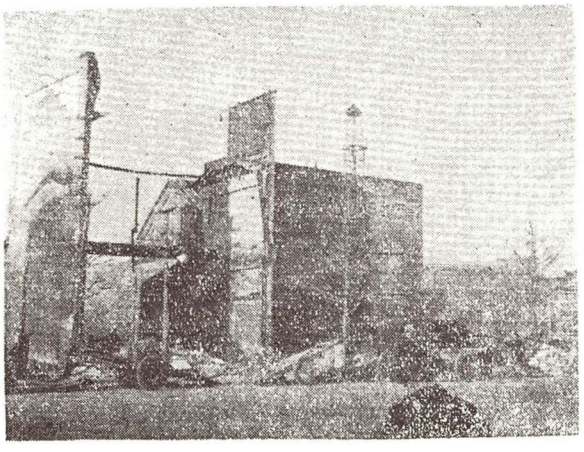


(152)
靜岡映畫劇場の撮影室
(鐵筋コンクリート造)

(153)

靜岡映畵劇場の燒跡全望



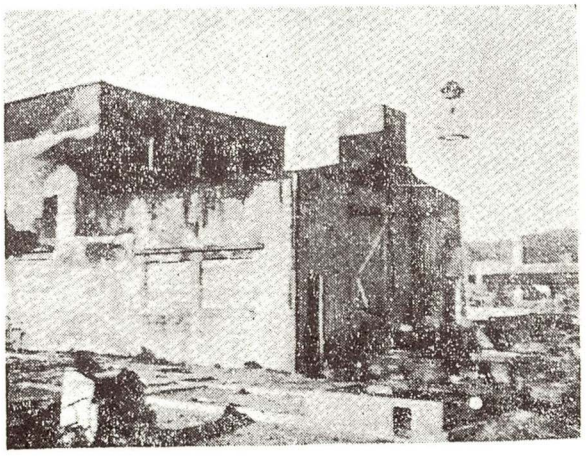


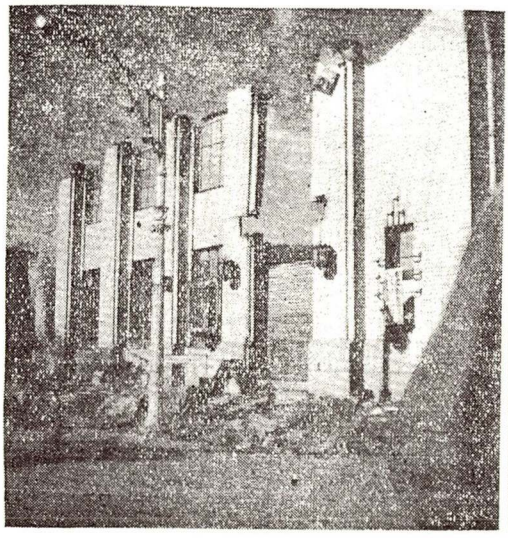
(154)

下八幡町12間道路に面して建てられたる靜岡丸神運送第4倉庫と事務所である。木造部分は東西の煉瓦造防火壁を殘して完全に燒失してゐる。

(154)

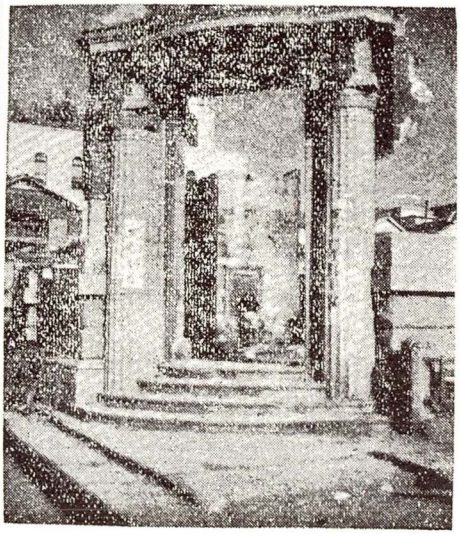
森下町の1面燒野原と化せる中に骨格のみ殘せる風呂屋である。大正13年頃の建築にて鐵筋コンクリート造で各開口部の防火的處置が不完全であつた爲內部は全部燒失してゐた。構造主體は施工の劃合粗雜であつたのにも關らず仕上材料の犧牲的保護に依り大した被害を受けて居なかつた。





(157)

愛知銀行靜岡支店（吳服町3丁目附近）木造2階建にて南側の外壁（木骨モルタル下地タイル貼り仕上げ）のみ殘存し他は完全に燒失してゐた。



(158)

不動貯蓄銀行靜岡支店（吳服町4丁目附近）木造2階建にて出入口廻りの石造部分のみを殘し全部灰燼に歸してゐた。

昭和15年度災害强度委員會委員　（五十音順）

（○印大火調査小委員）

大林組
委員長
渡部圭吾

大阪府建築課
幹事
淺野新一

大林組
幹事
黒田茂

松尾橋梁株式會社
淺井郁爾

大阪市營繕課
大野勝三郎

大阪府建築課
岡田朴

大阪府建築課
景山正明

竹中工務店
小泉昇

日本ポルトランド
セメント同業會
○佐々木俊則

兵庫縣建築課
菅陸二

長谷部竹腰建築事務所
園部泰文

大阪市建設課
竹花末春

大阪府建築課
○長尾清一

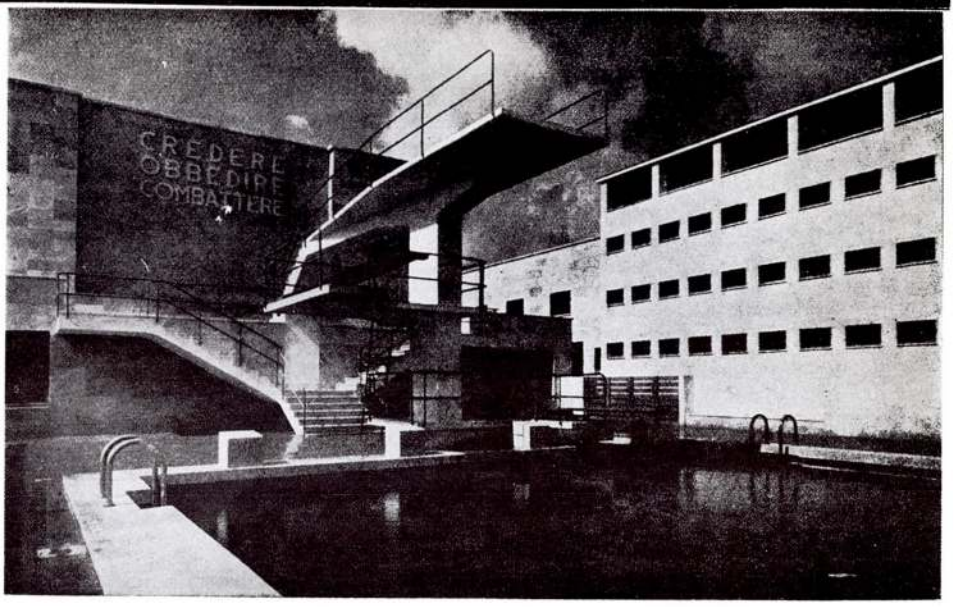
大阪府建築課
中野吉彌

大阪府建築課
後出清範

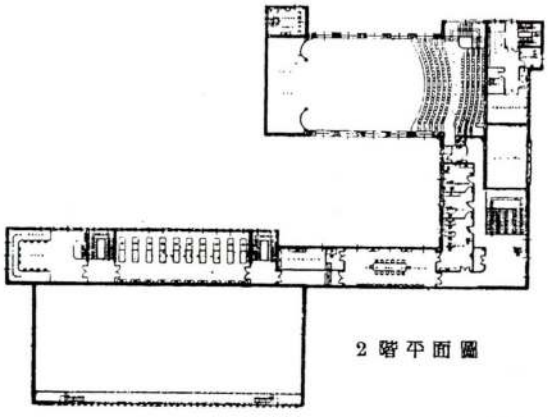
大阪府建築課
星野一雄

藪中建築事務所
藪中良一

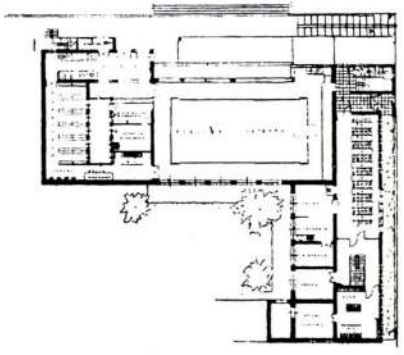
大林組
矢田鐵藏



屋外プール



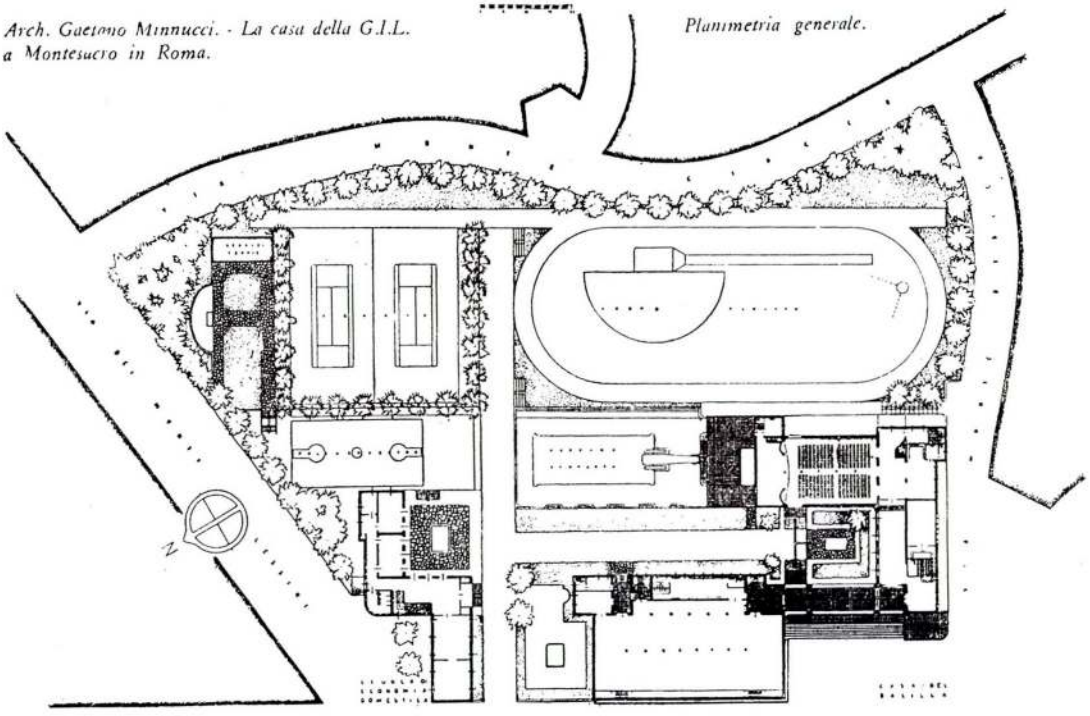
2階平面圖



地階平面圖

Arch. Gaetano Minnucci. - La casa della G.I.L. a Montesacro in Roma.

Planimetria generale.



（イタリー）　ローマのリットリオ青年隊塾堂　　建築家・Gaetano Minnucci



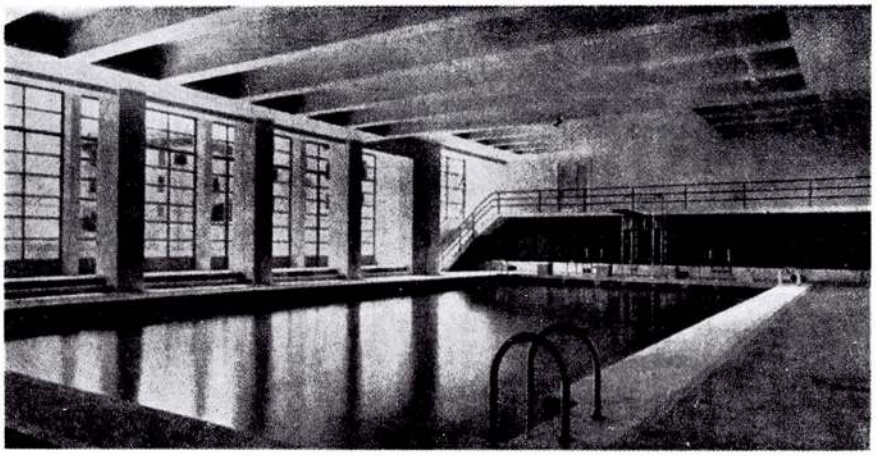
主 要 玄 關

本塾堂は初め1934年に計畫されたものであるが，その後様々の事情からこゝに見る如く計畫を變更し竣工した。全敷地面積16,000平方米の内出來る限り運動場を廣くとり7,800平方米も與えてゐる，この建物の内容は次の如く大別出來る。即ち

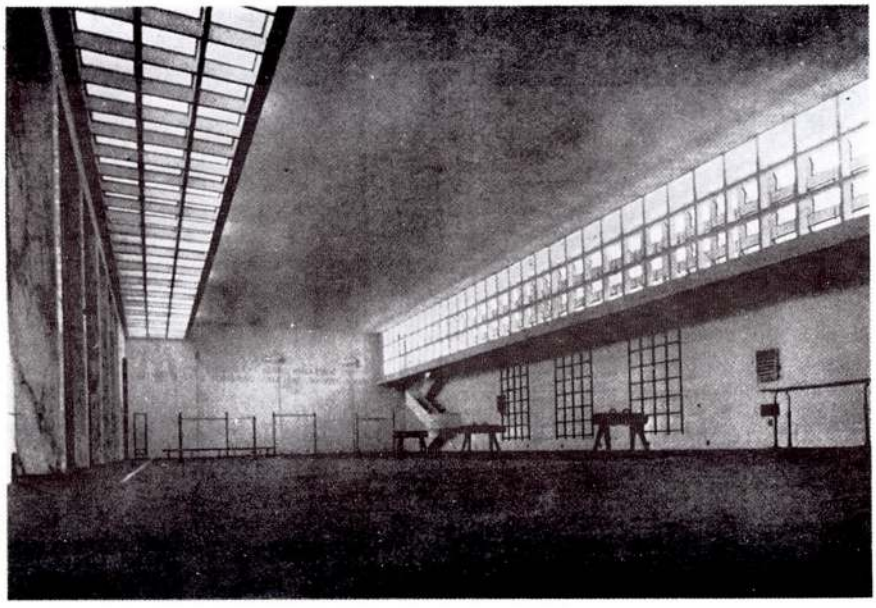
1）會合室，食堂，料理室，醫務室，事務室等を含むリットリオ青年隊のための建物
2）映寫設備を持つ劇場
3）諸設備の完全な屋外及室内プール
4）外套室，日光浴室のある體操場
5）附屬幼稚園のある家政學校

この内家政學校（配置圖の中央通路の左）は完全に獨立して使用出來る樣配置されてゐる。

（Architettura, Dic., 1939より）

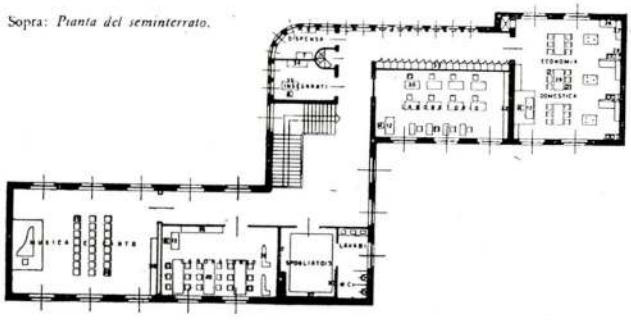


屋内プール

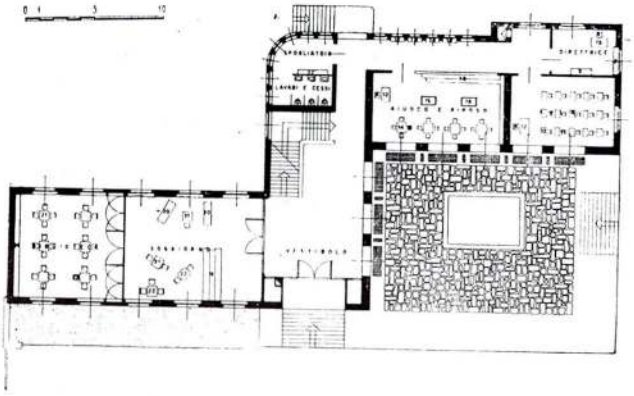


屋内體操場

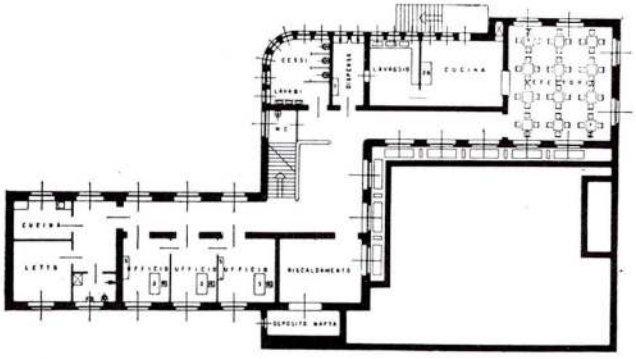
Sopra: *Pianta del seminterrato.*



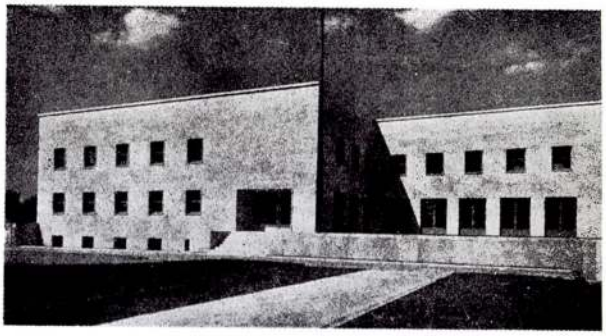
2 階平面圖



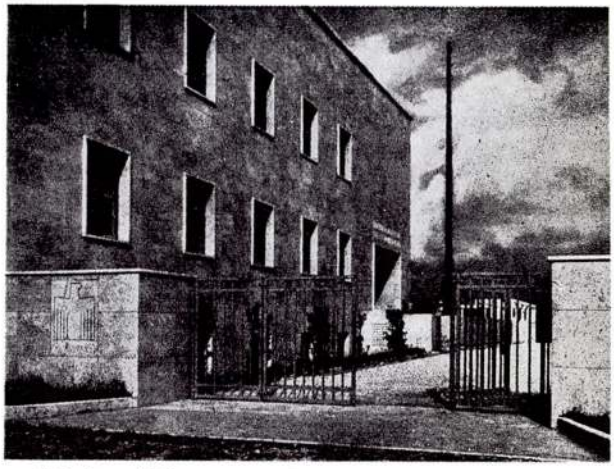
1 階平面圖



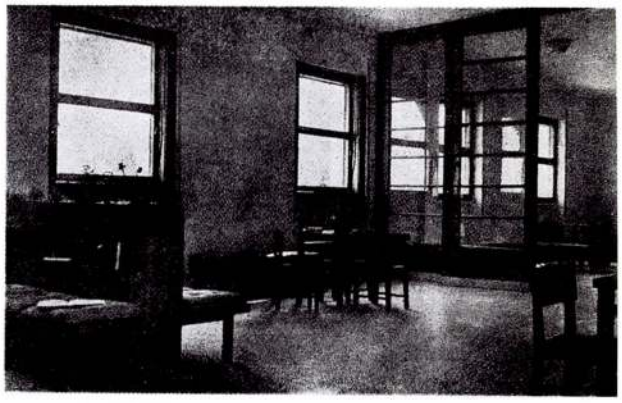
地階平面圖



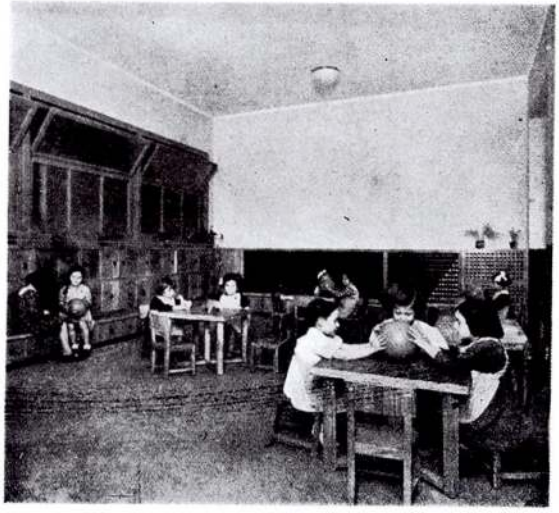
主要玄關附近外觀



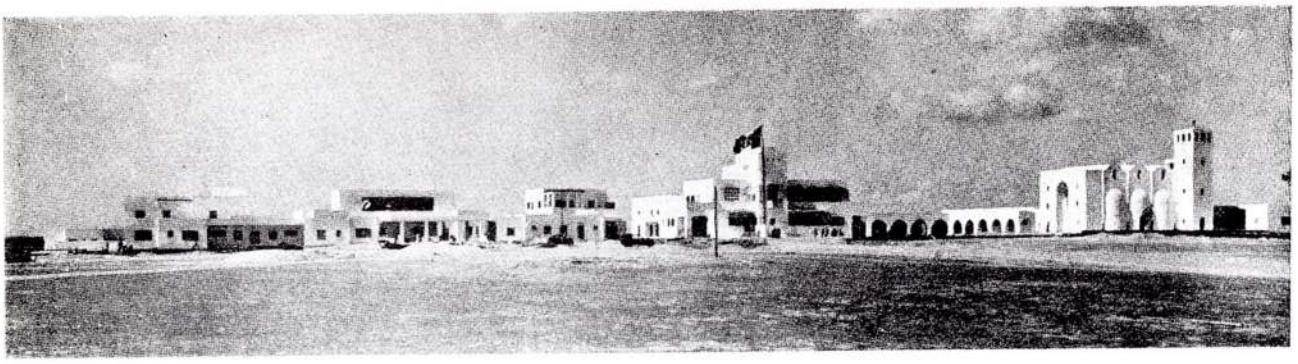
門からの外觀



青年女子用會合室



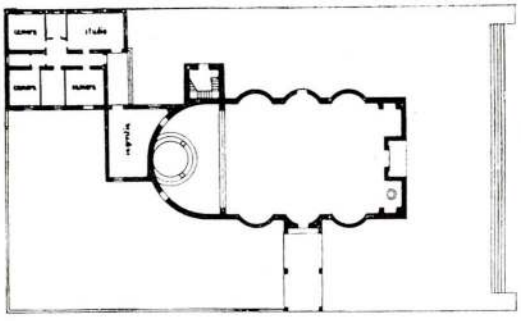
幼稚園教室



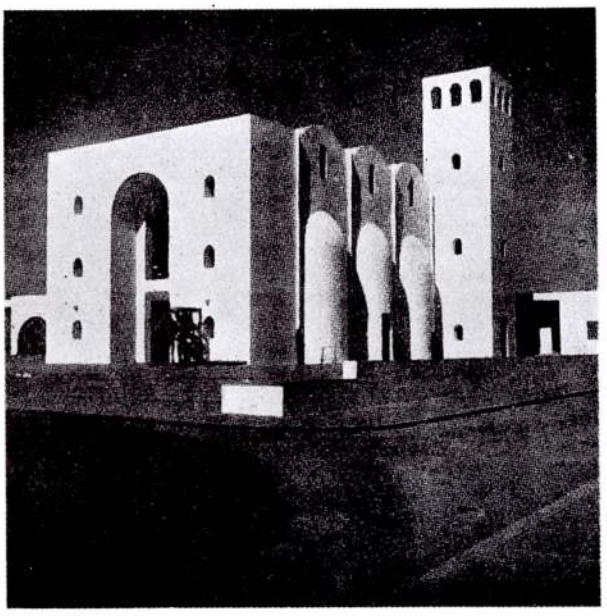
ミズラータ地方クリスピ村概觀



敎會堂外觀



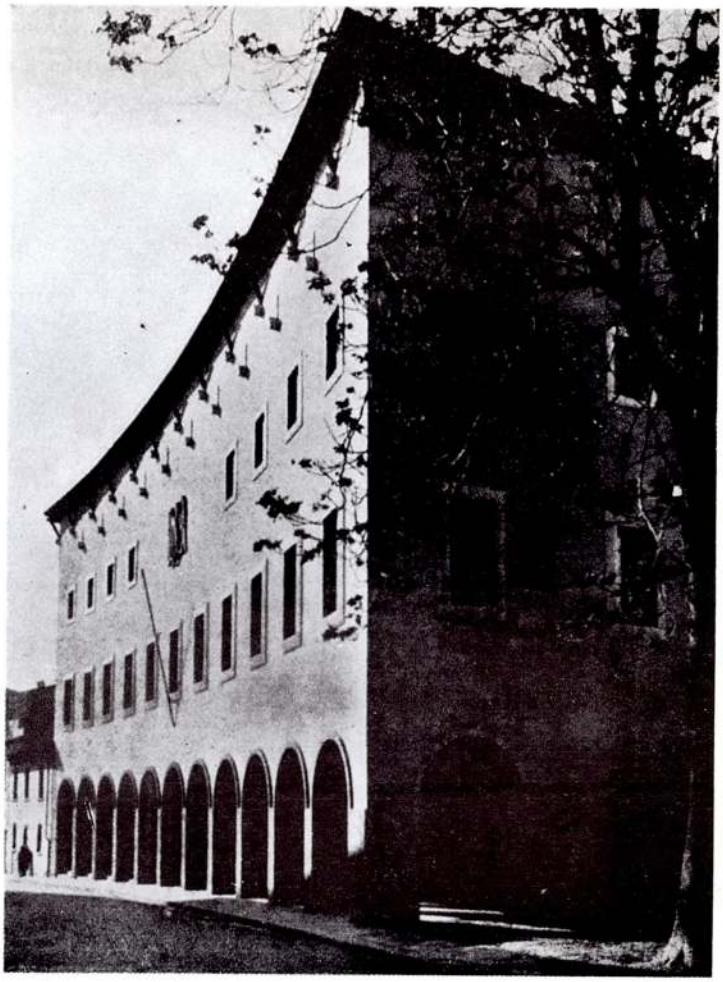
敎會堂平面圖



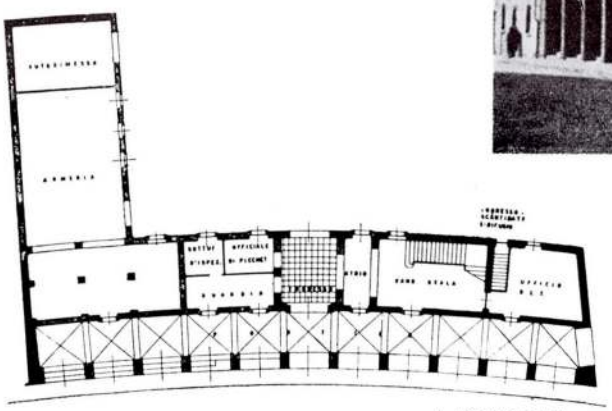
敎會堂外觀

（イタリー） リビヤ・ミズラータ地方の植民建築

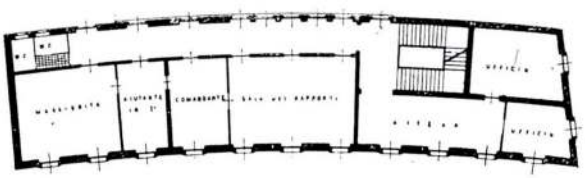
建築家・Giovanni Pellegrini



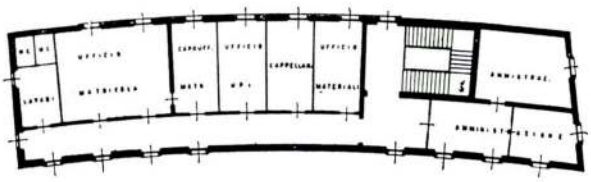
ガリバルヂ通の外觀



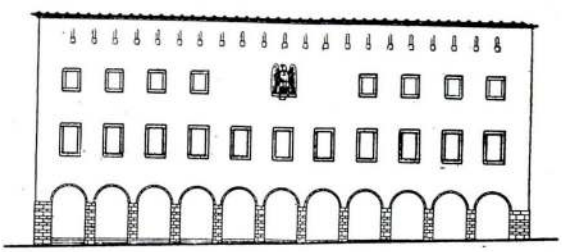
1 階 平 面 圖



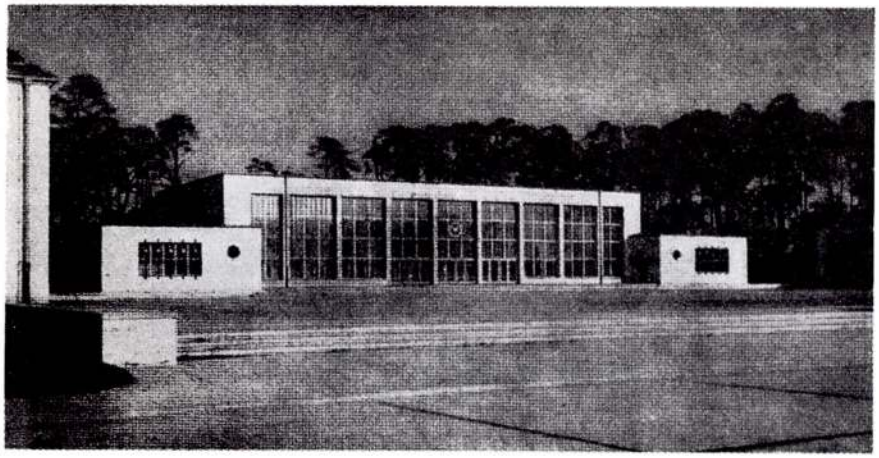
2 階 平 面 圖



3 階 平 面 圖



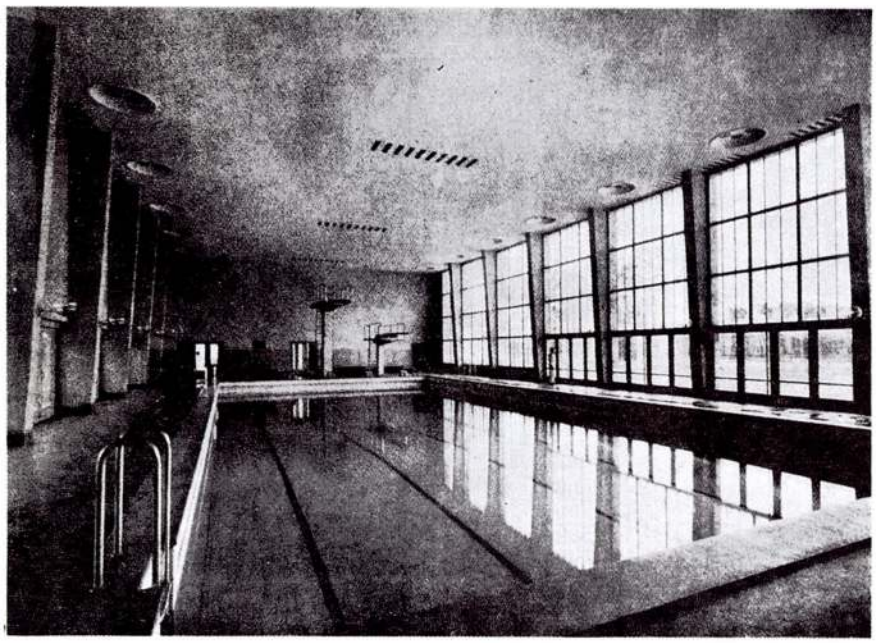
正 面 姿 圖



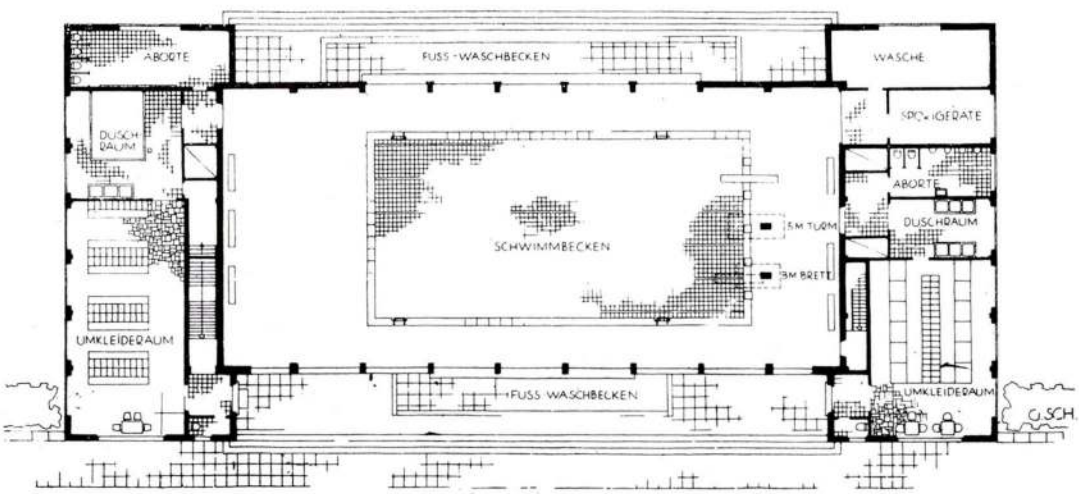
外　　觀

獨逸の航空兵器聯隊の構内にある室内水泳場でプールの大さは 12×25m. で高5mの飛込臺がある。更衣室，灌水場，便所等が附屬して居る換氣及暖房は溫水管による溫風裝置による。

(Moderne Bauformen, Jan., 1940 より)



内　　部



平　面　圖

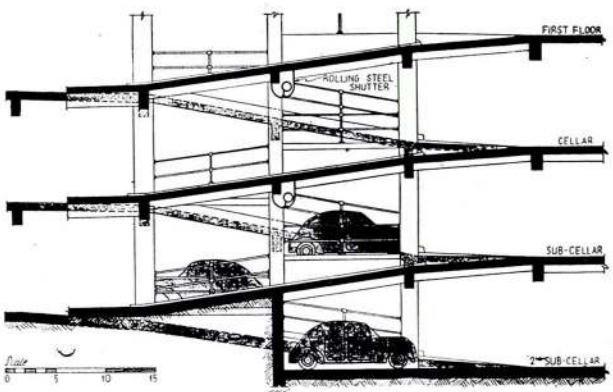
116　(ドイツ) 室内水泳場　　設計・航空兵器建築局



外観

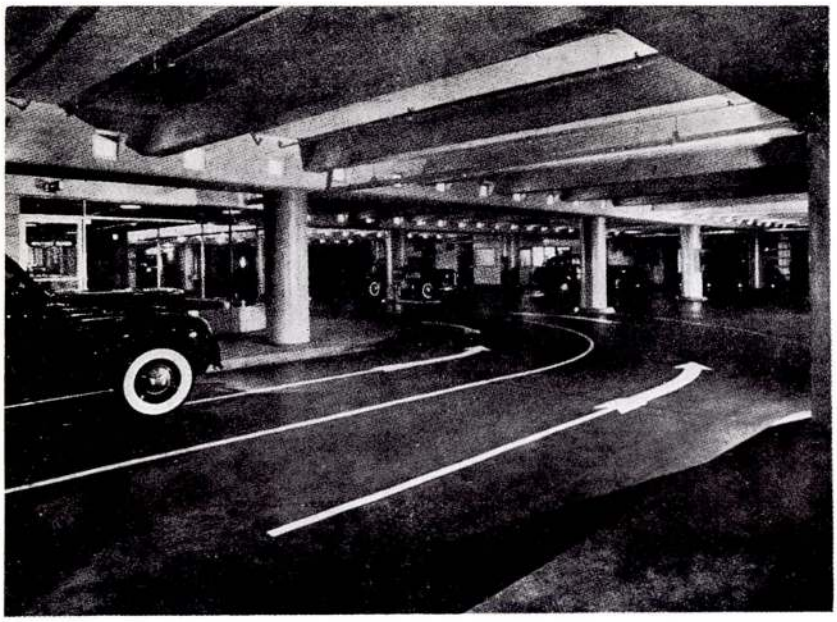


大階段室



斜道斷面圖

（アメリカ） ロツクフエラー・センターの第11號館　建築家・Reinhard, Hofmeister, W. K. Harrison, J. A. Fouilhoux



車庫内部

ロックフエラー・センターの建築群の中最後から2番目に竣工した建物である。

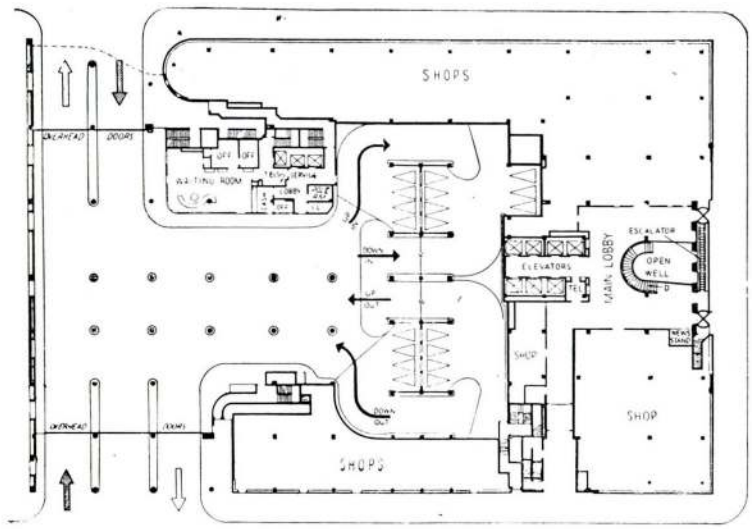
地上3階地下3階の合計6階分の大部分が自動車庫，1階の1部が店舗，上階が貸事務室になつてゐる。

車庫は斜面圖に見られる樣な獨特な斜道によつて全部で800臺の自動車が收容され得る。

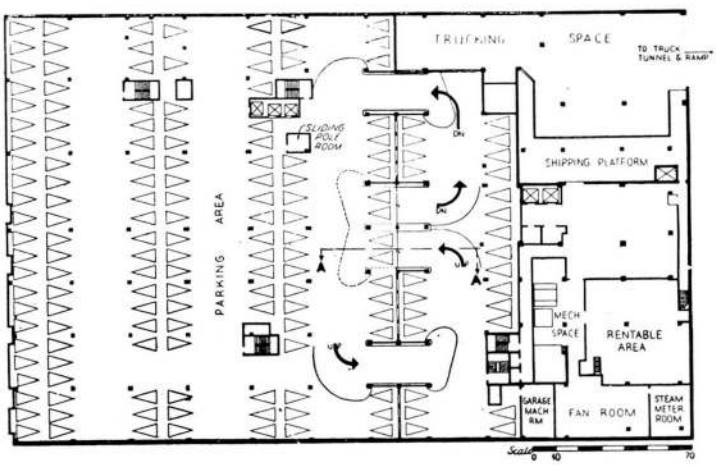
店舗は1階，2階の1部を占め，外部に面した部分は2階まで總硝子張である。

1階中央階段の手摺受に鋼硝子を使ひ全然金屬の支持物を無くした點，鋼硝子がアメリカの建築工事に於て既に實用化せられてゐる例として注意を要する。

(Architectural Forum, Jan., 1940 より)



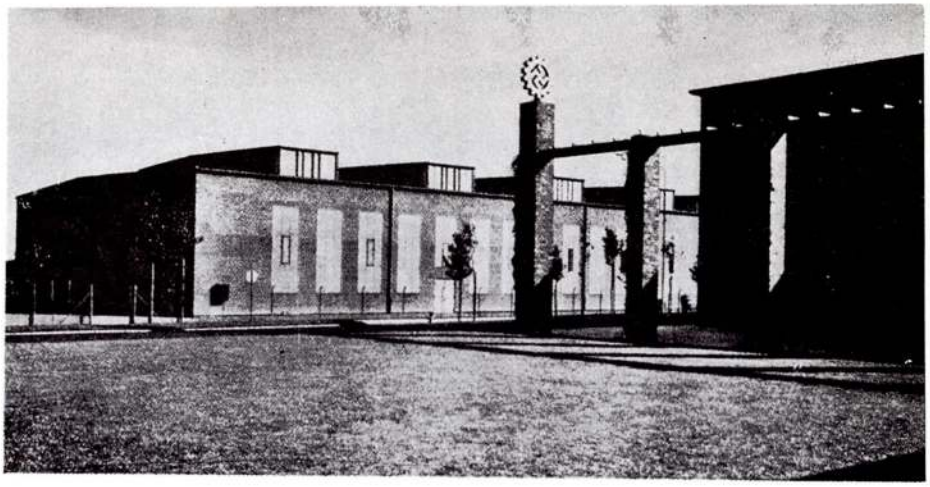
1階平面圖



地下2階平面圖

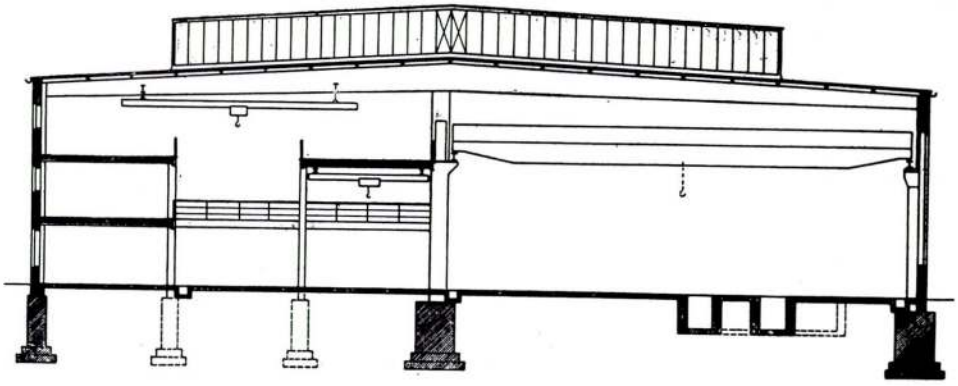
III 8 (アメリカ) ロツクフエラー・センターの第11號館

建築家・Reinhard, Hofmeister, W. K. Harrison, J.A. Fouilhoux

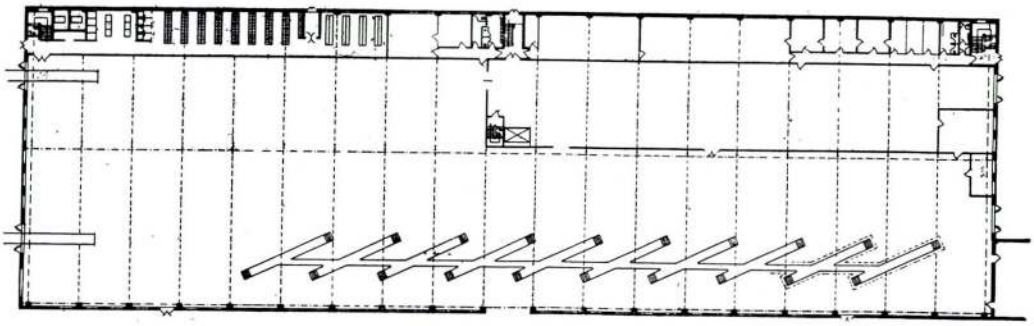


この建築家は經營者の要求に合致して「勞働の美」の思想を實現しようと計畫した。過去の工場建築には見られなかつた新しい認識に依り，從業員の疲勞恢復の施設とも言ふ可き，花樹芝生の園を計畫の中に取入れ，更に體育室，食堂等の從業員の健康と利便のための施設をも計畫してゐる。

寫眞に見えるパーゴラの柱の一本に勞働者への戒のため獨逸勞働前線の大きな表象が飾られて居る。右手の建物は敎習生のための工場面に體育室，食堂である。前方の大きな窓面をもつた建物は貨物自動車修繕工場である。

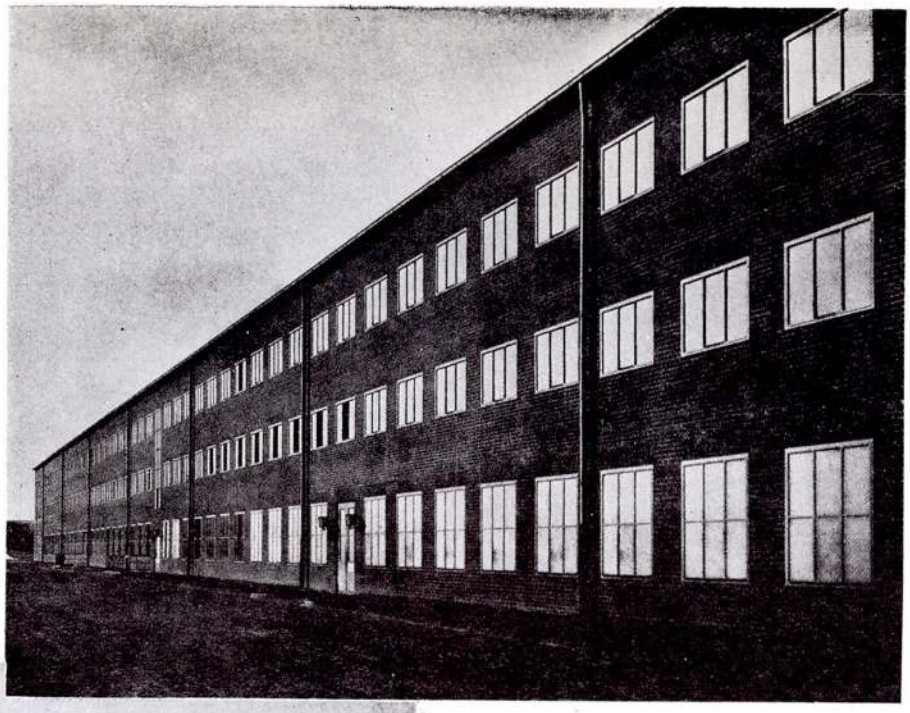


貨物自動車修繕工場斷面圖
左方は三階建となり，右方は修繕大工場となつてゐる

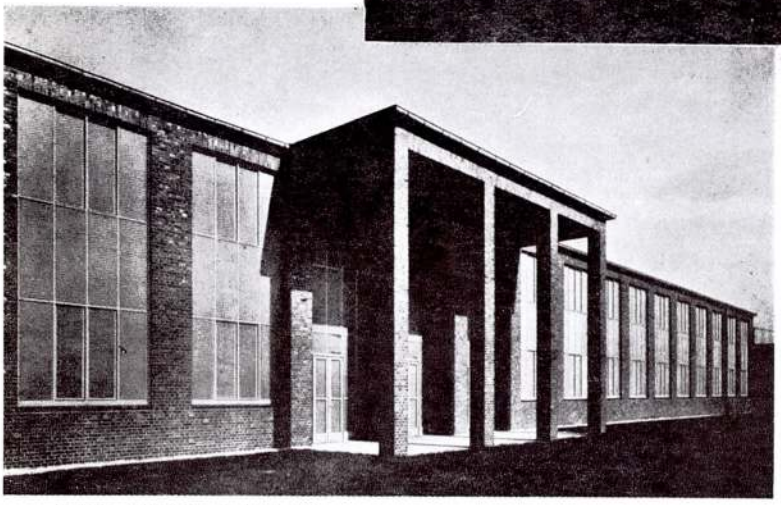


貨物自動車修繕工場
平面圖

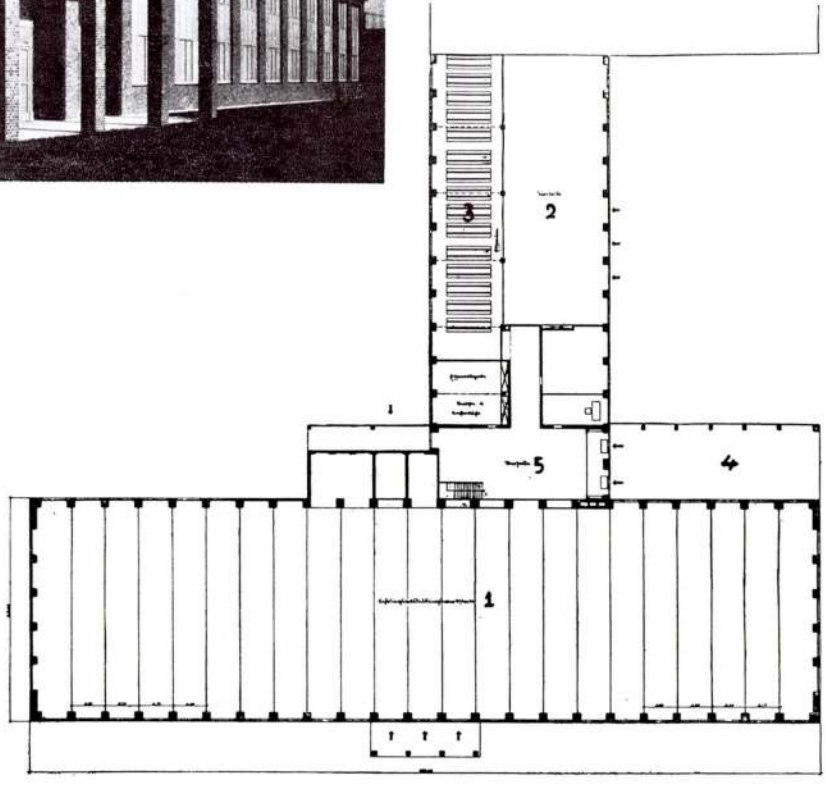
（ドイツ）工　　場　　建築家・Otto Biskaborn



修繕工場の三階建の側面をみた所
軒高い 9,55m



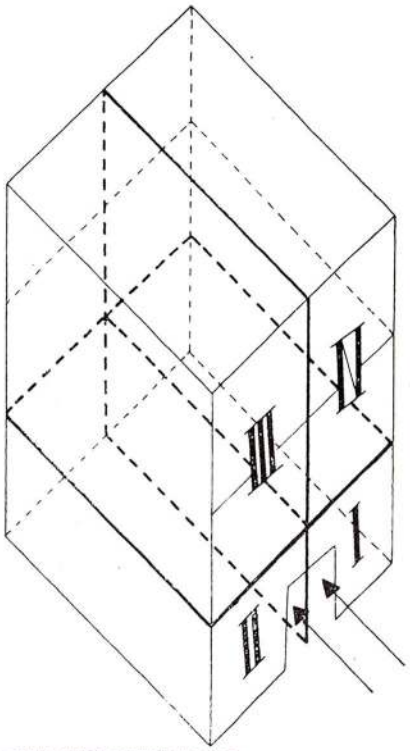
訓練所，訓練工場への入口を示す

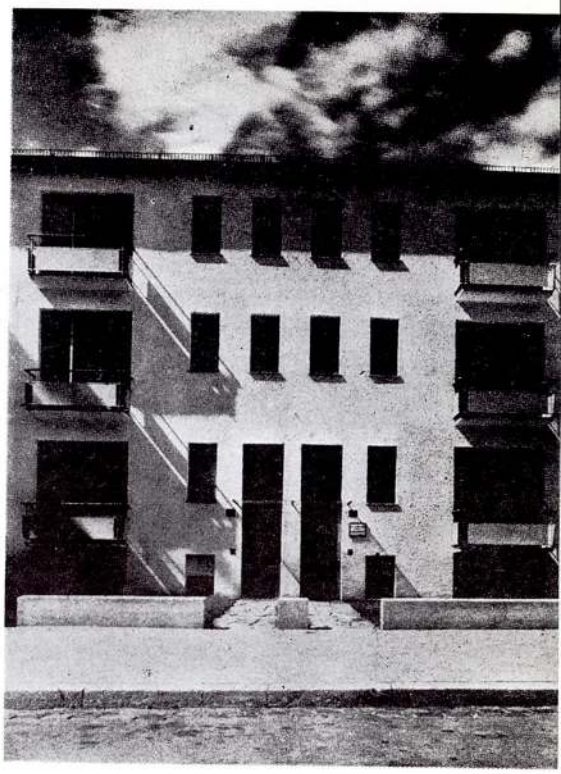


訓練所平面圖

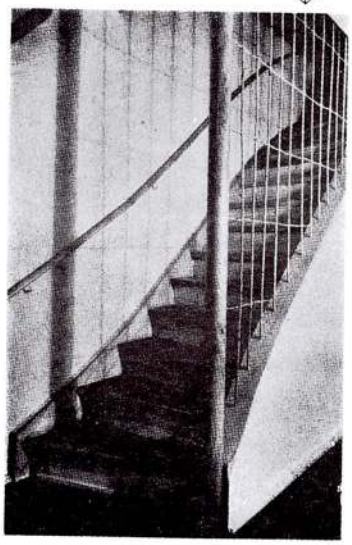
1 訓練工場
2 體育室
3 食堂
4 パーゴラ
5 玄關

この集合住宅の型を示すもの。左右對稱の配置をもつた長屋建であつて I II は共に2室住居 III IX は共に五室住居である。

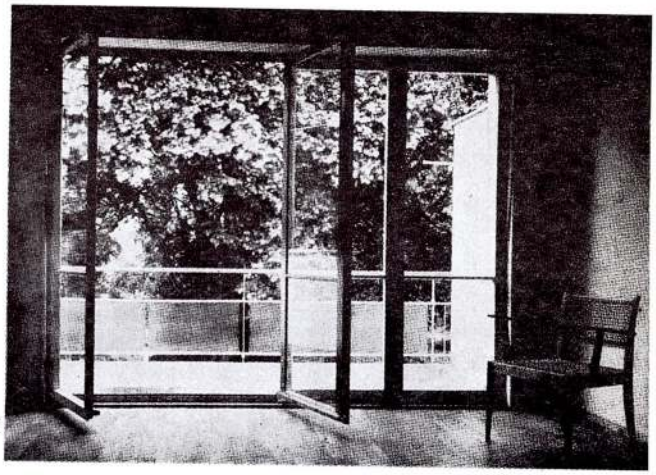




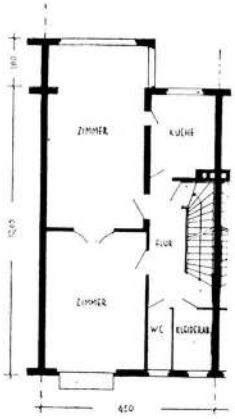
道路側正面外觀



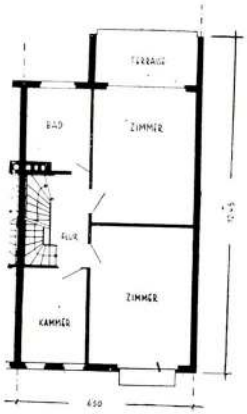
階段



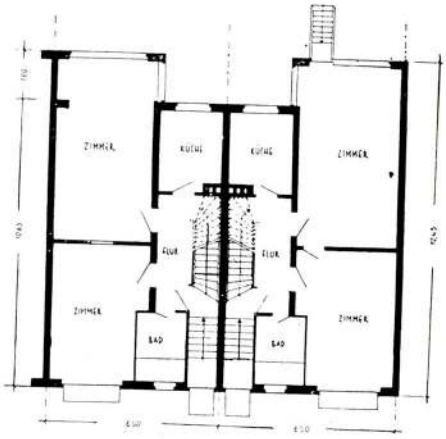
3 階緩室



2 階平面圖



3 階平面圖



1 階平面圖

（ドイツ）集合住宅

建築家・Rudolf Schwarz



全　　景



一部外觀

アメリカに於ける公共の住宅改良事業中最大のものである。敷地は非常に地價の高い場所であるから，エレベーターの周圍に出來るだけ多數の室を配置し建物の高さも高くして能率的な平面を作るべく努力が振はれてゐる。

Y字形の配置が選ばれたのもその爲であつて，直角部の隅に採光のないスペイスの生ずることを避ける爲であるが，この方法は平面2よりも平面1の方が成功してゐる。

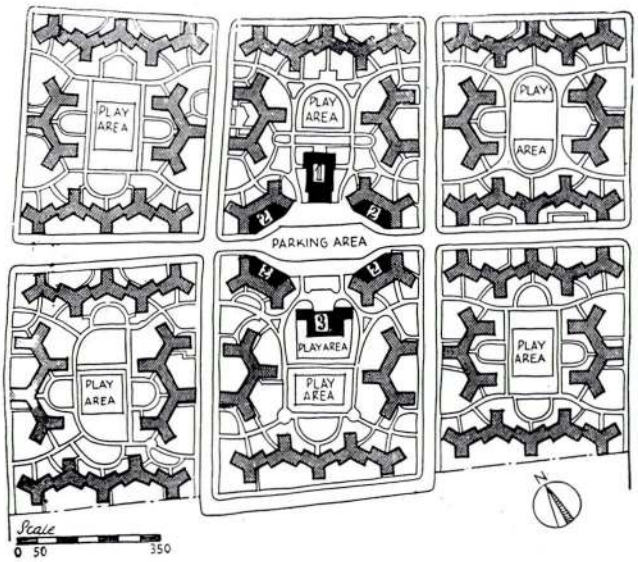
敷地は全不良住宅地區の8％で，それを6つのブロックに分け，各ブロックの中央部に遊園地を殘す樣にY字形の基本形を組合せ配置してゐる。

住宅のほかに社交倶樂部，幼稚園及び24の商店が設けられてゐる。

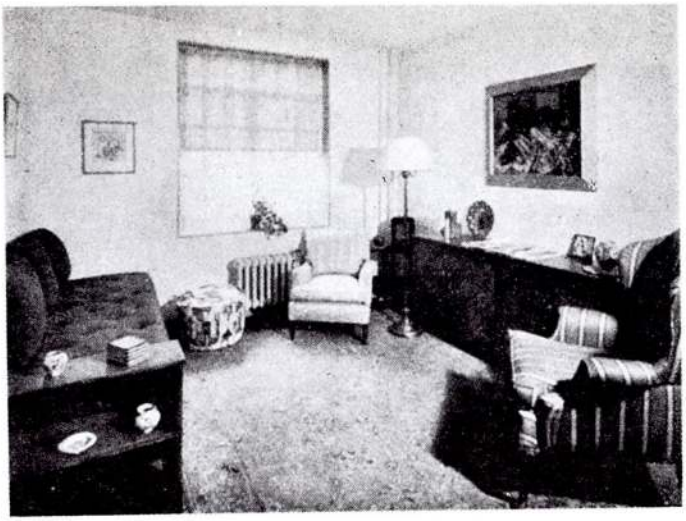
6階建の下部は煉瓦造壁厚12吋，上階には煉瓦及び中空煉瓦壁を使用す。

戸數	3,149戸	室數 12,949ｎ2室
工費	總　額	15,393,000弗
	1戸當工費	2,745弗64
	1室當工費	667弗67
家賃	1室に就き平均(各種使用料を含み)	5弗51

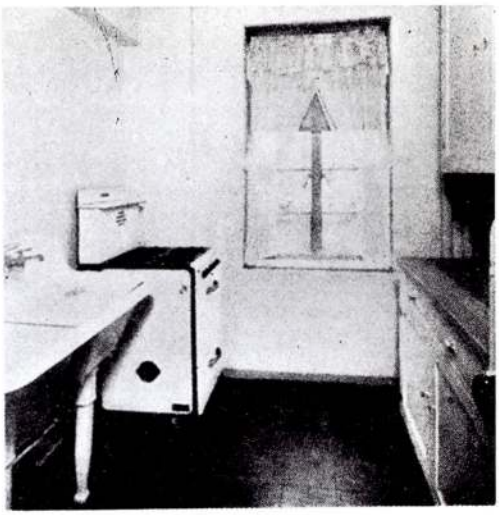
(Architectural Forum, Jan., 1940より)



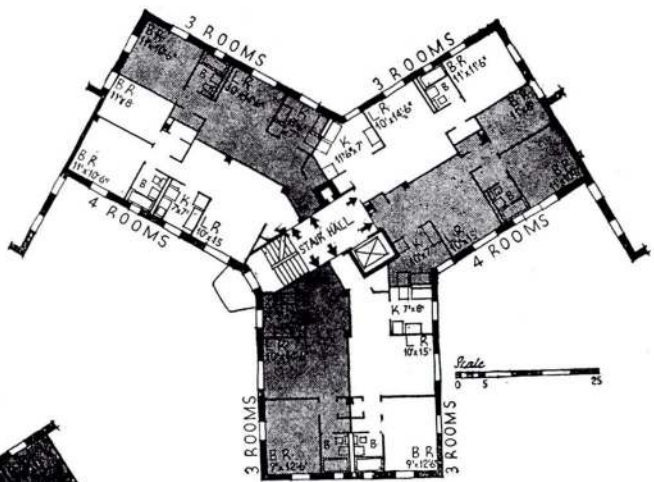
配　置　圖



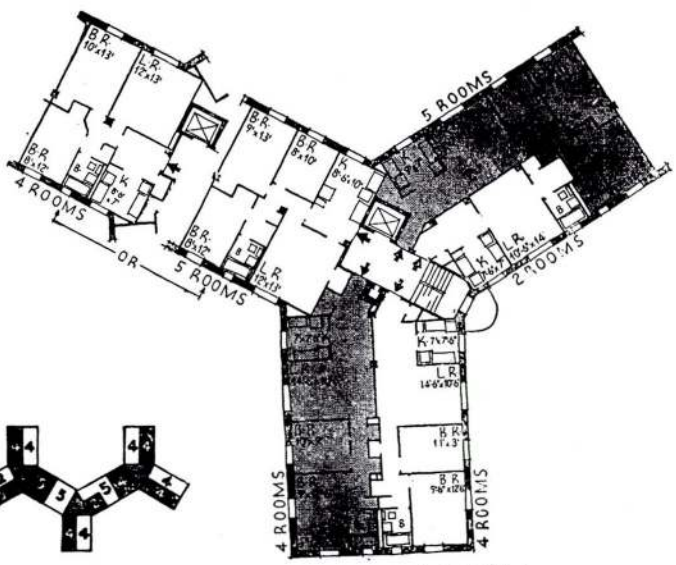
居　　間



台　　所

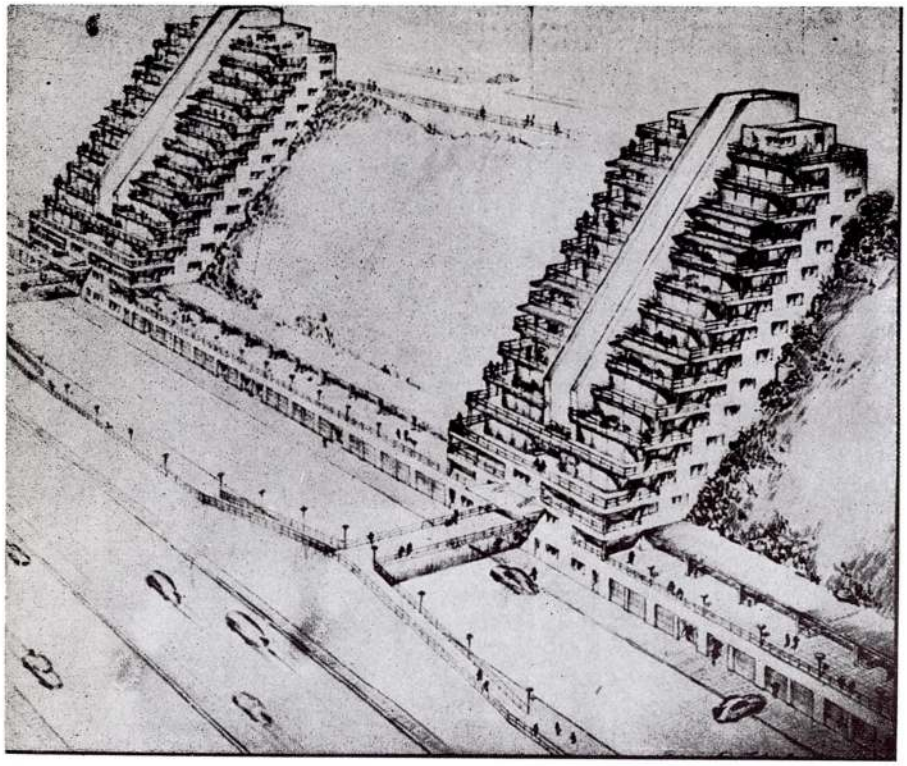


基本平面圖 2

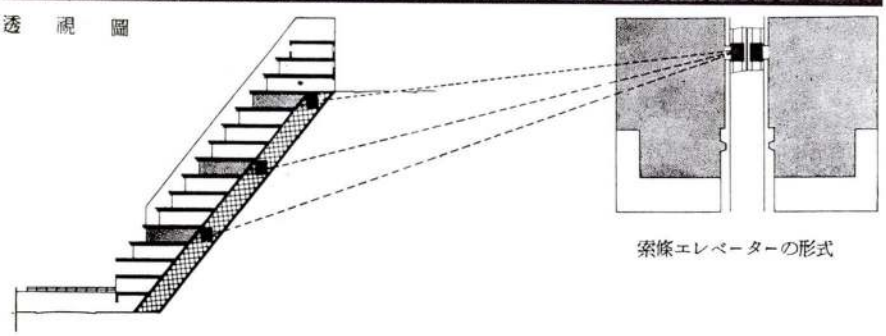


基本平面圖 1





透視圖



索條エレベーターの形式

最近エレベーターやエスカレーターの利用されること目覺しいものあるが，きつく傾斜した所に設けられるものについてはまだ餘く研究されてゐない樣である。此處に掲ける案は紐育のある川に面した丘の中腹に建つアパートに於ける Edwin A.Kock に依つて設計された計畫である。

Koch の索條エレベーター計畫は45°の傾斜が最適とされてゐるが，多少の傾斜の緩急があつても尙實用的である。それのみか他の敷地他の建築に於いても，尙可能性があると云はれてゐる。たとひ丘の中腹に屈折があらうとも。

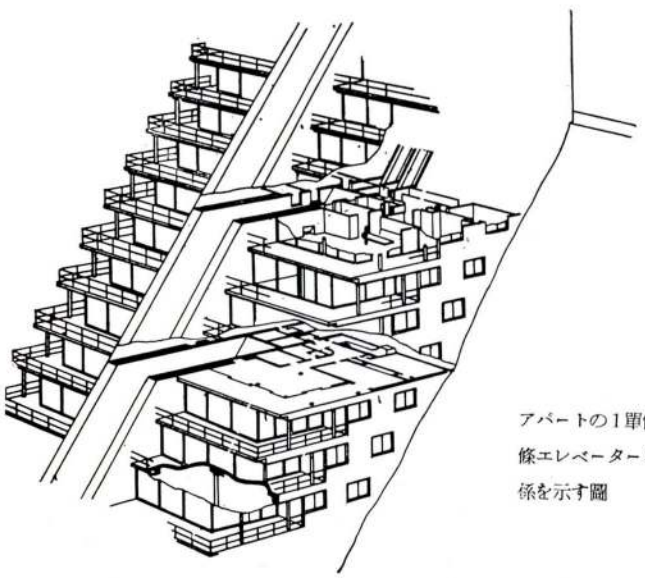
索條エレベーターのシユウトはアパートのどのブロックに於いても眞ん中の方を通るので，車は各階共みな同じ位置に止まることになるので，各階共同じ Plan を繰返す事が出來る特徴がある。

段壁になつてゐるのでこれらの建物は普通の4階が4階半に相當するだけであるから，構造上非常に助かり且時と力にも大いに節約となり得る。

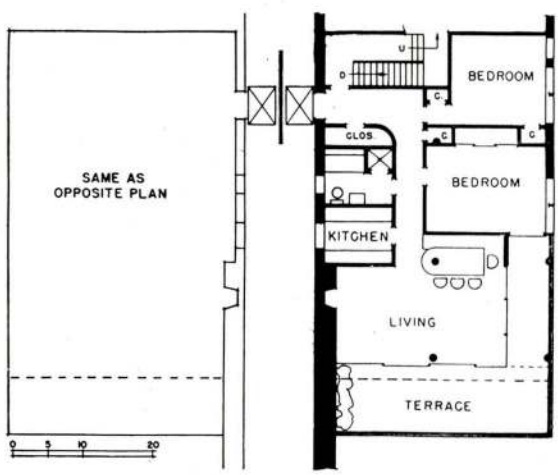
傾斜地の建物に於ける傾斜エレベーターと垂直エレベーターとの相違

傾斜エレベーターでは前記の如く，アパートのどの階に於いても皆同じ位置に止まるので，各階共同でプランを繰返す事が出來るが，垂直エレベーターにあつてはさうは行かない卽，圖の樣に各階共エレベーターの止まる位置が異なるのでプランを各階共，變へなければならないのみか，下層に於いては圖の樣に廊下を延長して來なければならないので，非常にロスが生じる。

(Architectural Record, Dec, 1939 より)

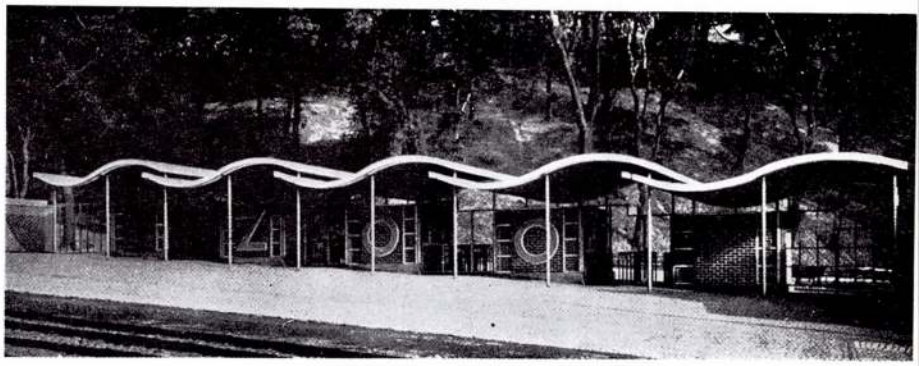


アパートの1單位と索條エレベーターとの關係を示す圖

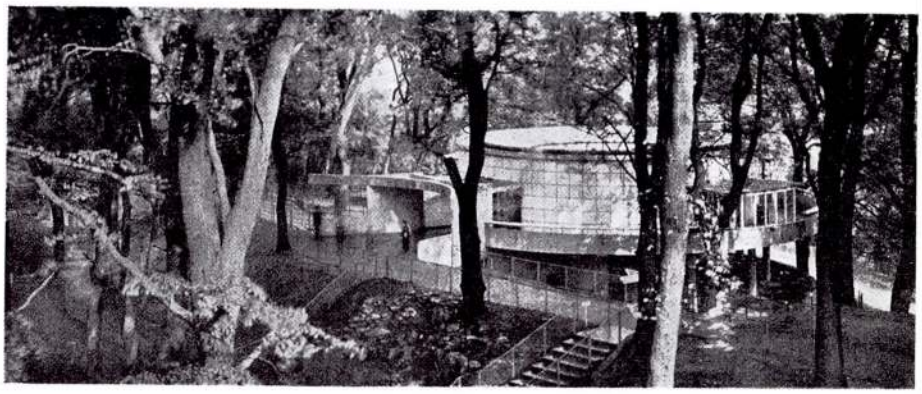


代表階平面圖

III 14 （アメリカ） 索條エレベーターのある丘中腹のアパート　建築家・Edwin A. Koch



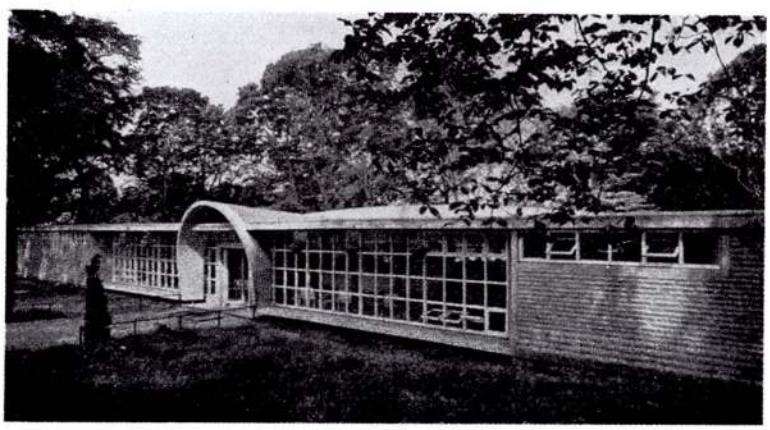
正面入口



鳥類の家



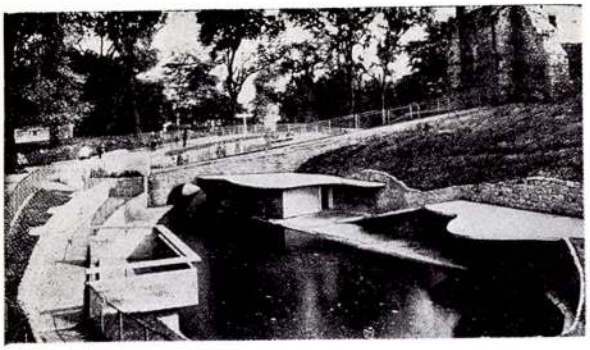
熊の峡谷



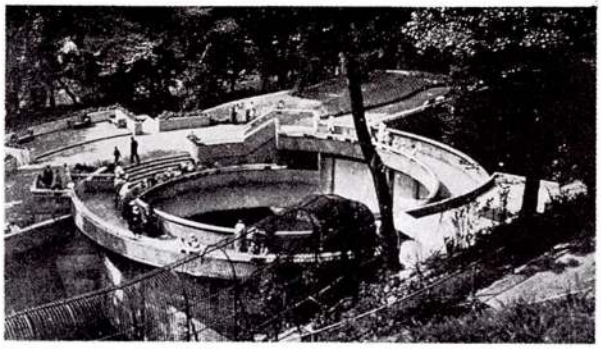
食堂

英國はミッドランド地方に出來た極自然のまゝに動物の生態を眺め得られる樣にした動物園である。配置圖或は數多の寫眞を見ても解る樣に，ライオンや白熊の如き猛獸なども在來の檻の中に閉ぢ込める事をやめて，適當な圍ひや簡單な擁壁を作つてその中に收容し觀客もそのピットの中に乘り出した見物席や或は高い處に架けられた橋の上から自由に，彼等を眺められる樣にしてある。

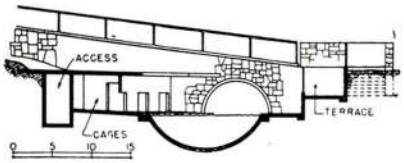
(Architectural Record., Dec., 1939より)

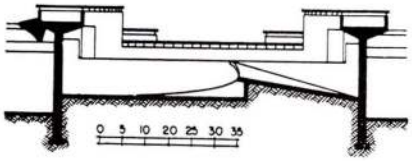


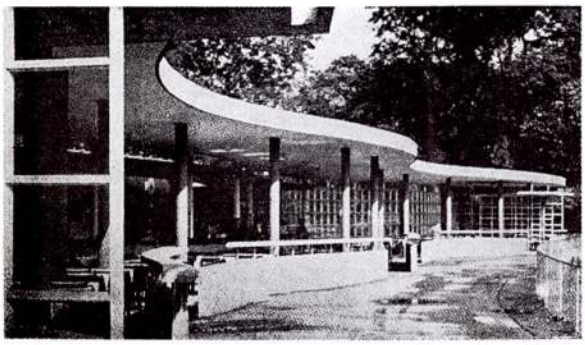
あしかのプール



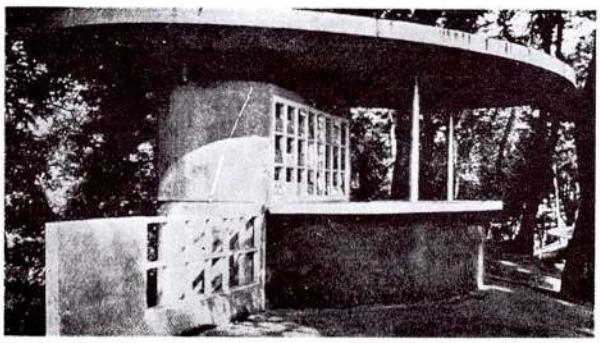
白熊の穴



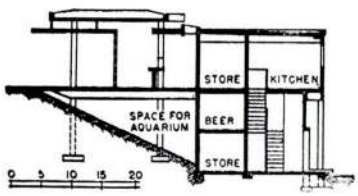


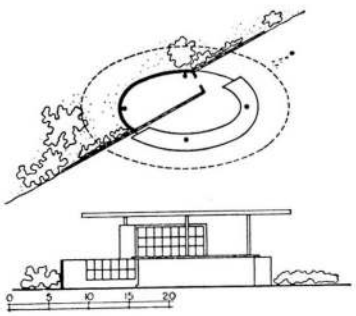


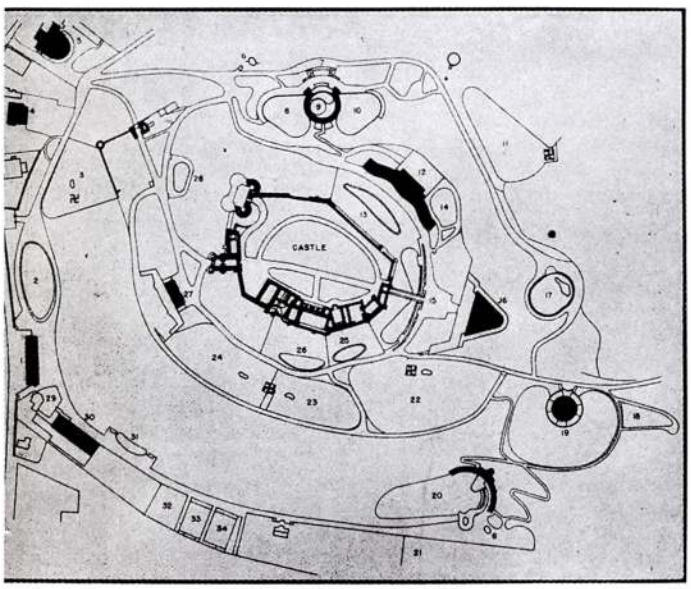
喫茶店



賣店





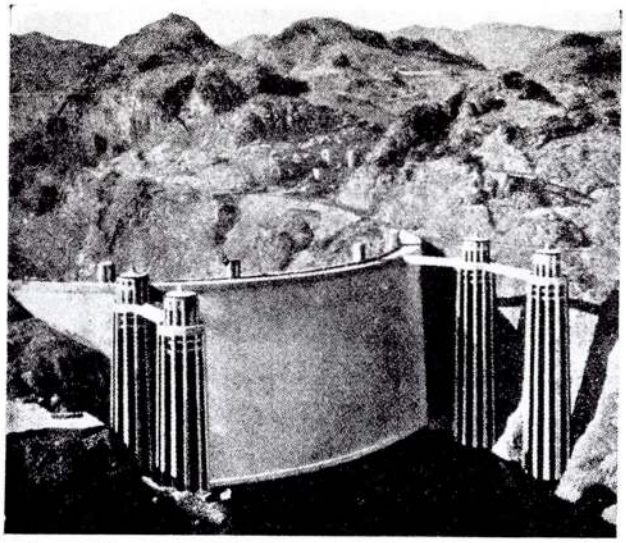


配置圖

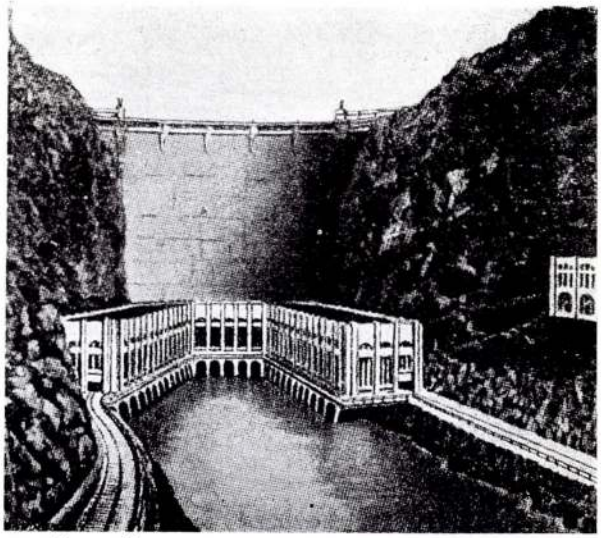
1 入口
2 野生の羊の圍場
3 羊と山羊の圍場
4 所長事務所
5 倶樂部と管理事務所
6 亭
7 便所・化粧室
8 虎の穴
9 白熊
10 ライオン
11 駱馬
12 喫茶店
13 水禽の池
14 小かんがるふ
15 あしかのプール
16 喫茶店
17 狐
18 えみゆふの檻
19 鳥類の家
20 熊の峡谷
21 狼
22 鹿
23 羚羊
24 しま馬
25 浣熊
26 ペリカン
27 象
28 爬蟲類

III 16 （イギリス）動物園の諸建築

建築家・Tecton



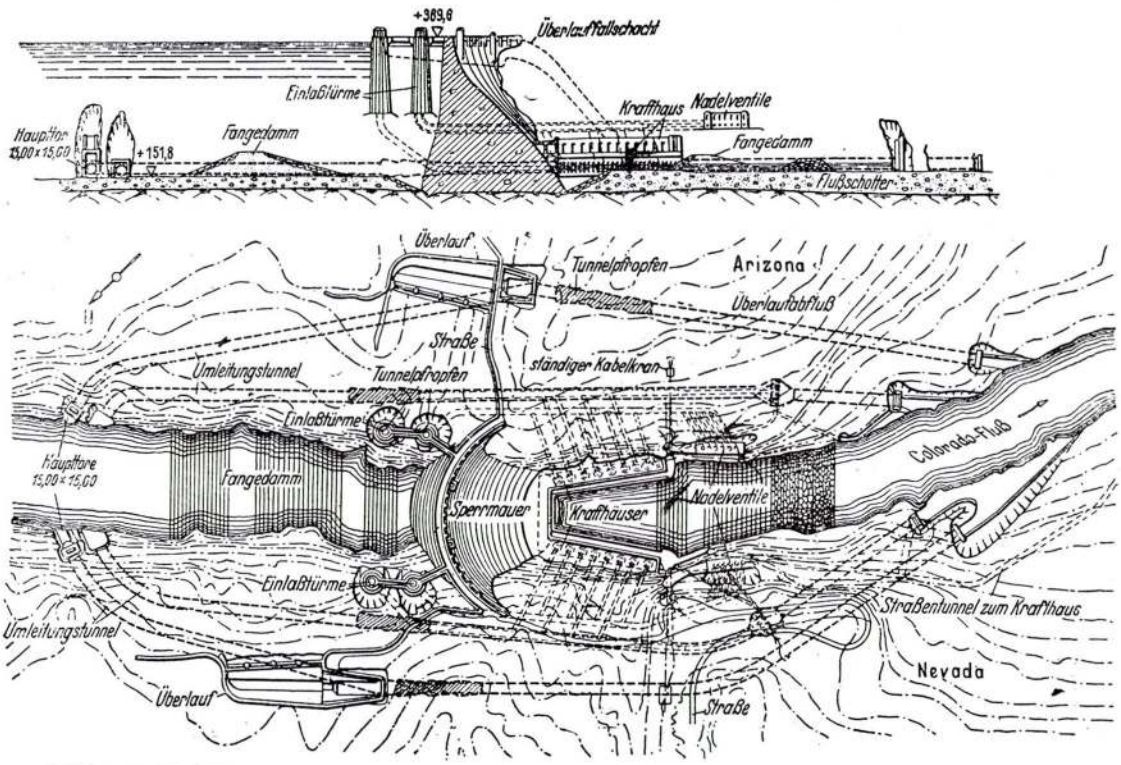
1　圖



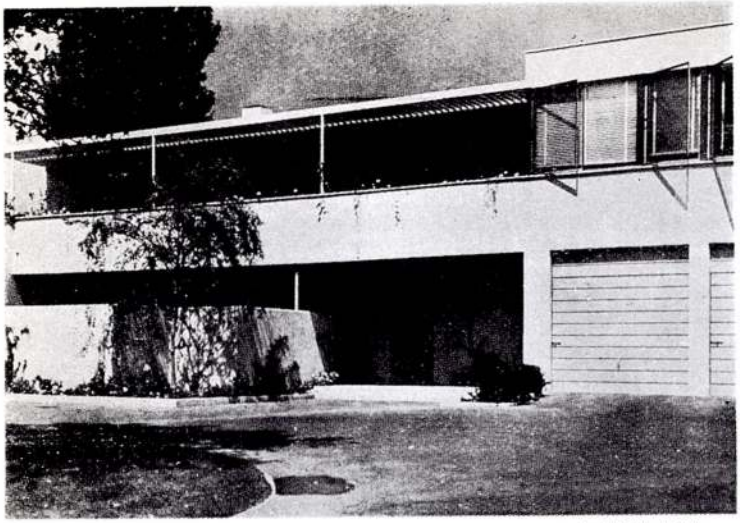
2　圖

何事にも世界一を誇りたがる，アメリカに，又一つの世界一が加はつた。それが，この圖に示す Boulder の水力發電所のダムである。これはコロラド河を仕切つて造つたもので，ダムの高さ370m である。 1圖は水をためる側の寫眞で，左右に二つ燈臺のやうにたつてゐるのは水の取入塔である。2圖はダムの外側の寫眞で下に見えるのは發電所である。

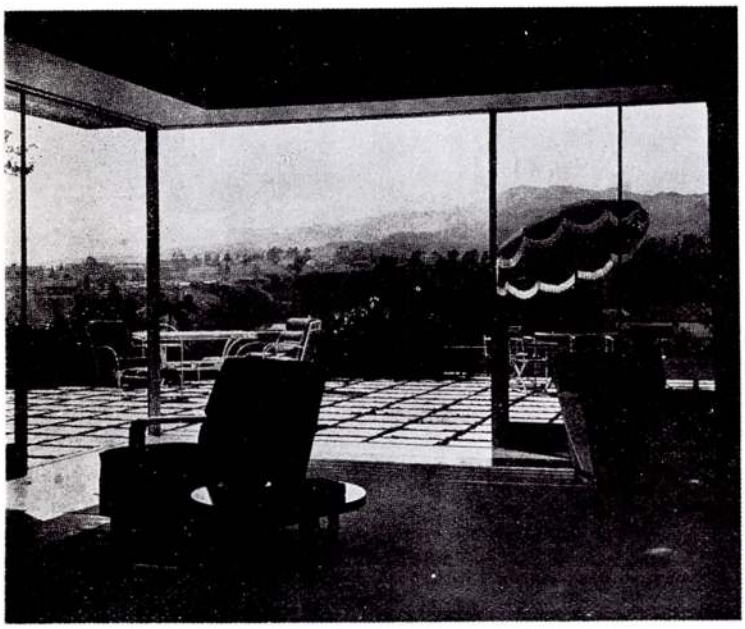
(Zentralblatt, Dez., 1939 より)



斷面圖と平面圖



玄關側外觀



居　　間



テ　ラ　ス

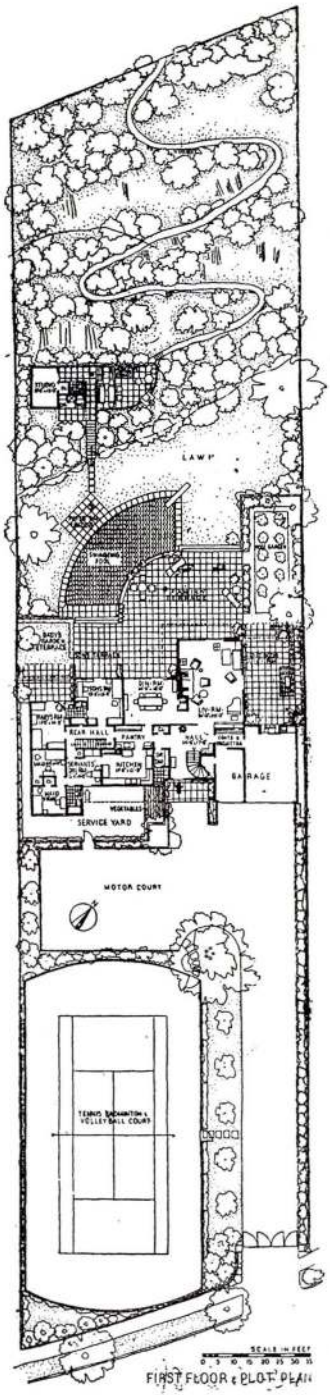
廣いテラス大きく開かれた窓，それから長く突出した庇等，カリフオルニヤの氣候に對して日光と陰との關係を充分に考慮して設計せられた住宅である。

更に，廣範圍の眺望と住宅のプリヴアシーの要求との間の調和も充分に考慮せられてゐる。

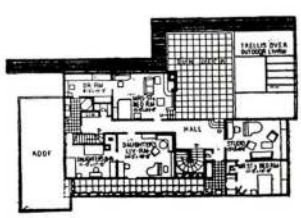
木造2階建，外壁はセロテツクス鐵網下地プラスターの上を防水刷毛引コンテイング2回塗。內部はラスプラスターカンバス下地ペンキ3回塗。

工費　約30,000弗，1立方呎當り4弗85。

(Architectural Forum, Jan., 1940 より)



1 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖

III 18　（アメリカ）カリフオルニヤの住宅　　建築家・J. R. Davidson

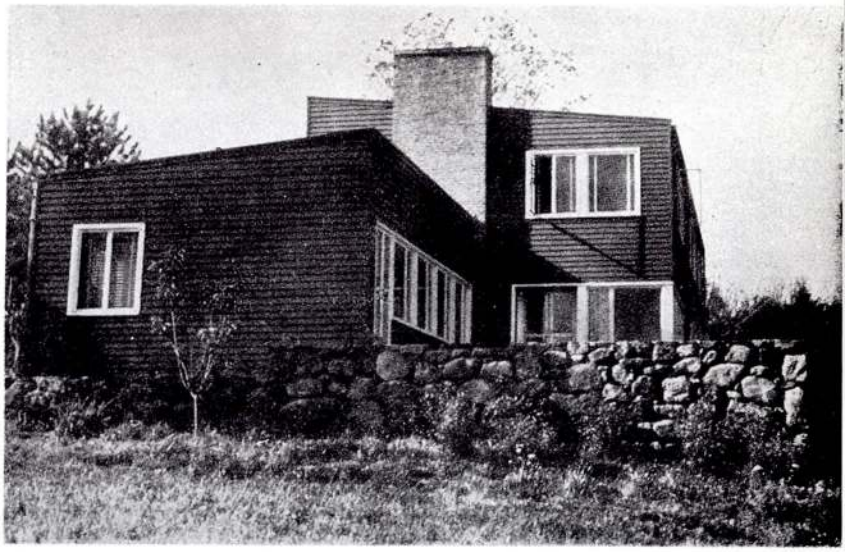
居間と全然獨立した食堂と非常に廣い寢間と臺所とが1階の主要部分で，2階には3つの寢室と3つの浴室とがある一寸變つた平面の住宅である。

片流れの屋根と黒ペンキ塗の下見板と白ペンキの窓廻りとが近代型住宅の冷さから救つてゐる。

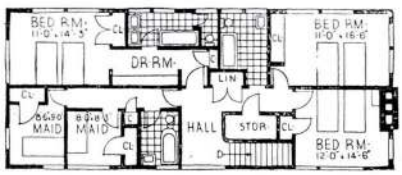
木造2階建，內部壁は浴室がプラスター仕上のほか全部むく板をベニヤ板風に使つてゐる。

工費　1立方呎當り約13セント。

(Architectural Forum, Jan., 1940より)



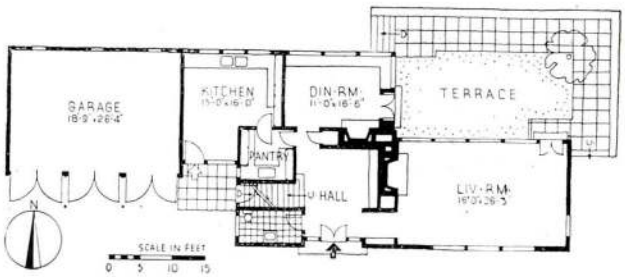
外　觀



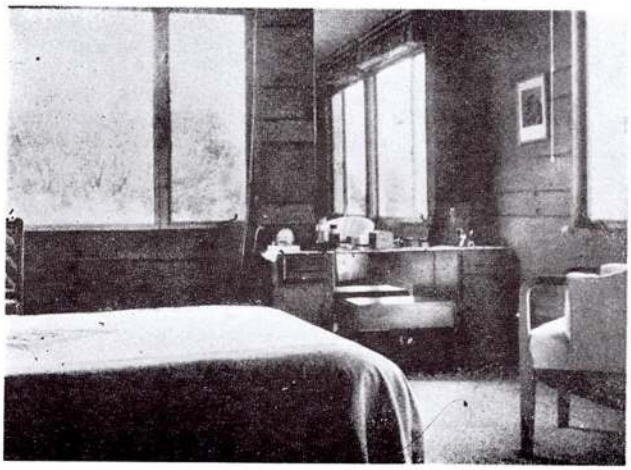
2階平面圖



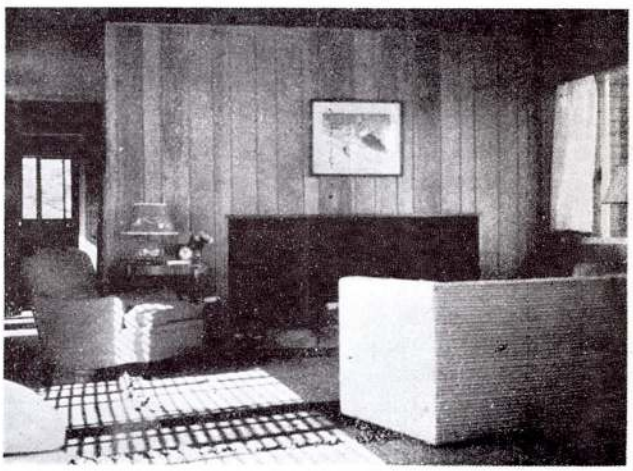
地階平面圖



1階平面圖



寢　室



居　間

（アメリカ）住　宅　　建築家・George W. W. Brewster（弟）

古建築新抄 (13)

藤原義一



三門

黄檗山萬福寺の總門と比較すれば面白い

支那式建築 (その二)

豊譚山崇福寺，前出の黄檗山萬福寺より更に支那式濃厚なのは長崎の崇福寺伽藍である。支那福州あたりよりの渡航者等が海上往來安全を祈るために幕府に請ふて一寺を造り海神媽姐を祭った。寛永六年のことで，その後萬福寺を開いた隱元禪師が暫く滯在したことがあり，明暦三年，即ち非が來朝して住するに至り黄檗宗の寺院として伽藍を整備し，現在の狀態となつた。先づ三門を入り左折して石段を上り第一關門に達し，これを入つて右すれば護法堂，鐘樓が並び，その奥一段高く大雄寶殿，媽姐門更に奥一段高く開山堂，媽姐堂が立ち，又方丈もある。伽藍配置が著しく自由であり，各建物の樣式も寫眞の如く支那氣分が横溢してゐる。

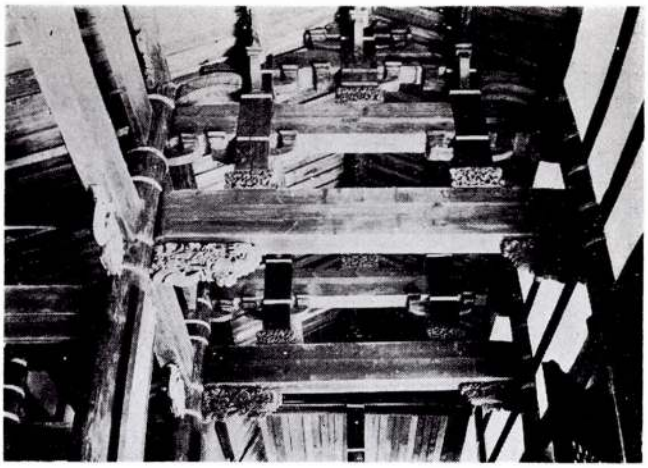


第一關門

寺の説明に曰く，この門は當寺の大檀那たる譯官林仁兵衛の建造にかゝり，材料を唐土にて切組み船數艘に積み持ち渡りて構造せるものにて云々。

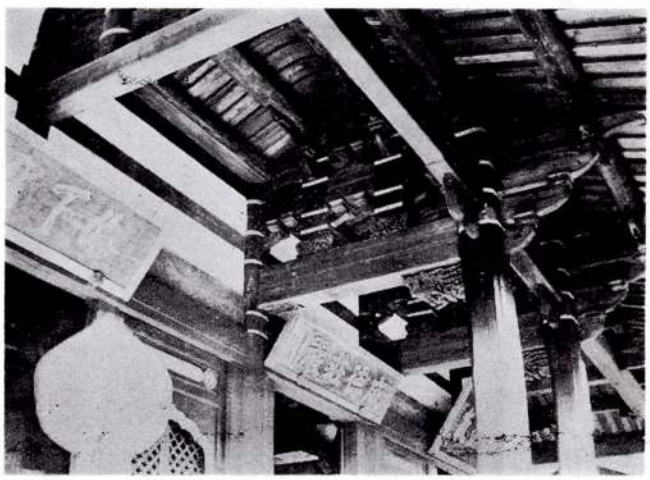
護法堂内部構造

かくの如き構造は現在も支那各地殊に南支方面に多くの實例を見る



護法堂正面軒裏構造

此構造は日本の天竺様手法と相通ずるものがある



大雄寶殿軒下の構造手法

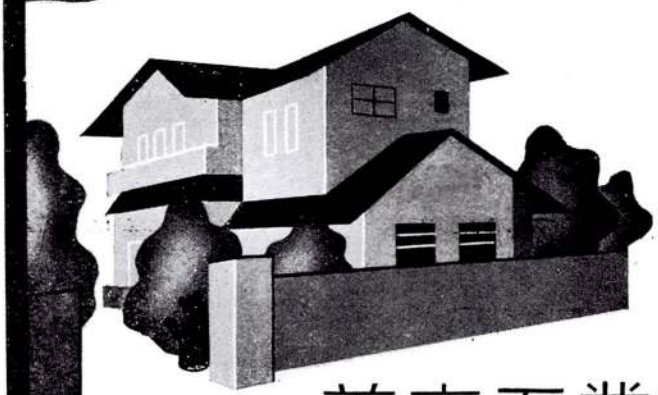
在來の日本建築には全く類を見ない構造裝飾を行つてゐる



美素

新築住宅にお手入のいらぬ！
古い住宅も新築同様となる！

【カタログ贈呈】



新築家屋美素加工
新築落成と同時に本所獨特のビソ液にて洗滌し木材變色の原因となる樹液を取り，其の上をビソにて仕上の加工をすると完全なる變色防止加工となり，優美な艶を有しフキコミの勞を省き頗る經濟的です。

古家屋新裝美素加工
古家もビソ液で洗滌すると新築同樣となり其の上を新築美素加工と同樣の加工をすると前者同樣の結果となる。
（特種技術を要しますから弊所の請負加工と致して居ります）

美素工業所

大阪市天王寺區東平野町四丁目二一
電話天王寺㈦四〇〇三番

ノボ アルミナセメント

超高級　耐鹹 耐寒 耐火

六時間コンクリート

大阪窯業セメント株式會社

6 HOURS CONCRETE

1:2:4 水比 65 6時間 217㎏/㎠ 28日 410㎏/㎠
1:2:4 水比 45 6時間 300㎏/㎠ 28日 580㎏/㎠

施工6時間後
完全使用が
出來ます

會報

本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中の軍務公用者下記の通りであります。（受付順）

普通賛助員　佐藤　　磨君

會員

故 米倉威夫氏



昭和15年1月5日會員米會威夫氏突如病を以て逝去せらる。

氏は大正15年12月4日本會會員として入會爾來委員幹事及評議員並に常務等の役員に當選本會のため大いに盡力せられしが途に病のため急逝せらる。洵に哀悼に禁へす茲に肖照と略歴を掲げ謹んで弔意を表す。

1. 氏は明治32年6月27日尼崎市宮内町3丁目に生る
1. 大正7年3月大阪市立都島工業學校建築科卒業
1. 同月大阪建築所に入所
1. 同13年4月株式會社中島組に入社
1. 昭和7年1月同社監査役に就任
1. 同11年1月同社取締役に就任
1. 同12年4月獨立開業のため退職の上株式會社大阪組を創立經營爾來代表取締役として今日に至る
1. 同15年1月5日三田ゴルフ場に赴くため大阪驛發車直後突如車中に於て心臓麻痺にて急逝享年42歳

昭和15年1月8日尼崎市廣徳寺に於て葬儀執行本會より常務三浦茂氏會葬の上下記弔詞を代讀す

弔詞

茲に社團法人日本建築協會會員一同を代表して恭しく故元本會常務株式會社大阪組代表取締役米會威夫氏の英靈に告ぐ

我日本建築協會が曩に建築界の振作革進を以て關西の一角に其の旗幟を樹つるや氏は大正15年12月籍を本會會員の一員に置き爾來我協會の役員、委員に當選し斯界の功績鮮からす殊に我協會が將來の施設に於て氏に俟つ處亦淺からざるものあるの秋忽然として幽界に歸せらる痛惜焉そ禁へむ爰に本會會員一同の赤忠を捧げ切に哀悼の意を表す

冀くは英靈天れ冥福として來り饗けよ

昭和15年1月8日

社團法人日本建築協會

會長　工學博士　片岡　　安

陳列場幹事會（第1回）

時　　2月2日午後6時20分—8時

所　　陳列場別室

出席者　幹事　池田、北垣、桐本、小林、瀧、野中、保圓、松久保

1. 幹事長並常任幹事互選の件
1. 建築材料の登錄制度に關する件
1. 紙上座談會を設け材料紹介の件
1. 出品勸誘の件

法制委員會（第1回）

時　　2月2日午後6時—7時30分

所　　協會倶樂部室

出席者　委員　池田、島影、竹中、
玉置、高木、平野、
森口

1. 委員長並幹事互選の件
1. 市街地建築物法令改訂版發行の件
1. 建築關係法規類集發行の件

常務會（第3回）

時　2月5日午後5時50分—7時40分
所　陳列場別室
出席者　理事　今林副會長　坂副會長
常務　北垣主記　三浦主記
戮中主記　岩尾主計
桐本主計　北川編輯
議事
1. 幹事會規程改正の件
2. 集團住宅敷地設計圖案懸賞募集に關する小委員會委員委囑の件
3. 書棚並黑板調製に關する件
4. 圖書購入に關する件
5. 日刊工業新聞社より記念論文募集規程會誌に揭載の件
6. 書記1名採用に關する件
7. 1月例會意見檢討の件
8. 引繼事項檢討の件
9. 會員詮衡

報告
1. 全國都市問題會議總會開催日決定の件
2. 除隊者報告

敎化委員會（第1回）

時　2月7日午後6時30分—7時
所　協會俱樂部室
出席者　委員　小川、大下、坂本、
中野、花輪、宮崎、

1. 委員長並幹事互選の件

設備委員會（第1回）

時　2月7日午後6時30—7時
所　協會俱樂部室
出席者　委員　伊藤、岩尾、大原、
北川、新名、前原、
山口、

1. 委員長並幹事互選の件
1. 防空施設に關する件

住宅委員會（第1回）

時　2月7日午後6時—8時
所　陳列場別室
出席者　委員　石川、岩尾、北垣、
小林、白石、中野、
中村、矢田、

1. 委員長並幹事互選の件
1. 住宅讀本發行に關する件
1. 小住宅設計圖案懸賞募集の件
1. 滿洲に於ける移民住宅の件

主記會（第1回）

時　2月8日午後6時—8時
所　陳列場別室
出席者　伊藤主記　北垣主記　玉置主記
三浦主記　戮中主記　岩尾主計
龜井編輯

協議事項
1. 勞務者住宅懸賞募集の件
1. 2600年記念事業委員會の件
1. 2月例會の件

俱樂部室幹事會（第1回）

時　2月8日午後6時—6時20分
所　協會俱樂部室
出席者　幹事　木下、高坂、西澤、
三浦、村井、

1. 幹事長並常任幹事互選の件
1. 趣味の會開催の件

材料委員會（第1回）

時　2月8日午後6時30分—8時
所　協會俱樂部室
出席者　委員　猪瀨、木野山、楠瀨、
樽、園部、玉置、
中島、松久保、

1. 委員並幹事互選の件
1. 木材寸法規格に關する件
1. セメント配給に關する講演會の件

都市武裝促進幹事會（第1回）

時　2月9日午後6時—8時
所　協會俱樂部室
出席者　幹事　淺野、伊藤、池田、
瀧、內藤、宮田、
山口、

1. 幹事長並常任幹事互選の件
1. 工場防空施設研究部會設置の件
1. 空襲に關する講演聽取の件

會勢幹事會（第1回）

時　2月12日午後6時—7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　幹事　池野、石井、大下、亀井、川人、北垣、坂口、高松、松本、三浦、渡部、

1. 幹事長並常任幹事互選の件
1. 會員增加に關する件
1. 講演、見學等會員會合の計畫に關する件

災害强度委員會（第1回）

時　2月12日午後6時20分—7時50分
所　陳列場別室
出席者　委員　淺野、大野、黒田、佐々木、園部、竹花、長尾、矢田、藪中、渡部、

1. 委員長並幹事互選の件
1. 强度計算標準資料作製の件
1. 無筋コンクリート造建物設計例作製の件
1. 電弧熔接手技術檢定試驗方法に關する研究の件
1. 風壓規準パンフレツト作製の件

都市計畫委員會（第1回）

時　2月15日午後6時—6時半
所　協會倶樂部室
出席者　委員　井上、伊藤、亀井、宮脇、中村、錦田、森口、吉田、

1. 委員長並幹事互選の件
1. 全國都市問題會議、議題研究の件
1. 全國都市美協議會、議題研究の件

常務會（第4回）

時　2月19日5時30分—7時30分
所　陳列場別室
出席者　理事　今林副會長　坂副會長
監事　井上監事　鈴木監事
常務　伊藤主記　北垣主記
三浦主記　藪中主記
岩尾主計　久保田主計
亀井編輯　政岡編輯

議事

1. 各委員長幹事長會合の件
2. 2600年記念事業委員會設置並委員委囑の件
3. 都市問題會議議題研究の件
4. 災害强度委員會より經費要求の件
5. 同委員會より委員委囑方要求の件
6. 給仕1名解傭並採用の件
7. 引繼事項檢討の件
8. 會員詮衡

報告

1. 2月例會準備報告
2. 1月分會計報告
3. 入營除隊報告

二月例會（講演會）

時　2月23日午後6時20分—8時30分
所　大阪朝日新聞社3階廣間
出席者　安宅順一氏約100名

靜岡火災視察報告講演會

1. 午後6時20分開會伊藤常務より本夕は2月例會として日本建築協會並に日本技術協會關西支部共同主催の下に本講演會を開きたる旨を述べ下記講師を順次紹介す

日本技術協會關西支部　浦上衛門氏
日本建築協會　矢田鐵藏氏
同　長尾清一氏
日本技術協會關西支部　亀井幸次郎氏

1. 浦上氏は災害地の地勢、人口、水利、氣象等を述べて專ら土木工學方面より見たる災害と復興對策を語り、矢田氏は災害の一般狀況と市民の訓練不足、防火措置の失敗、構築に際しての技術的缺陷等を、長尾氏は幻燈により災害建物の寫眞を映寫して一々說明を加へ、最後に亀井氏はあらゆる災害防止のためには綜合技術の必要を述べ火災の防止には空地を多く作ることが又必要條件で都市に多くの空地を作るためには强制處斷を必要とするとて土地の國家管理論を說いて結ぶ。
1. 午後8時朝日並に同盟の靜岡火災の特報映畫を上映、つゞいて朝日世界ニュース最新版を映寫
1. 午後8時30分伊藤常務より閉會の挨拶あり盛會

裡に有意義なる本講演會を終り一同散會す。

倶樂部室趣味の會

時　2月24日午後6時--8時30分
所　協會倶樂部室
出席者　青木康純、吾妻義一、畔上眞治
岩本泰意、池田　寛、岩尾保衛
加藤勝彦、景山正明、河津喜之助
來山源藏、左谷陽充、島岡義太郎
城口龜吉、武田經一、津村芳三
永澤毅一、畑中善造、下里勘右衛門
野田耕造、野中駒市、後出清範
原田千歳、和田友吉、木下昌次
高坂信次郎、高松平太郎、西澤藤生
三浦　茂、村井　毅

1. 午後6時三浦常務開會の挨拶をなし南木芳太郎氏を紹介す
上方噺の沿革に就て
上方郷土研究會　南木芳太郎氏
1. 南木氏は前記演題の下に諧謔を交へて上方噺の沿革を面白く可笑しく約40分に亘りて講演あり。
1. 次で三浦常務は笑福亭松鶴師を紹介す
上　方　噺
笑福亭　松　鶴　師
1. 松鶴師は約40分間師特有の上方噺を一席講演出席者一同大いに呵々大笑一夕の慰安を滿喫す。
1. 夫れより一同卓につき晩餐後談笑風發大いに語る
1. 午後8時30分三浦常務より閉會の挨拶あり和氣靄々の裡に一同散會す。

災害强度委員會（第2回）

時　2月26日午後6時--8時30分
所　協會倶樂部室
出席者　幹事　淺野、黒田、
委員　小泉、佐々木、園部、
長尾、矢田、藪中、
岡田、景山、中野、
後出、星野、

協議事項
1. 風壓パンフレット發行に對する檢討
1. 構造物節點の熔接設計例の蒐集
1. 熔接接手の標準强度計算法に關する研究
1. 木造に於ける釘接手に關する研究

材料委員會（第2回）

時　2月27日午後6時30分--9時
所　陳列場別室
出席者　委員長　松久保
幹　事　木野山、楠瀬、
委　員　青樹、薗部、中島
協議事項
1. 木材寸法規格統一に關する件
1. 用材生產統制規則に關し業者側と懇談の件

會員動靜

入會者

會員
淺野利吉君　神戸市須磨區板宿町2の10（大阪鐵道局工務部建築課）
海野浩太郎君　西區土佐堀通2の2　清水組内（株式會社清水組大阪支店）
鍵富要藏君　豐中戸吉野通2の1（〃）
小崎　修君　京都市上京區下鴨北園町79（ミラノ工務店）
瀧本敏郎君　普通賛助員より轉格
富永龜雄君　西成區千本通4の8　平野久雄方（關西不動產株式會社）
山本禎三君　天王寺區東高津北ノ町60（〃）
大塚友久君　旭區中宮町63
植澤武男君　東區清水谷東ノ町479
中村重好君　此花區草開町68　中村熊太郎方（大阪府警察部建築課）
小阪信一君　住吉區安立町1の8（布施市役所營繕課）
東　一男君　〃　阿倍野筋4の36（合名會社八木工務店）
八木繁志君　〃　〃　4の34（〃）
松井喜一君　東區仁右衛門町322（自營）
地方會員
木下正午君　新京特別市中央通　兒玉寮内（東邊道開發株式會社）
武田　稟君　仁川府花房町3の3　社宅19號（東洋紡績株式會社建築課）
樽本秀保君　兵庫縣飾磨郡飾磨町英賀854（日

本製鐵株式會社　廣畑製鐵所工務部設計係）

廣中勝美君　愛知縣愛知郡日進村大字梅森坊上松621（名古屋市役所建築課）

四日健夫君　普通贊助員より轉格

特別贊助員

五十嵐辰三郎君　西宮市川東町16（山之內藥品商會）

小澤利貞君　西成區松原通1の31（株式會社竹中工務店）

普通贊助員

山本茂君　宮崎縣兒湯郡新田村（第六師團經理部新田出張所）

越智愛二郎君　新京特別市關東軍司令部內（關東軍司令部經理部けい5の10）

濱田德夫君　新京特別市關東軍司令部內（關東軍司令部經理部けい5の10）

退會者

普通贊助員

小河正男君

轉居・轉勤

會員

飯塚守君　京都市中京區西之京中御門町21　粟津芳太郎方

美濃德一君　住吉區阿倍野筋1の25　八木工務店內

中島猪之吉君　兵庫縣飾磨郡飾磨町細江725

池野逸郎君　府下守口町土居191

森脇圭三君　西宮市產所町57

八壁武義君　大垣市本今里1.700　大日本紡績南大垣工場　大阪橋本組出張所內

柴垣貴雄君　住吉區西長居町410　土筆寮內

保園源三君　北區中之島5の30　大阪田島應用化學工業株式會社內

糸川政雄君　北京北長街114　株式會社竹中工務店北京支店內

福田佐二君　兵庫縣武庫郡武木村下新田448　福田方

紺谷昌亮君　住吉區昭和町西町4丁目　桑本建築事務所內

柳澤曠君　住吉區桑津町561

中原茂君　兵庫縣武庫郡本山村岡本108（電御影5.217）

川人繁一君　府下三島郡吹田町3.247

中村政一君　東京市豐島區池袋1の1

大倉三郎君　台北市大安十二甲309（臺灣總督府官房營繕課）

深田操君　橫濱市中區東ヶ丘20（鐵道省工務局建築課）

石井茂君　旭區吉市町大通2の31　古賀繁登方

栗本榮一君　堺市北三國ヶ丘町77

地方會員

二宮太平君　新京特別市大同街東拓ビル　東邊道開發株式會社工務部建築課

早川健次君　東京市四谷區傳馬町2の19　株式會社藤木工務店東京支店內

池田正二君　市川市市川新田224

青木太一君　石川縣河北郡森本村　石川製作所增築工事壽勝呂組出張所內

菊池辰熊君　德山市上今宿6.156

杉田新五郎君　富山縣上新川郡大澤野町高田

藤重土希雄君　滿洲國黑河後宮部隊經理部黑河派出所內

高村勝君　德山市河原4916の1

谷川勝三郎君　神戶市灘區篠原中町6の615

飯持剛君　西宮市今津高潮町24

廣瀨源三郎君　新京特別市順天區洪熙街第六政府代用官舍334號（建築局第1工務所第2工務科第3工事股）

井上爽一君　東京市品川區東品川4の35　日本特殊工業株式會社內

特別贊助員

高坂信次郎君　北區西寺町2の10　日刊工業タイムス社

普通贊助員

大林武君　神戶市林田區片山町3丁目16の159の2

田口治君　新京特別市關東軍司令部けい5の10

繁岡鎭君　船橋市海神1.449　山本方

黑田三男君　滿洲國齊々哈爾國崎部隊經理部分室

舟津重夫君　〃　濱綏線河城工務區（濱綏線河城工務區建築係）

社團法人 日本建築協會役員及幹事・委員（昭和十五年度）

役員

常務會

會長	理事	片岡　安
副會長	同	今林彦太郎
同	同	坂　靜雄
監事		井上福藏
同		鈴木一幸
主記	常務	伊藤正文
同	同	北垣熊之介
同	同	玉置豐次郎
同	同	三浦　茂
同	同	藪中一瓦
主計	同	岩尾保衛
同	同	桐本楠雅
同	同	久保田種吉
編輯	同	龜井幸次郎
同	同	北川正彌
同	同	棚橋諒
同	同	政岡基次

評議員會

評議員	淺野新一
同	井手正雄
同	伊藤武文
同	伊藤正文
同	猪瀨幸太郎
同	飯田賢次
同	石井春雄
同	石川純一郎
同	今林彦太郎
同	岩尾保衛
同	宇都宮藤次郎
同	小笹德藏
同	岡本松太郎
同	荻田眞之助
同	片岡　安
同	龜井幸次郎
同	北垣熊之介
同	北川正彌
同	桐本楠雅
同	久保田種吉
同	黑田　茂
同	澤部實之介
同	菅　陸二
同	巽　純一
同	棚橋諒
同	玉置豐次郎
同	塚本猛次
同	中島喜平
同	中西六郎
同	中野順次郎
同	長尾清一
同	野中駒市
同	羽原德衛
同	花輪正虎
同	坂　靜雄
同	政岡基次
同	增井敏克
同	松久保敬三
同	三浦　茂
同	道田泰治郎
同	矢野義夫
同	藪中一瓦

幹事

建築材料陳列場幹事會

幹事長	池田宮彦
常任幹事	小林　清
同	瀧　邦一
幹事	龜井幸次郎
同	北垣熊之介
同	桐本楠雅
同	鈴木金太郎
同	野中駒市
同	保園源三
同	松久保敬三
同	矢田鐵藏

編輯幹事會

幹事	龜井幸次郎
同	北川正彌
同	棚橋諒
同	政岡基次
同	伊東恒治
同	大石忠夫
同	岡田孝男
同	加藤善吉
同	小林　清
同	新名種夫
同	堀口甚吉
同	本多正道
同	宮田秀穗
同	村田治郎
同	森口　清
同	森田慶一
同	山口儀三郎
同	横山尊雄
同	吉田信武
同	和田　登

都市武裝促進幹事會

幹事長	池田　實
常任幹事	井上新二
同	宮田秀穗
同	吉田信武
幹事	淺野　繁
同	伊藤正文
同	海野浩太郎
同	境　正一
同	清水榮二
同	瀧　邦一
同	竹內佐平治
同	棚橋諒
同	塚本猛次
同	內藤亮一
同	松井清之助
同	村野藤吾
同	森田慶一
同	山口吾郎

會事幹勢會

幹事長　松本儀八
常任幹事　大下順三郎
同　川人繁一
同　北垣熊之介
同　篠原太郎
幹事　伊丹久吉
同　池田宮彦
同　池野逸郎
同　石井春雄
同　龜井幸次郎
同　桐本楠雅
同　坂口正雄
同　酒井勇三郎
同　鈴木忠五郎
同　高松平太郎
同　竹中練一
同　棚橋諒
同　本田林八
同　三浦茂
同　渡部圭吾
同　渡邊義三

會事幹室部樂俱

幹事長　鈴木金太郎
常任幹事　高坂信次郎
同　三浦茂
幹事　木下昌次
同　高松平太郎
同　西澤藤生
同　村井毅

委員

都市計畫委員會

委員長　井上新二
幹事　龜井幸次郎
同　錦田直一
委員　伊藤憲造
同　川勝健二
同　實崎靖
同　嘗陸二
同　中村武雄
同　稗田治
同　松森修太
同　森口清
同　吉田信武

法制委員會

委員長　池田寬
幹事　池田谷久吉
同　玉置豐次郎
同　津田敏雄
委員　黒田茂
同　島影岩次郎
同　島田啓太郎
同　高木太作
同　竹中景一
同　平井三郎
同　平野忠雄
同　本田林八
同　松井清之助
同　宮脇晴美
同　村田哲男
同　森口清
同　横見幹

教化委員會

委員長　堀口甚吉
幹事　大下順三郎
同　中野順次郎
委員　小川陽吉
同　坂本啓一
同　田中光治
同　龍純一
同　花輪正虎
同　政岡基次
同　宮崎春夫
同　横山尊雄

材料委員會

委員長　松久保敬三
幹事　木野山照雄
同　楠瀨澂
委員　青樹英次
同　青山清治
同　猪瀨幸太郎
同　石河晃太郎
同　鵜宮要藏
同　久保田種吉
同　榊弘美
同　薗部茂
同　玉置豐次郎
同　中島喜平

災害强度委員會

委員長　渡部圭吾
幹事　淺野新一
同　黒田茂
委員　淺井郁爾
同　大野勝三郎
同　岡田撲
同　景山正明
同　小泉昇
同　佐々木俊朗
同　嘗陸二
同　園部泰文
同　竹花末春
同　長尾清一
同　中野吉禰
同　後出清範
同　星野一雄
同　矢田鐵藏
同　藪中一夏

設備委員會

委員長　新名種夫
幹事　石井春雄
同　前原大二郎
委員　伊藤鑛一
同　岩尾保衛
同　大原喜八郎
同　北川正彌
同　丹藤夏雄
同　塙信
同　增井敏克
同　山口吾郎

住宅委員會

委員長　石川純一郎

幹事	岡田孝男	同	伊藤正文	同	北川正彌
同	矢田鐵藏	同	今林彦太郎	同	桐本楠雅
委員	伊藤和夫	同	北垣熊之介	同	久保田種吉
同	岩尾保衛	同	酒井勇三郎	同	新名種夫
同	北垣熊之介	同	鈴木一幸	同	鈴木金太郎
同	小林清	同	坂靜雄	同	棚橋諒
同	白石登喜男	委員	井上福藏	同	玉置豐次郎
同	中野順次郎	同	池田貢	同	堀口萬吉
同	中村源太郎	同	池田宮彦	同	政岡基次
		同	石川純一郎	同	松久保敬三
		同	岩尾保衛	同	三浦茂
		同	片岡安	同	藪中一萬
		同	龜井幸次郎	同	渡部圭吾

二千六百年記念事業委員會

委員長	松本儀八
幹事	井上新二

昭和十五年改訂 第十版

昭和十五年三月下旬發行
本綴・菊 裁 判

市街地建築物法令

日本建築協會版

●定價65錢 送料6錢●

日本建築協會發行 | 大阪市北區朝日ビル4階 振替口座大阪 39975 | 賣捌 丸善本支店 柳々堂書店

編輯後記

○内容充實した靜岡大火の調査報告に關する特輯號を逸早く會員諸君のお手もとに送ることが出來たのは編輯の衝に當るものゝ喜びである。御多忙中にも拘はらず玉稿を賜つた諸氏に深謝する。靜岡の大火には多くの誘因があつたらうが季節風と低濕度と云ふ氣象條件は決定的な因子であつたと思ふ。氣象の我々の生活に對して持つ大きな意義をこの方面からも我々は痛感せしめられたのである。

○天氣豫報をあたらんものゝ様に噂ひ話にする人もあるけれども本當は仲々よくあたる。あれだけ廣範な Information をもとにするのだからあの位はあたらなけりやならん。それでももつと狹い區域の特殊な短い時間の氣象變化の狀況となると漁師など非常に正確な豫斷をする。こう云ふ智惠も綜合すれば立派な科學になるのではないか知ら。我國の様な特殊な地域でしかもこう云ふ短期の氣象變化に鋭敏ならざるを得ない漁民が數十代に亘つて蓄積した叡智を一つの科學にまで結晶させることが出來ぬものか。天氣豫報と云へば毎日のあてましの天氣の話も結構であるが、昨年の夏の日照りであるとかこの冬の雨の少ないことゝか云ふもつと長い期間に亘る氣象の特殊性に關する豫報が出來る様になれば、漁業でないもつと他の産業にも益のあることおびたゞしいものがあらう。もつともこう云ふ問題をまでとり上げるには今の科學の根はあまりにも淺すぎるかも知れん。しかし方法がないとも限らない。大風の吹く年には鳥が高い枝に巢を作らないと云ふ様な、野性の動物の本能的な叡智の中にある示唆をこれらの動物の生活の觀察から得ると云ふ様なところにでもこう云ふ問題をさしあたつてとく鍵はないものか知らなどと考へる。なくなつた寺田博士は地震の發生と魚獲の相關の様なことまで注意して研究せられたものである。(棚橋記)

建築と社會

第23輯　第3號

毎月1回1日發行　定價　1册　50錢（郵稅3錢）
　　12册　6圓（〃　36錢）
昭和15年2月25日印刷　昭和15年3月1日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	1/2頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	1/2頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案内）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖(二萬分ノ一)1部

- **實　　費　15錢　(外に送料3錢)**
- **送金方法　振替　(振替口座大阪39975)**

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ係關圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ從覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人　日本建築協會

木造建築統制規則の發令に際して

井　上　新　二

木造建物建築統制規則が去る11月13日から實施される様になり相當木造建物に制限を加えられる事になりましたが、一體その主旨目的はどういふ處にあるのでせうか。之は必ずしも國內に木材又は建築資材が行き詰つて不自由になつて來た爲に發せられたのだと極言する事は出來ないのであります、個々の條文に關する詳細の點に就いては主管技師が御說明する事と思ひますので私は此規則が發せられました主旨に就いて御說明致し度いと思ひます。

つまり現在の我國は何と云つても平常と異つて戰爭をしてゐるのであります。海の向ふの支那大陸では劇しい戰鬪をやつてゐる——一國を擧げての非常時なのであります。だからして此戰爭の目的を明瞭に認識して、新東亞建設と云ふ國家的大使命を遂行すると云ふ——そう云ふ心構えを常に生活意識に持たなければならない時なのであります。でありますから急を要せぬものとか又は不必要な方面に材料を消費する事は、假令資材が潤澤であつても差し控えてもらひ度いばかりでなく、出來ればそんな方面に使用する資材は一切を遠慮して貰ひ度い位なのであります。だから或る程度不必要な消費を統制、制限して、建築資材を現下の尤も緊迫した方面に振向けると言ふのが此の規則の目的とする處であります。さて確保された或程度の資材は、それでは如何なる方面に向けられるかと申しますと、戰地及び銃後の生產擴充は申す迄もありませんが、第二に重要な銃後の勞務者向の小住宅共同住宅（アパート）及び寄宿舍の建設に振向けられるのであります。之は厚生省が大いに力瘤を入れて鋭意努力を續けてゐる點でありますが、統制に依つて餘裕の出た資材を銃後產業戰士の「住」の問題を解決する爲に提供しやうと云ふ點にその重點があるのであります。その爲には大邸宅、料理屋、劇場等の建築は極度の制限を覺悟して貰はねばならないのであります。その代り勞務者向のものはむしろどんどん建築してもよろしいと云ふ譯で謂はば建築を奬勵すると云ふ事になつてゐるのであります。

それでは何故勞務者向きのものなら當局が奬勵するかと言ふと、それは只單に勞務者が銃後の產業戰士であり、國の今一つの生命であるからと云ふばかりでなく、勞務者の住宅の現狀が極めて劣惡な爲に各種の憂ふべき問題が惹起され、國家的にみて等閑に附せられない重大事であるからであります。即ち、勞務者の住宅條件の現狀はその大部分が充分な下宿なり、宿舍の設備がない爲めに6疊の部屋を4～5人で貸りてゐるとか、甚しいのになると8疊の部屋を13人で貸りて住んでゐると言ふ狀態なのであります。然も室內の電氣照明は劣惡な條件のまま放置されて居り、その上、過度の疲勞や不規則な生活狀態等の惡條

件が原因となり生産力擴充の重大なる責任を擔つて居る勞務者の體位が次第に低下しつつあると云ふ事態を招來したのであります。そこで厚生省は此の問題の重要性に鑑み、之れが解決に向つて大々的に乘り出して來たのであります。話のついでに、此の問題へ若干附け加へますならば、勞務者の90%が獨身者で且つ農村出の青年である關係から都會の生活に染むに從ひ美食から亂食、亂食から遍食に傾き、且つ惡疾の快樂を追ひ求める事に依つて、果ては花柳病に犯されると云ふ平凡な過程を辿る勞務者が大部分でありまして、充分な休養が取れないことから次第に體位を低下させる傾きが多いのであります。最近特に重要工場に缺勤者が增加する傾向が顯著になりつつあるのは此事を如實に物語るものとして大いに注目に値するのであると思ふのであります。かくの如く勞務者の體位が低下し、缺勤者が增加すれば、生産能率に惡影響を及ぼすのは當然なのであります。然も之は能ふ限り一日も早く改善しなければならない由々しい問題であるのは申すまでもありません。そこで厚生省ではその原因の究明に努力した結果、結局、此問題は、勞務者に快適な住宅を與えて、惡因の依つて來る根源の一掃に努力しなければ駄目であると云ふことに氣が付いたのであります。即ち此處に非常時が齎したところの小住宅問題の重要性があると共に、それは又依つて持つて此統制規則の實績に大いに期待されてよいものがあると言はねばなりません。

でありますから直接此の問題に接觸します各位におかれましては充分な御理解と御協力によつて、建築報國の實を擧ぐべく生産擴充への拍車に歩調を揃へますことをお願ひする次第であります。

★筆者は大阪府建築課長

昭和十五年改訂 第十版

昭和十五年三月下旬發行
本綴・菊 裁 判

市街地建築物法令

日本建築協會版

●定價65錢 送料6錢●

日本建築協會發行

大阪市北區朝日ビル4階
振替口座大阪 39975

賣捌 丸善本支店
柳々堂書店

木造建物建築統制規則に就て

玉置豊次郎

では、これから木造建物建築統制規則の內容を御說明申し上げることに致しませう。

先づ第一條の前半を讀みます。

第一條　木造建物（以下建物ト稱ス）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ新築セントスル者ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ノ許可ヲ受クベシ

（一）農業（養蠶業ヲ含ム）林業畜產業又ハ漁業ヲ營ム者ノ業務及居住ノ用ニ併セ供スル建物ニシテ總床面積160平方米（48.4坪）ヲ超ユルモノ

（二）前號ニ揭グル用ニ供セザル建物ニシテ總床面積100平方米（30.25坪）ヲ超ユルモノ

此處ではこの1號2號の種類の建物を建てやうとする時には地方長官の許可を受けなければならないといふことが規定されてゐます。この許可の問題は市街地建築物法による通常の手續とは非常に趣きを異にしてゐるのであります。市街地建築物法による手續は認可手續若くは屆出手續でありまして、屆出と云ふのは自分がやらうとすることを屆出さへすればよい、認可といふのは、規則通りの設計をしてそれが規則に合ふてゐるか否かを認めて貰ふ、それが規則に合ふてゐるといふことを認めて貰へれば原則として建てることの出來るものでございます。ところが許可といふものは元來建築すべからざるものなのであります。それを建築することの出來るやうに許して貰ふといふことであります。だから建築するといふのが寧ろ例外でありまして原則は建築禁止であります。ですから1號2號に書いてあるやうな建物は向後建築出來ないが特殊な場合に限つて手續をするならば建築することを許して貰ふことがあるかも判らないといふのであります。だからこの意味は今までの市街地建築物法の手續と違ふのであるといふことを念頭に置いて頂きたいのであります。それではどういふ種類のものが通常建てることが出來ないのであるかと申しますと、農業（養蠶業を含む）林業、畜產業又は漁業を營む者の業務及び居住の用に併せ供する建物であつて總床面積160平方米を超える建築は出來ないのであります。それからそれ以外の用途に供する建物であつて100平方米を超えるものも建築出來ないのであります。

先づ農業用の方から申しますと、業務及居住の用に併せ供する建物と云ふ文句が御座いますがこれは——住宅の一部分に作業場があり、或は農產物を收容する納屋があり、或は百姓の家のやうに牛を入れる小屋があるといつたやうなものであればそれ等の附屬建物と住家とを合せて160平方米まで建てることが出來ます。しかしながら田舍でも庄屋さんの家などで、その庄屋さんの農業用に供する建物が別の場所にあるといふことになれば業務及び居住の用に併せ供するものでなく居住の用だけに供する建物でありますからこの中に

は入りません。また、田舎で副業に筍の罐詰の製造をやつてゐる、この際建物が罐詰の製造をやるところだけであればこれは業務及居住の用に併せ供するものでなく業務だけに供する建物でありますから、それはこの中に入らないのであります。農業用等の業務と居住に併せ供する建物に限つて、160平方米まで建築することが出來ます。だからしてそれ以外のものは總て2號になりまして、街の商店でありますとか、或は工場でありますとか、山で木を伐つて來てその木を材木に仕上げる作業場でありますとか、そういつたものは總て100平方米までしか建築出來ません、たゞ全部が全部建築禁止といふことにはならないのでありまして、若干のものに對しては許可を與へられることになつてゐます。それらの許可方針につきましては後程一括して御說明申上げることに致します。

「前項ノ規定ハ商工大臣ノ指定スル建物ニ付テハ之ヲ適用セズ但シ建物ノ總床面積100平方米ヲ超ユル場合ニ在リテハ其ノ建築主ハ工事着手前第3條第1項各號ニ揭グル事項ヲ記載シタル届書ヲ地方長官ニ提出スベシ」

先程井上課長からお話がありました通り、今回のこの統制規則の目的は全部の建築を抑へようといふのでなしに、この時局柄急を要する建物と急を要しない建物とありますから急を要する建物に向つて、建築資材を急を要しない建物から廻そうといふ建前であります。ですから急を要する建物に對しては今申しましたやうに禁止はおろか、寧ろ奬勵さるべきであります。だからそういふ種類の建物は原則として許可を受けなくてもよいのでありまして、それが今讀みました「前項ノ規定ハ商工大臣ノ指定スル建物ニ付テハ之ヲ適用セズ」であります。つまり茲で指定されるのは總括的に時局柄急を要する建物であります。だからこの統制規則といふものは文字通り統制でありまして建築資材の使ひ分けをすることが目的でありまして決して、一般の業界をとつちめやうとか、虐めやうとか、沈滯せしめやうとかいふことになつてゐないのであります。で、この指定の中には序に常識的に考へてわざわざ許可を受けるまでもないではないかといふのも一緒に指定されて居ます。その指定と申しますのは

商工省告示第317號木造建物建築統制規則第1條第2項ノ規定ニヨリ許可ヲ要セザル建物ノ種類左ノ通リ指定シ昭和14年11月13日ヨリ之ヲ施行ス

昭和14年11月8日

商工大臣　伍堂卓雄

（一）一時ノ用ニ供スル建物

極く短期間だけ使用する建物は殊更に許可を受けなくてもよいといふのでありますがその一時の用に供する建物はどういふものであるかは後程一括御說明申上げます。

（二）左ニ揭グル事業ノ用ニ供スル作業場、事務所、勞務者用住宅（共同宿舍ヲ含ム）及其ノ附屬建物

（イ）採鑛業並ニ金屬製錬業及製鐵業

（ロ）輕合金ノ製造業

（ハ）工作機械器具又ハ同部分品若ハ同附屬品ノ製造業

（ニ）兵器又ハ同部分品若クハ同附屬品ノ製造業

（ホ）石油精製業及人造石油又ハ代用液體燃料ノ製造業

（ヘ）石油輸入業

こゝに書いてあるのは最も時局の要求する種類の建築物でありまして、かういふ風なものに向けて建築資材を廻はそうといふことになつてゐます。

（三）法令ノ規定ニ依リ設立セラレタル組合其ノ他ノ團體ノ共同施設ノ用ニ供スル建物

この法令の規定に依り設立せられた組合は種々澤山あります。例へば漁業組合であるとか、區劃整理組合といつたやうなものでありまして、これらの共同施設その他の團體の共同施設の用に供する建物はこれは届出だけでよいどんどん建てゝよいといふことになつてゐます。其の他の團體といふのはどういふものであるかと申しますと、醫師會であるとか此頃あります警防團とかをいふのでありまして、そうしたものゝ物置或は事務所といつたものはどんどん建てゝよいといふことになります。

（四）建築ニ付キ國又ハ道府縣ノ補助金又ハ奬勵金ノ交付ヲ受クル建物これは種類はあまりありません。よく田舍の停車場の傍の農業倉庫穀物倉庫といつたもの、水産組合の納屋といつたものは國の補助或は府縣の補助で建てゝ居りますが、そういふものは建ててもよいといふのであります。

で、今規則の第一條に歸りまして、今申上げたやうな種類の建物は許可の手續が要らない、しかしながら、そういふ種類の建物であつても總床面積100平方米を超えた場合はその建築主は届出て貰ふといふことになつてゐるのであります。この總床面積といふことについて御說明申上げますが、これは建物が1棟であります場合は、その1棟が2階建とすると、1階の面積と2階の面積と併せたものがつまり1棟の延坪總床面積であります。又建物が2棟あります場合その各棟の延坪を合計したものが總床面積です、ですから工場などでは門衛の建物、工場の事務所の建物、工場の作業場の建物、工場の物置、工場のトラツクの置場といふものゝ一切合切の延坪の合計が總床面積といふことになるのであります。

第2條　前條第1項各號ノ1ニ該當スル建物ヲ增築（改築又ハ構造ノ變更ニ依リ床面積ヲ增加スル場合ヲモ含ム以下同ジ）セントスル者又ハ增築ニ依リ前條第1項各號ノ1ニ該當スル建物ト爲サントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ前條第1項各號ノ1ニ該當スル建物ニ付同條第1項各號ノ1ニ規定スル總床面積ヲ超ユル改築ヲ爲サントスル者亦同ジ

これは少し解り難い書方になつてゐますが、かいつまんで申しますと、茲には三つのことが書かれてゐるのであります。前條第1項各號の1に該當する建物即ち農業用建物であるならば160平方米其他の建物であるならば100平方米を既に超過して居る建物この建物に更

に幾坪かを増築しやうといふのが一つの場合、又は増築により前條第1項各號に該當する建物となさんとするのが2の場合、前條第1項各號の1に該當する建物に付同條第1項各號の1に規定する總床面積を超ゆる改築をなさんとするのが3の場合であります。この3つの場合は第1條同樣の許可を受けなければなりません。それで第1番目の「前條第1項各號ノ1ニ該當スル建物ヲ増築セントスルモノ」は田舍家であるならば現在總床面積が既に160平方米を超えてゐる場合、或は街であるならば工場や住宅で既にその總床面積が100平方米を超えてゐる建物、その建物に對して何等かの増築をしやうといふ場合をいふのであります。で、現在總床面積が100平方米を超えてをります住宅は物置と雖も風呂場と雖も増築することが出來ないのだといふことになります。現在既に100平方米を超過してゐる工場ではもう作業場の増築が出來ないのだといふ意味なのであります。それから二番目の「増築ニヨリ各號ノ1ニ該當スル建物トナサントスル者」これは現在ある建物は100平方米以下であるが、今度増築すると100平方米を超過する建物になるといふ場合、例へば今ある建物は80平方米であるがそこへもつていつて30平方米を増築しますとそれは110平方米になります。そうすると100平方米を超過することになりますから、そういふやうな普請をするのには許可を受けねばなりません。言ひ換へればそういふ風な増築は一般には出來ないといふことになります。第3番目の「前條第1項各號ノ1ニ該當スル建物ニ付キ同條第1項各號ノ1ニ規定スル總床面積ヲ超ユル改築ヲナサントスル者」これは現在あります建物が既に100平方米を超過してゐる、例へば500平方米の工場がありまして、その500平方米の總床面積のうち100平方米以上を改築しやうとするのであれば、それは許可を受けなければならないといふのであります。ですから、現在500平方米の工場のうちで90平方米だけ改築しやうとする場合には特にこの木造建物建築統制規則の許可の手續を經なくてもいいそれは當然出來るのだといふことになるのであります。この第2條の今說明致しましたところは、それ以外に解譯が出來ないでもないのでありまして、いろいろこれは物議を醸してゐるのでありますが、商工省の御意向を私が確めました時は、今、私が皆樣にお話申上げたやうな解譯になつて居ります。

前項ノ規定ハ前條第二項ノ商工大臣ノ指定スル建物ニ付テハ之ヲ適用セズ但シ總床面積100平方米ヲ超ユル建物ヲ増築セントスル場合、増築ニ依リ總床面積100平方米ヲ超ユル建物ト爲サントスル場合又ハ總床面積100平方米ヲ超ユル改築ヲ爲サントスル場合ニ在リテハ其ノ建築主ハ工事着手前第4條第1項各號ニ揭グル事項ヲ記載シタル届書ヲ地方長官ニ提出スベシ

これは、先程申しました時局柄寧ろ建築して欲しい建物が増築改築したいといふ場合には規定の面積を超過したものに限つて届出手續をして頂きたく、たゞこれは届出だけでよいのであつて、建てゝよいといふ指令を持たなくてもいゝといふことになつてゐます。今度の規則には四つの制限があるので御座いますがその中第1條が第1の制限でありまして今

の第2條は第2番目の制限でありますが、制限の第3番目は第8條であります。

第8條　地方長官第1條第1項第2條第1項第5條又ハ第6條ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ建物ノ新築、増築又ハ改築ニ使用シ得ル物資ノ種類、寸法、數量又ハ使途ヲ指定スルコトヲ得

これはたゞ建物を建てゝはいかん或は許可を受けなければいかんといふだけではないのでありまして、今建築資材が非常に拂底してゐますから、假令それが建てゝよい建物でありましてもそれを建築する場合には極力建築資材の有効な使用若くは建築資材の節約といふことをして頂だくといふ主旨に組成つてゐるのであります。それで資材の市にあります狀況を見分けます。そして假令建築を許可される建物でありましても、今日或る資材を他に確保する必要が起りました場合にはその資材を使用することを控えて貰つて、他の資材で我慢して貰はねばねばならないことがあり得るといふ譯であります。そこで指定し得る物資の種類といふのは現在どういふやうなものが考へられてゐるかといふことにつきましては後程また一括御說明申上げます。次にこの規則の第4番目の制限と申しますのは第10條であります。

第10條　本則ニ依リ許可ヲ受ケ建物ヲ新築増築又ハ改築シタル者（當該建物ノ承繼人ヲ含ム）ハ其ノ工事竣工後一年以内當該建物ヲ許可申請書ニ記載シタル用途以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

今申上げました如く、不急建築物を抑制しまして急を要する建物に資材を廻さうと云ふ建前になつて居るのでありますが、建築します時に急を要する建物であるといつて建築して置いて、直ぐ後で急を要しない用途のものに、建物を使ひ替へやうとするのがあります。例へば最近いろんな資材統制團體が出來ますが、それらの統制團體の事務所は後程申上ます通り許可されることになつてゐます。所が最初統制團體の事務所だといふ風にして建てゝおいて、あとから統制團體を追つぽり出して個人の商店の用に供するといつたやうなことは許可された主旨に反することになりますから、そういふ建物の用途變更は建築後一年間認めない、一年經てばもう已むを得ないが、さしづめ一年間は許可を受けた主旨に反する建物の用途に變更してはいけないといふ譯であります。制限事項は以上4ケ條で終りでありますが次に第11條を御說明申上げます。

第11條　本則ニ於テハ附屬建物ハ之ヲ主タル建物ノ一部ト見做ス

本則ニ於テ總床面積トハ長屋ニ在リテハ各戸ニ付算定シタルモノヲ謂フ

前半は先程御說明申上げたので御座いますが、工場の主體は作業場であります。その作業場に附屬しまして物置或は門衛詰所といつたやうな附屬建物が敷地内にある場合はそれ等の附屬建物は主たる建物の一部と見やうと云ふのであります。つまりどういふことかと申しますと、敷地内の幾棟もの建物は總括して總床面積を計り、第1條第2條の坪數の解釋はこの總床面積を基準にしやうといふ意味合であります。

第2項目の「本則ニ於テ總床面積トハ長屋ニ在リテハ各戸ニ付算定シタルモノヲ謂フ」

これは住宅難を緩和するために小住宅を建築することは目下の急務であります。關西は長屋が非常に多いところで總床面積を計るのに前の様な計り方をしますと、大低の長屋は引掛つてしまひます。そうすると關西で長屋建築が出來ないといふことになるので、それでは益々住宅拂底を招致することになりますから、長屋の場合は長屋全體の延坪を見ないで一戸々々をもつて計らうと云ふのであります。勿論長屋の一戸を 100 平方米といふことにしますと現在ある1長屋の標準から見れば大き過ぎるのでありますが、假りに長屋の一戸が100平方米であるとしたならばこの解釋でゆくと5戸建の場合には500平方米まで建てられるといふことになります。

制限事項と致しましては、以上申上げた4つだけでございまして、この制限が履行されるのを見とどける爲めに、夫々手續をして頂きたくといふことになります。その手續としてはこの制限を超過してゐる建物の新築をする場合は許可申請をなし、制限を超過してゐる建築の增築、改築をする場合にも許可申請の手續をして頂きます。それから新築、增築改築の許可を受けられた後に工事竣工までにその模様變へをしたい、つまり設計の內を變容更したいといふ場合には又許可申請をして頂きます。これらのことは從前から行はれてゐる市街地建築物法の手續と似て居ります。それから又時局柄寧ろ建てゝ欲しい建築物の場合にはこれは新築の場合或は增築改築の場合何れも屆出て頂きます。その內容を變更する場合にも矢張り屆出て頂たくといふ手續になつてゐます。それから出來上りました場合や、工事を中止する場合にも屆出ます。尙市街地建築物法の適用は大體市街地に限定されて居りますが、この規則は日本全國悉くに適用されるのでありますから、手續については市街地建築物法の施行區域內においては先づ大體問題ないのでありますが、その區域外のものも今後は新に手續しなければならないといふことになつてゐるからその點御了承願ひたいのであります。それから又、許可を受けて一年以內に用途を變へやうとする場合はこれは原則として出來ないのでありますが、どうしても變へなければならぬ事情が起つた場合は矢張り許可申請をして頂きます。許可になるかならぬか判らないのでありますが、その手續をして頂たくといふことになつてゐます。それから先に申しましたやうに建築資材の制限といふことがありますので、今度の手續の中には建築資材の種類或は寸法、數量といふやうなものを書いて頂だくことになつてゐるのであります。なほ瓦斯だの電氣だの水道といふやうなものゝ供給を受ける場合にもその供給をどこから受けるか、まあ大阪の如き場合は市內の中心であつたならば電氣は電氣屋から供給されてゐるからそれを書けばよいが、或は大同電力であるならば大同電力、日本發送電だつたならば日本發送電といふやうなことも書いて頂かねばならぬことになつてゐます。瓦斯なれば大阪瓦斯或は何々瓦斯といふ事を書いて頂だく事になつてゐます。それらの目的については後程お話します。

その次は、如何なる種類のものか然らば許可になるかといふ許可標準の問題であります

が、許可標準については今迄新聞に極くあらまし出たことが御座いますが、こゝに印刷して御覽を願つてゐるのは許可標準の所謂內規でありまして、通常發表することの出來ないものであります。今晩この席で明らさまに發表すると或は商工省あたりから叱られはせぬかと思ふのでありますが皆樣の御便宜の爲めに、私が責任を被つて叱られやう、といふつもりで思ひ切つて發表するのでありますが、これは飽迄內規でありますからそのお心組でお聞取り願ひたいと思ひます。だからして時勢の變遷と共に規則の條文は變らなくてもこの內規は變ることがあります。これは今日の內規でありますから明日商工省から新しい指令が出來ましてこの一部は或はいかんことになるかも判りません。それから大阪でかういふ風な內規を示して貰つたといふことを楯にして、京都府だとか兵庫縣或は警視廳へ行つて、これは當然許して貰へる筈だといふ樣な押問答をなさらないやうに御願ひします。私が思ひ切つてかういふことを發表したのに軋轢が起る樣でありますならばもう次からは便宜は計れないといふことになるかも知れませんからどうかそのおつもりで私の氣持を含んで聽いて頂きたいと思ひます。

許可標準

（一）左ノ場合ニ於テハ建物ノ種類及總床面積ノ如何ニ拘ラズ從前ノ總床面積ヲ超エザル範圍內ニ於テ新築增築又ハ改築ノ許可ヲ爲シ得ルコト

（1）天災、火災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ建物ノ新築、增築又ハ改築ヲ要スル場合

（2）腐朽等ノ事由ニ依リ保安上又ハ衞生上建物ノ新築、增築又ハ改築ヲ要スル場合

（3）道路、河川、港灣等ノ公共土木工事、土地、區劃整理ノ事業其ノ他公共ノ事由ニ依リ從前ノ建物ノ全部又ハ一部ヲ除却スルノ要アル爲建物ヲ新築、增築又ハ改築セントスル場合

大體、茲に揭げてあります（1）（2）（3）の3つは事情已むを得ないではないかと思はれる場合であります。で、それらの場合には從前ありました建物が第一條に揭げられてゐる坪數を假令超過致して居りましても、これは原則として許すべきものではないかといふ風に思はれるのであります。（1）の方は天災、火災といふのでありますから、これは說明を要しません（2）の場合の腐朽等の 事由と云ふのは多少主觀的のものになるのではないかと思ひます。ある建物が古くさくていやになつたといふ場合これを腐朽等の事由で改築したいといふことはいけないのであります。この「腐朽等」の解釋については主觀的の考へを入れず誰が見てもなるほど腐つてゐる、この儘置いたならば危いといふものに、勿論限定される譯であります。その次の（3）については別に異議の餘地はないと思ひます。

（二）居住用建物ニ關スル許可方針ハ左ニ依ルコト

（1）居住スベキ世帶數2以上アル場合又ハ一世帶ニシテ家族ノ數6人以上ノ場合其他建物ノ總床面積100平方米（30.25坪）ヲ超ユルコト已ムヲ得ズト認メラルル場合ハ130平

方米（39.325坪）迄許可ヲ得ルコト

（2）中流住宅ノ拂底顯著ナル地方ニ於テハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル地區ニ限リ一般貸家向住宅ニ對シテモ前號ノ限度內ニ於テ許可シ得ルコト

（3）前2號ノ場合ニ該當スルモ地方ノ事情ニ依リ奢侈ト認メラルルモノハ之ヲ許可セザルコト

（4）共同住宅、寄宿舍又ハ下宿屋ハ一棟ノ總床面積600平方米（181.5坪）迄許可シ得ルコト厚生省斡旋ニ係ル勞務者用共同宿舍ニ付テハ尙右ノ限度ヲ超過スルモ支障ナキコト

居住の用に供する建物でどうしても100平方米を超過して建築することを認めなければならない場合といふのは、今茲に揭げた（1）（2）（3）（4）の四つの場合であります。それで始の「居住スベキ世帶數2以上アル場合」といふのは家は1軒であるが最初から1階と2階は、別々に使用することが出來る樣に建てられて居ると云ふ樣な場合であります。

それから「1世帶ニシテ家族ノ數6人以上ノ場合」は家族が多いのに無理に100平方米迄の所へ押し込むといふことになれば寧ろ衞生狀態も惡くなりますから、これらに對しては若干緩和を認めやうといふのであります。それは文字通り若干でありまして100平方米が僅かに130平方米になつたに過ぎないのであります。少々ケチくさいやうな感がしないでもないのですが商工省の主旨はかういふ風になつてゐます。（2）の「中流住宅ノ拂底顯著ナル地方ニ於テハ」の場合は京阪神の界隈においてはかういふ風な地方はないやうに思ひます。主としてこれは佐世保、舞鶴といつた軍港地帶では、將校等が多數增えたのでどうしても中流住宅が要るといふことになつてゐるのでありましてそう云ふ事情の地方を指して居ります。（3）はご覽の通りです（4）の「共同住宅寄宿舍又ハ下宿屋ハ1棟ノ總床面積600平方米……」といふこの1棟はあくまで先程申しました第11條の解釋に基くのであります。附屬建物も一括して總床面積を計るといふことを申上げましたが、例へば寄宿舍でありますならば1號寄宿舍があり2號寄宿舍があり3號寄宿舍があり、それが各廊下によつて連絡されてゐるといふ場合には、その1號寄宿舍が600平方米、2號寄宿舍も600平方米、3號寄宿舍も600平方米といふのでありません。1號2號3號皆併せて600平方米といふのであります。寄宿舍が建つにしましてもアパートが建つにしましても坪數全部併せて600平方米といふのでありますから現在大阪邊りに建ちますアパートの大きさから申しますならば中以下のものに過ぎないと思ふのであります。然しながら厚生省が特に斡旋して居られる勞務者用住宅で急を要するものは勿論この限りではないのであります。

（3）工業、農業（養蠶業ヲ含ム）林業、畜產業及ビ水產業用建物（住居併用ノモノヲ含ム）ニ關スル許可方針ハ左ニ依ルコト

（1）時局ニ必要ナル產業ノ用ニ供スル建物ハ之ヲ許可シ得ルコト

（2）時局ニ依ル轉業ノ爲必要ナル建物ハ之ヲ許可シ得ルコト

（3）右ノ外地方ノ事情ニ依リ已ムヲ得ズト認メラルル建物ハ許可シ得ルコト

工業用建物につきましては先の居住用建物から見まするとやゝ寛大であります。(1)の時局に必要なる産業の用に供する建物は一體これはどういふものであるかと申しますと、大體この場合考へられますのは生産擴充用のもの、或は軍需品の製造をやつてゐるやうなもの若くは資金調整法により許可になります種類のやうな建物そういふやうな建物は許可しようといふのであります。先程別表で御說明致しましたやうな、工業或は兵器製造業或は石油精製業といふやうな時局の要求する第一線に屬しないまでも、それに次ぐやうな重要性のある建物に對してはこの(1)によりまして許可して行かうといふ方針なのであります。(2)はその文字の通り(3)は大體1と同じやうなものでないかと思ひますが、今日のところ一寸これに該當するものは考へることが出來ません。

(4)商業用建物(住居併用ノモノヲ含ム、料理店。飮食店。劇場。映畵館。演藝場。觀物場。遊技場。舞踏場。待合。貸座敷ノ類ヲ除ク)ニ關シテハ營業ノ性質ニ依リ第1條第1項第2號ニ定ムル面積ヲ超エルコト已ムヲ得ズト認メラルルモノニ付テハ160平方米(48.4坪)迄許可シ得ルコト

大阪の街の眞中に澤山あります商店と住居とを兼ねて居る建物、そういふやうなものは大體160平方米まで許可して行かうといふのであります。船場あたりにある建物は160平方米以下のものは殆んどない譯でありますからよくよく小さい建物を狙ふてゐると思ひますが、100平方米から見れば60平方米だけ緩和されて居ります。次に料理店、飮食店、劇場、映畵館等は時局柄最も不用の建物でありますからそれは一切罷りならぬといふことになつてゐます。

物資ノ生產又ハ配給等ノ統制團體ノ用ニ供スル事務所、貸事務所、倉庫業ヲ營ム倉庫ノ類ニ付テハ右ノ限度ヲ超エテ許可シ得ルコト。

先程申しましたやうに統制團體がどんどん出來るのであります。ところが團體は出來たけれども事務所がないといふのが今日の情勢であります。それでそういふものに對してはこの際新築することを認めて行かう或は從來の建物を增築することを認めて行かう、それから貸事務所の拂底は住宅拂底と同樣顯著であるから、貸事務所を建築しようといふ場合は勿論認めて行かうと云ふのであります。しかし新築當時貸事務所にするといふ名前で新築して置いて、そして出來上ると個人商店が占有してしまうといふことは頭から認められない問題であります。これ等の建物は右の限度を超えても許可することが出來るといふのですから何百坪でも建てられるといふことになります。

發展著シキ地方ニシテ勞務者ニ對シ健全ナル慰安ヲ與フルヲ必要トスルトキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル地區ニ限リ飮食店、映畵館、ノ類ノ新築、增築ヲ許可シ得ルコト

これは大阪市の界隈にはかういふ場所はございません。しかしながらまあ近い所で例を取つて見まするど兵庫縣廣村の如きは田園の眞ん中にだしぬけに大工業都市が出現しました。そこには從來から建物がなかつた。しかも何萬といふ職工が出入する、その傍に一膳

飯屋もあつて當然然るべきであるが規則通りに行くと一寸引掛ることになる、そういふ場合に限つて認めて行かう、職工の慰安のため映畵館といふものも認めて行かうといふ主旨でありまして、あくまでこの規則は時局向きに出來てゐるといふことが謂ひ得るのであります。

（五）以上ノ外左ニ揭グル建物ニ付テハ之ヲ許可シ得ルコト。

（1）神社佛閣及ソノ附屬建物

（2）公署

（3）學校

（4）軍事援後社會事業又ハ保健衛生若シクハ醫療ノ用ニ供スル建物

（5）鐵道、軌道、海運、自動車、航空等ノ交通事業又ハ放送事業ノ用ニ供スル建物

（6）火葬場、納骨堂、葬祭場及其ノ附屬建物

（7）其ノ他前各號ニ準ズル用途ノ建物

これらの（1）から（6）までの建物は何れも已む得ない建物でありまして、如何なる犧牲を拂つてもこれを要求する種類のものであります。で、大體におきまして誰が見ましても讀むだけで判るのでありますがそこに1つ醫療の用に供する建物といふのがあります。これはこゝでは病室を有つてゐる診療所を原則として云つて居ります。昔は醫院といふて居りますが今日では診療所といふことにして居ります。特別な例ですが、病院といつても病室は一寸で大部分はお醫者さんの住宅だといふ種類の建物が時々あります。そう云ふ様な病室はつけたりだといつたやうな種類のものは勿論この中に入りません。病室を有せぬ診療所は商業用建物として取扱ふことになつてをります。

（六）前5項ニ該當スルモノノ外臨時資金調整法其ノ他ノ法律ニ依リ其ノ建築ニ關シ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノハ許可シ得ルコト

これは3萬圓以上或は5萬圓以上の金をもつて建築するといふ場合には現在臨時資金調整法の適用を受けるのでありますが、原則として臨時資金の許可を受ける場合は相當理事者で御詮議に相成つてゐるやうでありますから、外で既に詮議の濟んだものに對しては許そうと云ふのであります。それから其他の法律によつて許可を受けたものもよい、これは勿論こゝに書いてあります通り主務大臣の許可を受けたものでありまして、地方長官が許可したとかいふものはこれに該當致しません。此處にはありませんが建築しなければならぬことになつて居る様なものがあります。

例へば工場を經營してゐるとその工場では青年學校をつくらねばならぬ、或は職工の養成のための機關も設けねばならぬ、といつた命令で强制せられてゐるものがありますが、そういふものは勿論建築許可に相成る見込みであります。

（七）本則第5條、第6條、及第10條ニ係ル變更ノ許可ニ付テハ夫々新築、增築又ハ改築ノ場合ニ準ジ取扱フコト

これは一遍許可の申請をして、あとで設計の變更をする手續をする場合新築增築と同じやうな方針で取扱ふのであります。

（八）一時ノ用ニ供スル建物トハ左ニ揭グルモノナルコト

（1）工事用ノ下小屋、材料置場又ハ監督事務所ノ類

（2）工事期間中ノ使用ヲ目的トスル假營業所又ハ假事務所ノ類

（3）其ノ他1箇月以內ノ使用ヲ目的トスル建物

かういふものは許可を申請しなくても届出だけで建築することが出來るといふことになつてゐます。

以上で許可標準は終りでありますが、この許可標準は先程申上げた如く、私の獨斷で皆樣の前に發表致してゐるのでありまして、あくまで先程御注意申上げたやうにして頂きたいのであります。尙本夕こゝにお見えになりません方に皆樣からお話に相成ります場合にも、そういふ風な意味合においてお話し願ふことをお願ひする次第であります。その次は物資の制限であります。

先程、電氣だとか水道だとか、瓦斯だとかを引く場合には書類に供給者の氏名、住所を書いて頂たくといふことを申上げましたが、大體この物資の使用については電燈は極力減らして頂くといふ建前になつてゐます。それから水道も瓦斯も頭から引いてくれない所が現在既にありますが、引いてくれる所でも、水道はなるべくなしで家を建てゝくれといふ主旨なのであります。まあ水がいるんだつたら井戸を掘つてやつてくれといふ主旨のやうに承はつて居ります。それから書類に書いて頂かなければならない物資の種類といふものには米松、耐火木材、釘、捧鋼、補强用鐵物、薄鋼板、メタルラス、ワイヤーラス、鋼製戸、石綿スレート、セメントがありまして、これらの種類のものにつきましては何處に使ふかどの位のものをいくら使ふかといふことを書類にお書き願ふことになつてゐます。先程申しました許可手續或はこの物資記載の仕方といふものは各府縣で樣式がめいめい違ふて居ります。こゝで大阪のだけお見せしても却つて御迷惑だと思つてお話しませんですけれども、しかし今の種類のものは京都におきましても兵庫におきましても同樣記載することを要求されてゐるのであります。で米松は學校だの時局用の工場の梁等以外には使へないことになります。個人の住宅の2階梁に米松は使ふことを認められません。捧鋼は市街地建築物法に要求される防火壁、特に地盤の悪い基礎以外には使へません。現に米松にしても捧鋼にしても手に入りませんが、制限は大體この位の程度になります。それから薄鋼板、これは特殊の工場の屋根、震動する建物の屋根、市街地建築物法の要求する防火壁、防火扉、防空建築規則で要求する場所等の以外には使用を認めないといふ建前になつてゐます。それから石綿スレートでありますが、これは今の薄鋼板を使用出來ないやうな建物の屋根、防火上必要な場所だけに限定されます。今までは物置でも何んでも薄鐵板を張つてゐましたがその薄鐵板が使へないから石綿スレートといふ工合にはいきません。大體石

綿スレートも品薄で手に入らない譯でありますからこれを物置の屋根にといふ考へは控えて頂くことになります。メタルラス、ワイヤーラスは市街地建築物法で防火上必要と認められる場所以外には使へません。それからスチールドアでありますがこれも防空、防火上必要な場所以外は使へません。スチールサツシユもまた同様でありまして木造建物には原則としてこれは認めません。それからセメントを使ふ場合にも極力使用數量を減らして頂たくといふのであります。で、今申上げました種類の物資は現に既に市場において拂底致して居りますものばかりであります。そしてこの中には現に配給統制になつてゐるものもありますが、現在未だ配給統制になつてゐないものも近いうちに順次商工省においてこれを統制せられるといふ風に承はつて居ります。で、結局これらの物品の使用を制限致しまして、先に申しました急を要する建物の方に廻はすといふ建前になつてゐるのであります。それで今申しました米松或は棒鋼、薄鋼板等の使用を認める場合といふのも、これは矢張り內規でありますからそのおつもりでお聽きを願ひたいのであります。米松なんかも學校工場の梁に認めるといふことを申しましたが、こも潤澤になればもう少し廣い範圍において認められることになりませうが、現在よりもより以上に物資が窮屈になりましたならばそれらについてもまたいかんといふことになるかも知れないのであります。さしづめ現在のところでは今申上げましたやうな程度においてその使用を認めて行かうといふことになつてゐるのであります。それから尙今申上げました種類の使ひ場所、數量、寸法といふものも書類にお書き願ふのでありますが、それをお書きになりました場合、私共が見せて頂きまして、どうもこの工場で使ふ米松は使ひ過ぎだ、この場合で使ふメタルラスは使ひ過ぎだといふ場合には使用量を減らされることがあります。そのときはその範圍內において米松を使はねばなりません。釘の話は申上げませんでしたが釘も同樣でありまして指定された範圍內で釘を使ふのは差支へない、その範圍內でセメントを使用することも差支へないといふ風に差支へない數量を指定することになつてゐます。皆樣から書類が出ましたならばそれらの制限物資の指定量を役所の方から申上げまして、その指定量の範圍內において使ふて頂く、だからして釘が假りに5貫目要るといふ書類をお出しになりましても大體拾ふて見まして、これは5貫目使ふのは多過ぎるといふ場合には4貫200匁に減らします。そうすると釘の配給所ではその4貫200匁以上のチケツトを出すことが出來ないといふ建前になるのであります。今薄鋼板200枚使ふといふ書類が出たとしてもこれは50枚で我慢して貰ひたいといふことになりますと、その薄鋼板は50枚以上買ることが出來ないといふ組織になるのであります。で、現在配給統制をやつてゐるものは皆そうでありますが今やつてゐないものでも近くそういふ風になるといふことは先程申上げた通りであります。で書類をお出しになります場合には大阪府の取扱ひどしましては數量をお書き願ひましたものゝ數が妥當なものであればその儘お返へし申しますが、書過ぎがあれば指定數量を書添えてお返へし申上げることになつてゐます。今迄の建築屆書に今度は更に具體的の

數量が入つてゐるといふことになつてゐますからその點豫めお含み置き願ひます。

大體におきましてこれでこの木造建物建築統制規則の內容を御說明申上げた譯でありますが、この規則は昭和12年に出ました例の輸出入品等臨時措置に關する件といふ法律に基いて出來たのであります。輸出入品等臨時措置に關する件は日支事變が終了致しましたならば1年以內にこの法律を廢止するといふことになつてゐます。で、この規則はその法律に基いて出來てゐるのでありますから日支事變が終了致しましたら1年以內に廢止になります。勿論事變は續いてもこの規則施行の必要がなくなれば單獨にこれだけ廢止になることもあります。しかしながら事變が非常に長引くといふ豫定のやうに承はつて居りますのでこの施行も相當長引くのではないかといふ想像だけは出來ます。

で、玆でお含み願ひたいことはこの規則は輸出入品等臨時措置に關する件といふ法律に基いて出來たものでありますから今までの市街地建築物法と全然趣きを異にしてゐます。ですからこの規則に違反して建築されましたならば經濟統制に悖つたといふことになりまして、自然罰則も市街地建築法違反の場合と非常に違ひまして1年以下の懲役或は5000圓以下の罰金といふことになります。市街地建築物法では懲役といふ罰則はありませんし、罰金も2000圓でありますが、これには懲役も入り罰金金額も多くなつてゐるのでありますから、市街地建築物法のやうに思つて建築に違反されるととんでもないことになります。豫め御注意申上げますがこの點充分お含みになつて置かねばならぬと思ひます。轉ばぬ先の杖でありますから惡い意味でなしに御注意を願ひしたいと思ひます。

事變が始まりましてから既に2年有餘になりまして、其間の日本の社會情勢の變遷の仕方といふものはまことに目まぐるしいものがありました。而も誰も今日の情勢を事變勃發當時には豫想することは出來なかつたのであります。實に豫想外の方向に向つて移りつゝあります。特に歐洲戰爭が勃發致すやうになりましてから、この變遷は急に速度を加へ來つたやうな恰好になつてゐます。私今日一寸抽出を開けて見ましたら新聞の切抜きが出て來ました、去年の7月16日の 德島の新聞ですが、それを見ますると、場所は德島でありますが、空家がウンと增えて、この事變以來の新レコードを示し家主が非常に困つてゐるといふことが出てゐました、大阪ではこの7月には既に今日のやうな波に乘りかゝつて居りましたが曾つて昭和12年暮つまり事變勃發直後には恐らく何年來といふ空家の洪水振りでありました。私共は職業的意識をもちまして街を眺めて、こんなに空家が增えてどうなるかといふことを心配したことがあります。ところが2年經つて見ると今度は急速に住宅問題を考へなければならないやうな情勢になりました。そういふ急激な變遷は夢にも考へなかつたことでありまして如何にして貸家の洪水を防ぐべきかといふことを心配して居つたのが今度は貸家の不足といふことについて心配せざるを得なくなりました。今日の情勢をもつて明日を測ることが出來ないといふ狀態になつてゐるのであります。今度この規則が出たのでありますがその規則の制限を受けられる一般市民の方の御迷惑はまことに察せら

れるのであります。しかし一方物資が急激に窮迫してゐるのでありますから、この様な規則が出なければならぬのもこれは時勢かと思ふのであります。實際今度の木造建物建築統制規則を凝つと見てみまするとよくもかういふやうな規則が出せたものだといふ感じがします。今日であればこそこれは出せたもので普通の時であればかういふやうな規則は實に無理であります。

これがスースー出來たのは全く時勢だと思ひます。かういふやうな嚴格な統制規則が出て一般の世人が默つて居られるのも不思議な感がしないでもないが、しかしこれは一般の方が今日の事態を認識下さるためであると拜察してゐます。幸にこの規則が圓滑に施行せられることを特にお願ひして講演を終りたいと思ひます。

用材生産統制規則一部改正

農林省では用材生産統制規則が一部實情に適合せぬ旨の陳情、請願を受けるにいたつたので實情調査の上種々協議研究中にあつたが今回左の如く改正施行した、即ち規則第二條の規定による檢査を受くるを要せざる素材及びこれを受くるを要せざる場合を

(1)御料國有又は道府縣有に屬する素材(2)徑2寸5分未滿にして元口徑4寸未滿の針葉樹の素材(3)徑2寸5分未滿にして長6尺未滿の針葉樹の素材(4)徑5寸未滿にして元口徑7寸未滿の濶葉樹の素材(5)徑5寸未滿にして長6尺未滿の濶葉樹の素材(6)銘木類(7)廢材及屑材とし更に用材規格規定として實情第1主義をもつて臨み規則制定による市場出廻り雜を出來得る限り解消する方針としたことは注目される

第7條中「長15尺」を「長15尺5寸」に改む

第15條第5項中「木口割又は第9條第7號」を「第9條第3號乃至第7號」に改む

第17條中第2號挽割類(1)小割の「幅1寸2分」を幅9分」に(2)中割の「2寸以下」を「2寸未滿」に、第3號挽角類(2)平角の「厚7寸」を「厚8寸」に改む

第20條第1號板類の規格表(1)板の備考中「1束の中最小なるものの幅」を「1束に入れたるものゝ幅の平均」に(3)斜面板第7號の項中「15」を「14」に改む

同規格表(2)厚板の各號の項幅の欄中「9寸」を「8寸以上寸建」に改め「1尺」「1尺1寸」「1尺1寸以上寸建」「1尺2寸」及「2尺2寸以上寸建」を削り同欄中改正し又は削るものの6尺5寸以下、9尺以上10尺5寸以下及び12尺以上の欄の記載を削り同備考を左の如く改む

(1)耳揃せざる厚板の幅に就ては板に關する備考を準用す

(2)幅9寸以上の厚板に就ては束に關する規定を適用せず

同條第2號挽割類の規格表(1)小割の長の欄中「12尺以上14尺迄5寸建」の次に「14尺以上20尺迄尺建」を加へ同第4號の項9尺以上10尺5寸以下の欄中「22」を各「21」に改め(2)中割の長の欄中」12尺以上14尺迄五寸建」の次に「14尺以上20尺迄尺建」を加へ同第一號の項9尺以上10尺5寸以下の欄中「22」を各「21」に改め(3)割の長の欄「14尺以上20尺迄33尺建」を「14尺以上20尺迄尺建」に改む

同條第3號挽角類の規格表(1)正角の長の欄中「17尺」を「14尺以上22尺迄尺建」に改め「20尺」を削り(2)平角の長の欄中「17尺」を「14尺以上33尺迄尺建」に改め「20尺」及「20尺以上3尺建」を削り同第12號の項の次に第13號の項の次に第13號の項を加へ同項厚の欄を「8寸」とす第21條に左の但書を加ふ

但し正角に在りては其の各端より材長の20分の1の部分に在る腐以外の缺點は之を缺點と看做さず

第22條但書を左の如く改む但し板類(盤を除く)の節に就ては其の程度の小なる一材面のみに付材端より6尺5寸又は其の端數毎に缺點の箇數を計算す第25條に左の3項を加ふ

他面に貫通せざる汚痕、入皮又は脂壺にして線狀なるものは其の長の6分の1の長徑の節と看做す、但し其の幅が一分を超ゆるものは此の限に在らず

前2項に揭くるものを除くの外第21條第4號の缺點にして其の長1寸以下なるものは其の長の2倍の長徑の節と看做す

前3項の規定は農林大臣の認可を受け地方長官別段の定をなしたるときは其の定むる處に依る但し松、杉及扁柏に關しては此の限に在らず

第26條第3項中「1等並」を「板類及挽割類の1等並」に改め「木口割若は目廻の缺點各一個」を加ふ

第27條中「板、小幅板及斜面板」を「板類(盤を除く)」に改む

“建築と社會”第23輯第3號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……12
淺野スレート株式會社……14
阿部鐵工所……25
エ　榮進社……24
荏原製作所……29
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……4
大野製作所……表紙 4
奥村重兵衛商店……23
大阪田島應用化工株式會社……表紙2・30
カ　河津裝飾店……26
キ　桐田商會……18
ク　久保商店……19
ケ　建盛商會……6
サ　佐久間工業株式會社……17
坂田ベンチレーター製作所……6
三正商會……19
シ　清水組……1
セ　政正合資會社……9
清光社……3
タ　田中タイリング商會……4
田中昌司商店……9
大洋組……5
田村商會……27
ト　利倉幸商店……13
東洋リノリユーム株式會社……2
東洋陶器株式會社……28
巴商會……21
ナ　寧樂屋家具裝飾店……表紙 3
南滿鑛業建材合資會社……15
ニ　日本建築紙工株式會社……13
日本陶纖株式會社……11
日東物產株式會社……7
西原衞生工業所……10
西孫南店建築金物部……20
ノ　野澤幸三郎商店……22
ハ　汎建製作所……15
ヒ　美素工業所……中挿
マ　松井商店……11
ミ　三井物產株式會社……8
ム　村田商會……前附 1
ヤ　矢橋大理石商店……20
ヨ　横河橋梁製作所……16
淀川鐵工所……26